



2019年度 IRコンソーシアム 学生調査結果報告

2021年3月
藤女子大学IR専門部会

文部科学省によって、学生の学修成果の可視化と把握が求められ、また第3サイクルを迎えた認証評価では「内部質保証の実質化」が求められています。その要の一つとして、学内データを収集・分析し、改善施策を立案、施策の実行・検証を行うIR（Institutional Research）機能があります。本学でも、2017年5月IR専門部会を発足させ、学生の学修・満足度等のデータを収集、解析、公表をしてきました。しかし、本学だけのデータでは評価が難しく、他大学との比較が必要と判断されました。そこで、2018年に国公私立62大学が加盟する大学IRコンソーシアムの会員となり、2018年度から学生に対し、学修行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度を中心としたコンソーシアム共通の調査項目で学生調査を実施しました。

この度、大学IRコンソーシアム入会2年目の2019年度の調査結果をまとめ、コンソーシアム会員校全体および本学の2018年度との比較を行いながら、本学の現状を把握し分析したので報告いたします。部会としての解析・提言も掲載しておりますが、十分でないかも知れません。ぜひ、各学科、事務部局毎にこの学生調査データを元にそれぞれでIRを行いPDCAを回し始めていただけたら、大学の大きなIR、およびPDCAにつながっていくと期待されます。このような学生調査は、さらに継続することで学生の経年変化や成長を調べることができます。また、学内の教学データとリンクさせることで、学修成果に関するアセスメントにも発展できることから、今後も継続して取り組んでいきたいと考えております。

藤女子大学IR専門部会

I. 学生アンケート回答率内訳

II. 学生アンケートの両学部・加盟大学比較結果

1. 学修に関する経験
2. 時間の使い方
3. 教育への満足度
4. 設備・制度への満足度
5. 授業での経験
6. 能力の変化

学生アンケート回答率内訳

2019年度 IRコンソーシアム 学生アンケート回答者

学科 学年	英語文化学科			日本語・日本文学科			文化総合学科			文学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	89	96	92.7%	91	99	91.9%	88	97	90.7%	268	292	91.8%
2年	60	83	72.3%	61	85	71.8%	71	101	70.3%	192	269	71.4%
3年	86	100	86.0%	74	93	79.6%	62	87	71.3%	222	280	79.3%
4年	69	87	79.3%	59	104	56.7%	59	92	64.1%	187	283	66.1%
学科計	304	366	83.1%	286	381	74.3%	280	377	74.3%	869	1,124	77.3%

学科 学年	人間生活学科			食物栄養学科			保育学科			人間生活学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	39	59	66.1%	76	81	93.8%	61	65	93.8%	176	205	85.9%
2年	47	54	87.0%	82	84	97.6%	73	75	97.3%	202	213	94.8%
3年	42	54	77.8%	88	98	89.8%	76	83	91.6%	206	235	87.7%
4年	50	63	79.4%	75	79	94.9%	79	89	88.8%	204	231	88.3%
学科計	178	230	77.4%	321	342	93.9%	289	312	92.6%	788	884	89.1%

※学生アンケート実施期間 2019年9月～11月

文学部 : 2019年9月25日現在在学中の学生

人間生活学部 : 2019年10月30日現在在学中の学生

(休学者及び海外及び国内協定校留学中の学生を除く。)

大学計			
学年	回答者数	対象者数	回答率
1年	444	497	89.3%
2年	394	482	81.7%
3年	428	515	83.1%
4年	391	514	76.1%
全学年	1,657	2,008	82.5%

1. 学修に関する経験

Q. 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたはどのくらい経験しましたか。

1-1. 授業課題のために図書館の資料を利用した

1-2. 授業課題のために Web上の情報を利用した

1-3. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

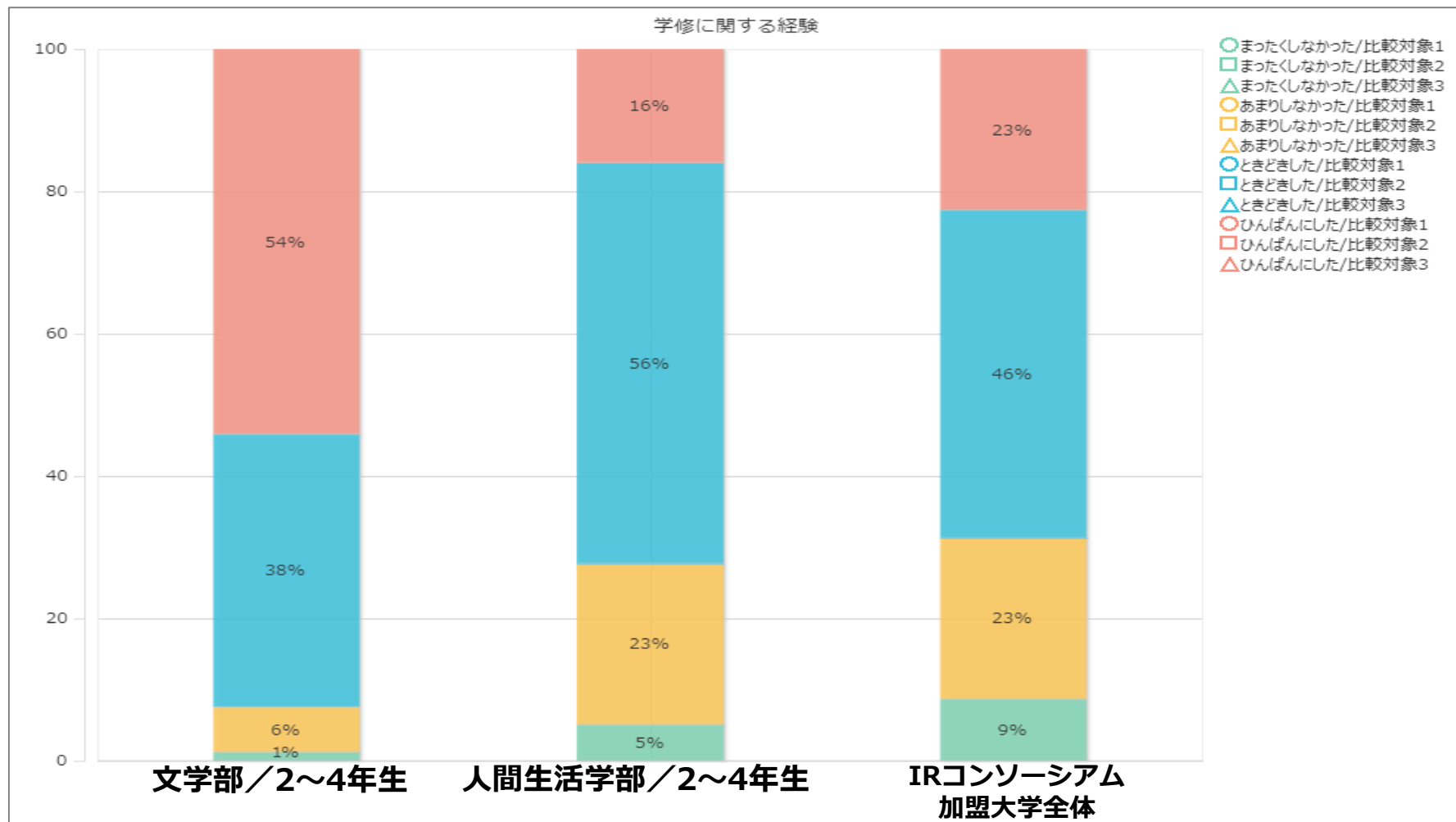
1-4. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

1-5. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした

1-6. 教員に親近感を感じた

1-1. 授業課題のために図書館の資料を利用した

[Q5-A]

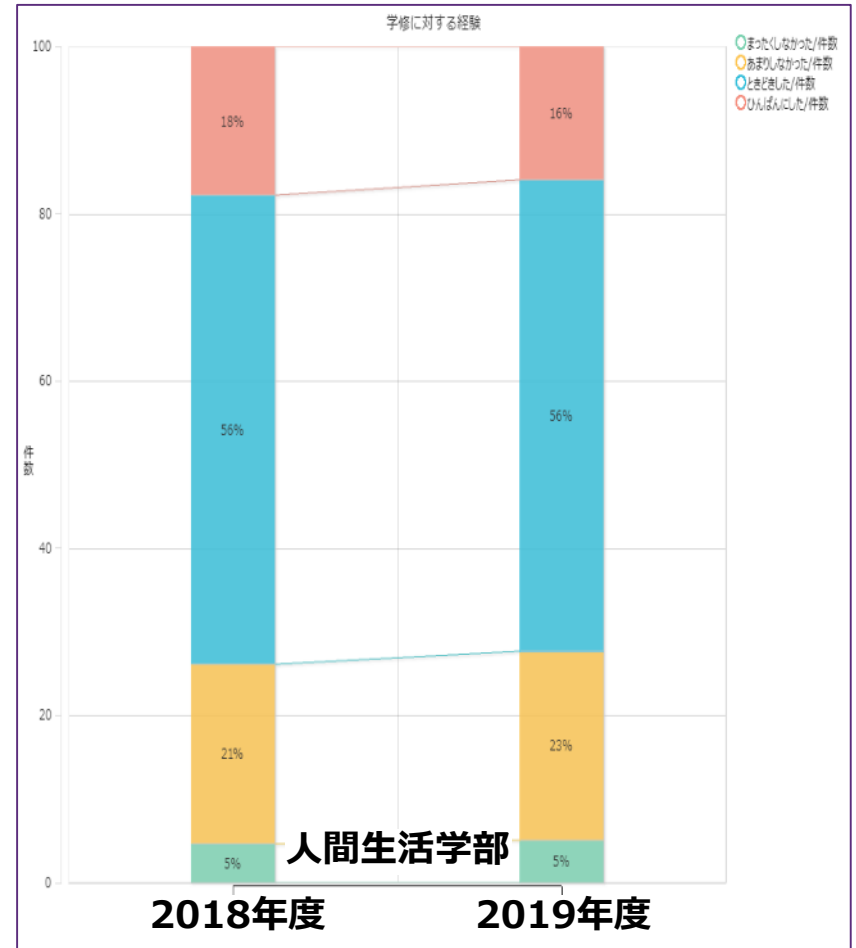
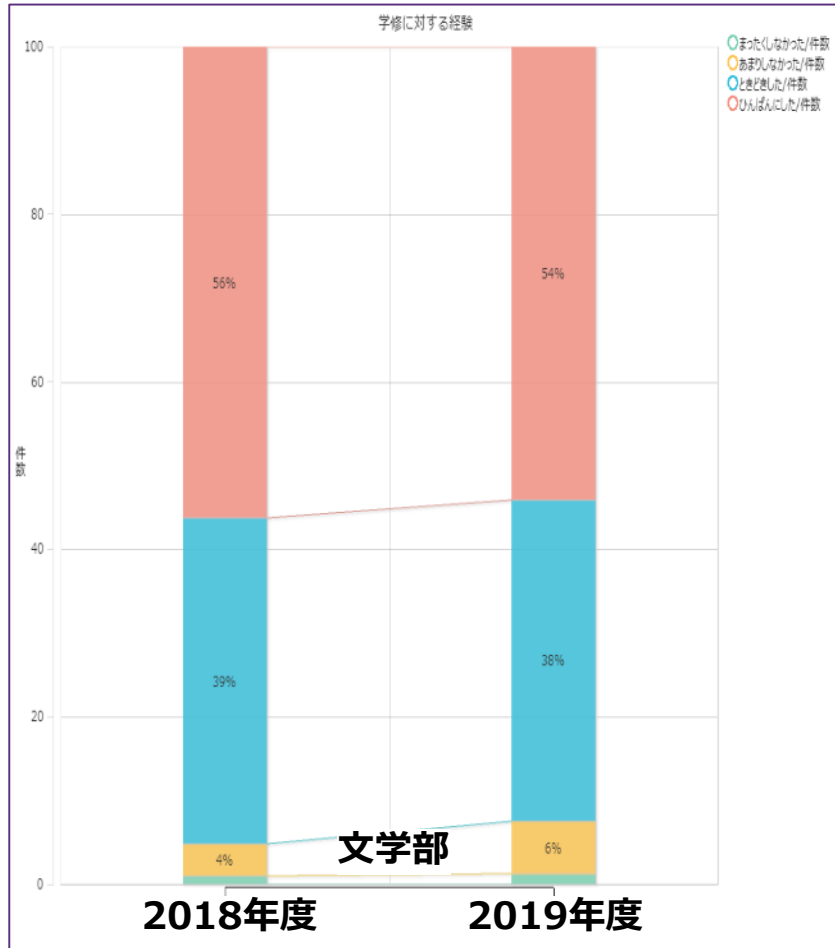


【コメント】

文学部は全体平均より図書館利用率がかなり高い。これは図書・資料を利用した課題学習が多いからだとと思われる。人間生活学部は全体平均に比べて「ひんぱんにした」がやや低い。ただし、3学科の特徴がかなり異なるため、学部平均のグラフでは学科ごとの特徴が見えにくい。

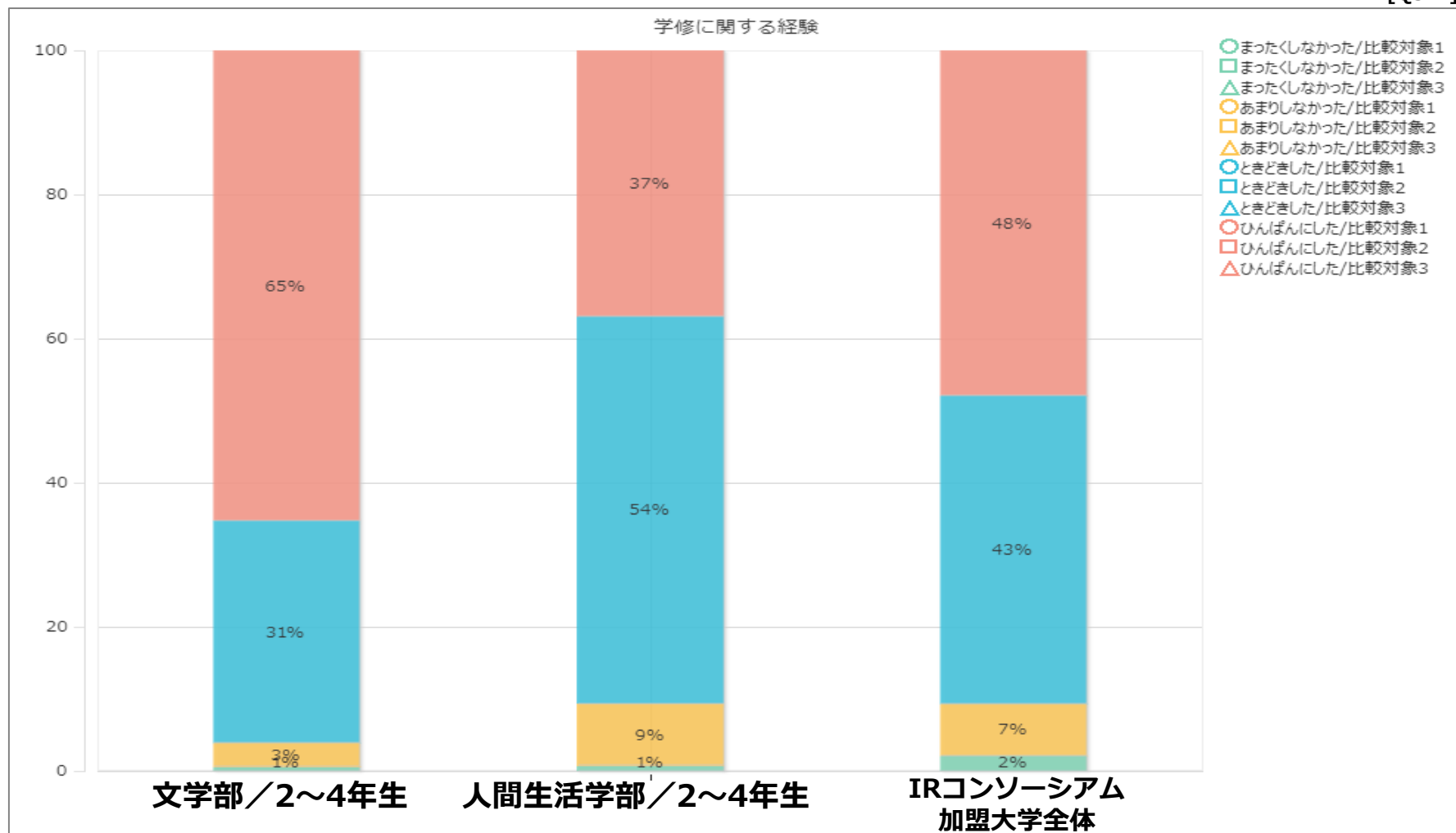
1-1. 授業課題のために図書館の資料を利用した

[Q5-A]



1-2. 授業課題のために Web 上の情報を利用した

[Q5-B]

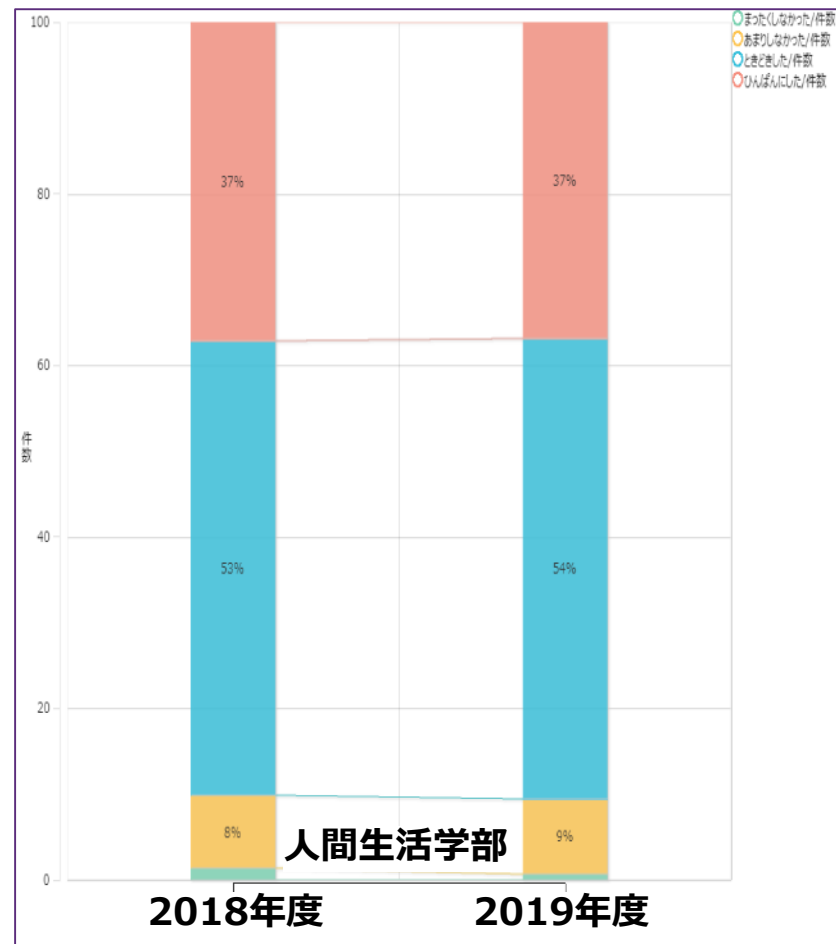
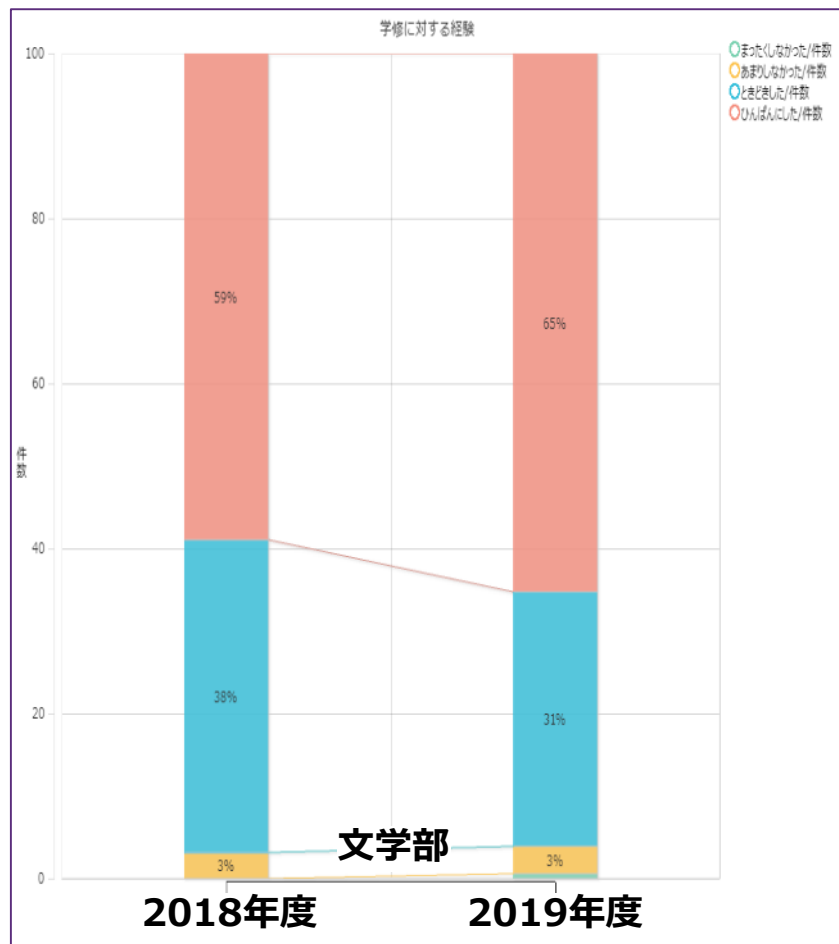


【コメント】

文学部は全体平均を上回り、人間生活学部では「ひんぱんにした」の割合が低い。文学部では課題学習が多く、その過程でインターネットを利用して調査した学生が多いことが予想される。ただしこの設問はWeb上の情報を利用した割合なので、自分で考えるべきことをインターネットの情報に頼った可能性もあるので、高いから良いということではない可能性もある。

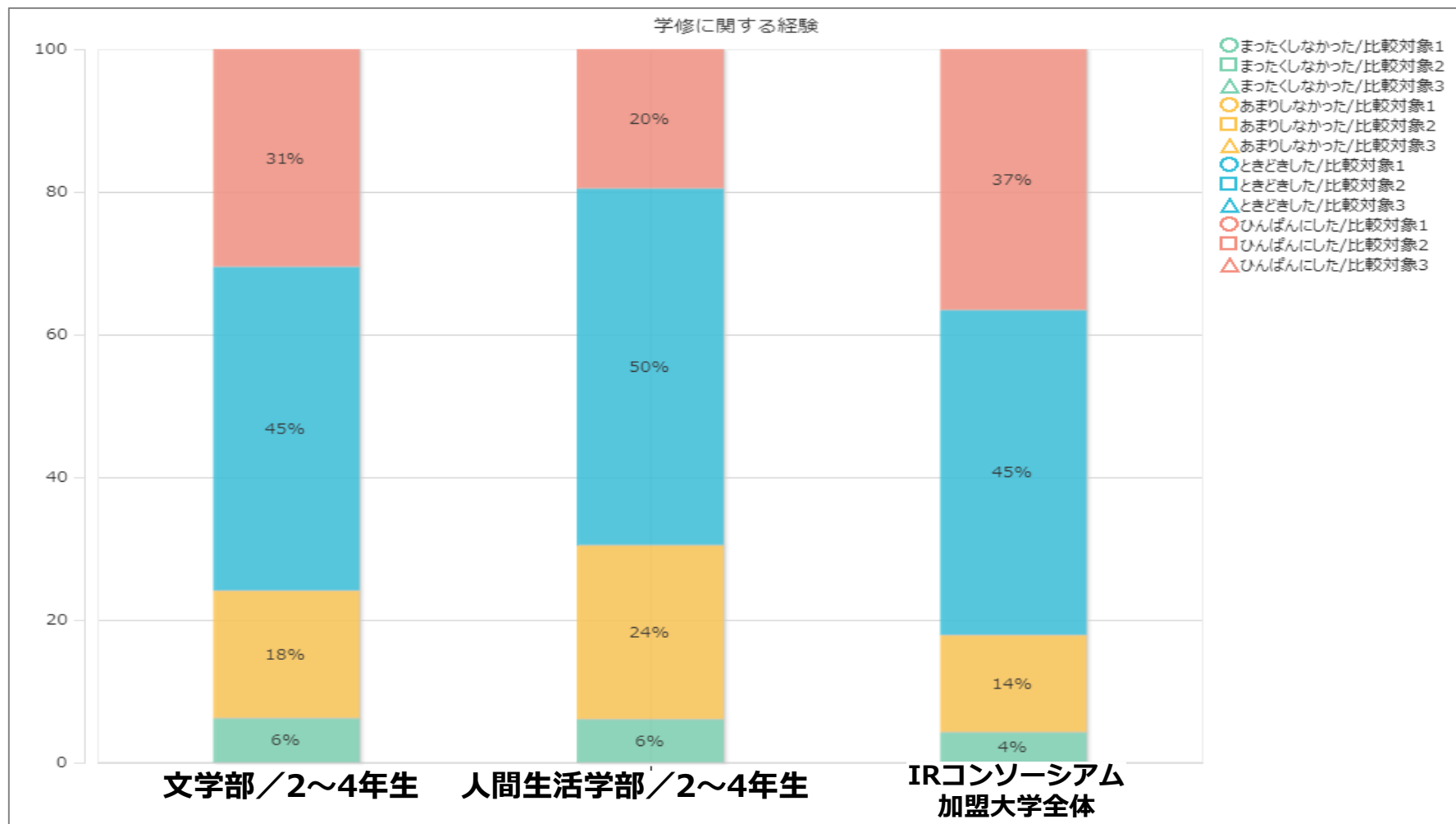
1-2. 授業課題のために Web 上の情報を利用した

[Q5-B]



1-3. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

[Q5-C]

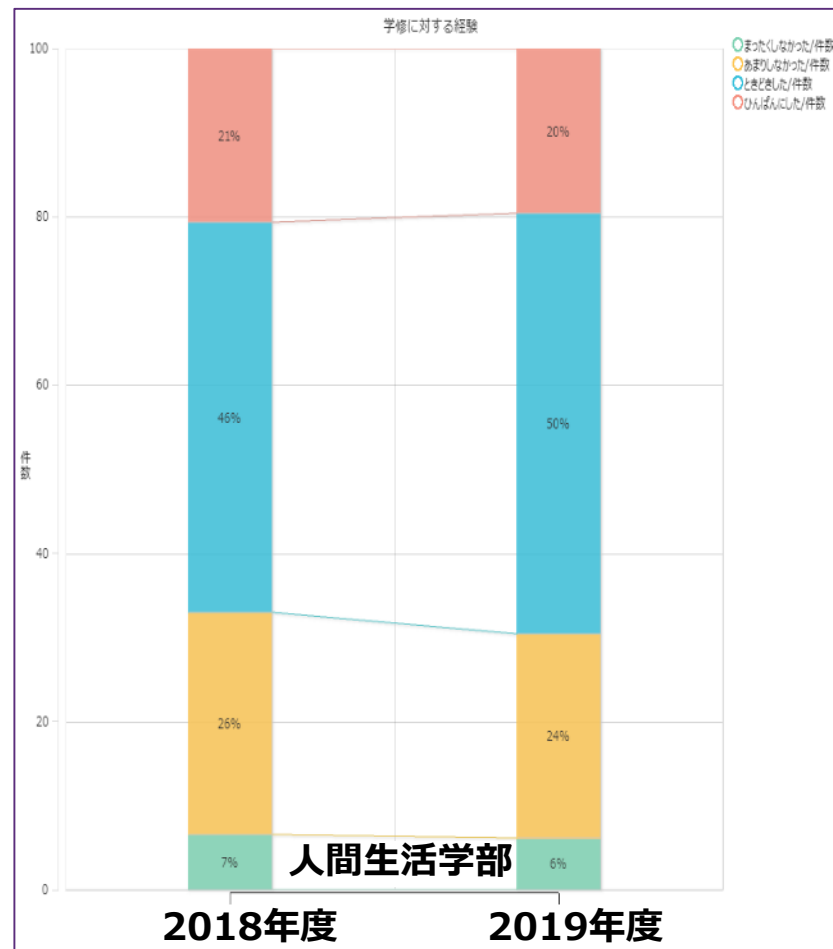
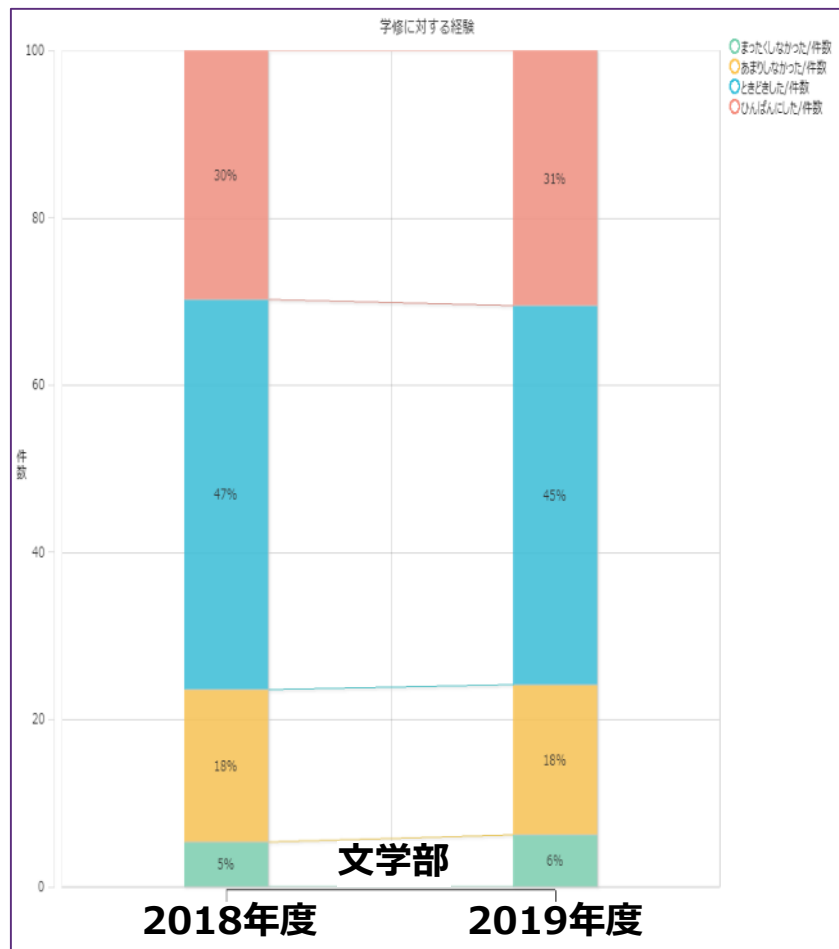


【コメント】

人間生活学部で全体平均より低いことが目立つ。ICTを活用した授業は学生のICTリテラシー向上にも繋がり、社会に出てからも有用である。このことからICTを積極的に活用した授業展開を検討する必要がある。

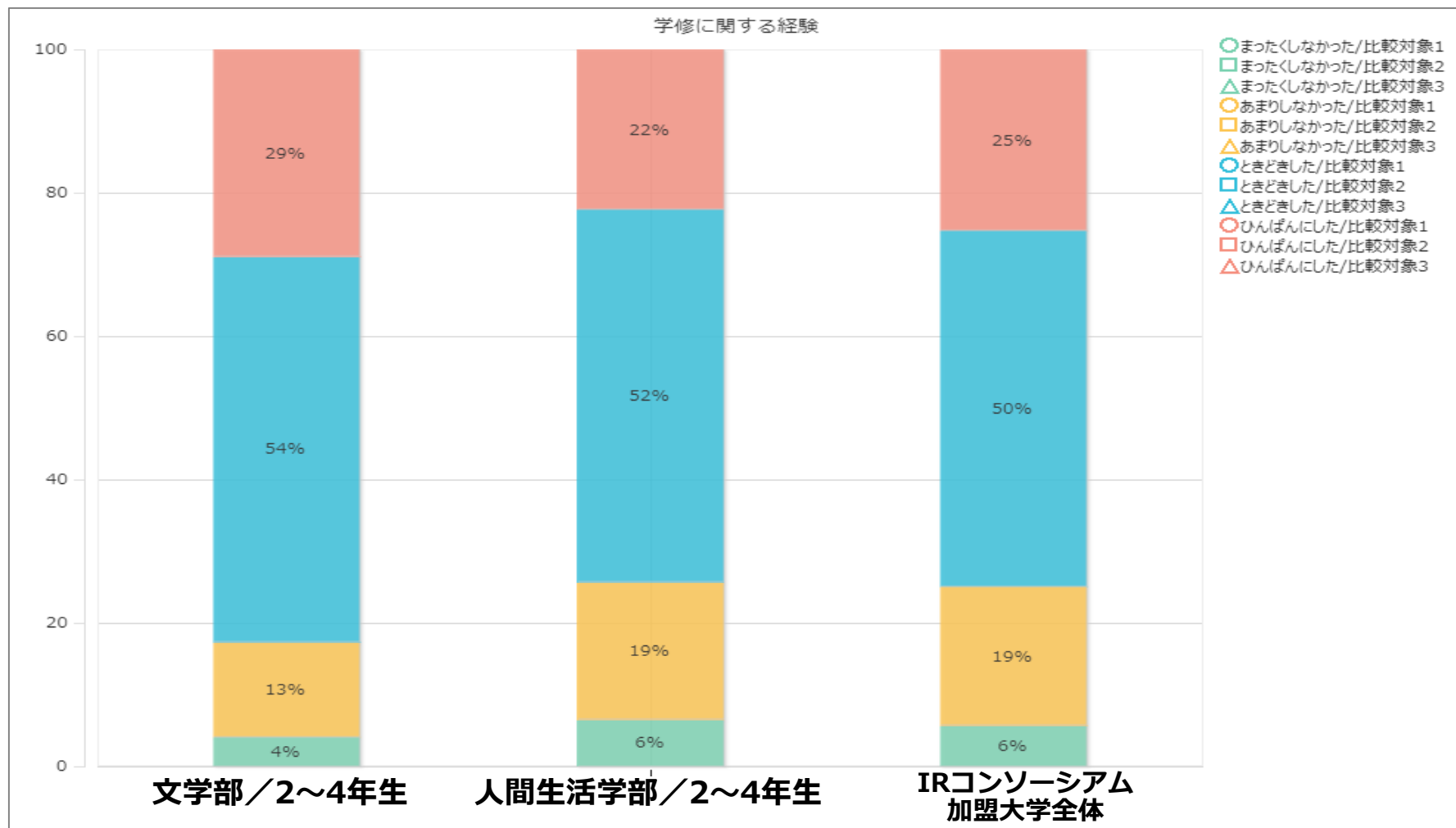
1-3. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

[Q5-C]



1-4. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

[Q5-E]

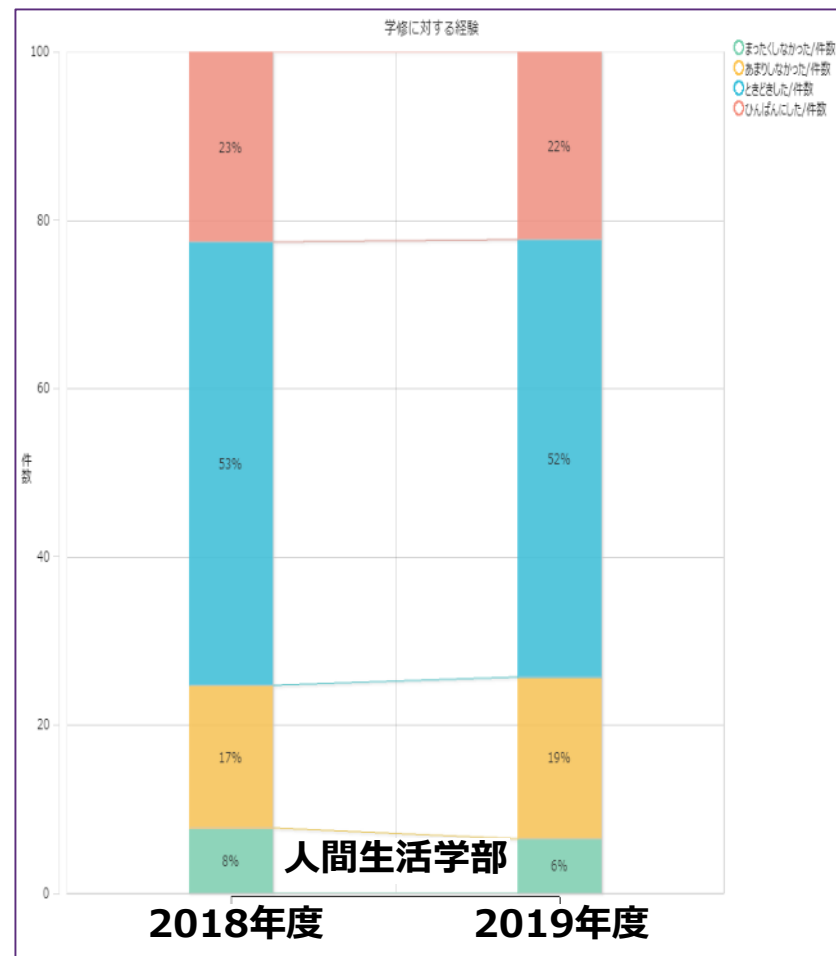
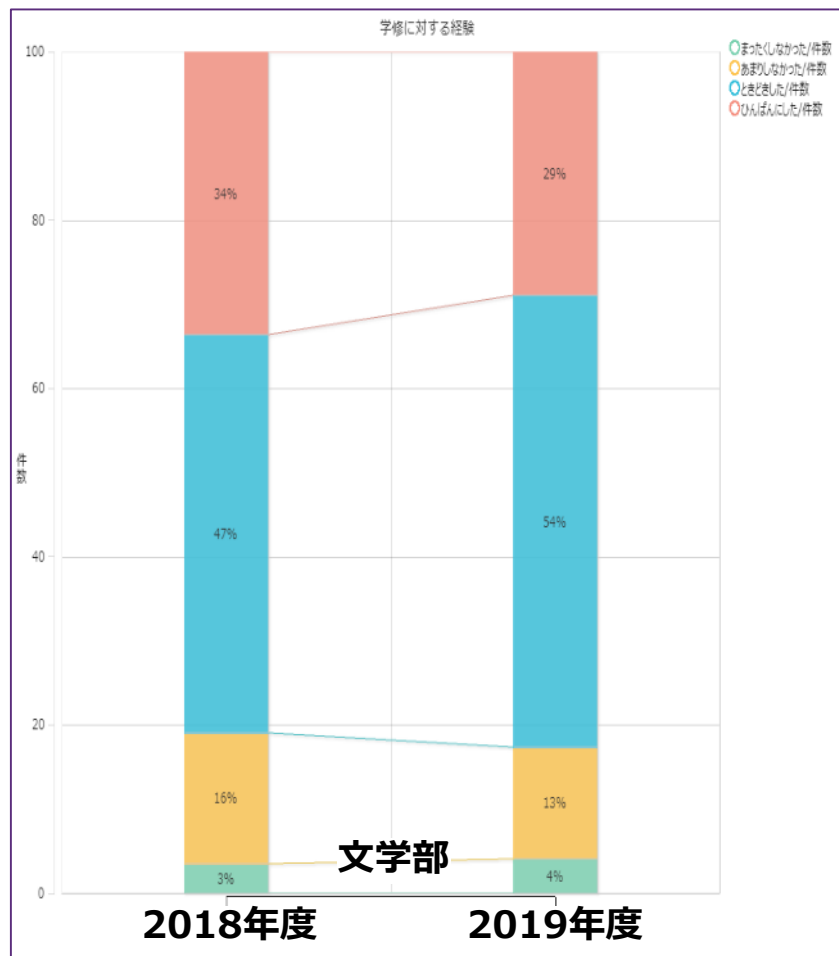


【コメント】

文学部は全体平均を上回り、人間生活学部は全体平均並である。花川キャンパスは学生が友人と語らいながら自習できるようなスペースが16条校舎と比較して不足しており、学生滞留率が低い。このことが原因で友人との学習機会も低い可能性がある。

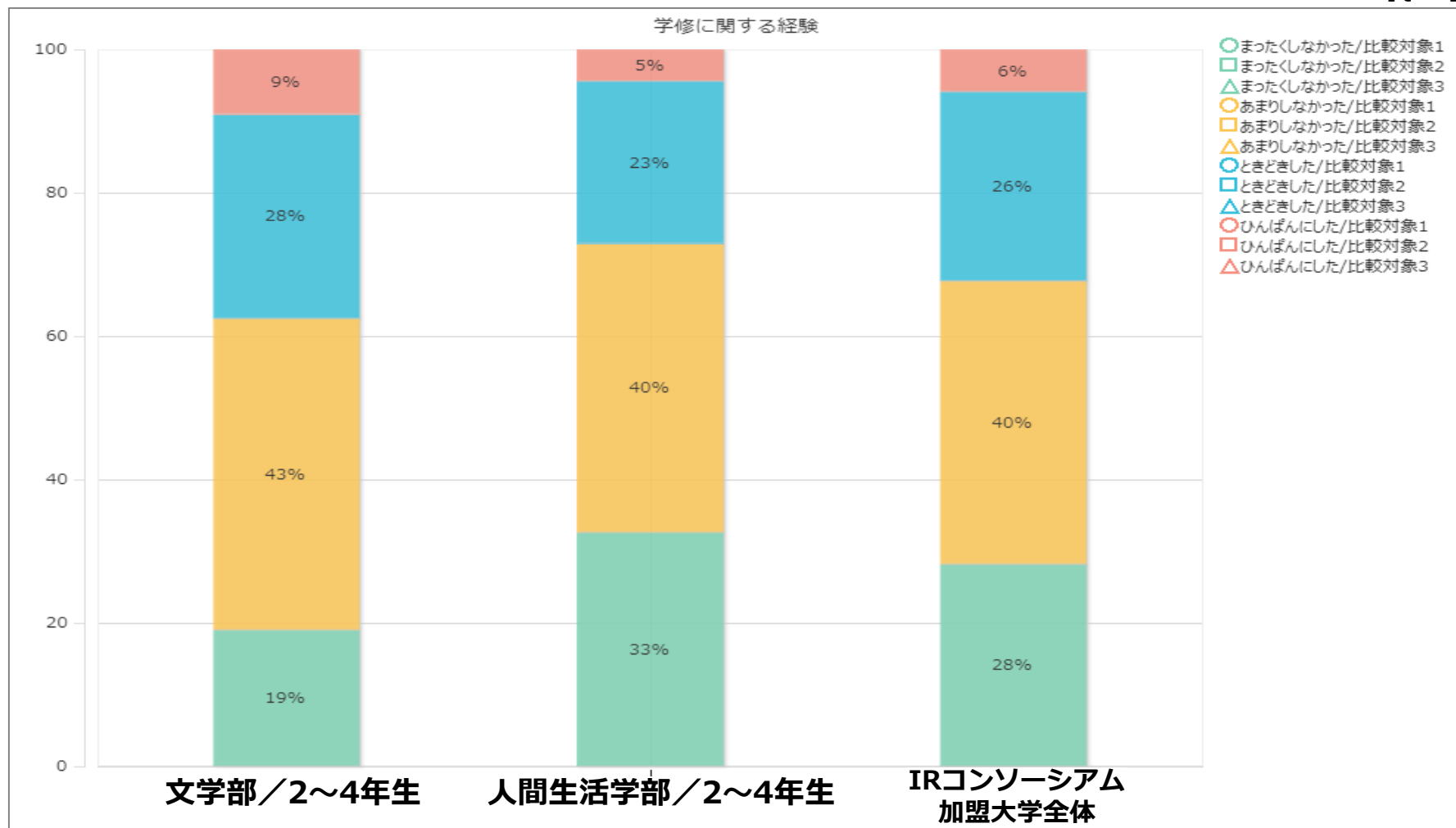
1-4. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

[Q5-E]



1-5. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした

[Q5-K]

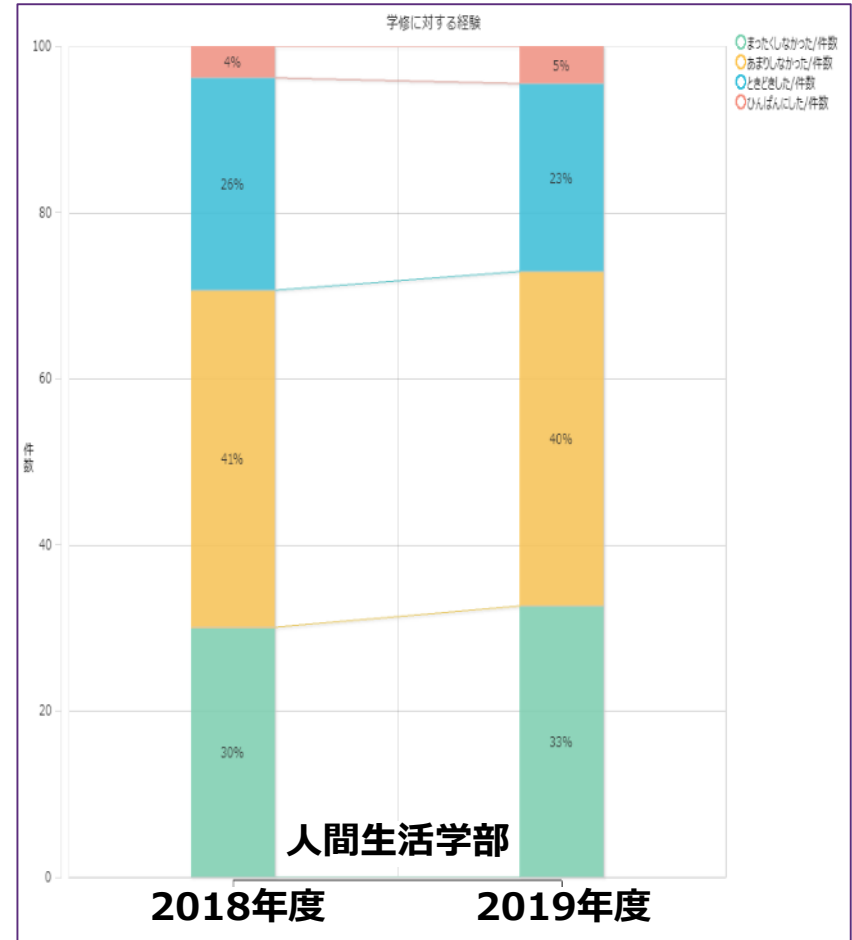
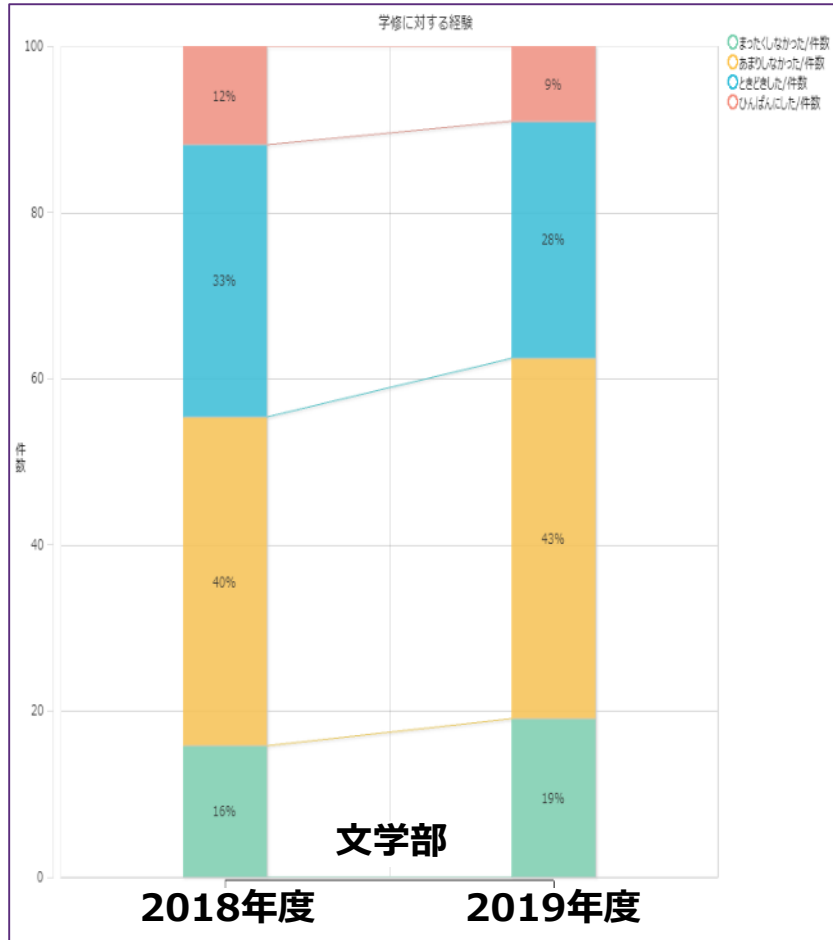


【コメント】

文学部は全体平均をやや上回り、人間生活学部は全体平均よりやや低い。文学部では少人数教育により教員と学生との距離が近く、教員に相談するハードルが下がっているのかもしれない。ただし履修相談の件数や学習支援室の利用数の多さも反映されている可能性がある。人間生活学部が低いのは、自発的な学修に対する学生の意欲が下がっている可能性も考えなくてはならない。

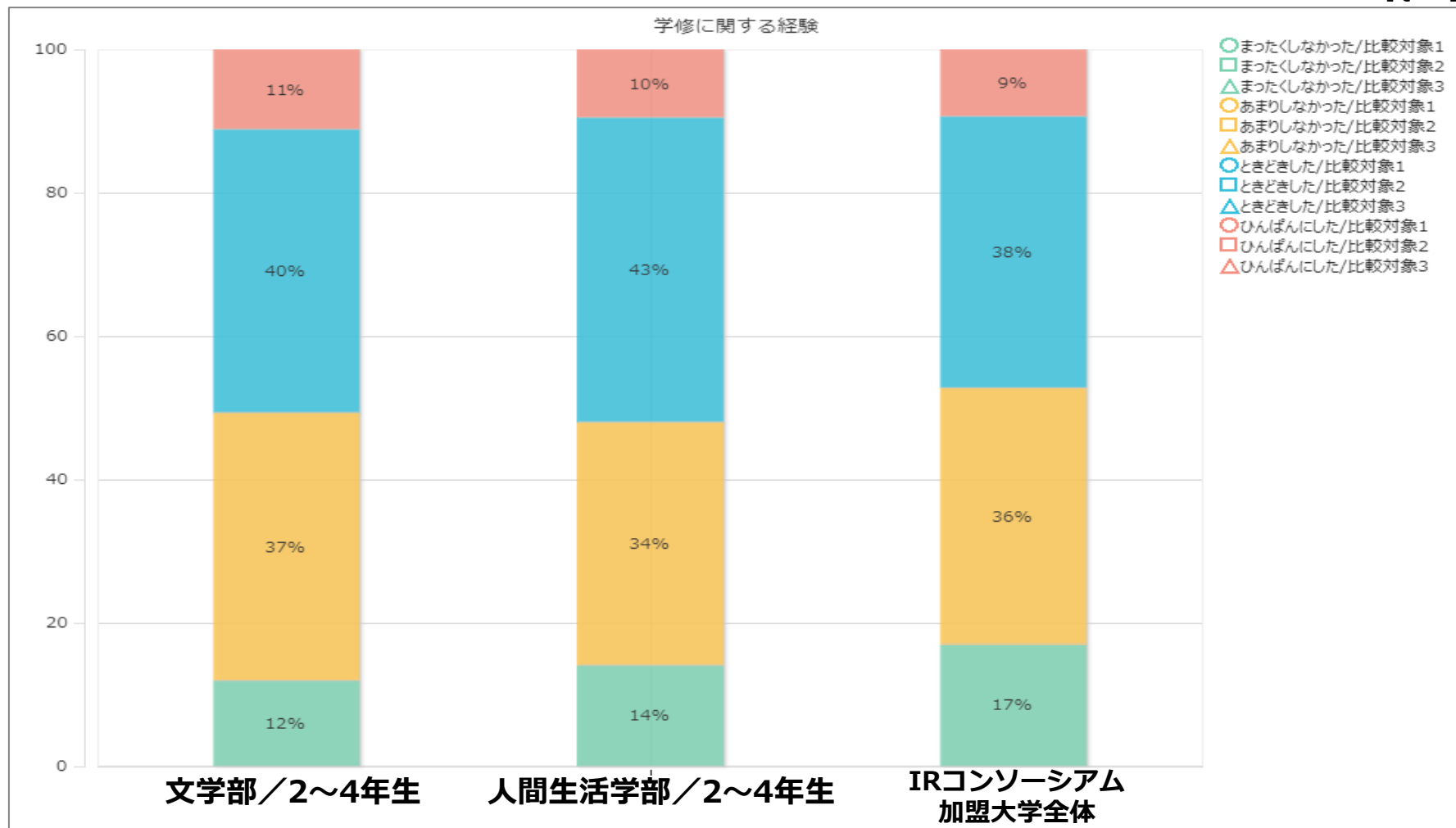
1-5. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした

[Q5-K]



1-6. 教員に親近感を感じた

[Q5-N]

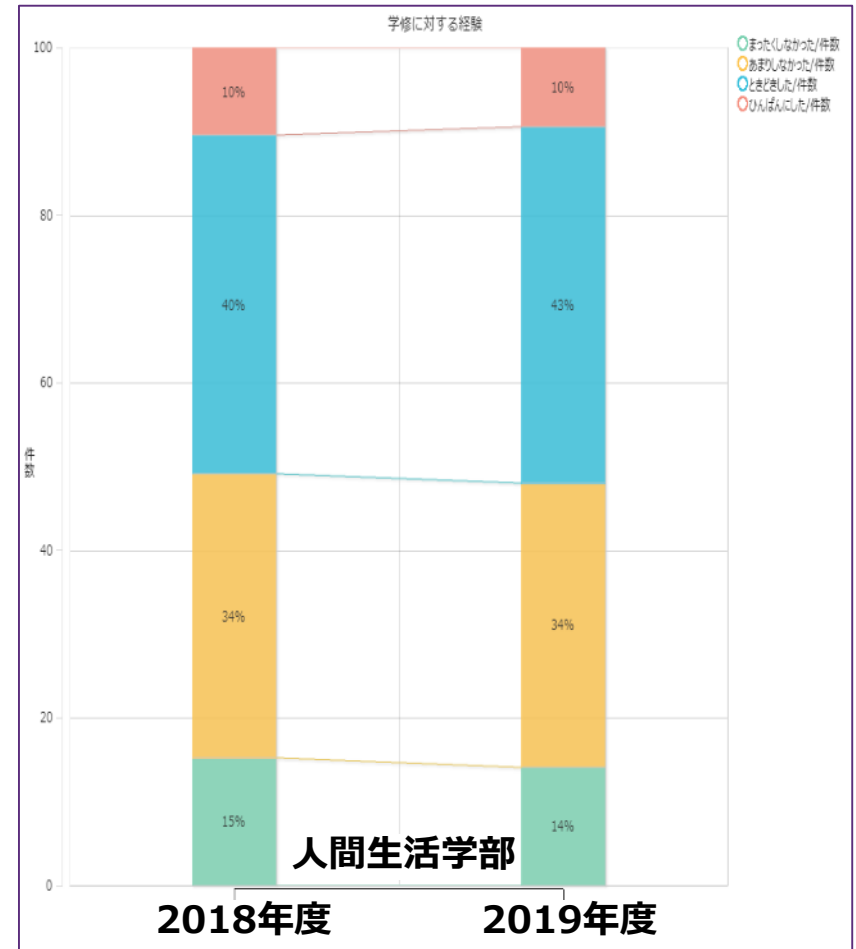
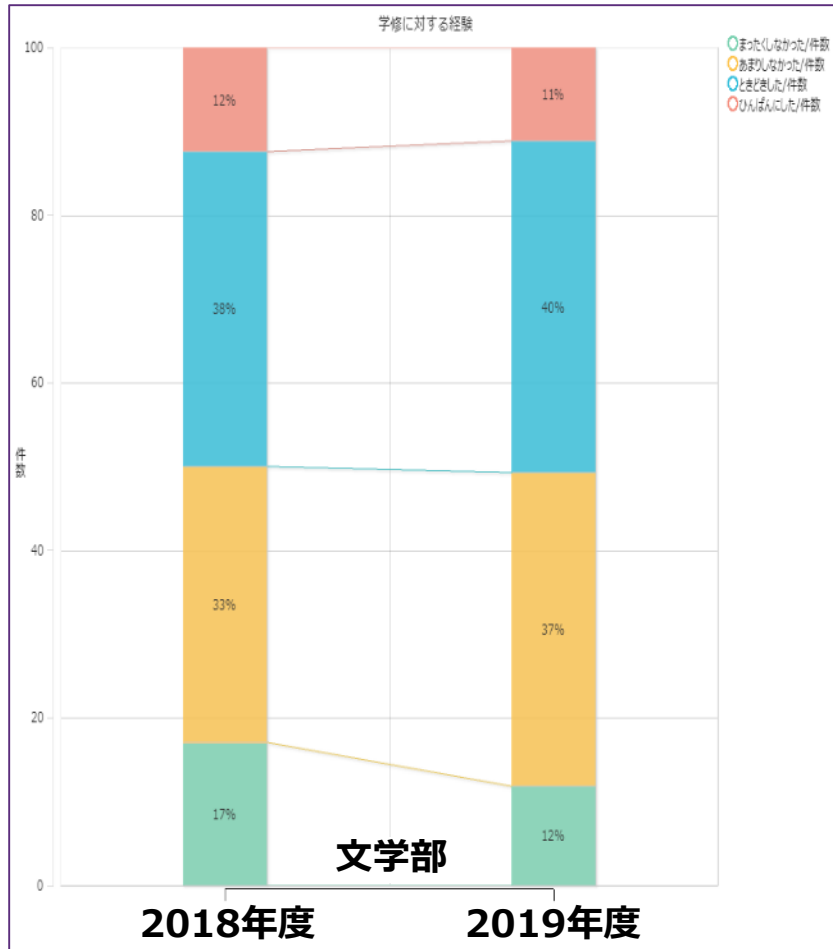


【コメント】

両学部とも全体平均をわずかに上回っている。しかし「教員との距離が近い、面倒見のいい大学」という本学が売りにしている部分を学生としては実感していないことが分かる。特に文学部では1-5の回答から、学生と教員の接する機会が人間生活学部より高いにも関わらず、「ひんぱんにした」「ときどきした」の回答の合計が人間生活学部を下回っている。「接する機会が多いが、親近感を感じてもらえない」という状況について、学生対応に問題は無かったか精査する必要がある。

1-6. 教員に親近感を感じた

[Q5-N]



文学部では図書・資料を用いた課題学習が非常に多く、このため図書館の利用率やインターネットの活用、他の学生と一緒に勉強する機会などが加盟大学全体より高くなっていると思われる。全体的に良い傾向が表れているが、1-6のコメントにも述べた通り、学生対応の部分に問題は無かったかを精査する必要がある。

人間生活学部では性格の異なる3学科が混在しているため、はっきりとした傾向は出ていないが、文学部と比較すると学生の授業外学習の頻度が低いことが見て取れる。学生の学びへの主体性を高めるためには、ICTの活用も含めたアクティブラーニングを積極的に導入する必要があるので、どのような手法が有用なのかを検討し、その手法をFDやSDを通して共有する必要がある。

2. 時間の使い方

Q. あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

2-1. 授業や実験に出る

2-2. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする

2-3. 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする

2-4. オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する

2-5. 部活動や同好会に参加する

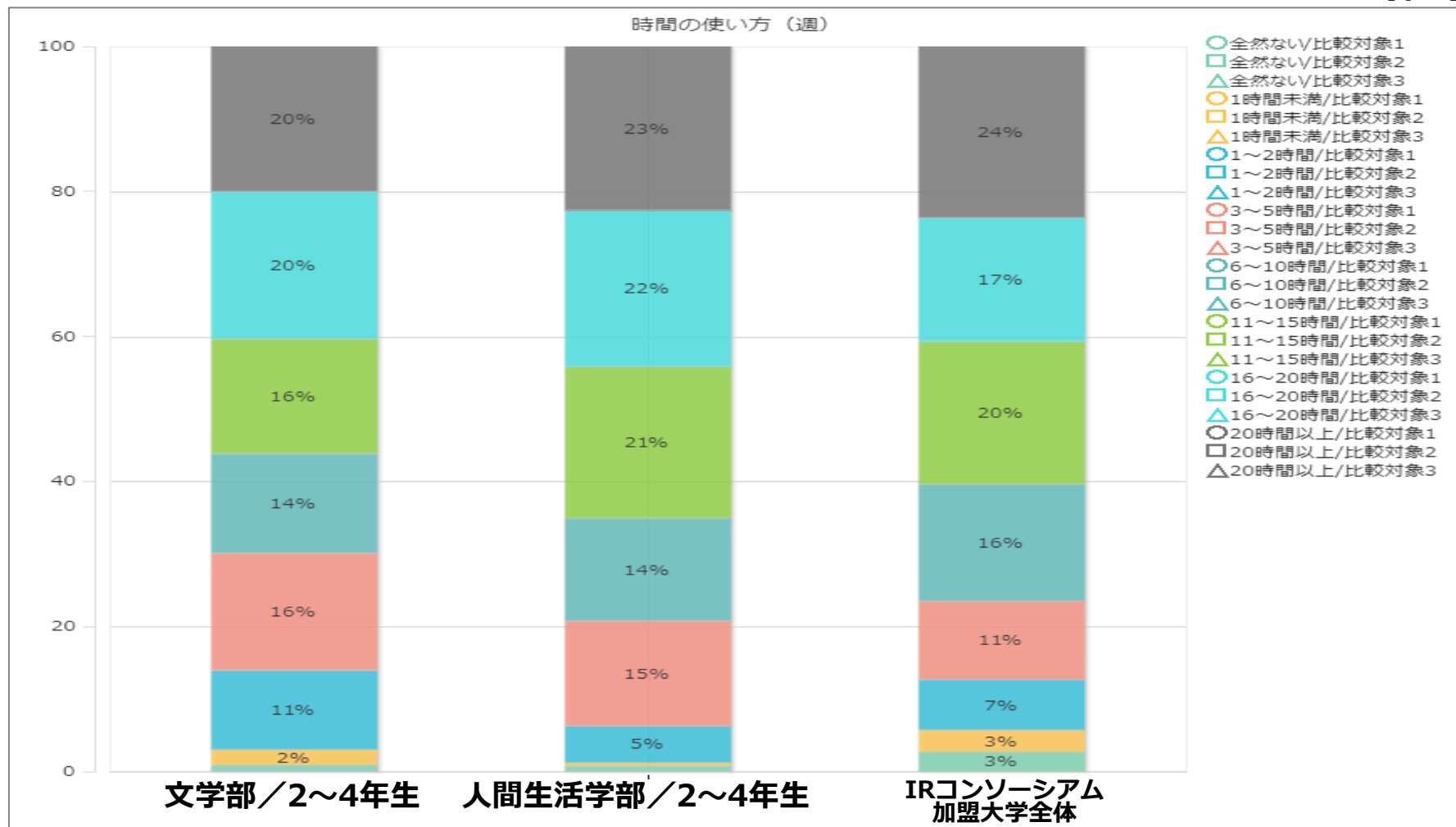
2-6. 大学外でアルバイトや仕事をする

2-7. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

2-8. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

2-1. 授業や実験に出る

[Q6-A]

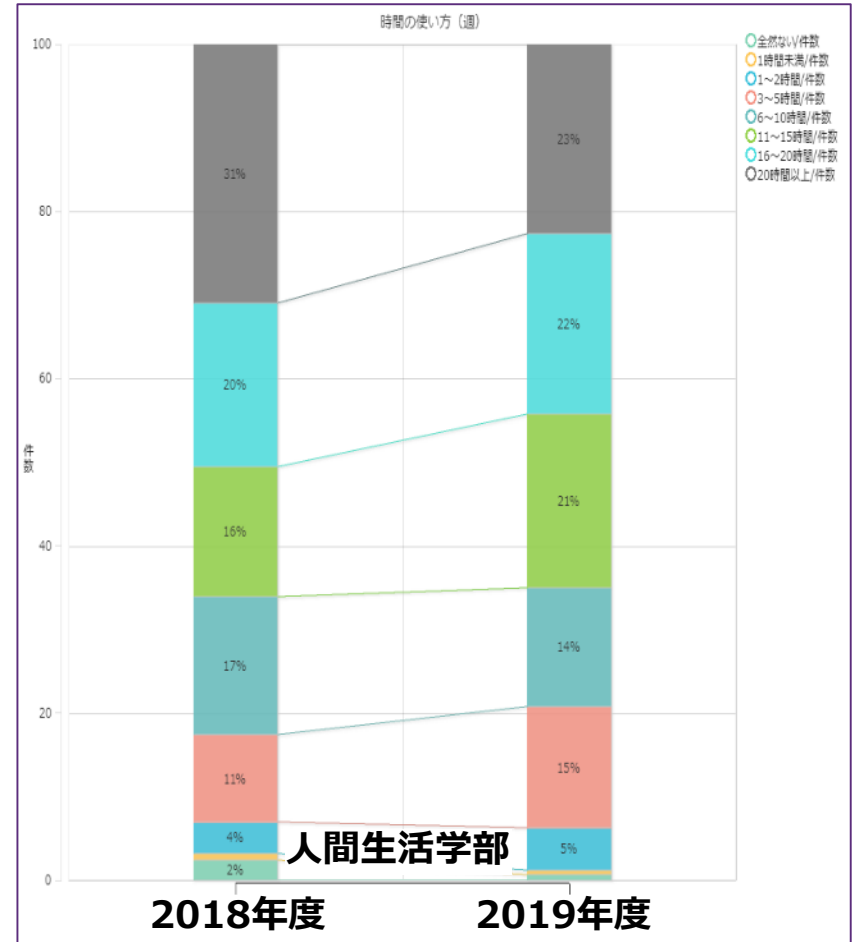
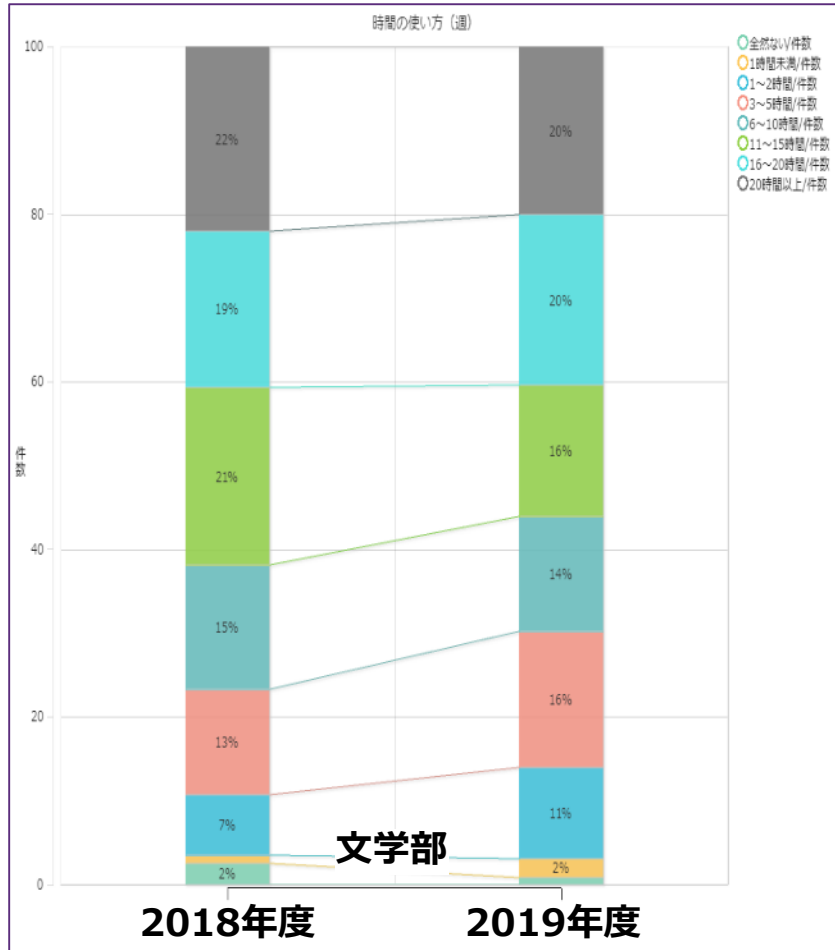


【コメント】

全体として見れば両学部ともに全国平均とさほど変わらないが、人間生活学部は実験、実習の授業の割合が多いからか、11時間以上の割合が66%と比較的多くなっている。一方で、文学部は5時間未満が3割程度と昨年よりも増え、授業時間が少なくなっている。

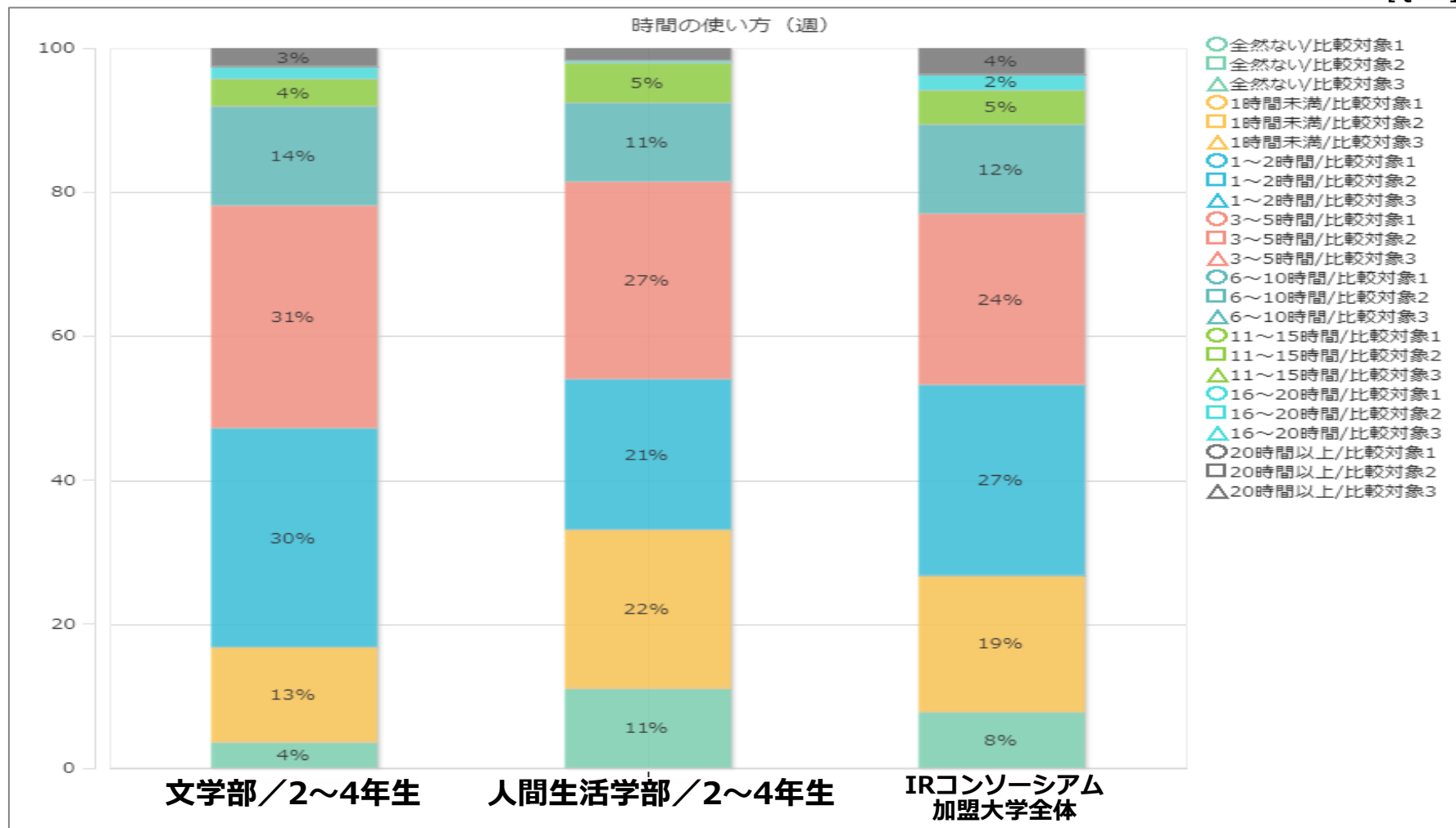
2-1. 授業や実験に出る

[Q6-A]



2-2. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする

[Q6-B]

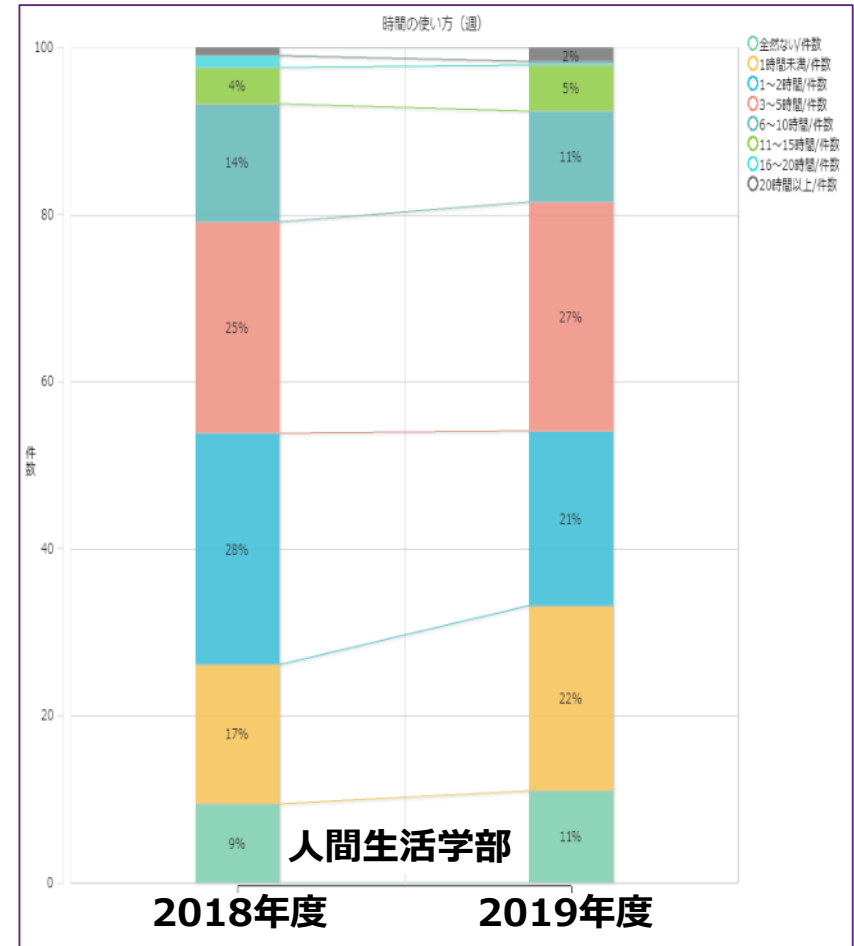
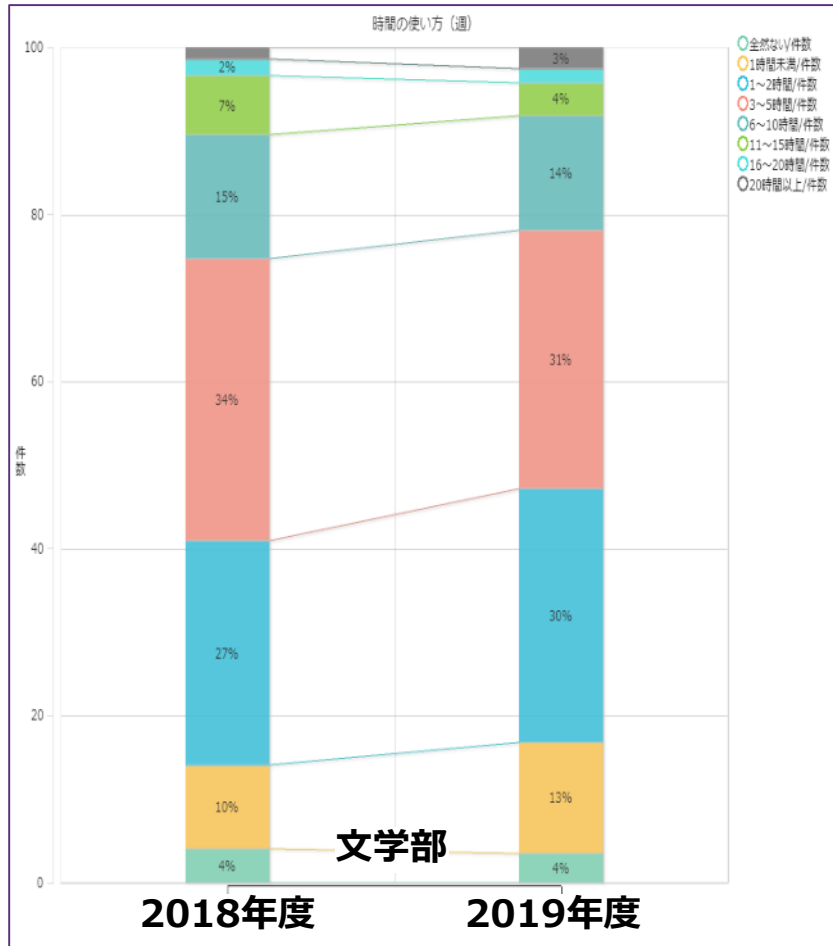


【コメント】

文学部は昨年4割程度だった「2時間未満」の割合が5割程度に増えている一方で、「3～5時間」の割合が全国平均よりも多い。人間生活学部は昨年とほぼ変わらないが、「1時間未満」が3割程度と増えている。実験・実習などの授業時間内で完結する授業が多いことが影響している可能性もあるが、文学部と比べれば授業時間外の学習時間が少ない。

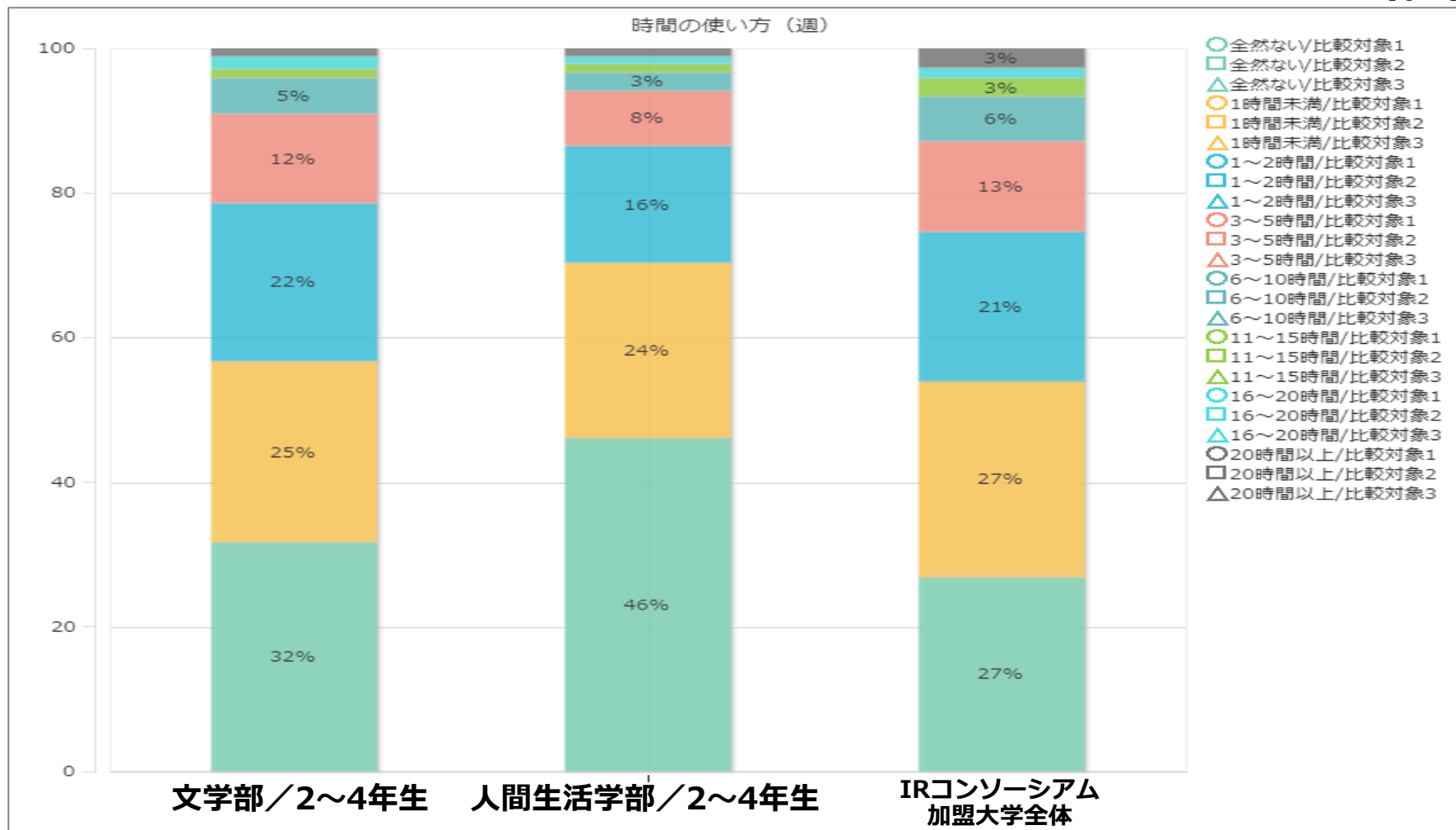
2-2. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする

[Q6-B]



2-3. 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする

[Q6-C]

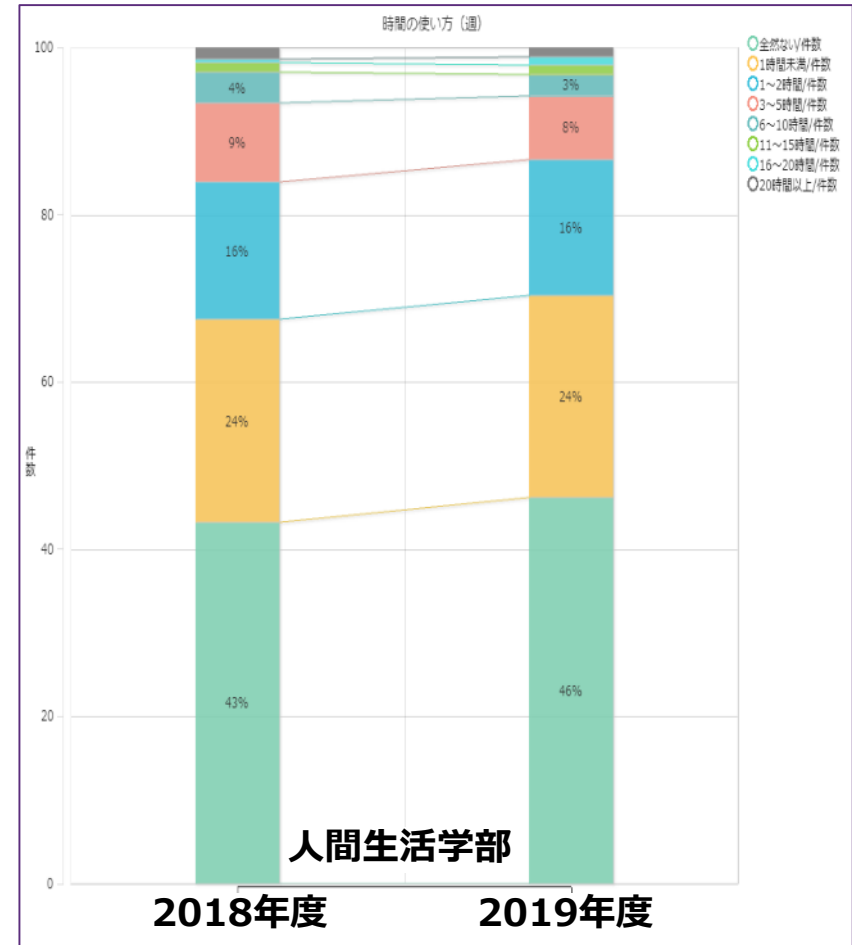
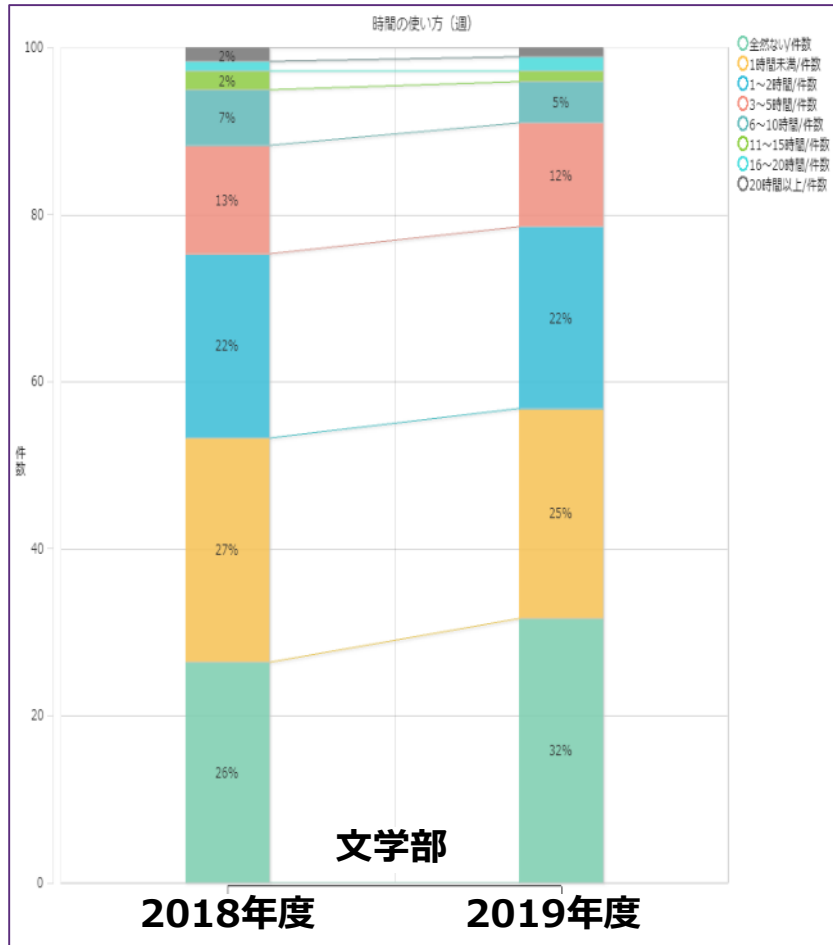


【コメント】

文学部は全国平均並みだが、昨年よりも全体的に授業に関連しない勉強時間が減っている。人間生活学部も昨年よりも全体的に短時間の割合が増えている。資格取得を目的としている学生が多いため、授業に関連のある学習が多い傾向にあると思われる。

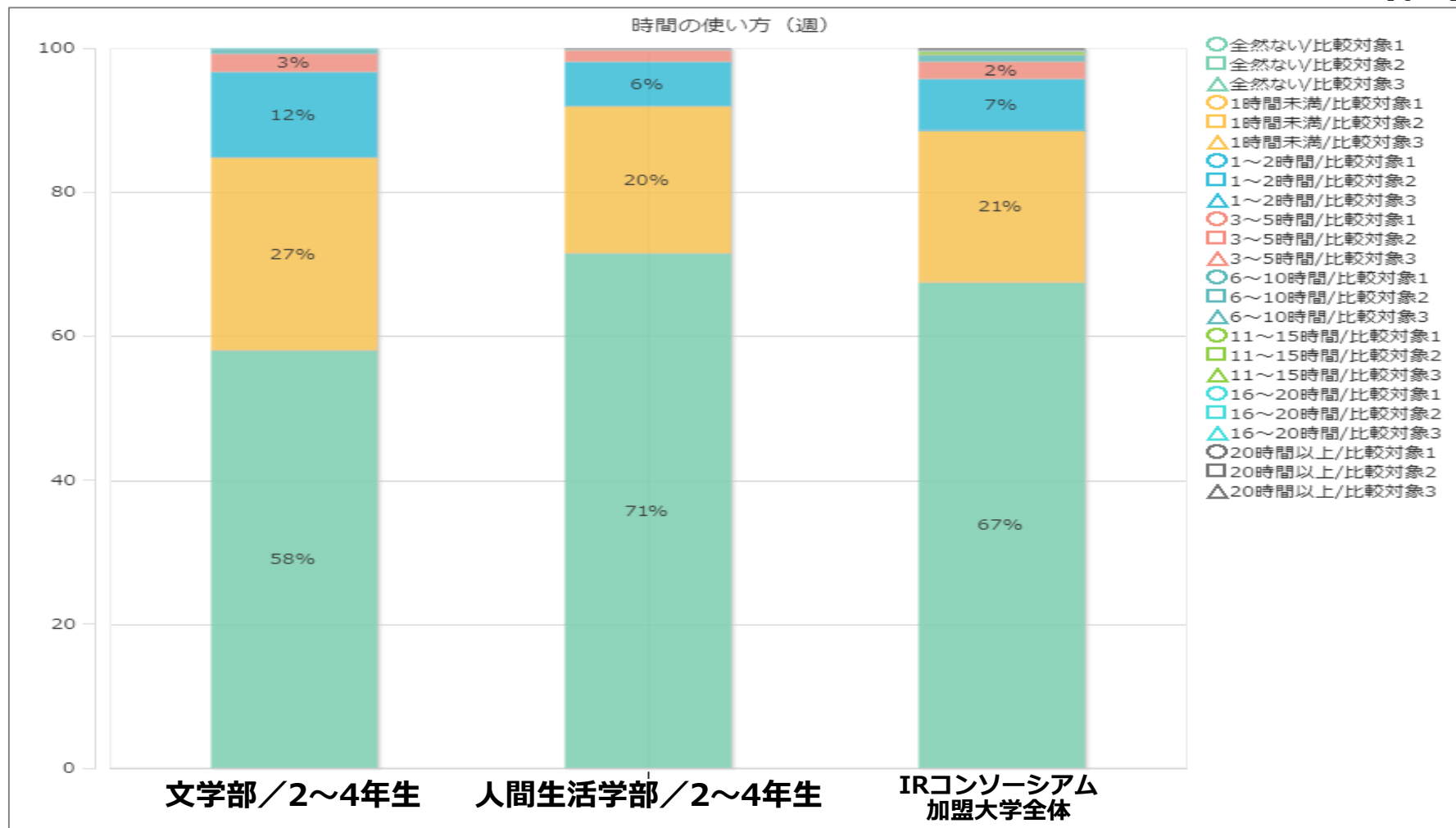
2-3. 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする

[Q6-C]



2-4. オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する

[Q6-D]

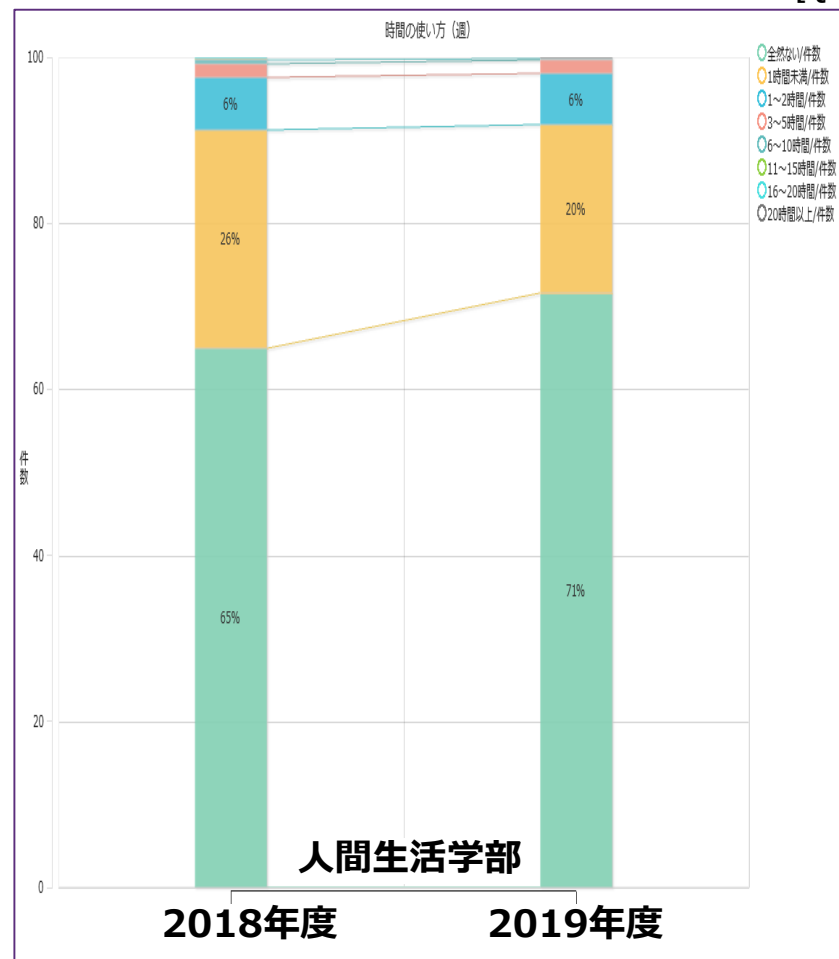
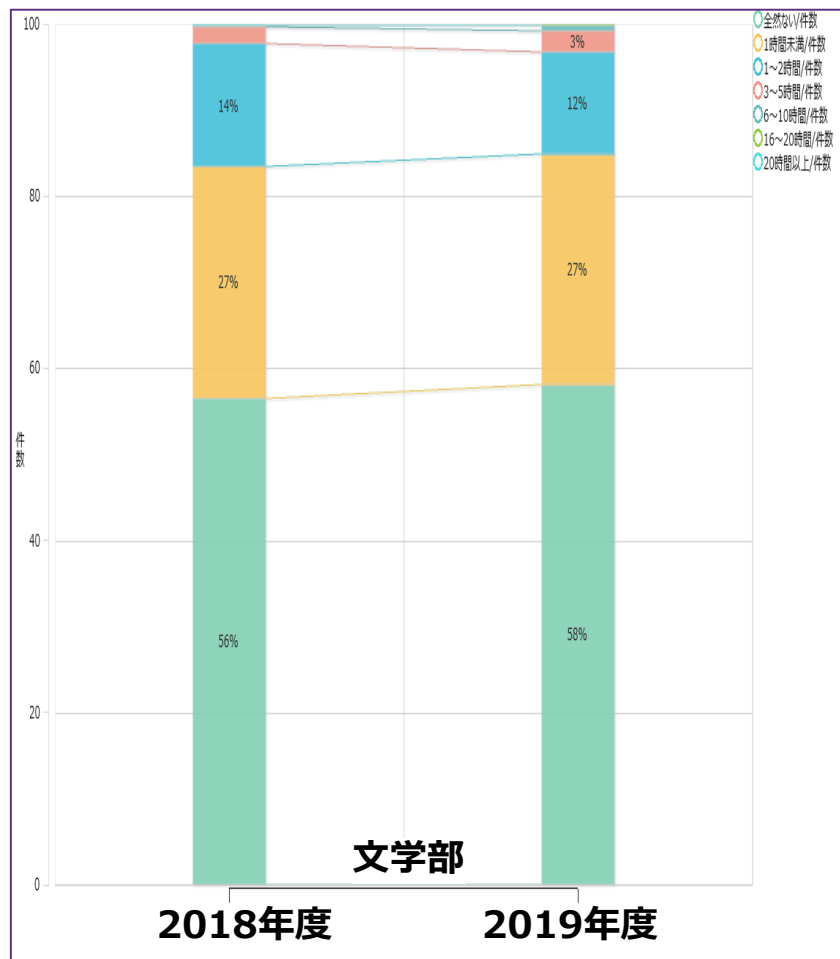


【コメント】

文学部は全国平均に比べればオフィスアワーを比較的に利用しているが有効的とは言えない。人間生活学部は昨年よりも面談時間が減り、全国平均よりも少なくなっている。教員とのコミュニケーションが不足していると思われる。

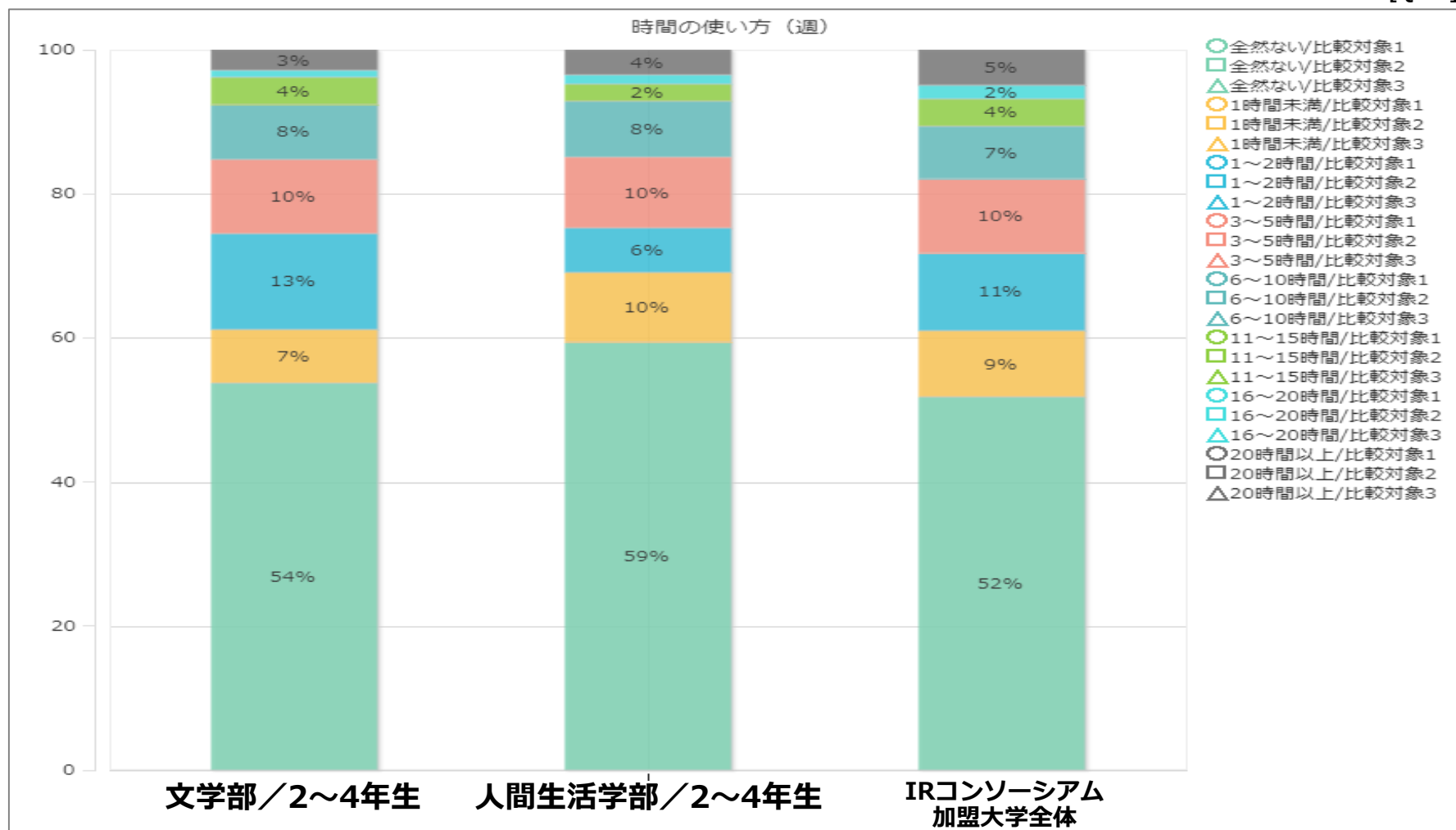
2-4. オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する

[Q6-D]



2-5. 部活動や同好会に参加する

[Q6-E]

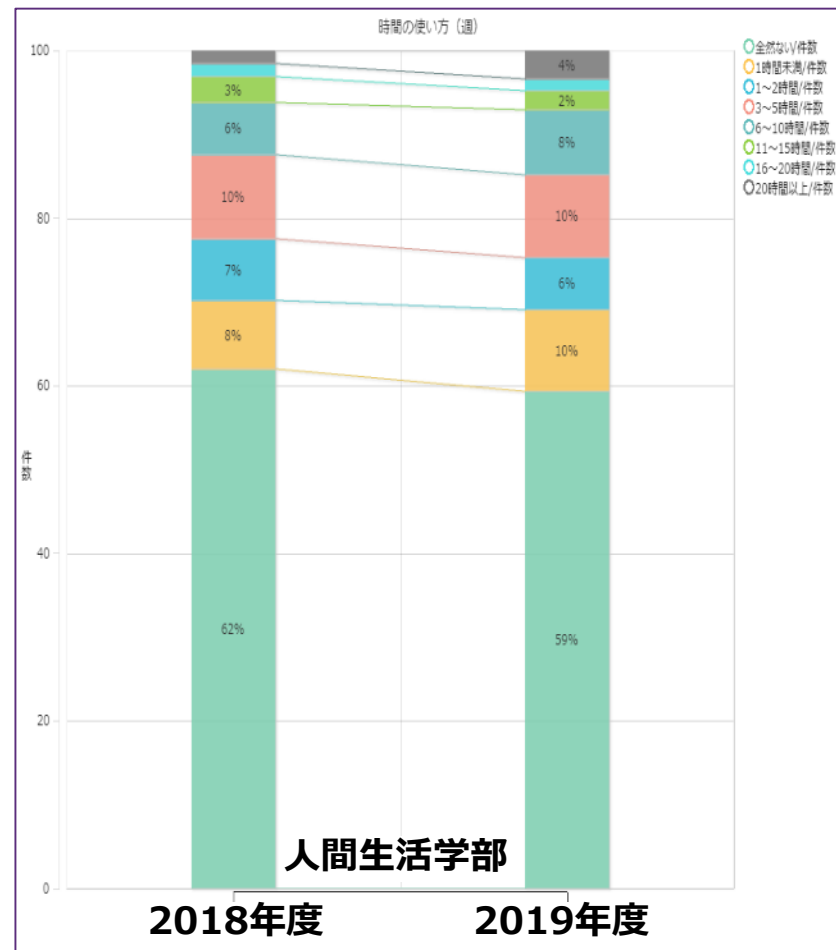
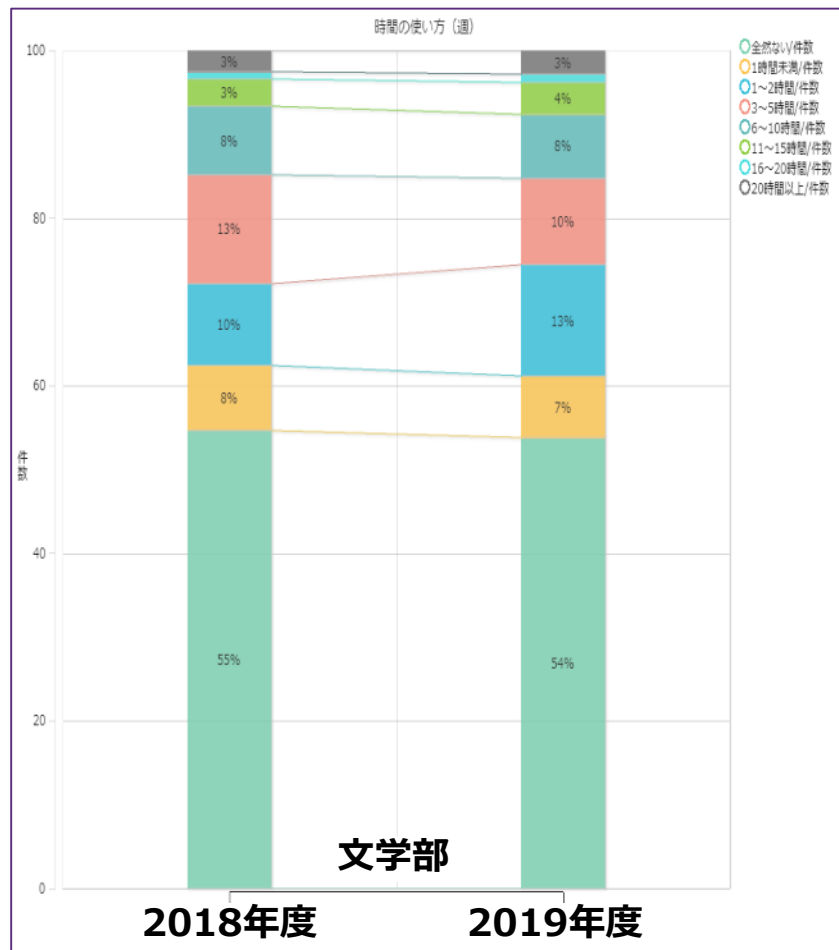


【コメント】

文学部は昨年と同じく全国平均と同じく半数近くが参加している。人間生活学部は昨年より若干増えたものの、参加は4割程度で活動時間も少ない。実験や実習など、授業での拘束時間、通学時間などの影響が要因として考えられる。

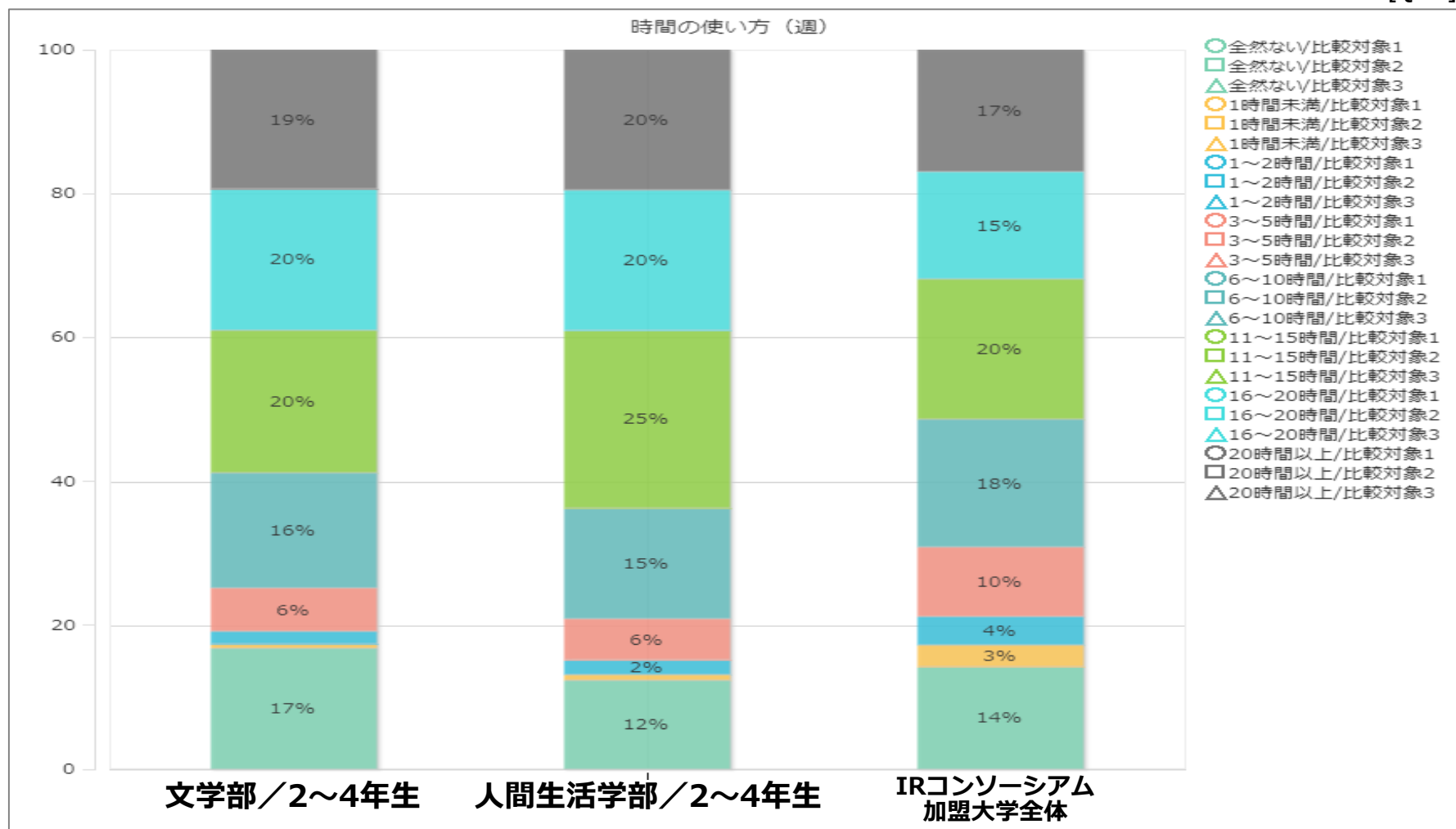
2-5. 部活動や同好会に参加する

[Q6-E]



2-6. 大学外でアルバイトや仕事をする

[Q6-F]

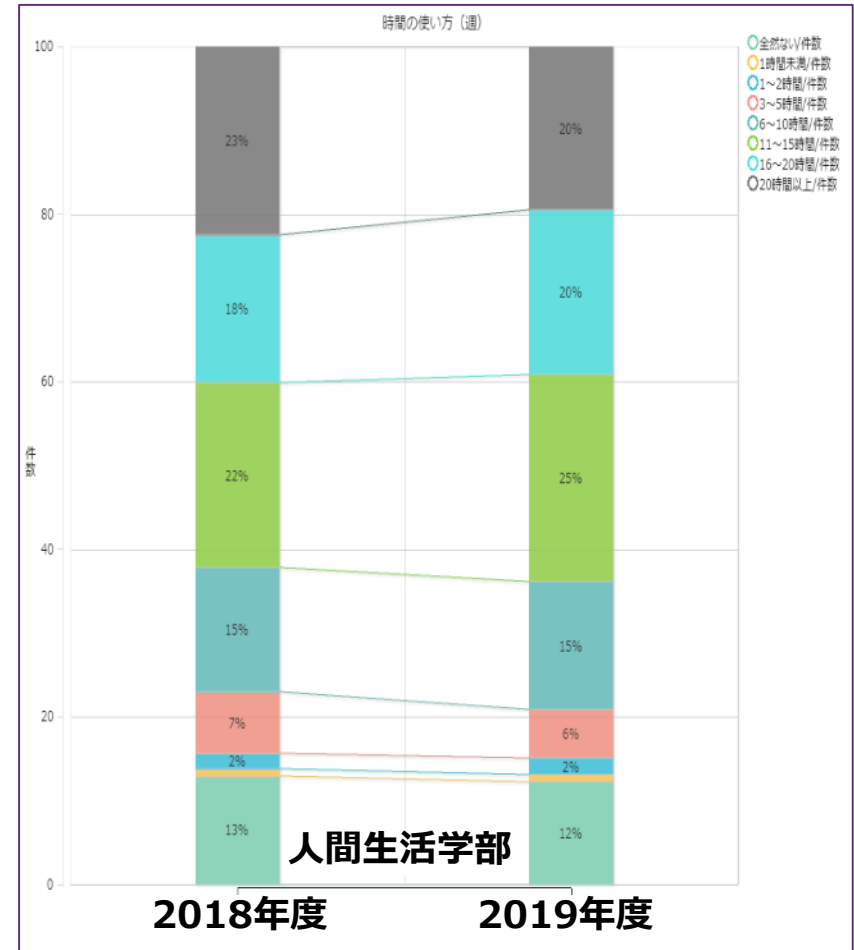
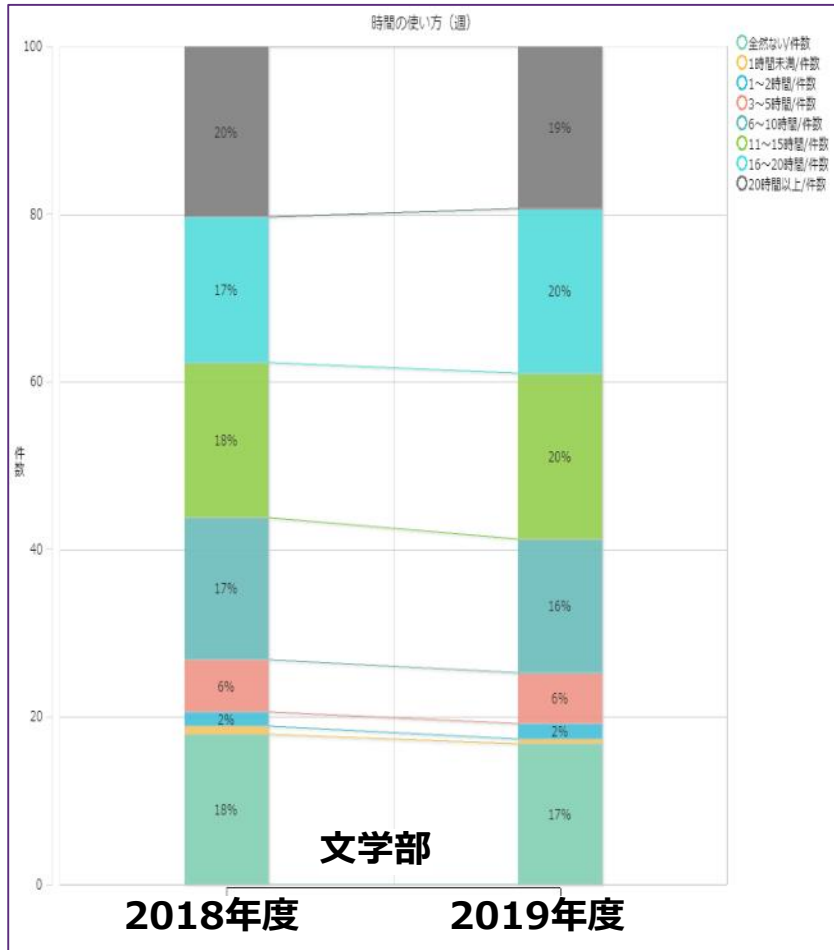


【コメント】

両学部共にアルバイト等の時間が増え、約6割の学生が「11時間以上」となった。ただし、学生生活等にも影響が出ると思われる「20時間以上」の割合が昨年よりも微減となったことは良い傾向である。

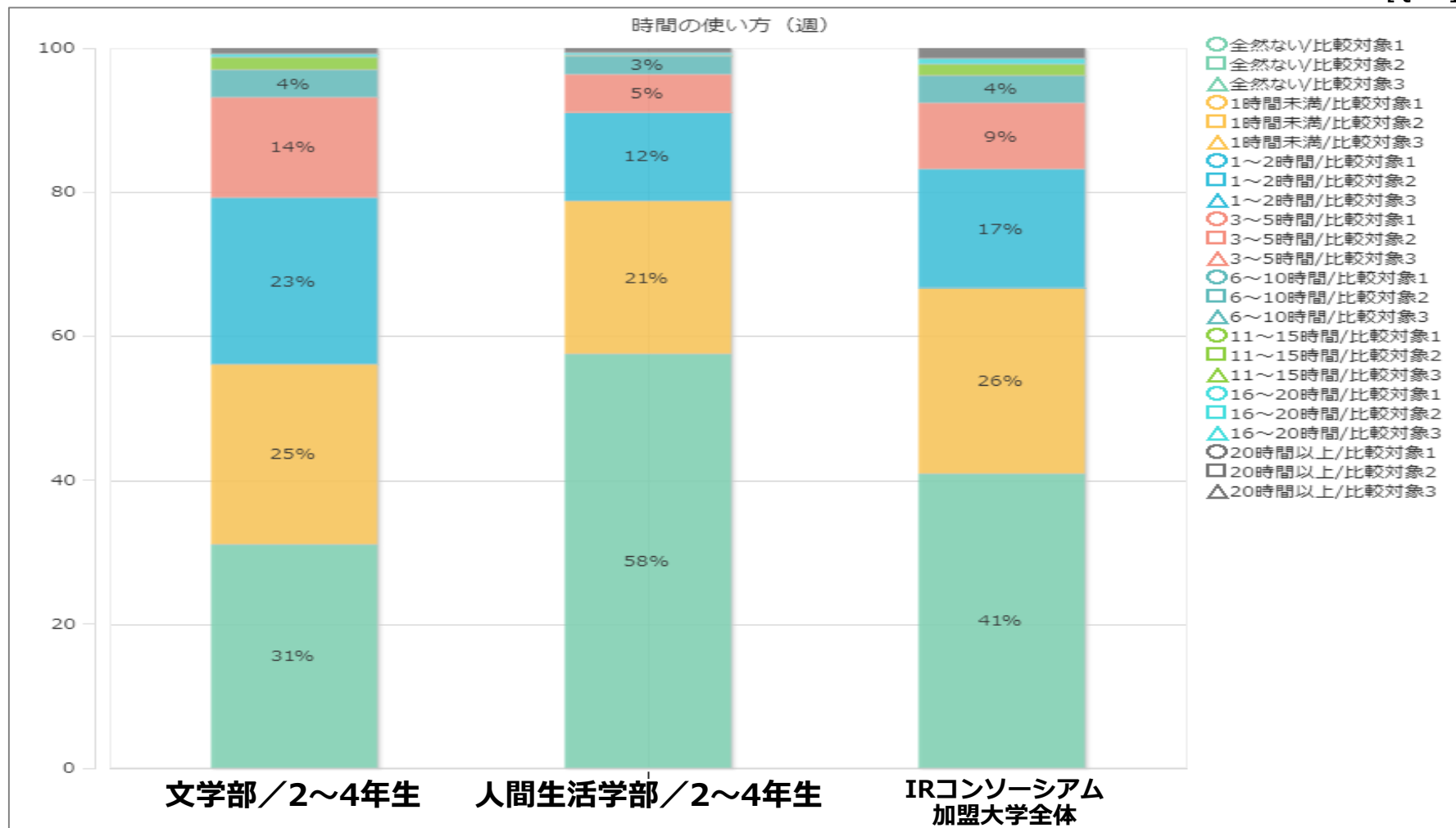
2-6. 大学外でアルバイトや仕事をする

[Q6-F]



2-7. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

[Q6-G]

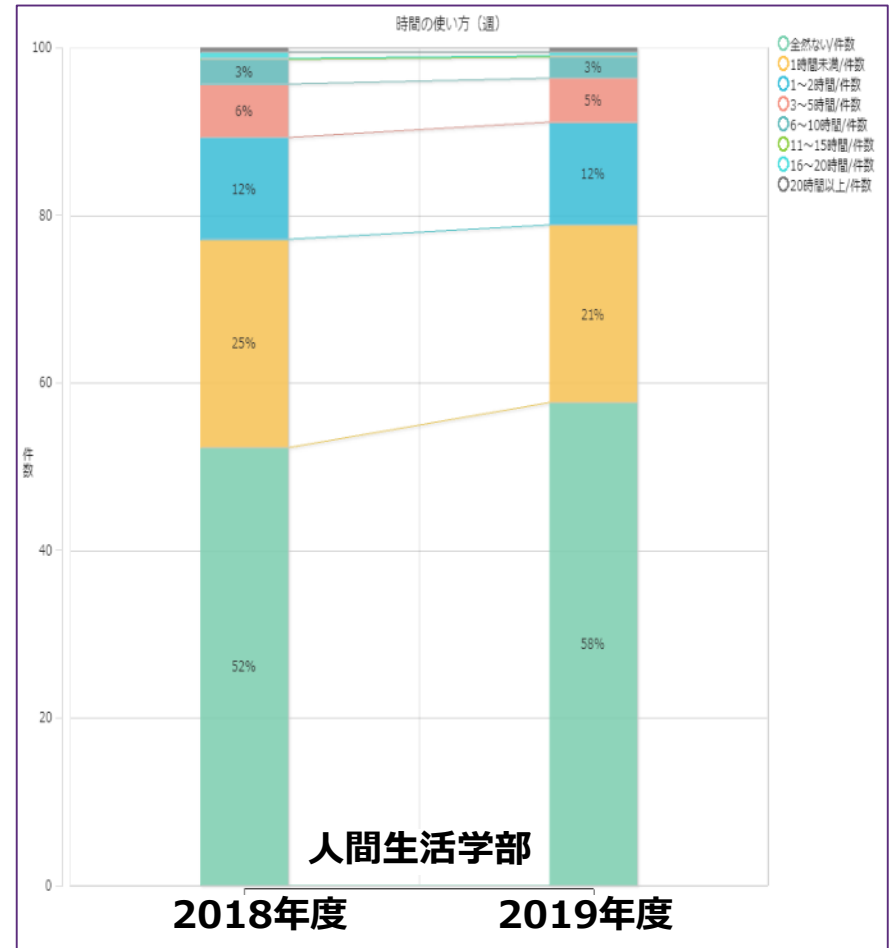
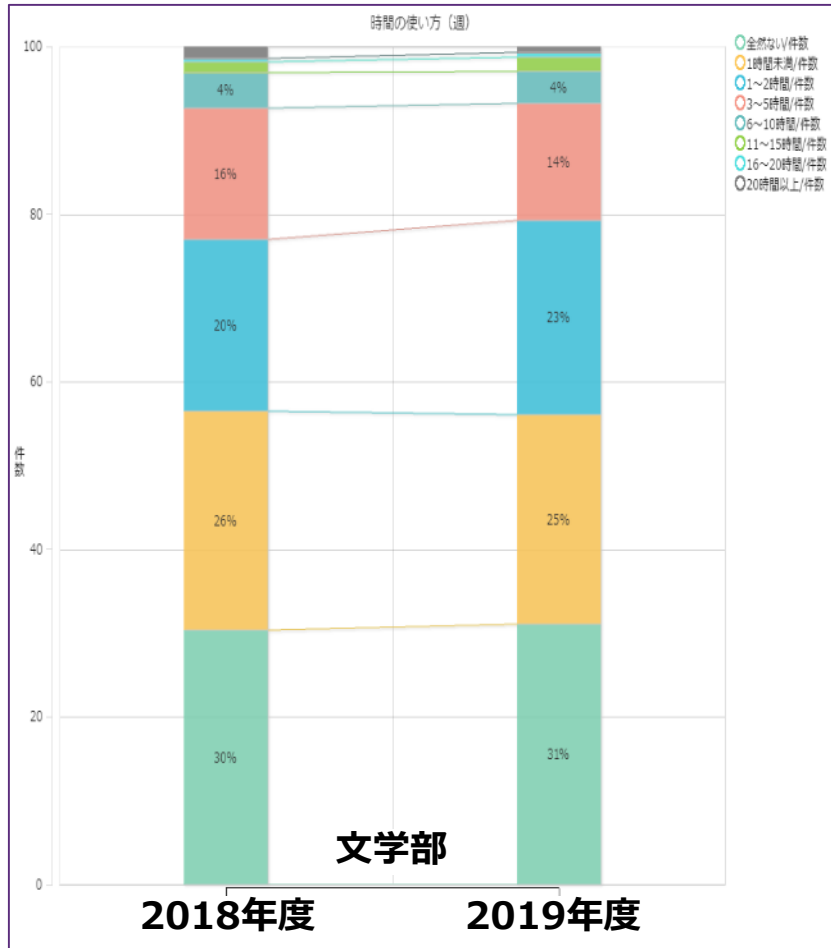


【コメント】

文学部は読書にかかる時間が全国平均を上回り、読書率は昨年と同等の7割程度となっている。図書館施設の利用、本を利用する授業なども要因と考えられる。人間生活学部は、全国平均より読書率が低い上に昨年よりも「全然大きい」学生が増えた。

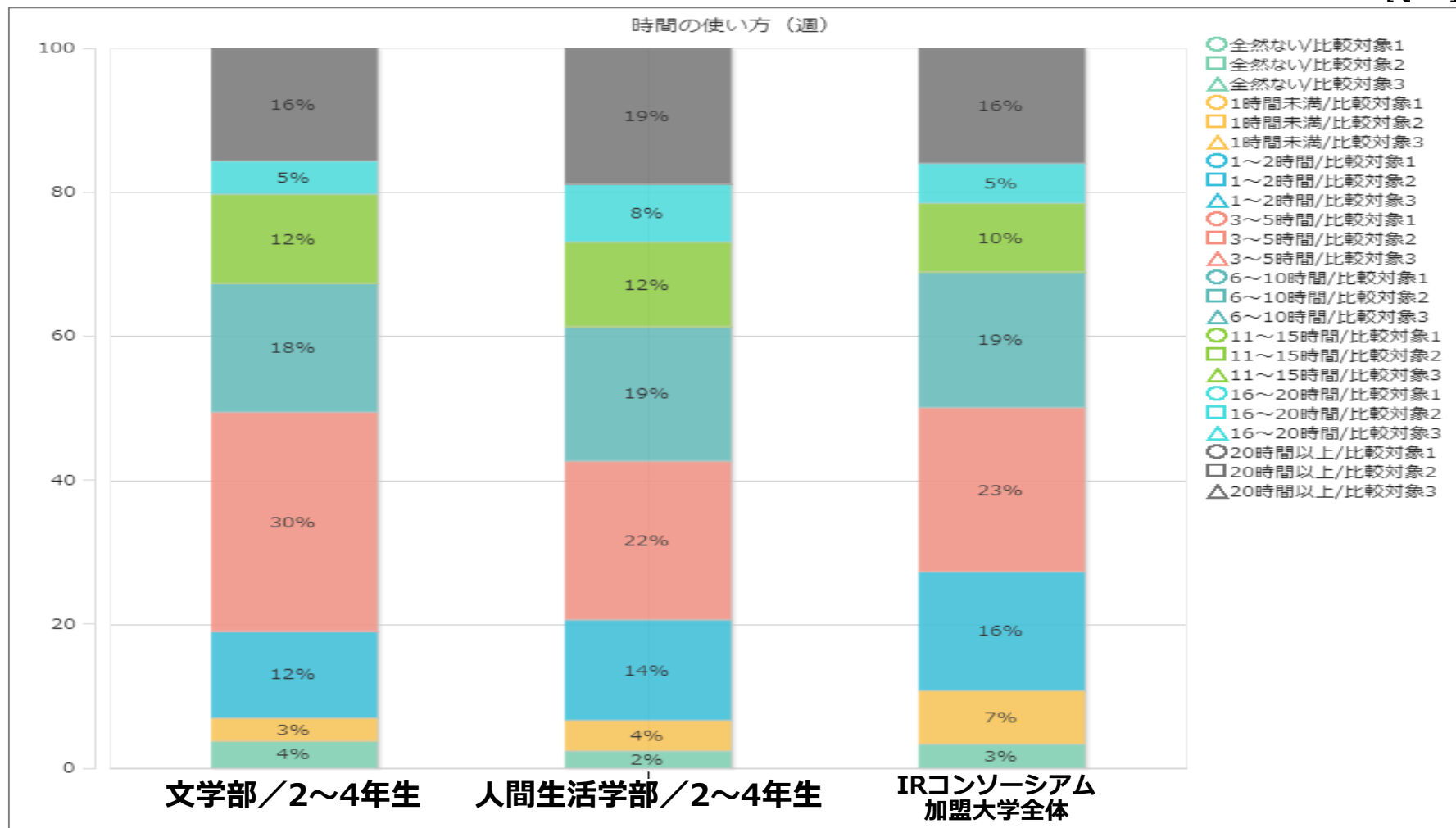
2-7. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

[Q6-G]



2-8. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

[Q6-H]

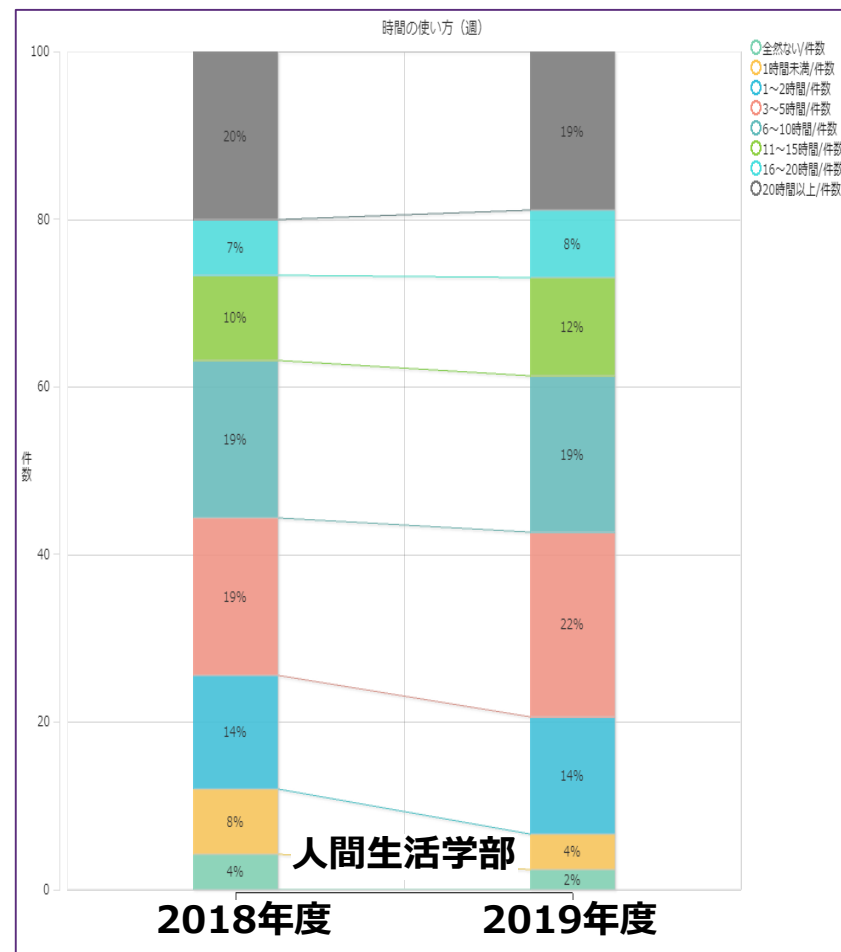
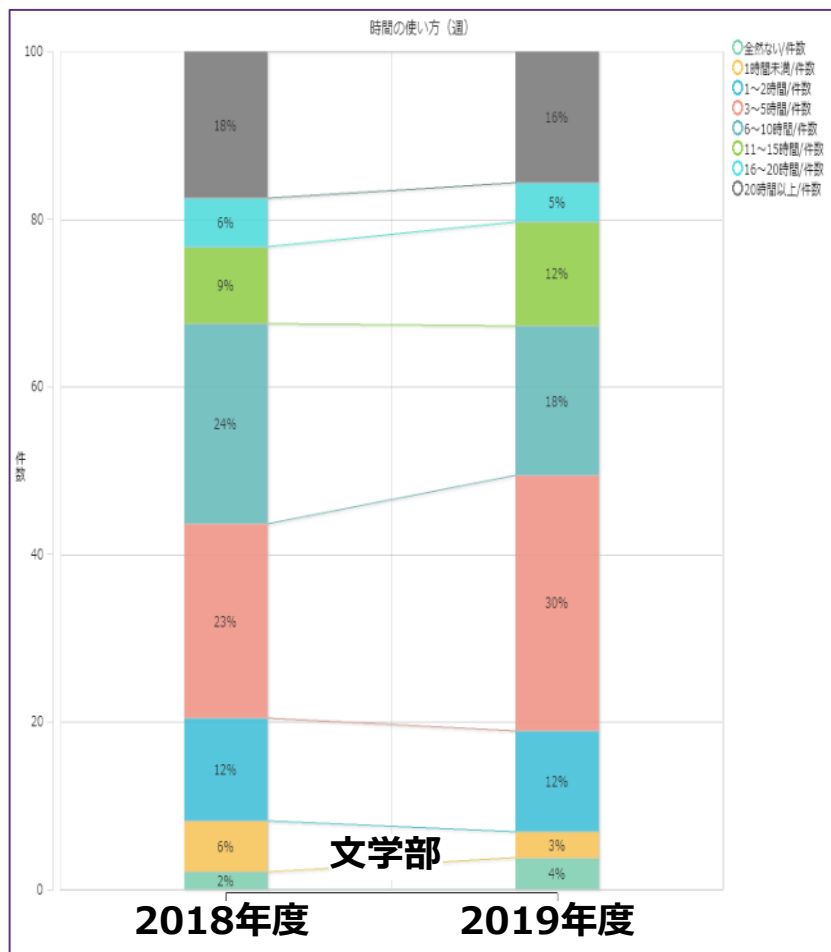


【コメント】

両学部ともに一定程度の趣味の時間を設けているが、文学部では昨年2割程度だった「3～5時間」が3割に増えており、全国平均を上回っている。人間生活学部は趣味にかける時間が全体的に増え、「全然的に」が微減している。

2-8. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

[Q6-H]



2018年度の学習状況調査と比較しても、大きく変化した部分があったわけではなく、全国平均とも大きく差はないが、文学部と人間生活学部、それぞれ学部の特性上、授業時間や時間外学習などで違いが見られた。

特に人間生活学部は資格取得を目的としている学生が多いからか、授業時間は多い一方で、授業時間外での学習や教員との面談は少ないため、授業で完結できていない場合は学習の遅れにつながるリスクも考えられる。その点のフォローによっては学習状況の底上げにつながると思われる。

アルバイト、趣味、授業に関連しない学習など、ライフステージが多様になり、趣味嗜好が多くある中で、特に週に占めるアルバイトの割合は相変わらず高く、学習の優先度が低い傾向がみられる。2020年度はコロナ禍により、自宅にこもりがちな生活が増えていることから、健康面での負担をかけない生活時間の使い方についての指導も今後必要かと思われる。

3. 教育への満足度

Q. あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

3-1. 専門教育あるいは所属学科の授業

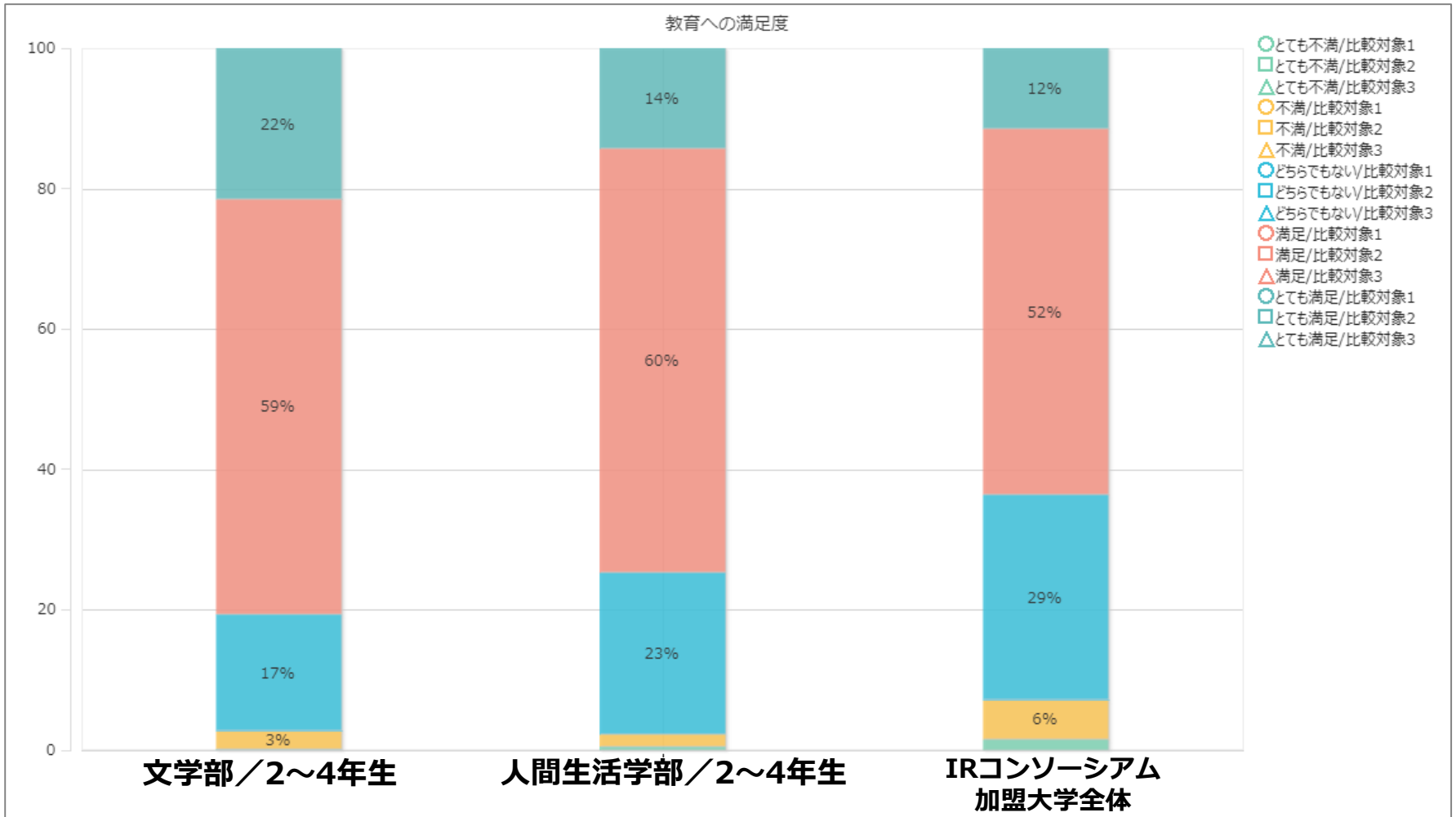
3-2. 授業の全体的な質

3-3. 教員と話をする機会

3-4. 多様な考え方を認め合う雰囲気

3-1. 専門教育あるいは所属学科の授業

[Q12-A]

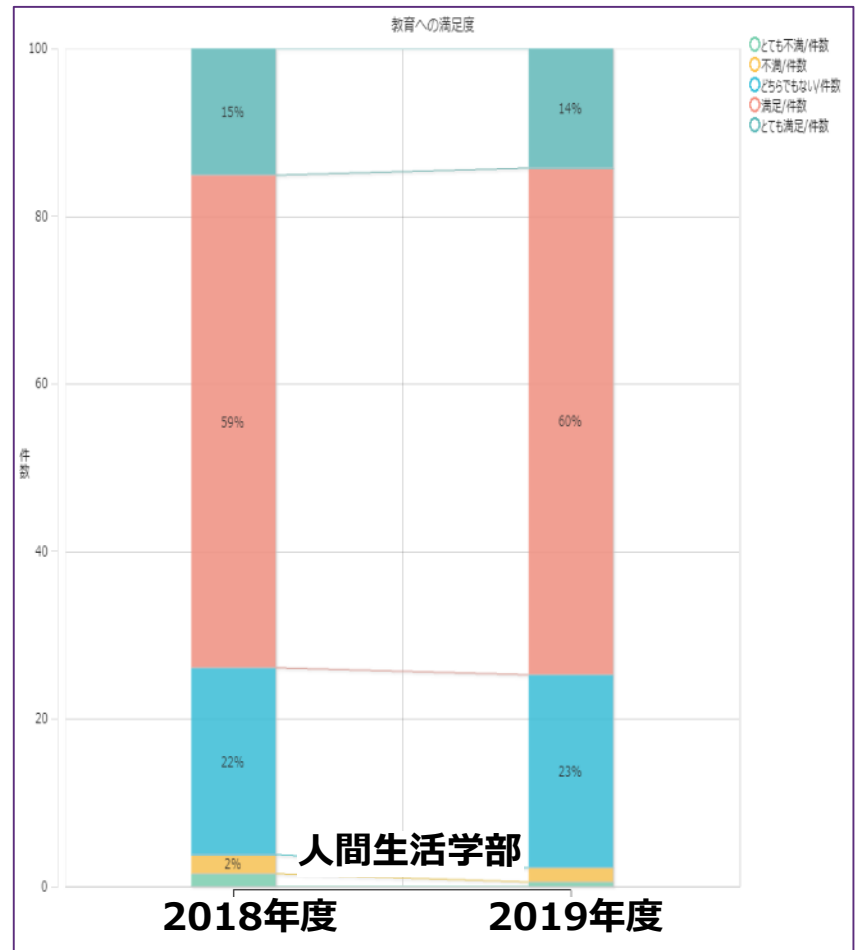
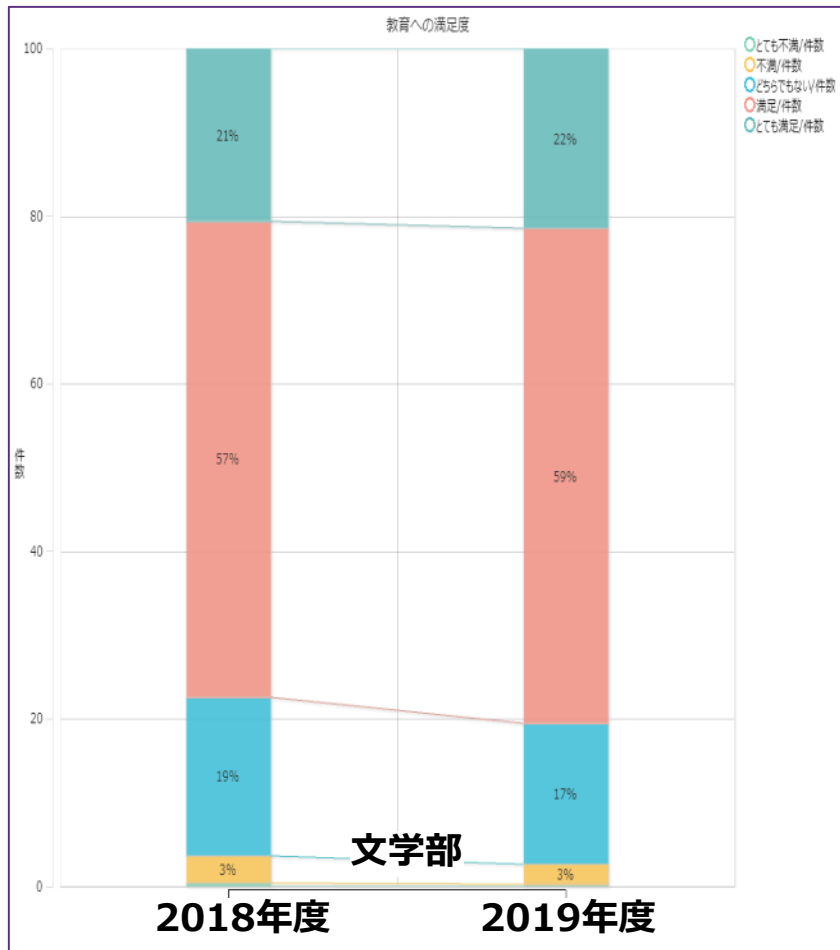


【コメント】

「とても満足」と「満足」を合わせた割合は、文学部は17ポイント、人間生活学部は10ポイント、加盟大学全体平均よりも高くなっている。カリキュラムの見直しを行い改善に取り組んでいること等が、高い満足度に繋がっているのではないかと考えられる。

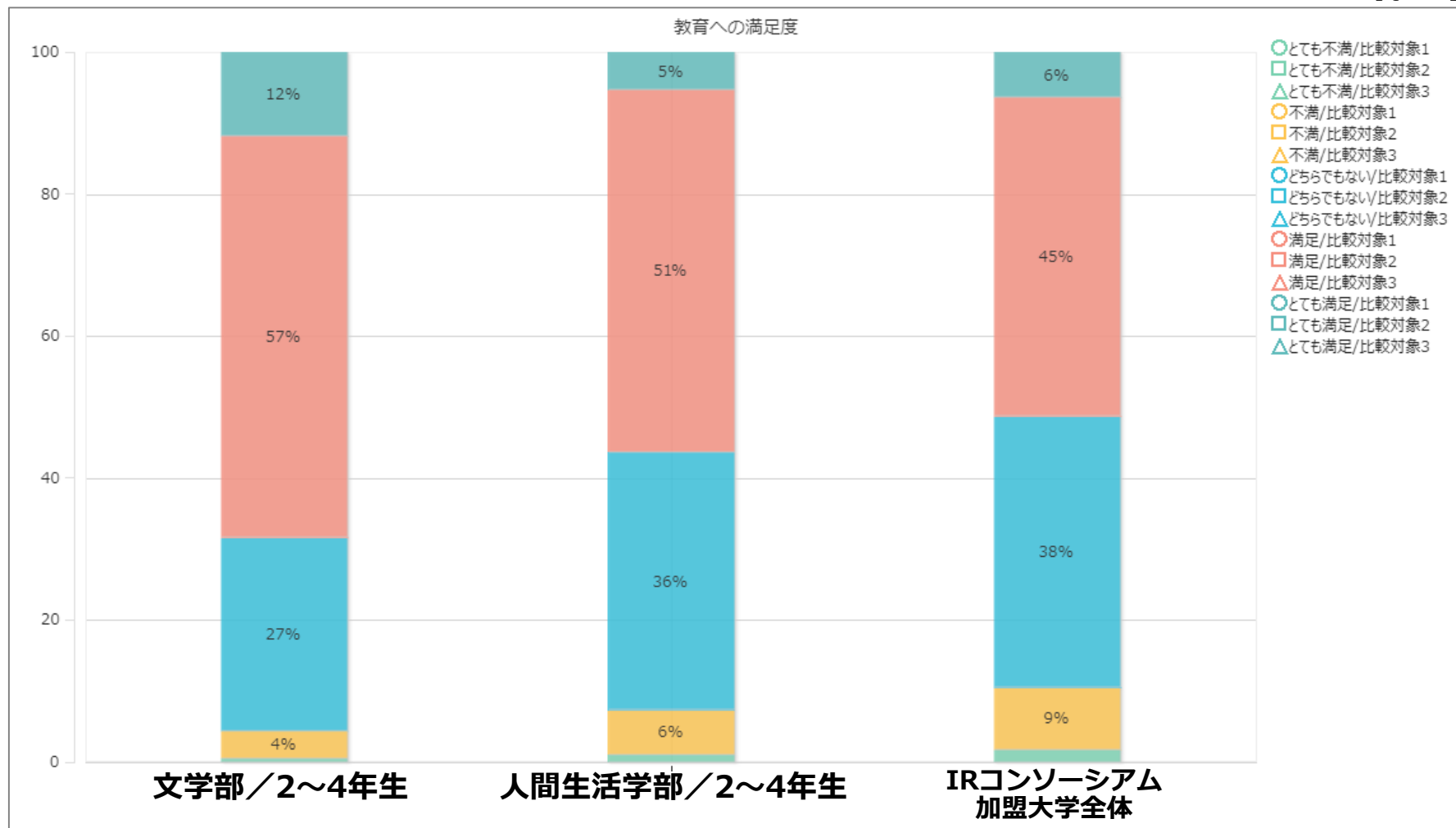
3-1. 専門教育あるいは所属学科の授業

[Q12-A]



3-2. 授業の全体的な質

[Q12-C]

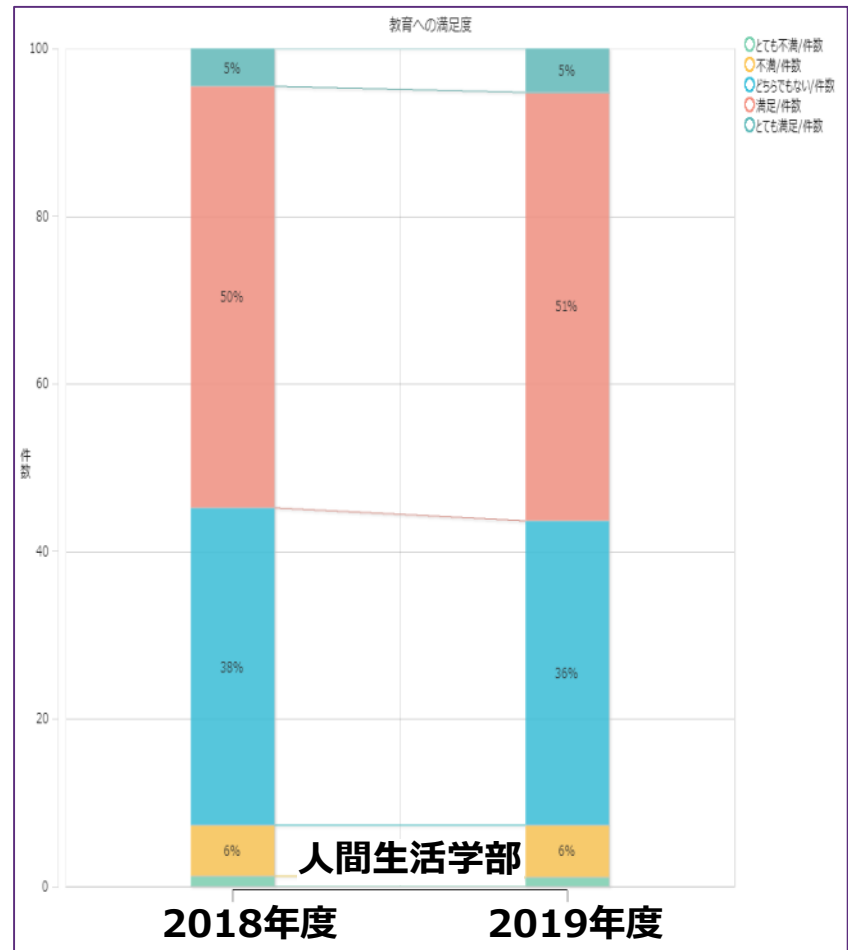
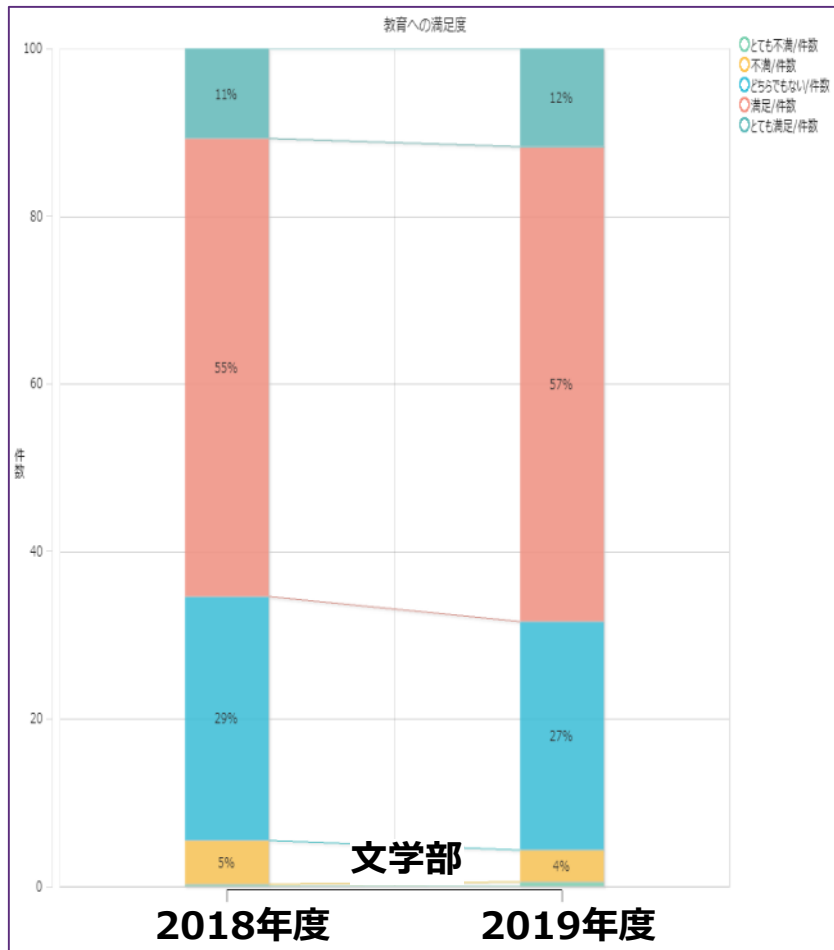


【コメント】

「とても満足」と「満足」を合わせた割合は、文学部は18ポイント、人間生活学部は5ポイント、加盟大学全体平均よりも高くなっている。両学部の満足度にやや開きがある。授業内容見直しやFD研修等で、授業の質の更なる向上を図ることが期待される。

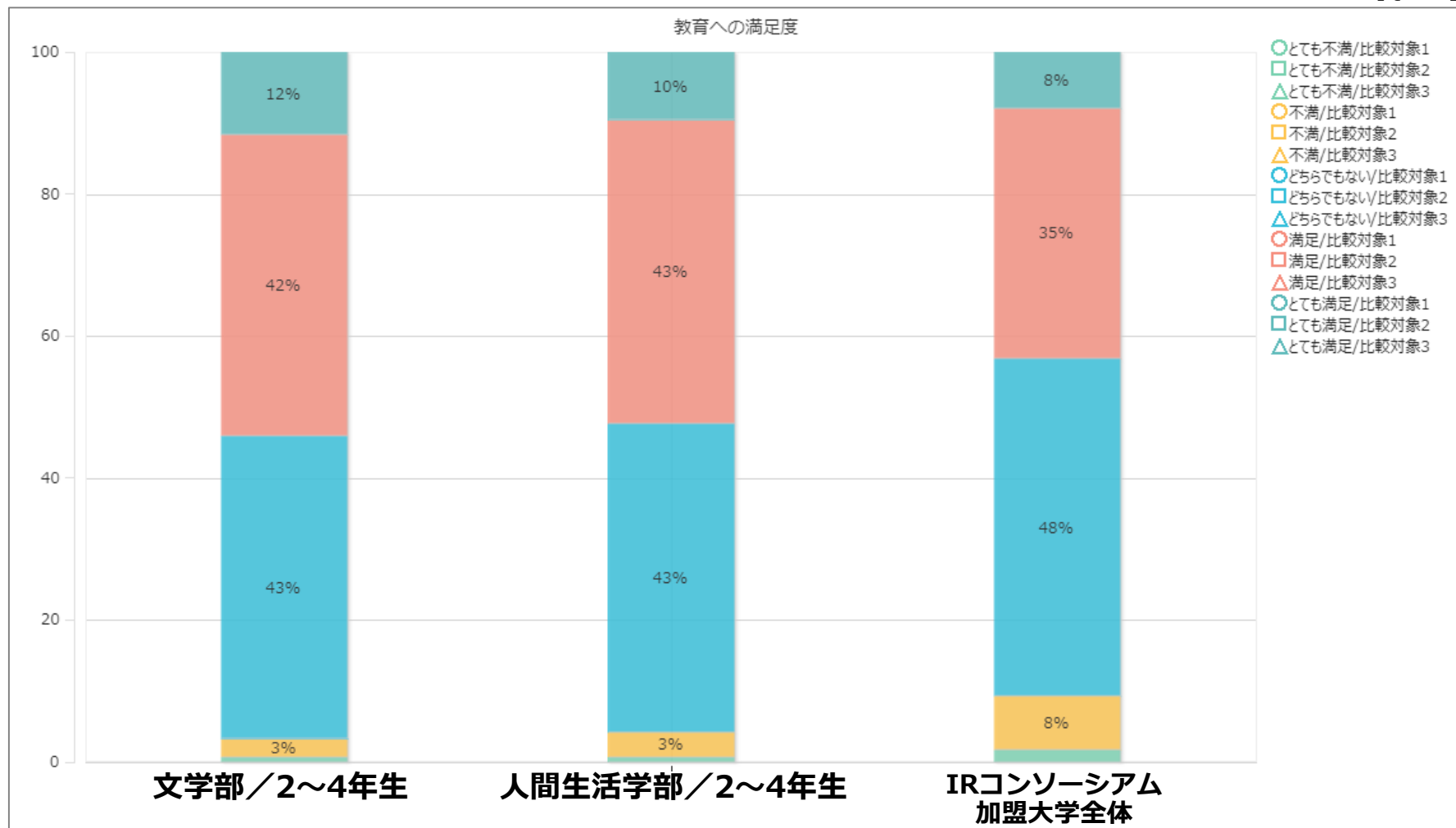
3-2. 授業の全体的な質

[Q12-C]



3-3. 教員と話をする機会

[Q12-F]

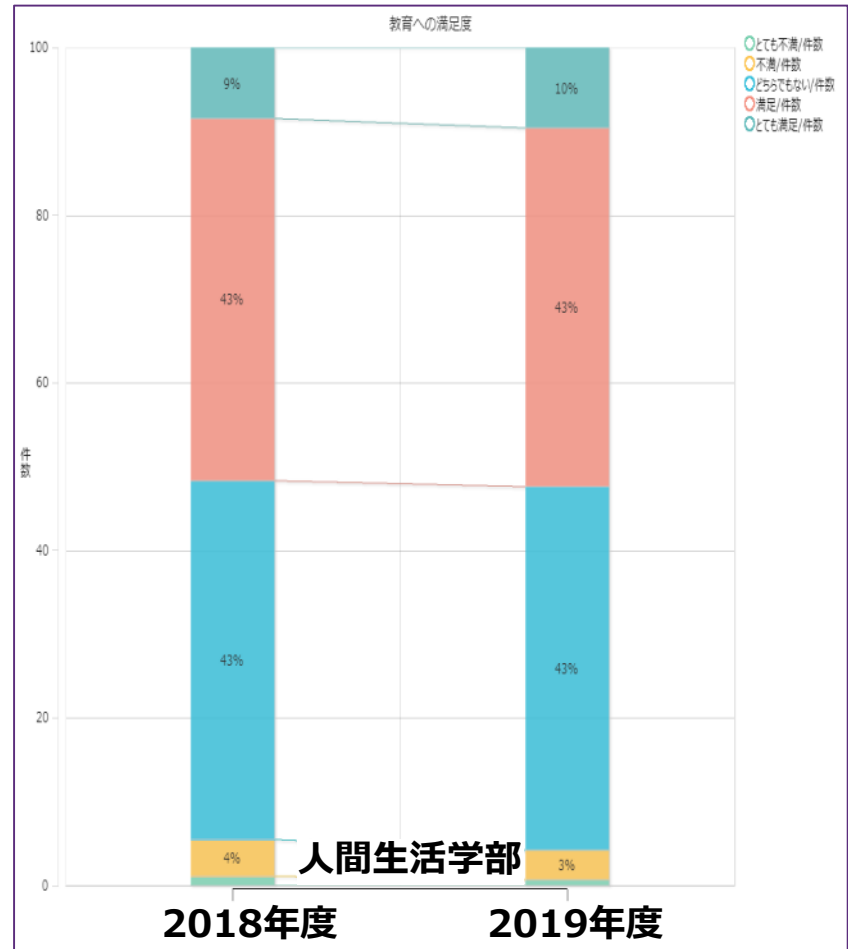
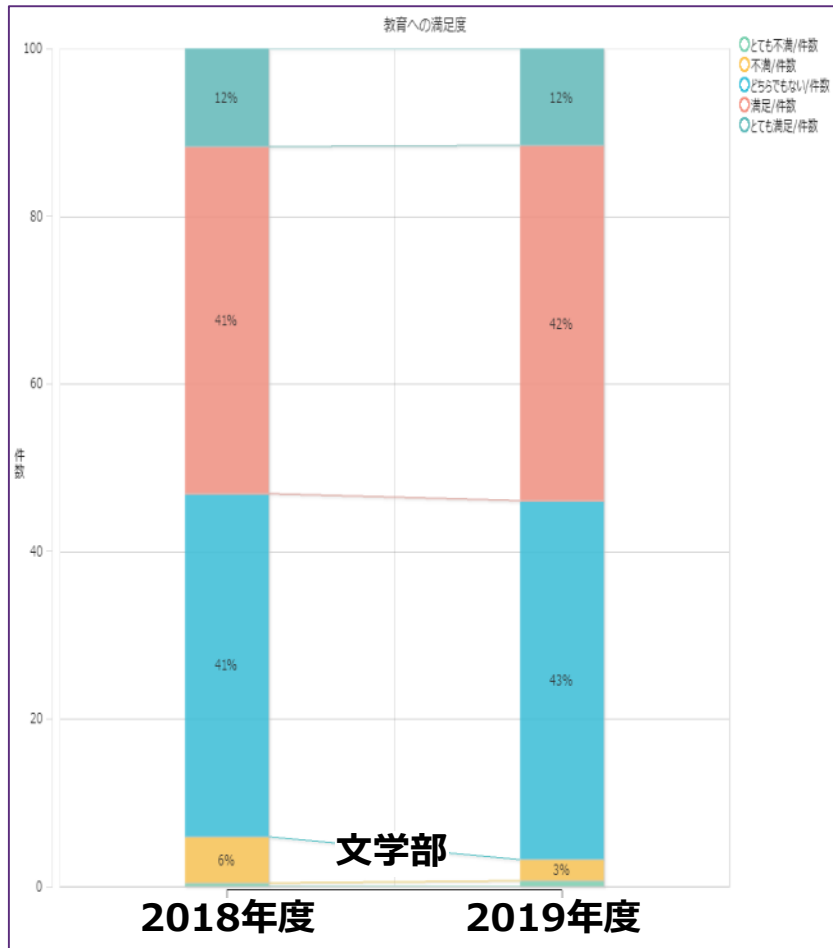


【コメント】

「とても満足」と「満足」を合わせた割合は、文学部は11ポイント、人間生活学部は10ポイント、加盟大学全体平均より高くなっているが、両学部とも「どちらでもない」の回答が43%あり、加盟大学全体平均との差もあまりない。
より分かりやすいオフィスアワーの周知と利用促進、学生と一層コミュニケーションを図ること等が必要ではないか。

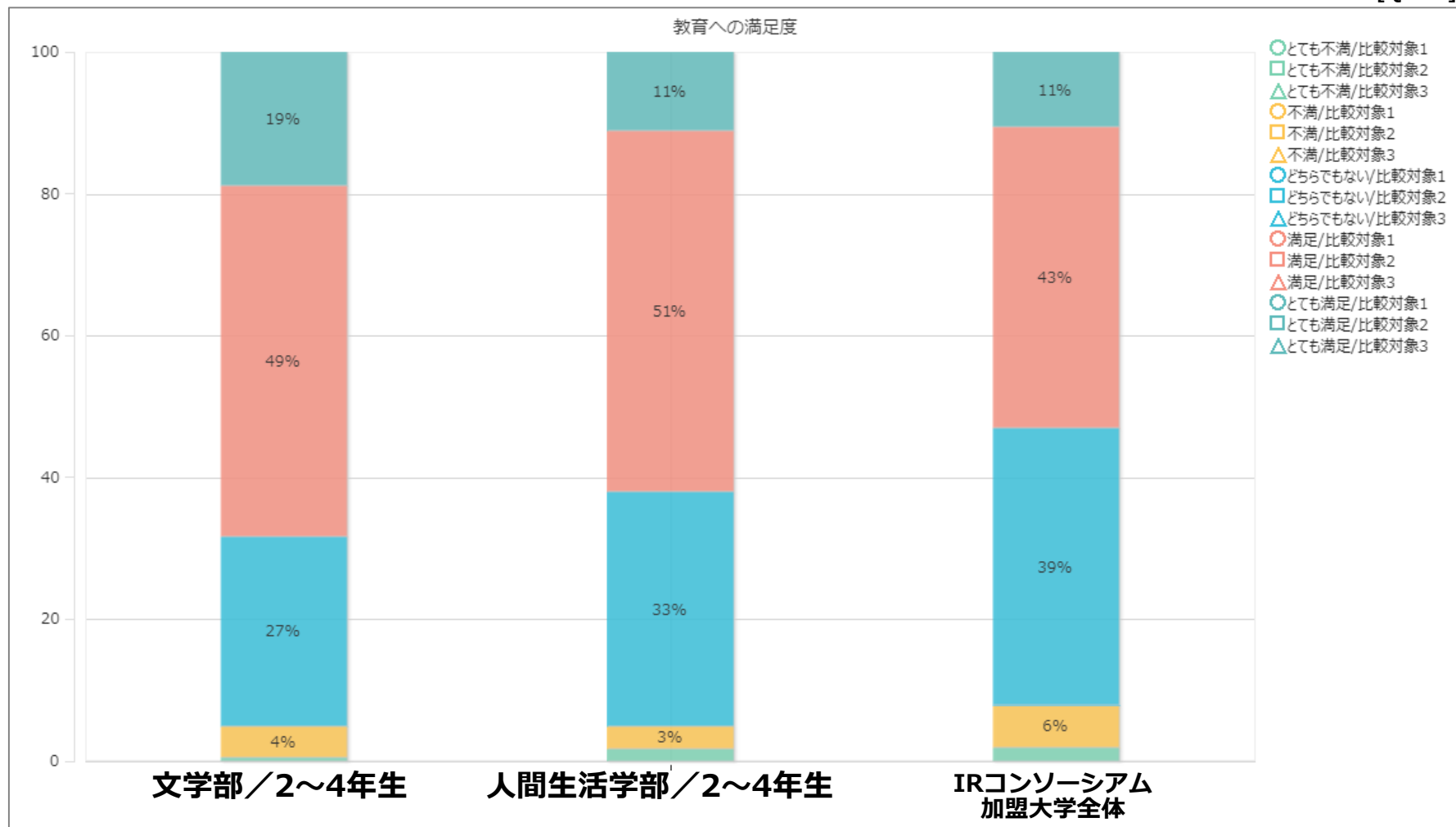
3-3. 教員と話をする機会

[Q12-F]



3-4. 多様な考え方を認め合う雰囲気

[Q12-J]

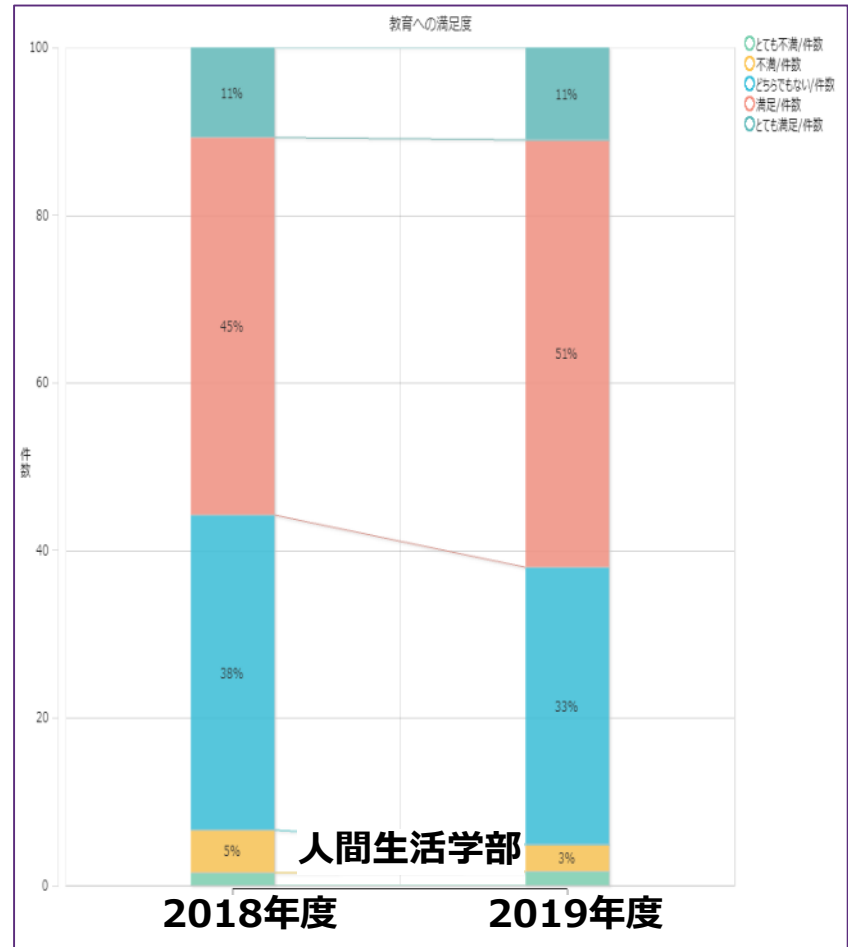
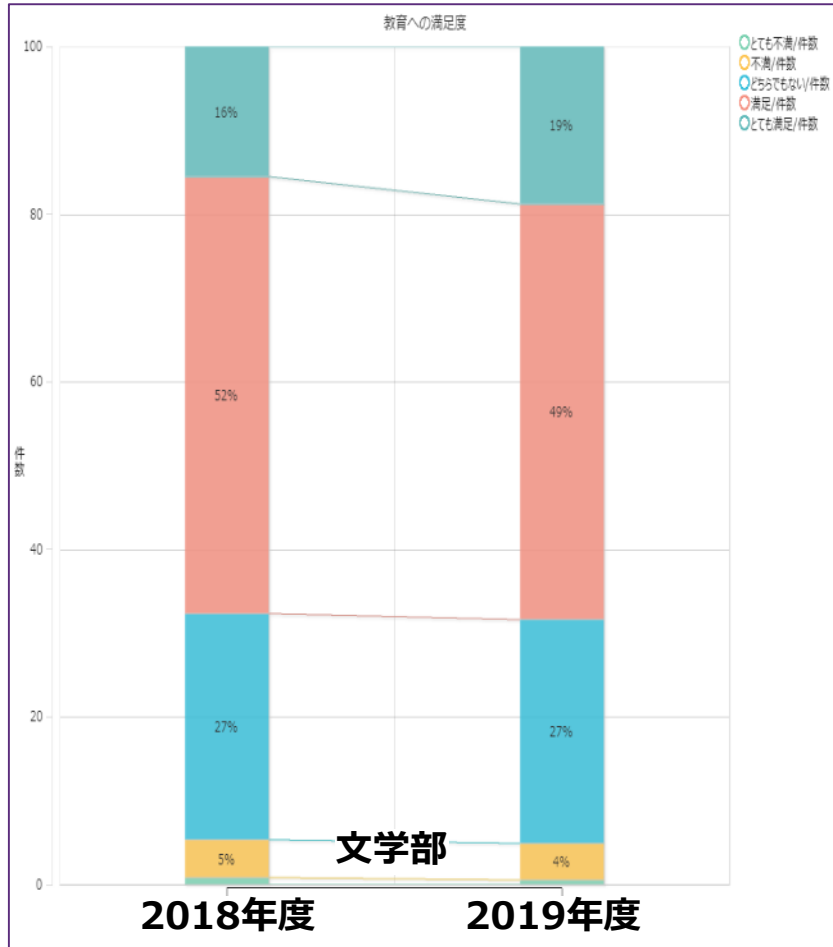


【コメント】

「とても満足」と「満足」の回答を合わせた割合が、文学部が14ポイント、人間生活学部は8ポイント、加盟大学全体平均よりも高くなっている。ディプロマ・ポリシー（主体性・多様な人々と協働して学ぶ態度）達成に向けた取り組みの継続が期待される。

3-4. 多様な考え方を認め合う雰囲気

[Q12-J]



IRコンソーシアム加盟大学全体平均との比較では、3-1～3-4の「教育への満足度」に関する全質問で、満足度が加盟大学全体平均を上回り、特に「専門教育あるいは所属学科の授業」の満足度が高いという結果だった。

一方、「教員と話をする機会」の満足度については、加盟大学全体平均を上回ったものの、「どちらでもない」と回答した学生の割合が両学部で4割を超え、加盟大学全体平均ともあまり差がなかった。小規模大学で、学生と教員との距離が近いことを強みとしている本学としては、教員のオフィスアワーをより分かりやすく学生に周知し利用促進を図ることや、学生とのコミュニケーションを一層心がけること等で、更に満足度を上げていくことが必要なのではないか。

2018年度調査との比較では、3-1～3-4の全質問で、「とても満足」と「満足」を合わせた回答が占める割合は、横ばいか微増となった。最も伸びたのは、「多様な考え方を認め合う雰囲気」の人間生活学部の満足度で、2018年度から6ポイントの増加だった。引き続き、ディプロマ・ポリシー（主体性・多様な人々と協働して学ぶ態度）達成に向けた取り組みが期待される。

4. 設備・制度への満足度

Q. あなたは本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

4-1. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）

4-2. 実験室の設備や器具

4-3. コンピュータの施設や設備

4-4. インターネットの使いやすさ

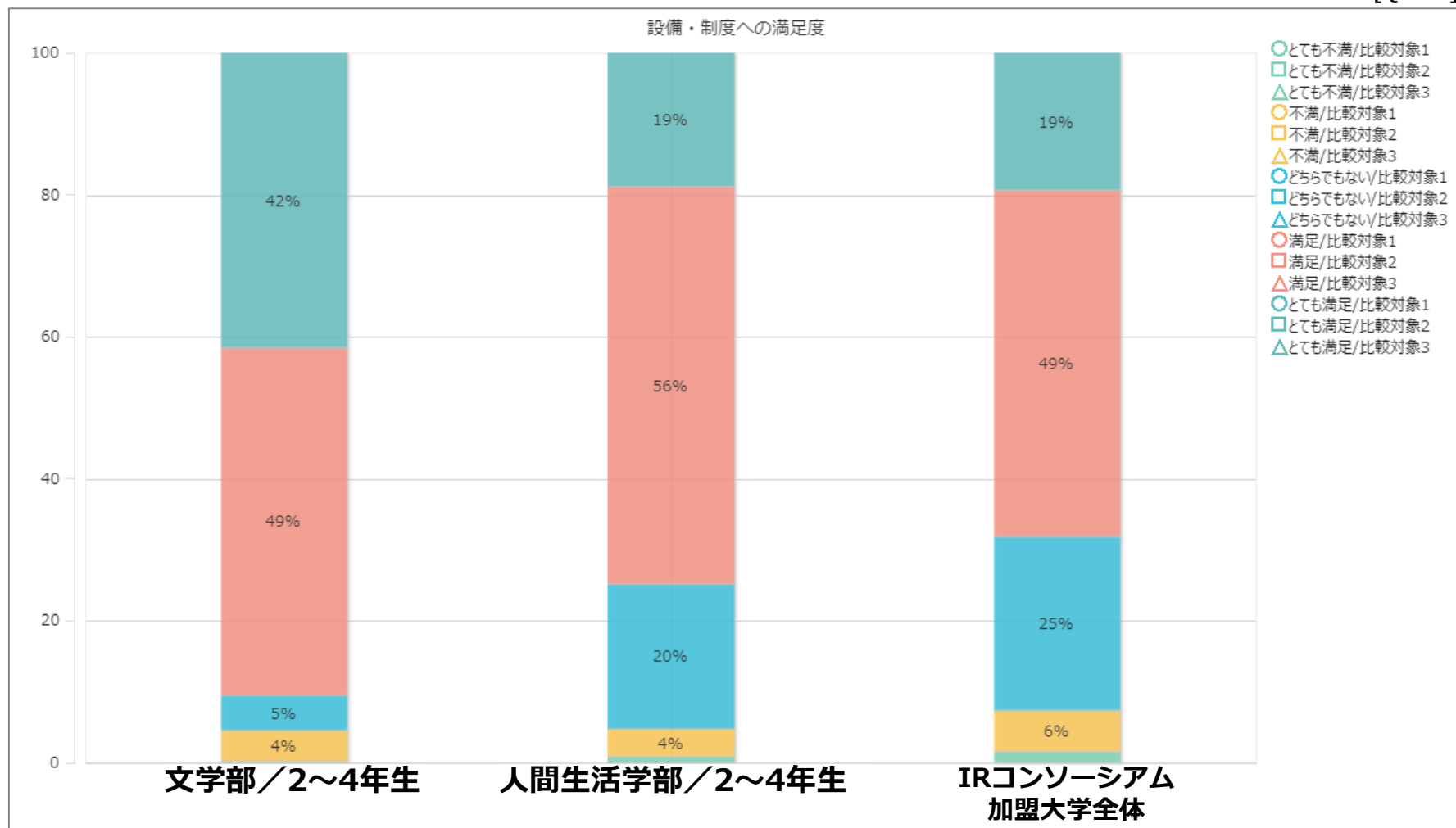
4-5. 奨学金などの学費援助の制度

4-6. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

4-7. キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

4-1. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）

[Q13-A]

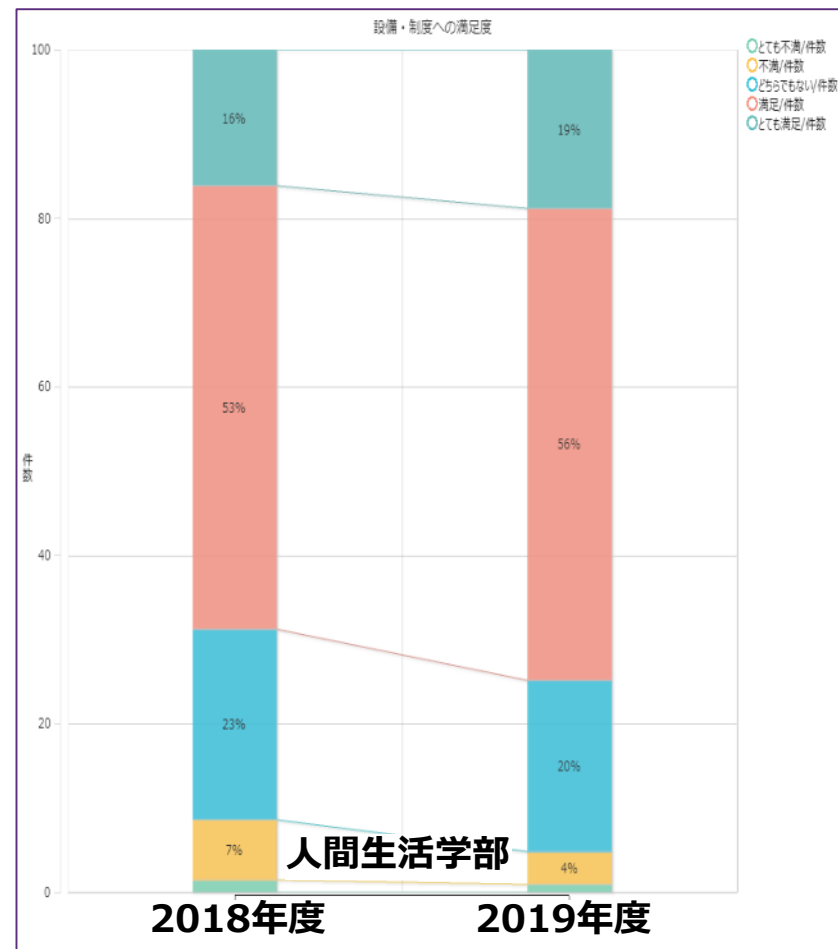
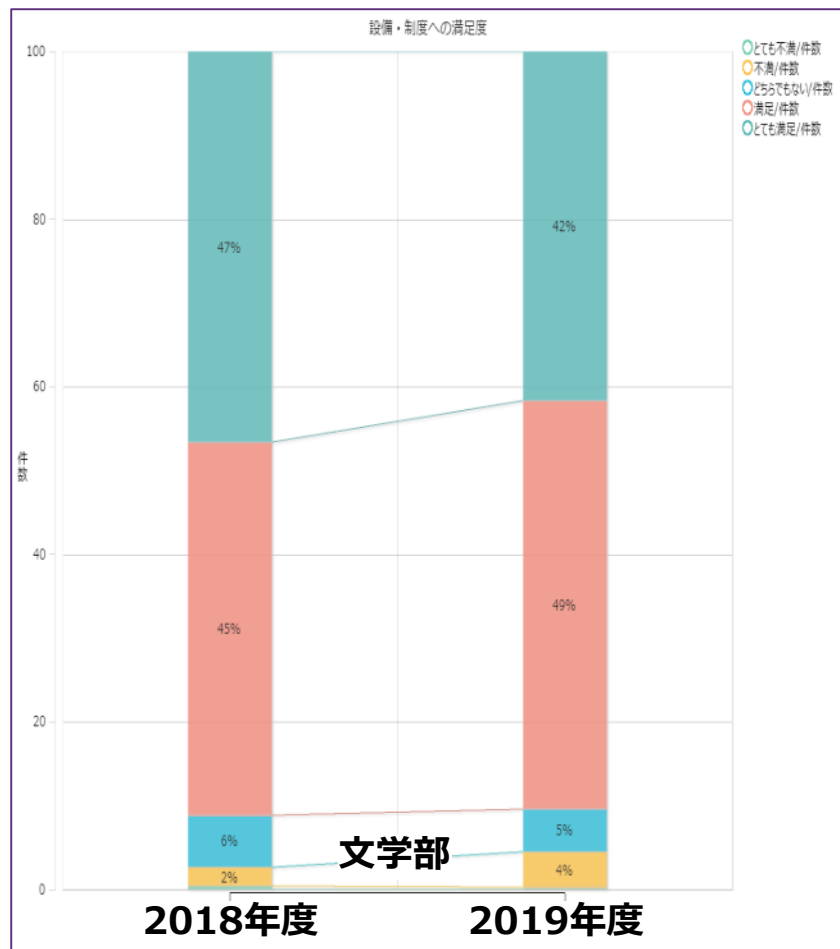


【コメント】

両学部とも加盟大学平均よりも上回っている。特に文学部は前年度(2018年度)と同様に高い水準を維持しており読書率の高さが要因と伺える。人間生活学部は前年度(2018年度)と比較し「とても満足」「満足」を合わせると6ポイント上昇しており図書館花川館の成果が伺える。

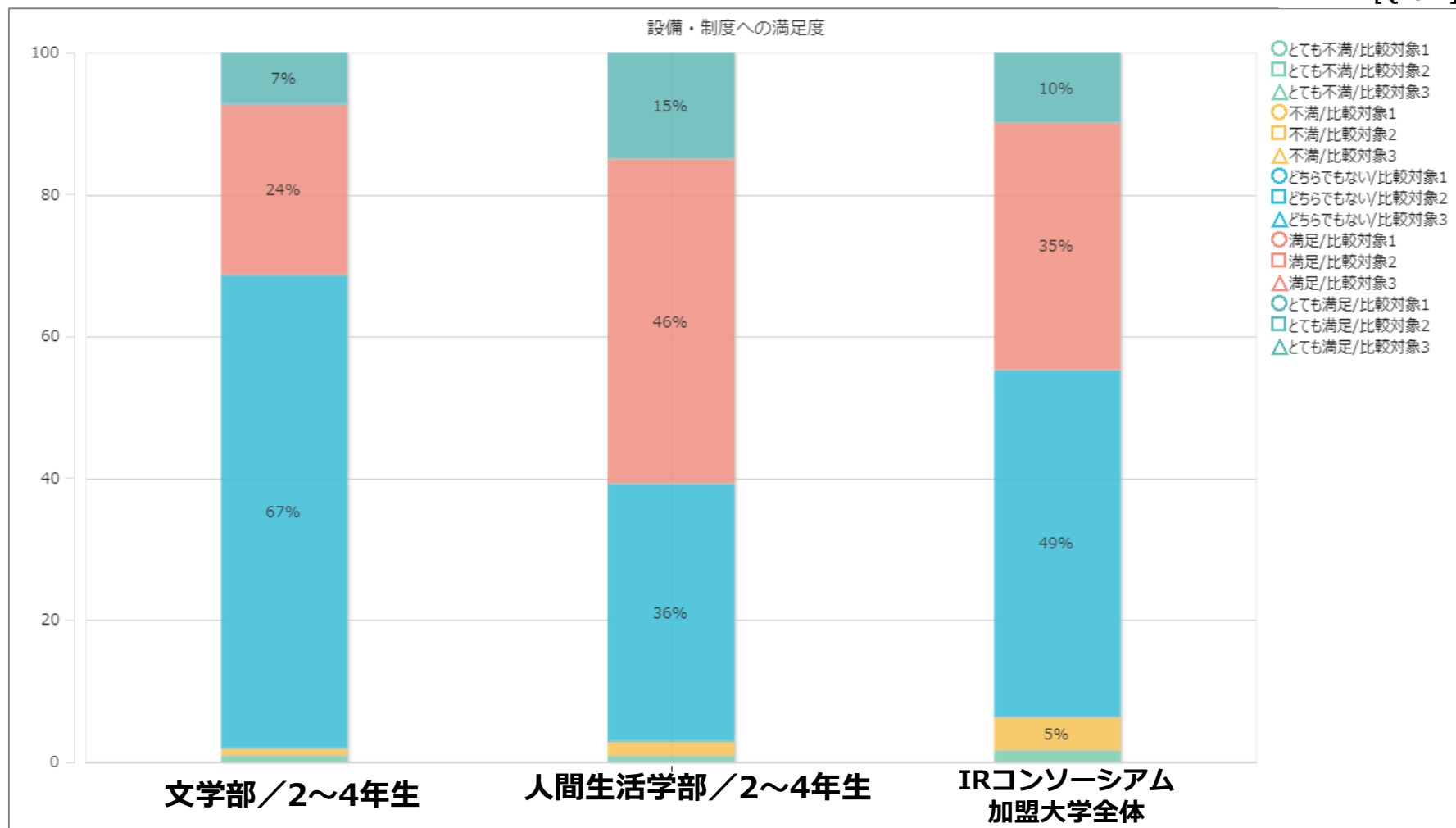
4-1. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）

[Q13-A]



4-2. 実験室の設備や器具

[Q13-B]

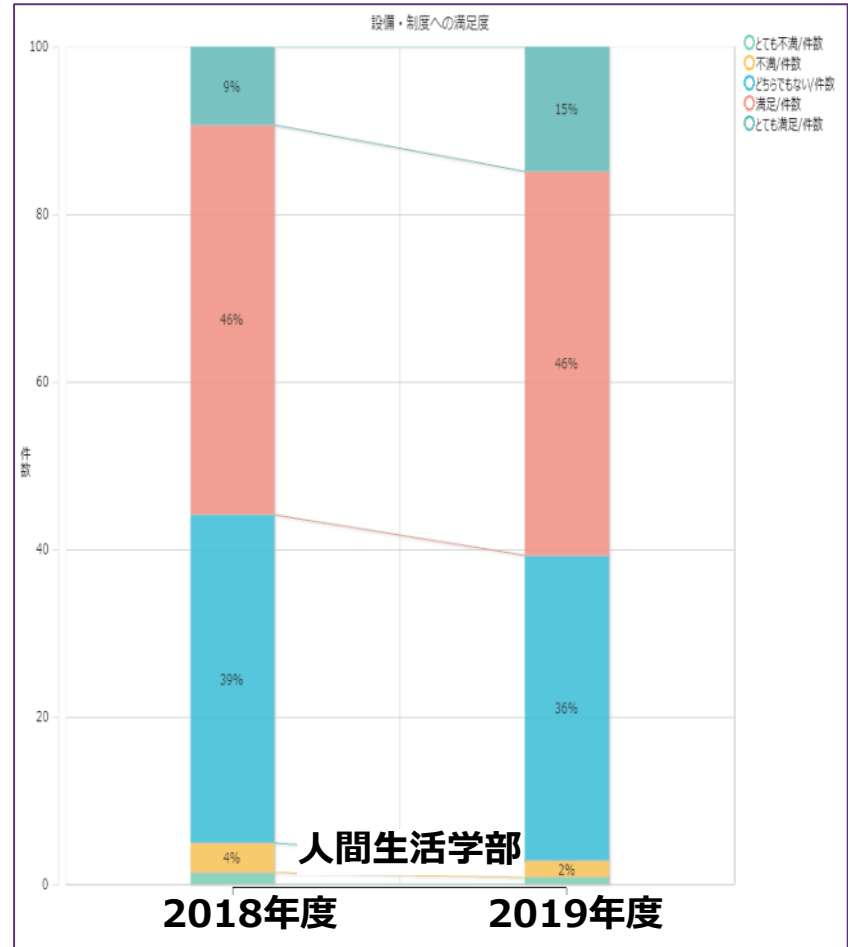
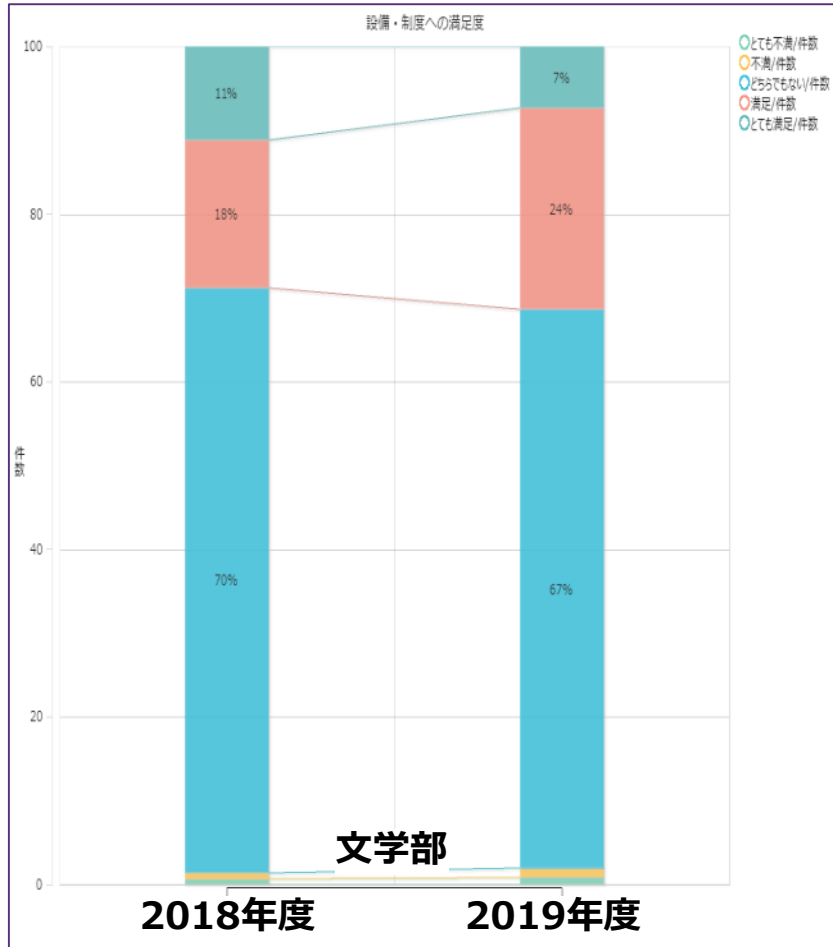


【コメント】

文学部では、実験・実習の設備は調理室のみで、利用したことのある学生は、ライフステージ栄養学受講者、大学祭参加者、サークル等に限られている。人間生活学部は前年度と比較し「とても満足」が6ポイント上昇した点が特筆する点である。

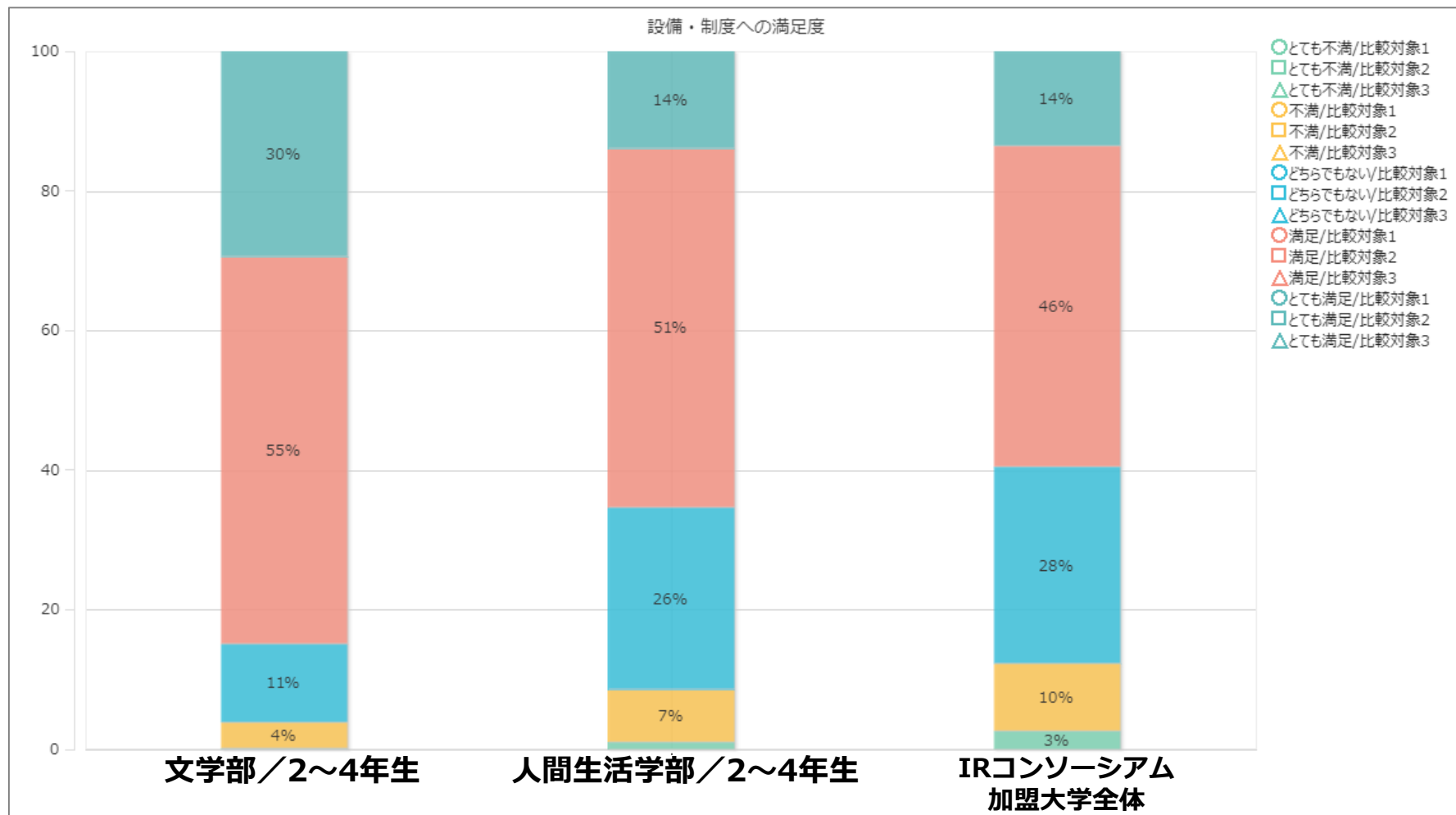
4-2. 実験室の設備や器具

[Q13-B]



4-3. コンピュータの施設や設備

[Q13-C]

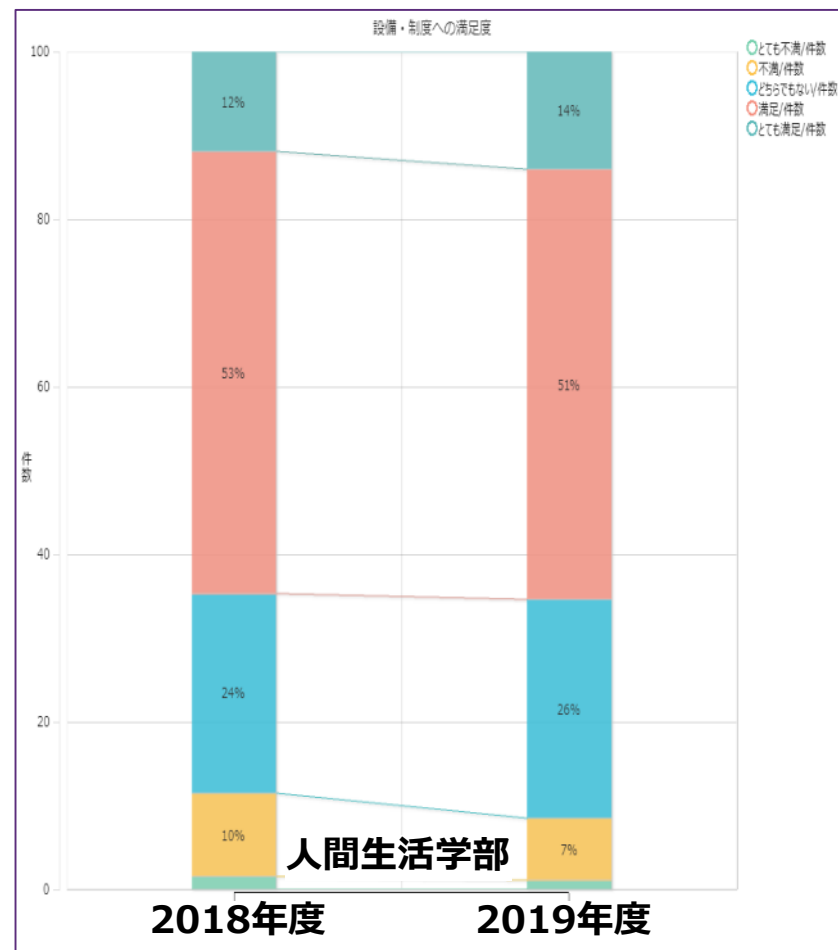
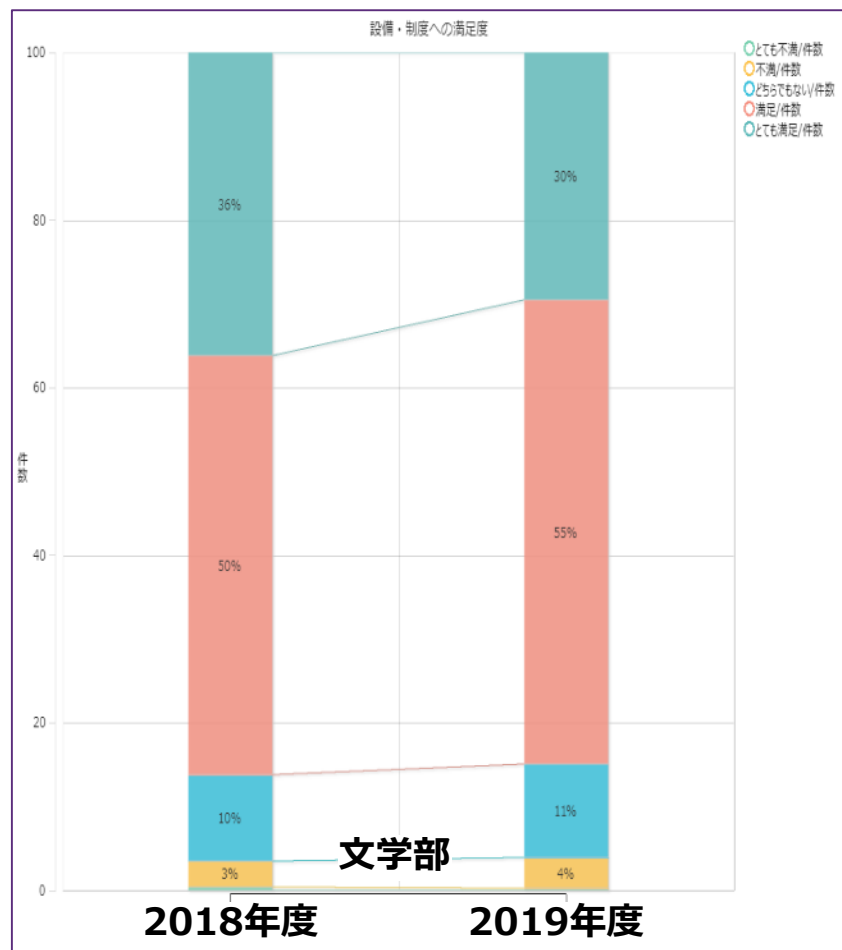


【コメント】

両学部とも全国平均より上回っており、特に文学部の満足度が高い。
前年度（2018年度）と比較しても大きな変化はみられず、人間生活学部が文学部よりも満足度が低いのは、花川校舎で常時利用できるパソコンの台数、常設エリアが共に少ない点だと考えられる。

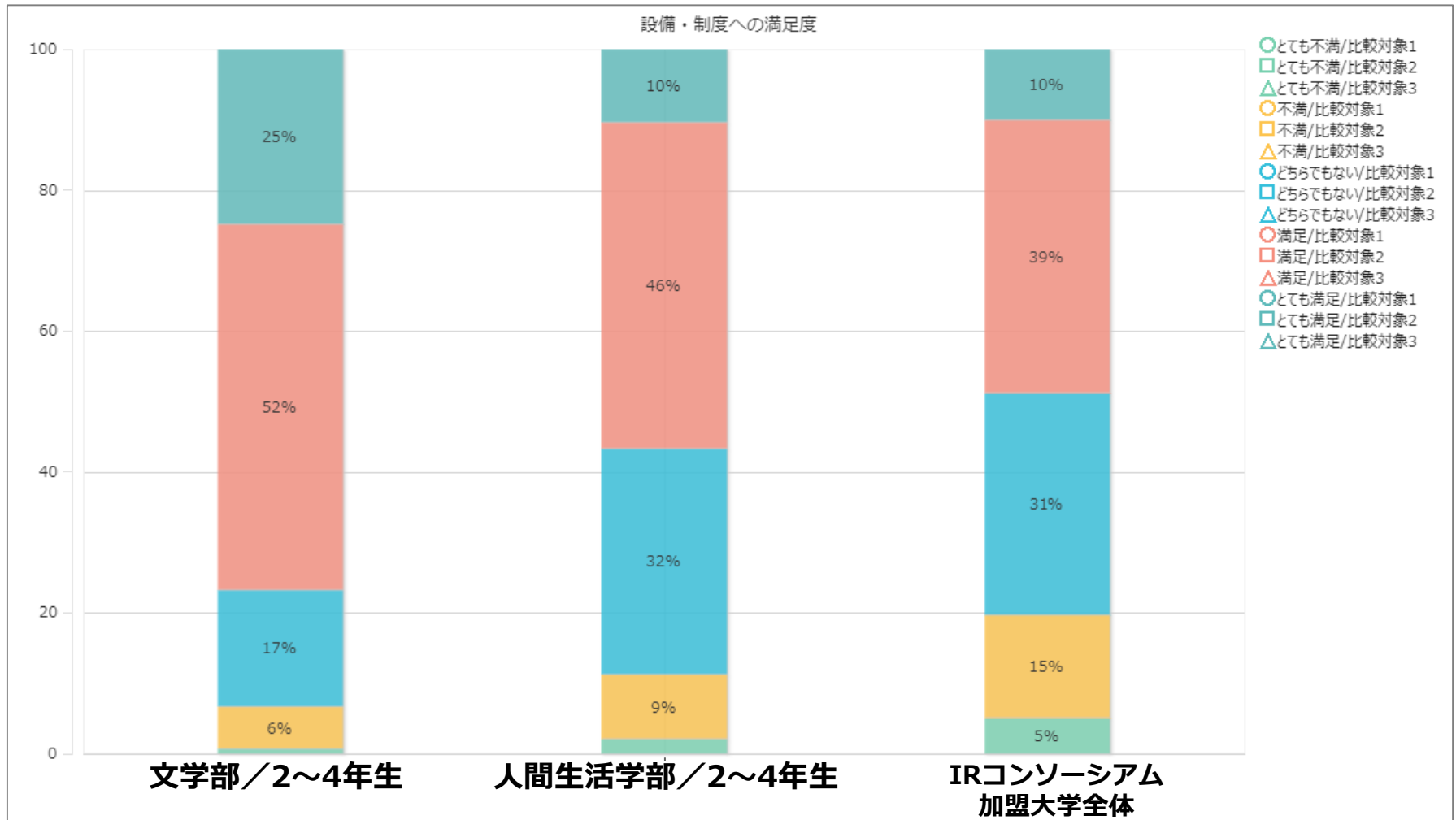
4-3. コンピュータの施設や設備

[Q13-C]



4-4. インターネットの使いやすさ

[Q13-E]

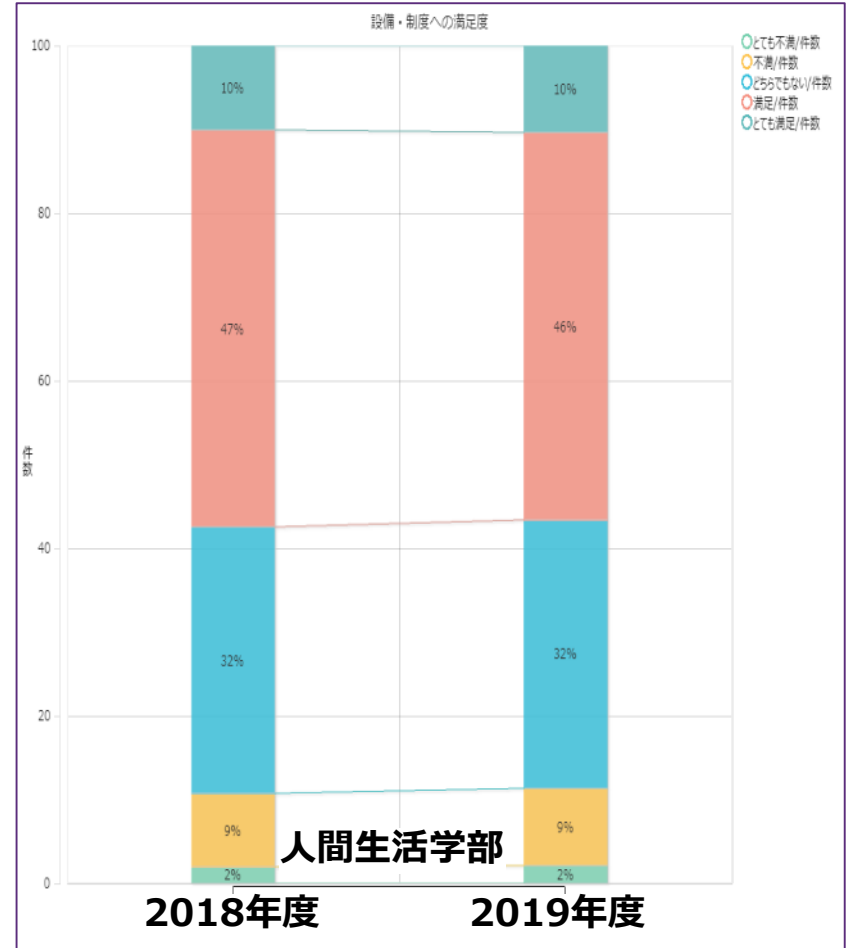
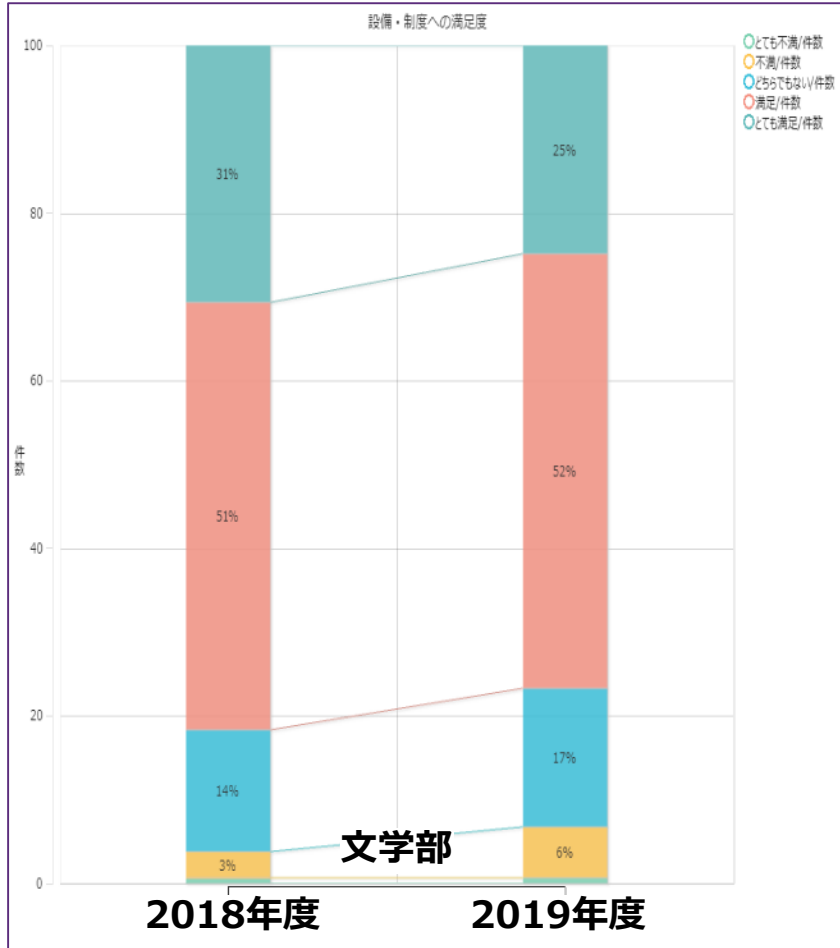


【コメント】

両学部とも全国平均より上回っているが人間生活学部の満足度が文学部よりも低い。また前年度(2018年度)から文学部の満足度が5ポイント下がった点が気になる。両校舎ともインターネット環境、Wifi設備ともに同等ではあるが、花川校舎では一部電波が届きづらいエリア（講義室以外）があると聞いており、その点が低い要因なのかもしれず設置場所の変更等も検討しなければならない。

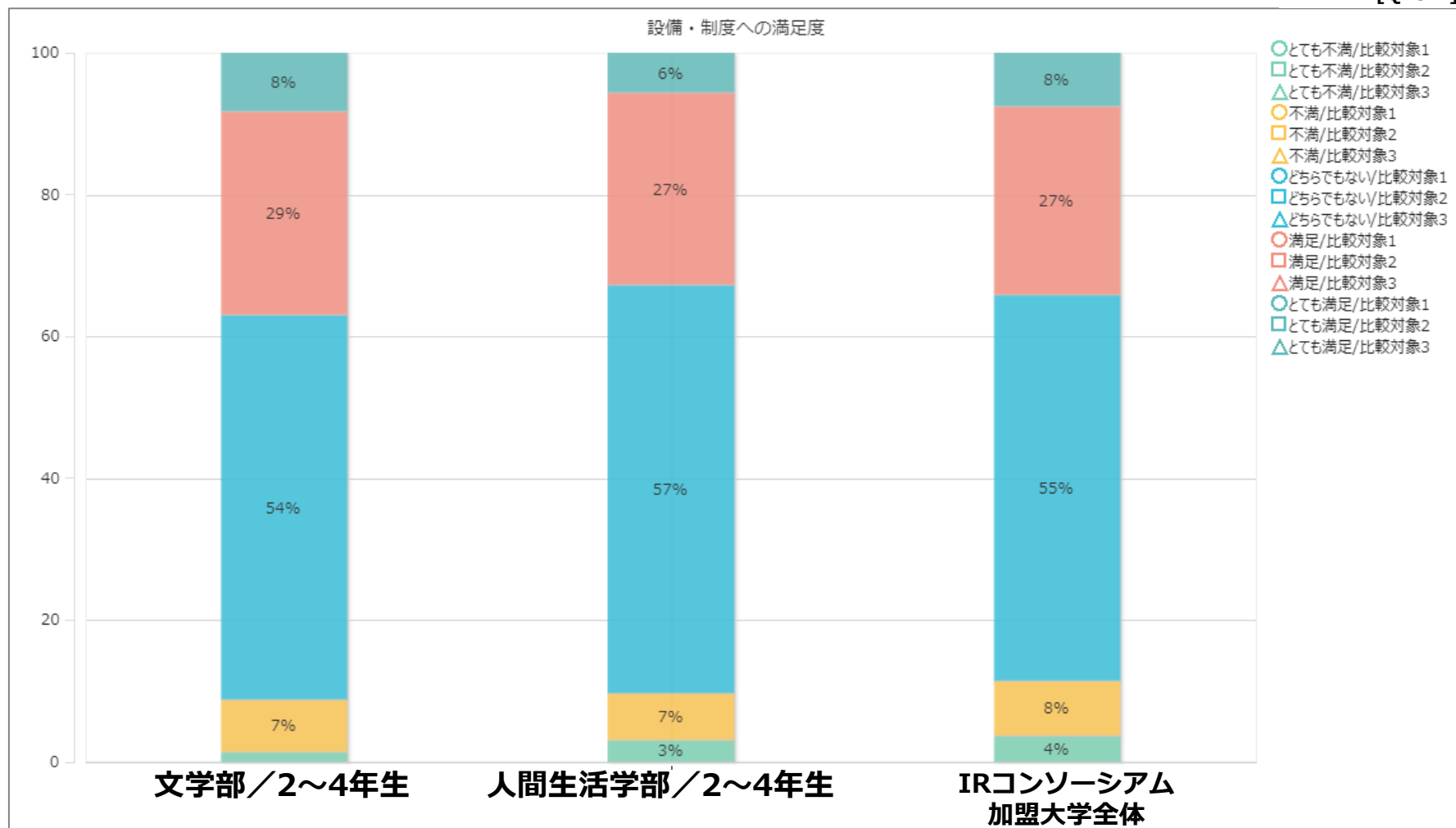
4-4. インターネットの使いやすさ

[Q13-E]



4-5. 奨学金などの学費援助の制度

[Q13-F]

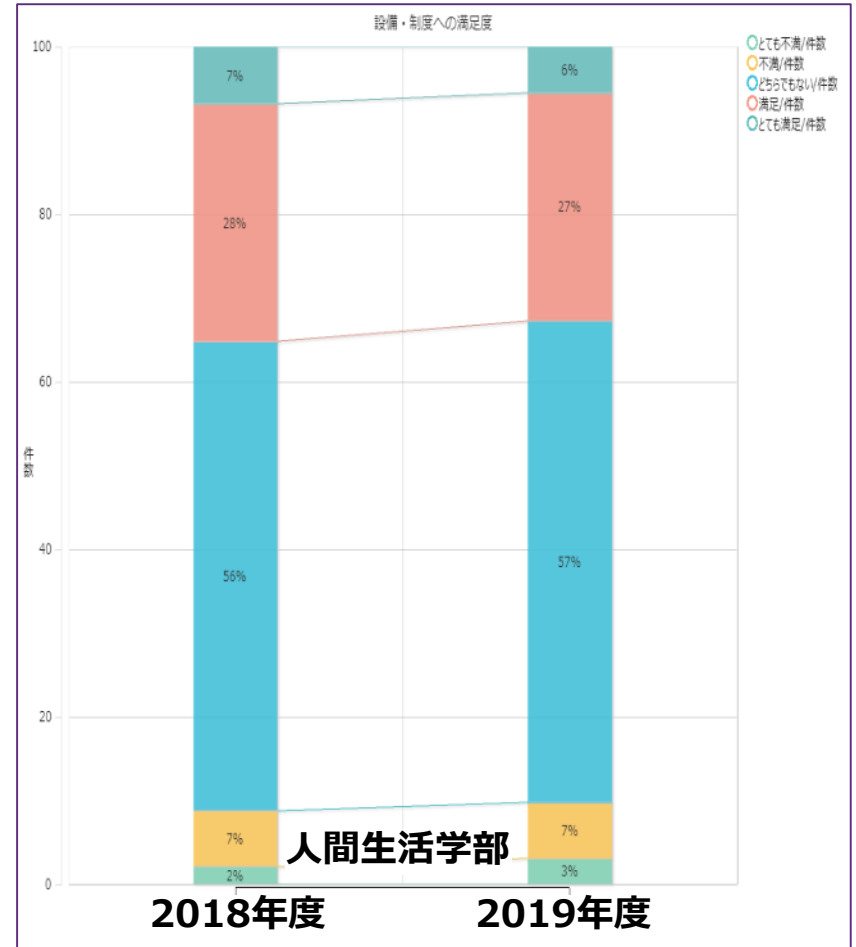
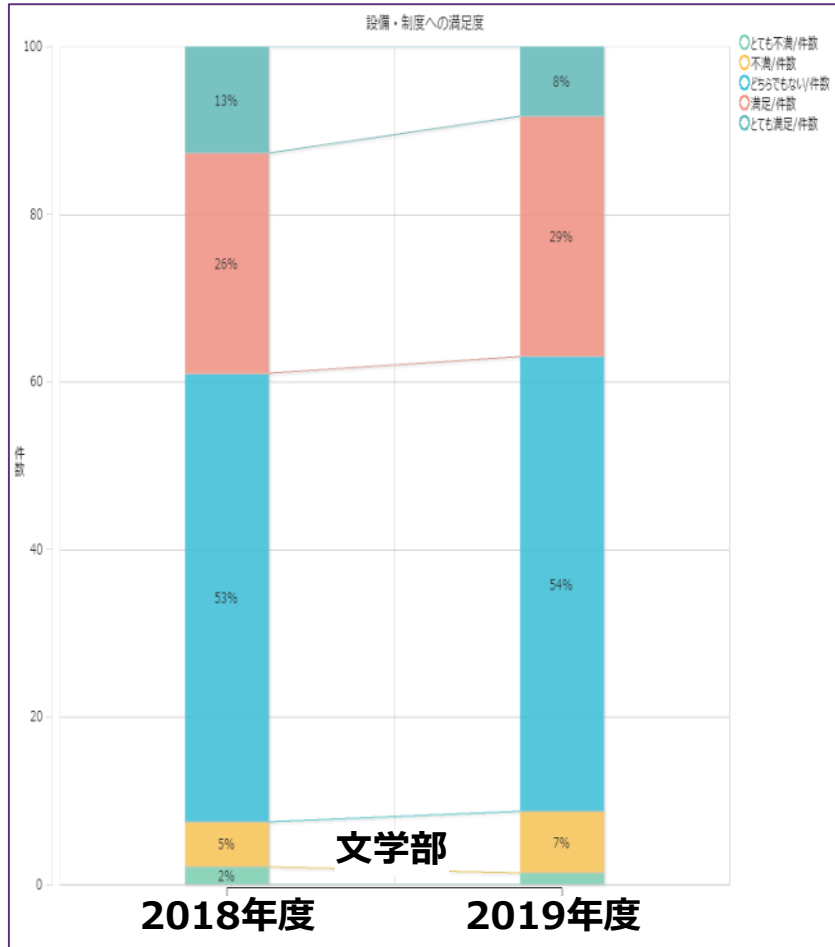


【コメント】

本学では貸与奨学金の制度があるが、全国の大学に比べると奨学金制度は手厚いとは言えないにも関わらず、比較的満足しているとの回答がある。前年度と比較してもさほど変化はない。

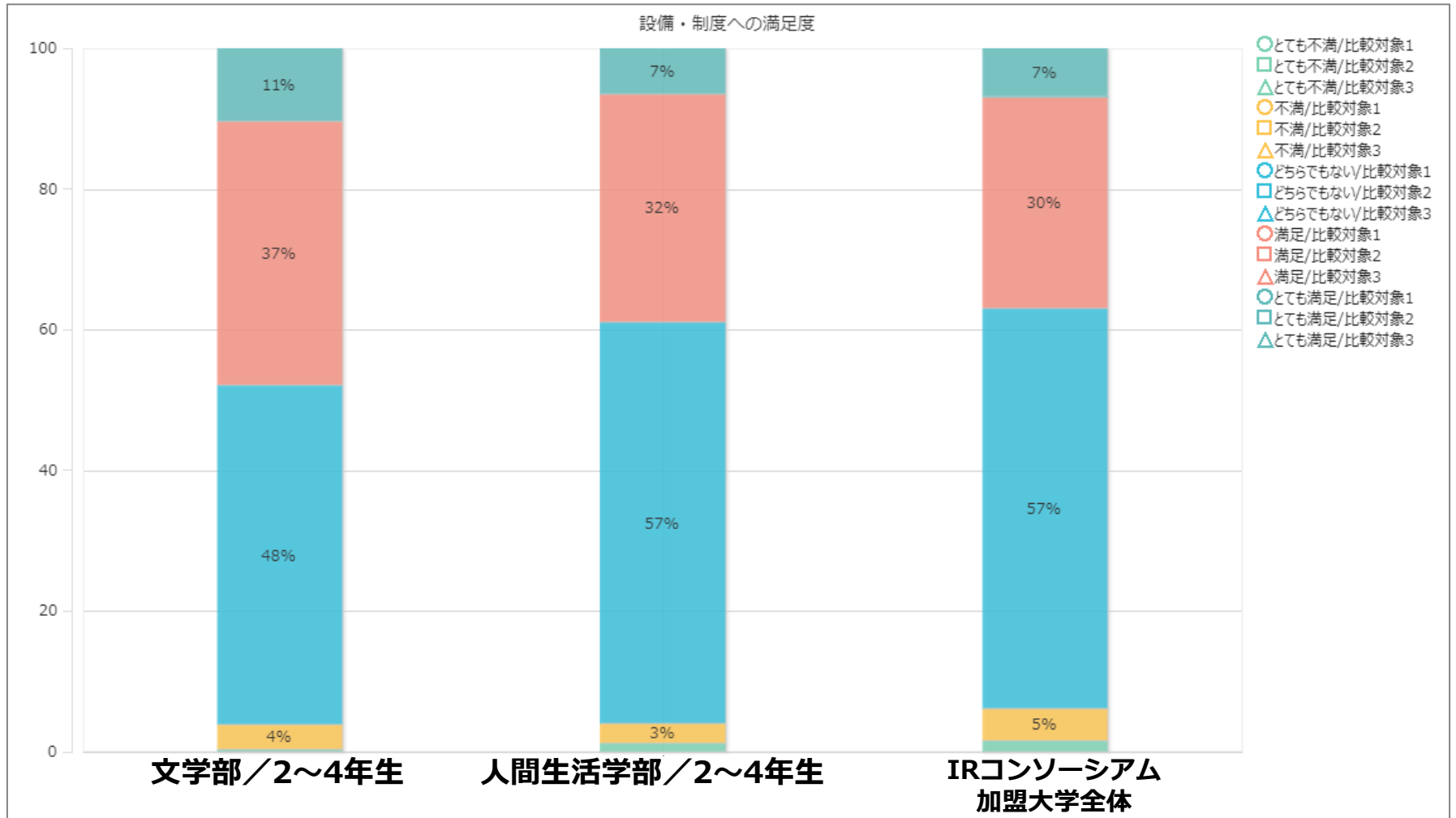
4-5. 奨学金などの学費援助の制度

[Q13-F]



4-6. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

[Q13-G]

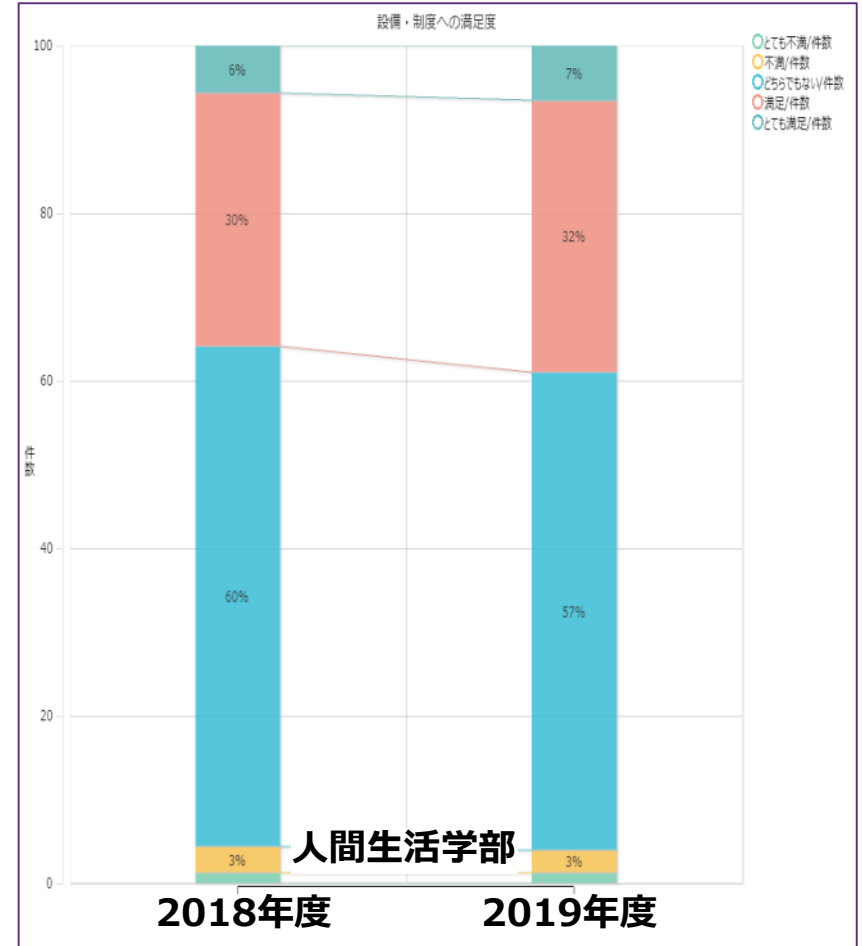
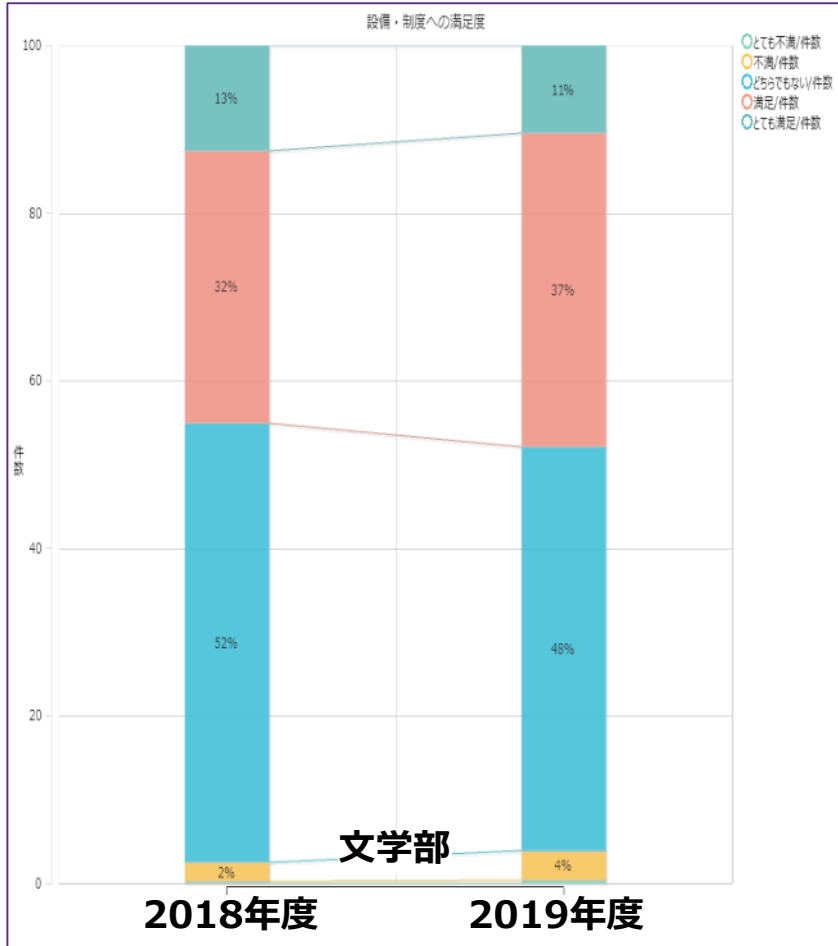


【コメント】

文学部は全国より満足度が高く、人間生活学部は全国平均並み。前年度と比較すると両学部とも満足度が微増している。故に保健センター、学生相談室の利用者数が増えていることに繋がる

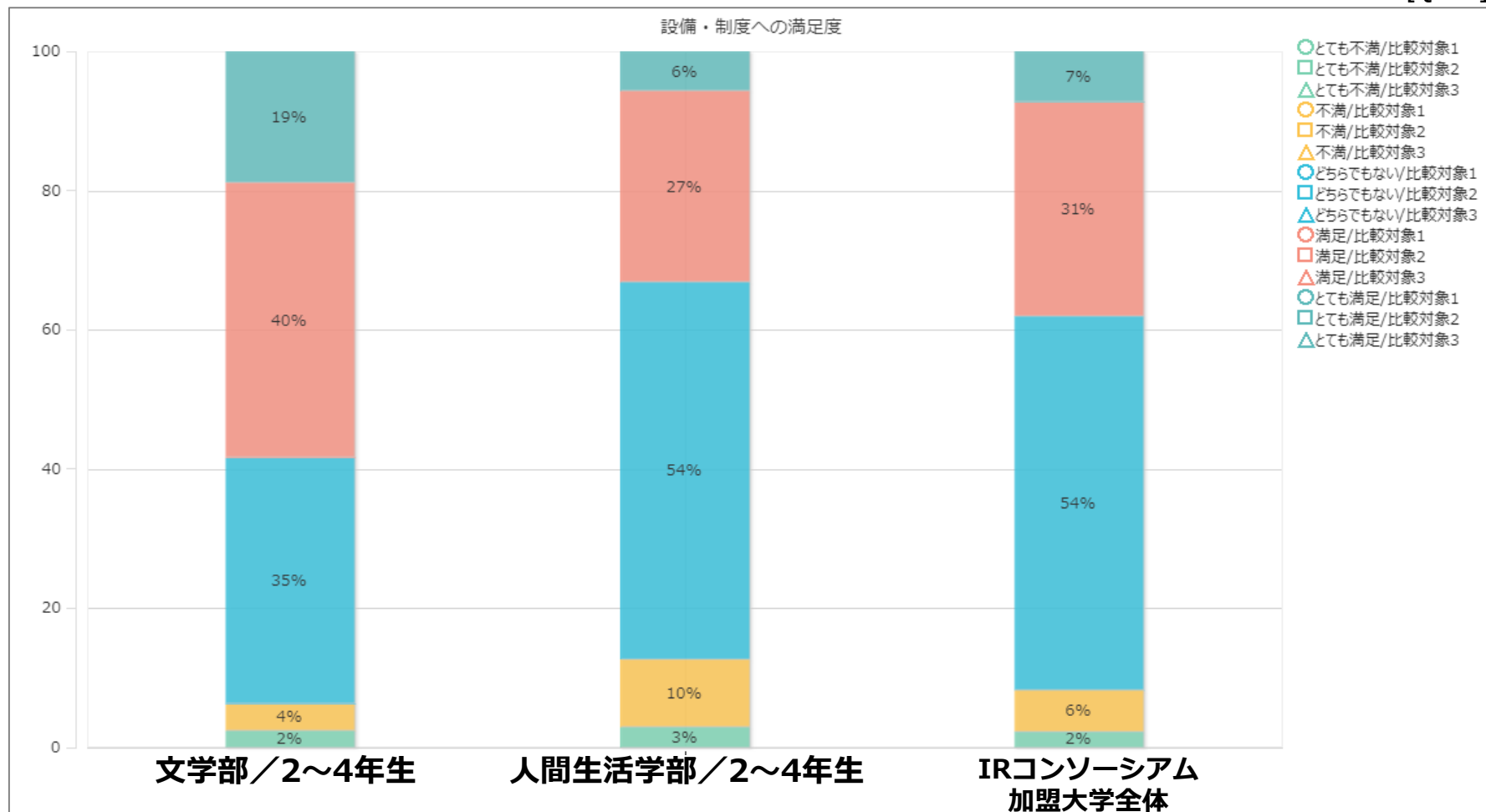
4-6. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

[Q13-G]



4-7. キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

[Q13-I]

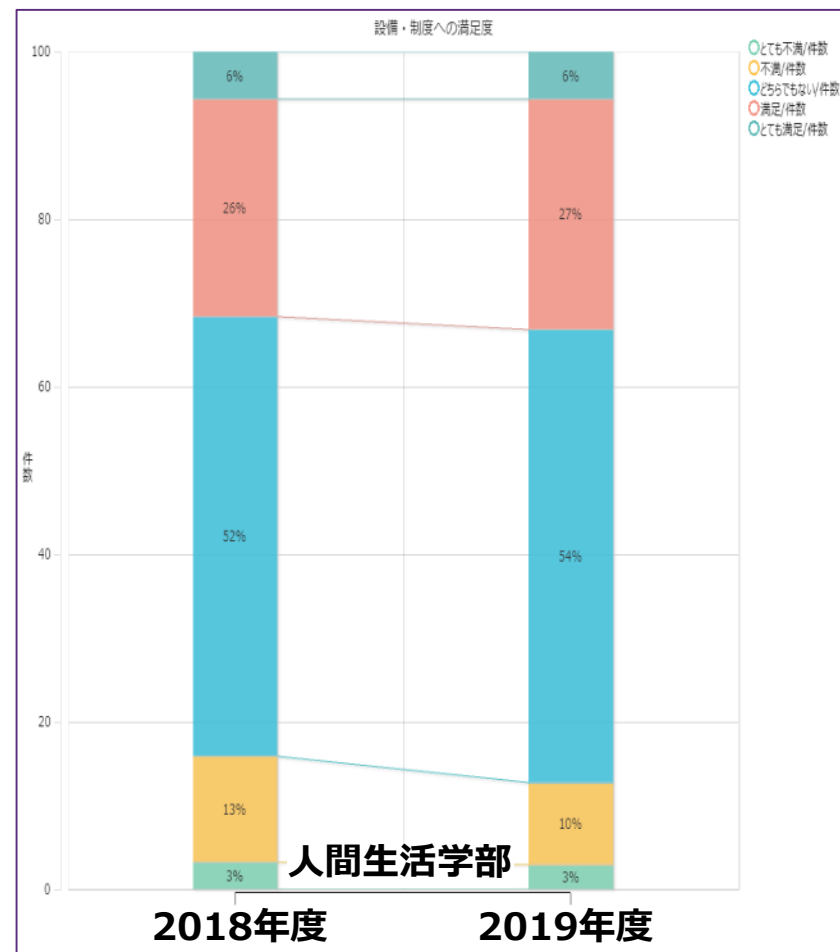
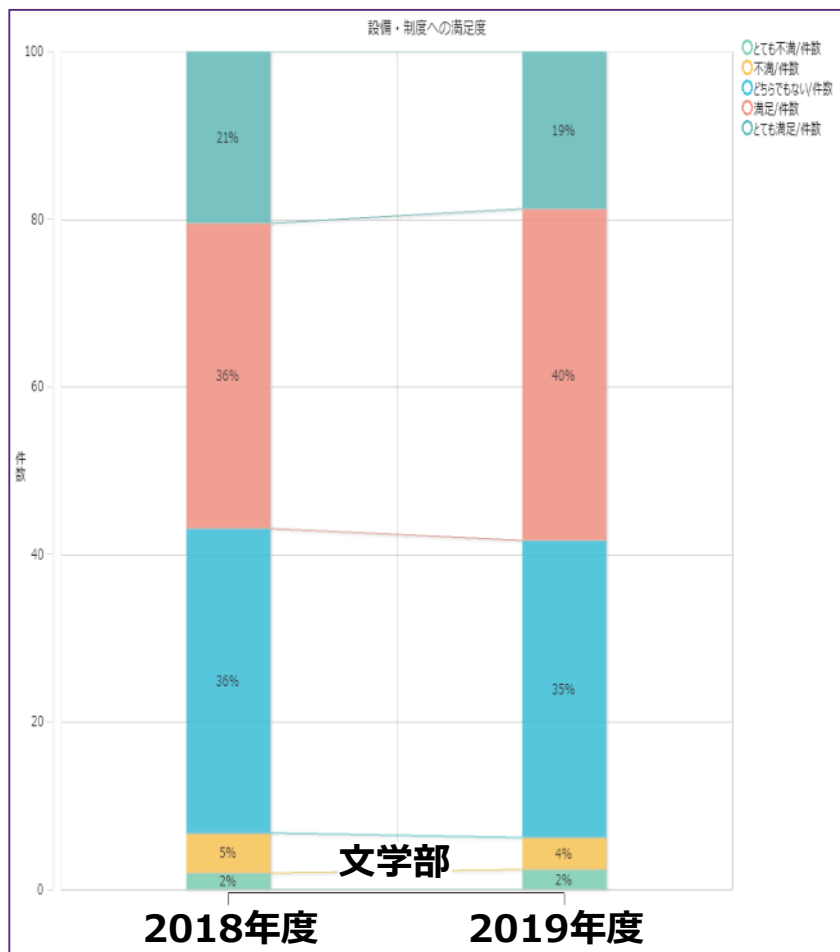


【コメント】

IRコンソーシアム加盟大学全体と比較し、満足度が若干下回る人間生活学部について記載する。
主体性が求められる就職活動において、準備不足の不安から動き出せない学生や、一度の挑戦で失敗し停止する学生が一定数いると思われる、大学からのアプローチやきめ細やかで継続的な個別指導を期待している可能性がある。また、花川キャンパスの立地条件による不満解消のため「情報提供の方法や総合的な満足度向上の対応」も検討している。

4-7. キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

[Q13-I]



設備面の満足度は前年度(2018年度)と比較し、文学部は大きな変化はないが人間生活学部では若干向上している。しかしながら両学部を比較すると満足度の差に開きがあり、アンケートの質問以外の設備面に関しては、さらに開きが大きいと思われる。

制度面は概ね全国平均並みではあるが、メンタルケアの充実化と、人間生活学部での就職支援については手厚いサポートが必要とされる。

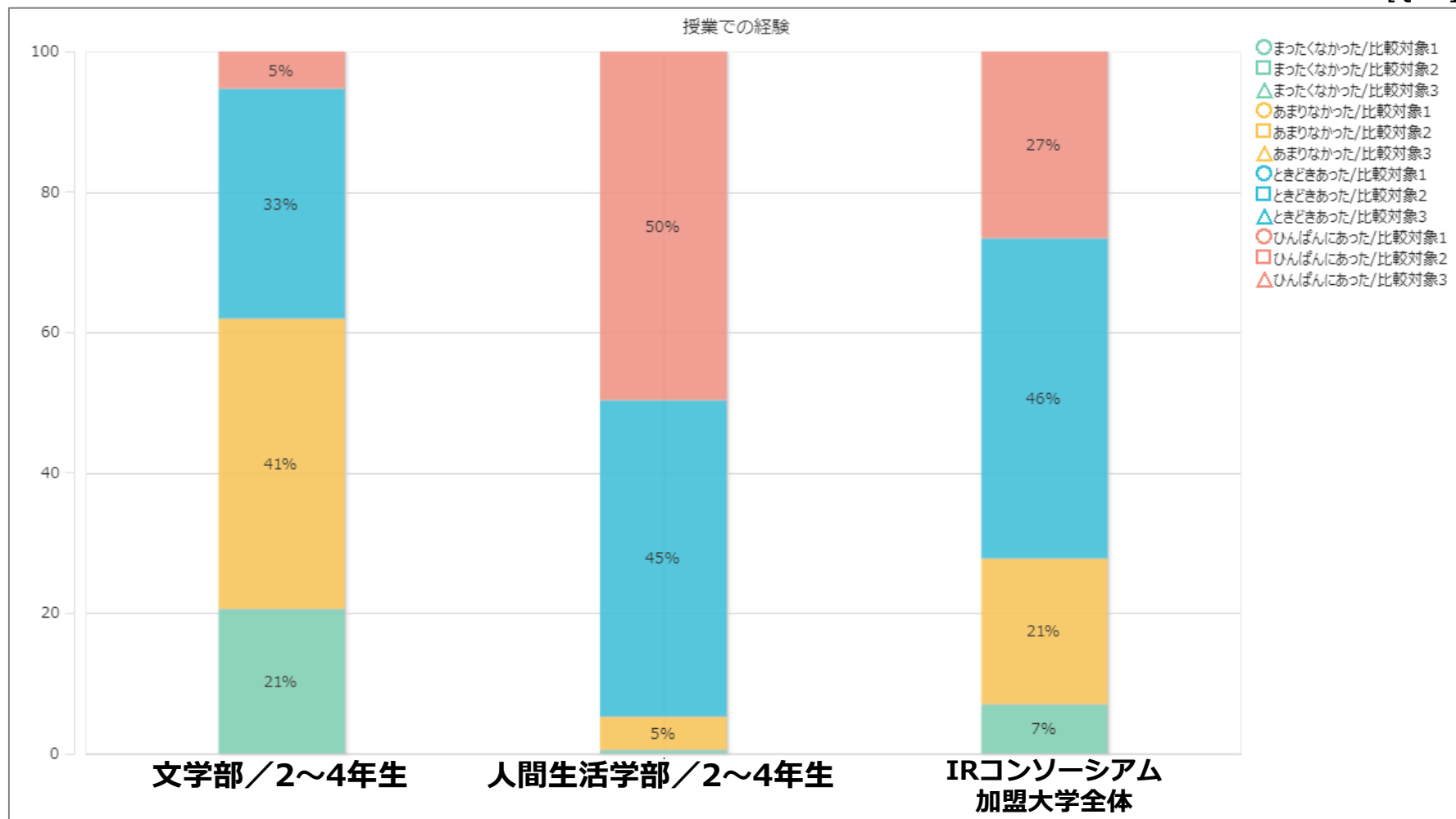
5. 授業での経験

Q. あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

- 5-1. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ
- 5-2. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- 5-3. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
- 5-4. 授業の一環でボランティア活動をする
- 5-5. 学生自身が文献や資料を調べる
- 5-6. 定期的に小テストやレポートが課される
- 5-7. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
- 5-8. 学生が自分の考えや研究を発表する
- 5-9. 授業中に学生同士が議論をする
- 5-10. 授業で検討するテーマを学生が設定する
- 5-11. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- 5-12. 取りたい授業を履修登録できなかった
- 5-13. 出席することが重視される
- 5-14. TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

5-1. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

[Q4-A]

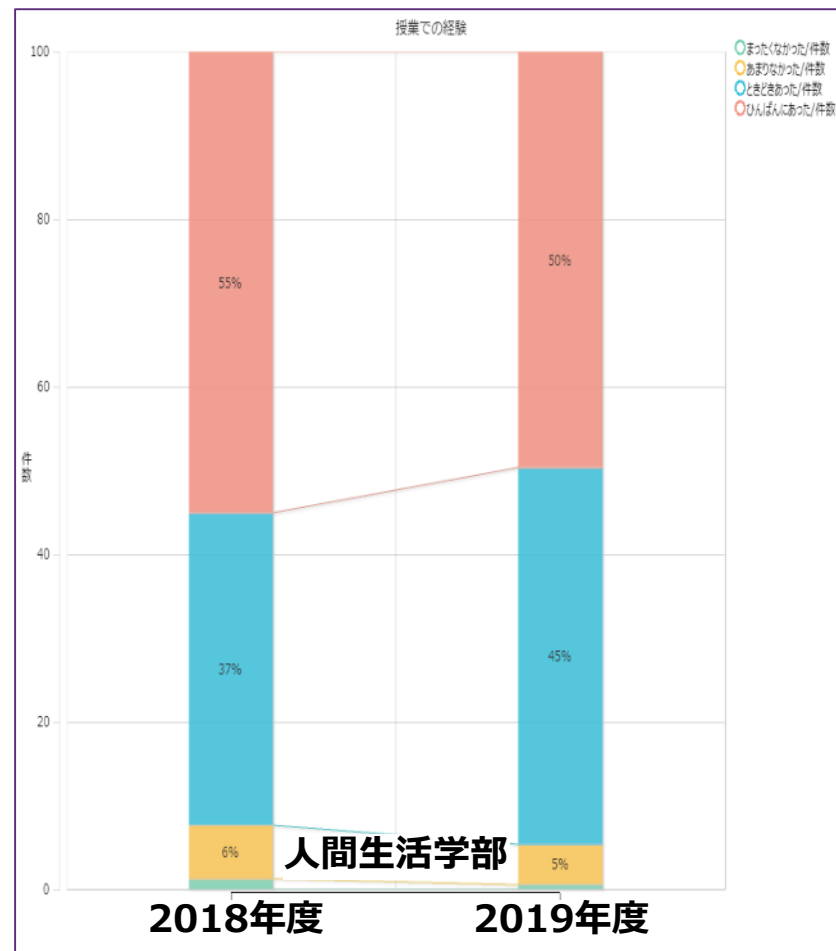
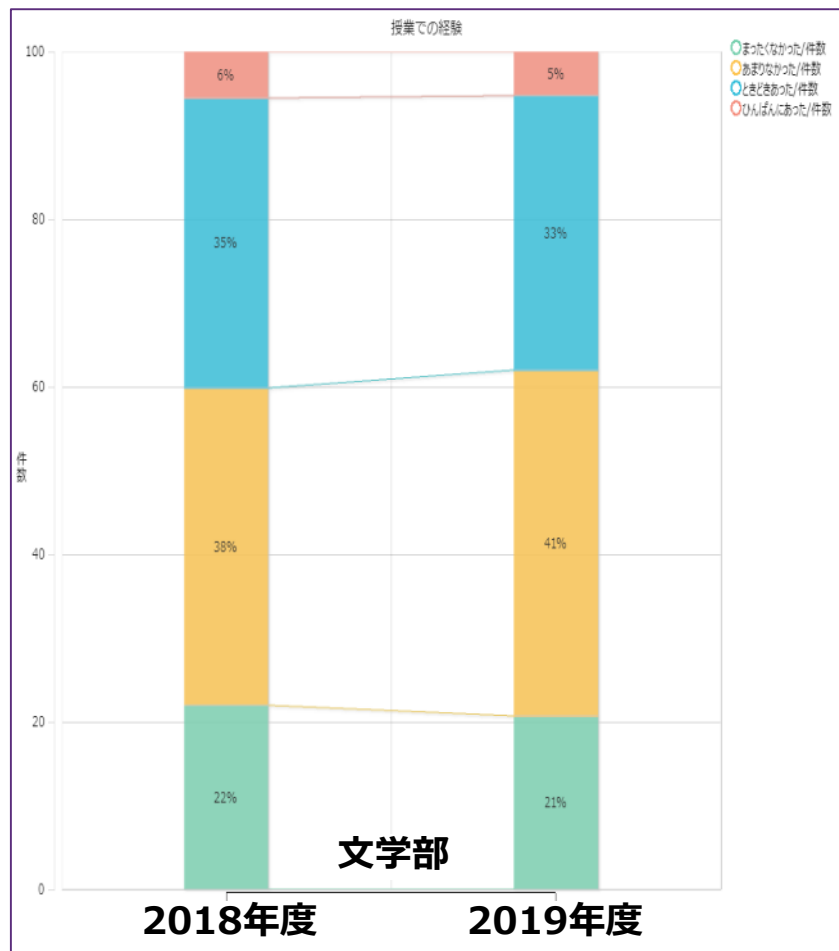


【コメント】

加盟大学全体の平均と比べ、人間生活学部の学生は頻繁にあると感じているが、文学部の学生はほとんど感じていない。これは、カリキュラム通りで、2018年とほぼ同様の結果となっている。

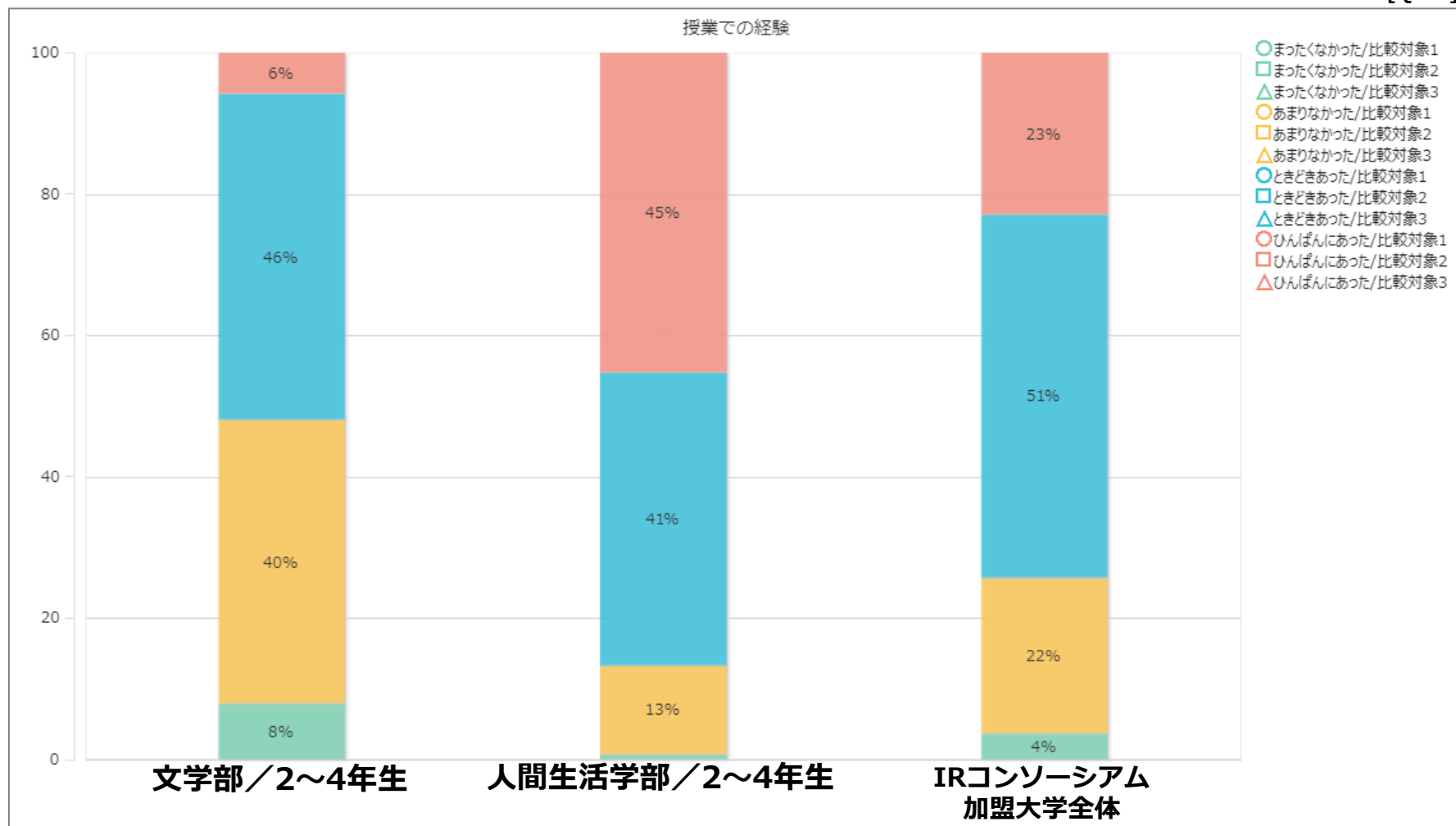
5-1. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

[Q4-A]



5-2. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ

[Q4-B]

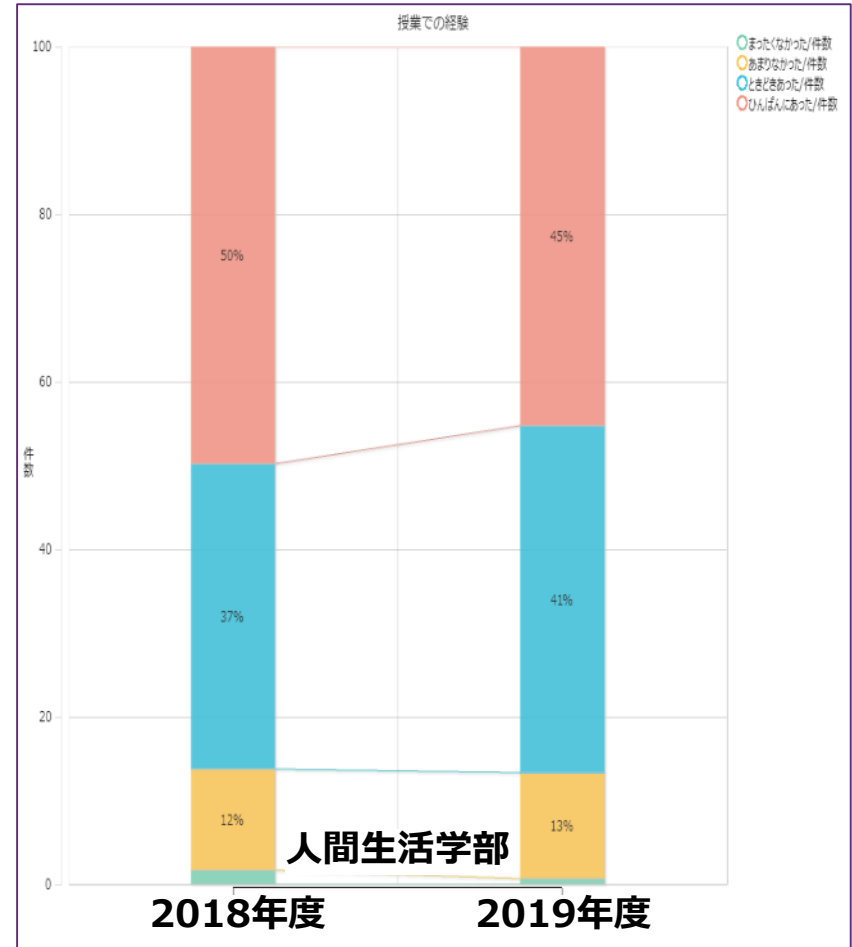
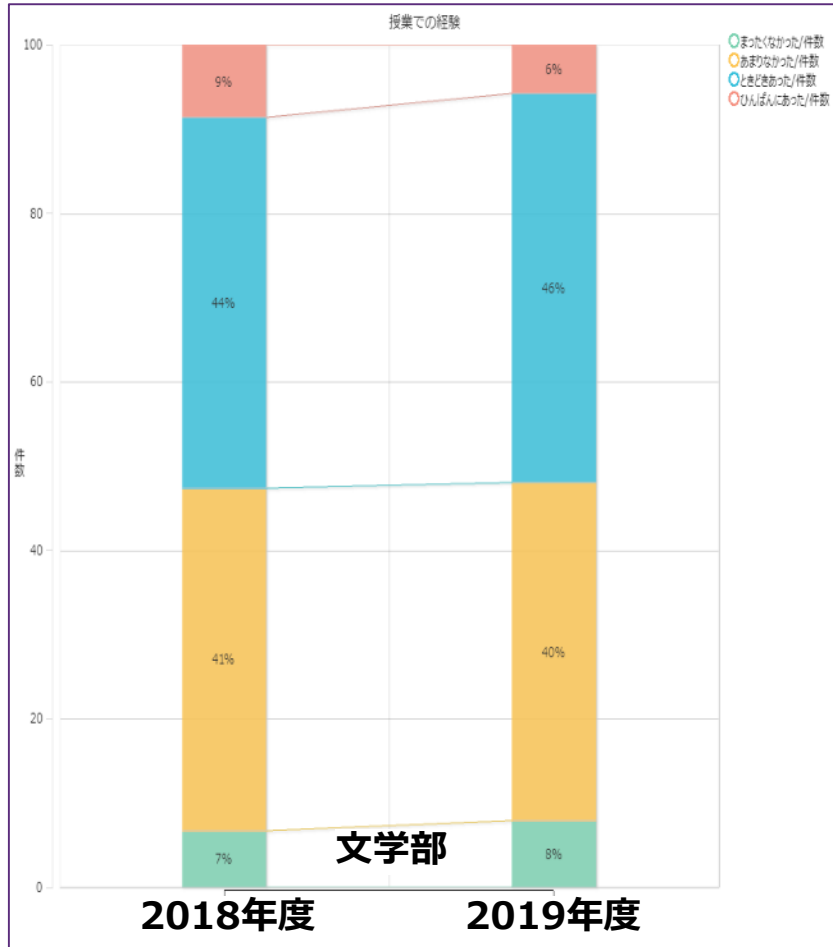


【コメント】

加盟大学全体の平均値より、人間生活学部では資格・試験および社会での活動と密着した授業が多いため仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ機会が多いと感じているが、文学部はその様な授業が少ないためか低くなっている。2018年の結果と比べてもほぼ同様の結果となっている。

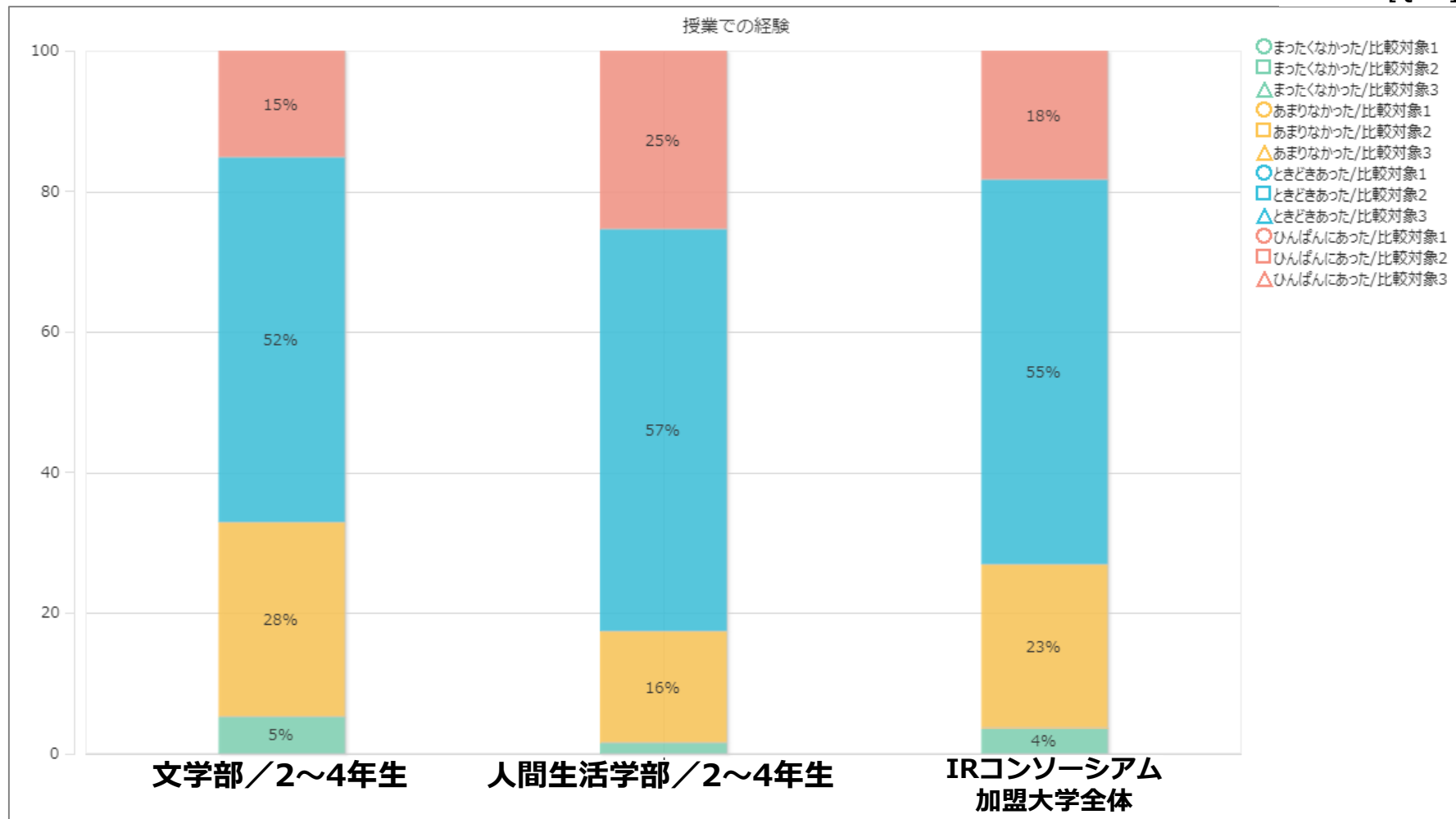
5-2. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ

[Q4-B]



5-3. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する

[Q4-C]

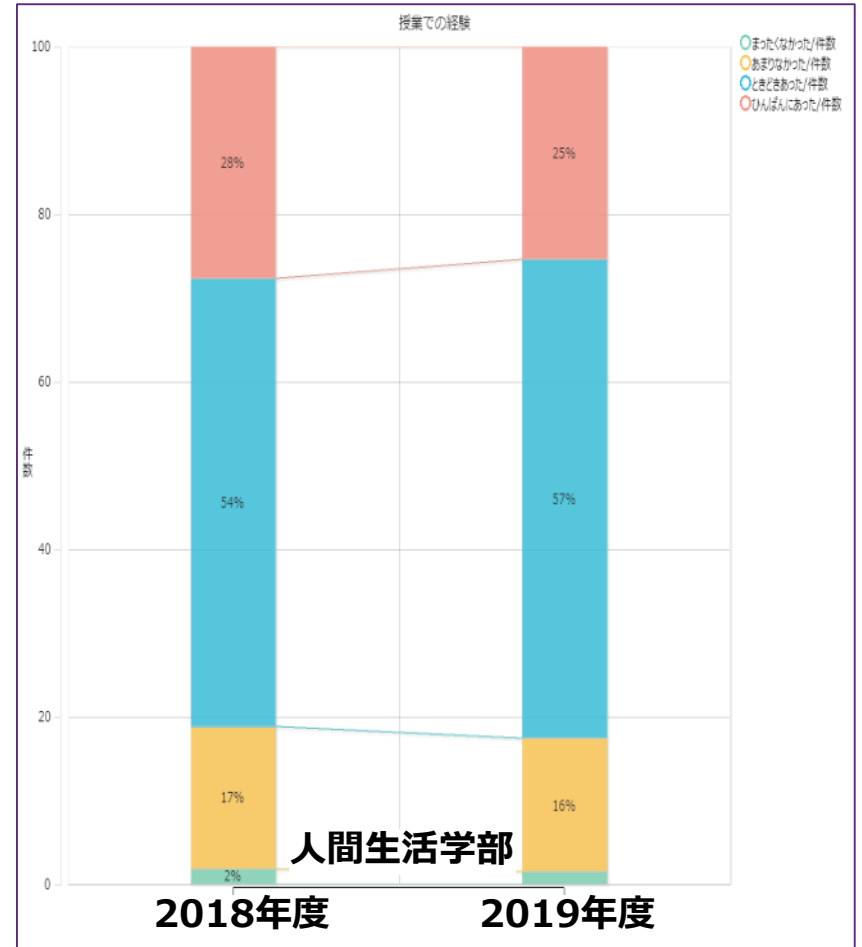
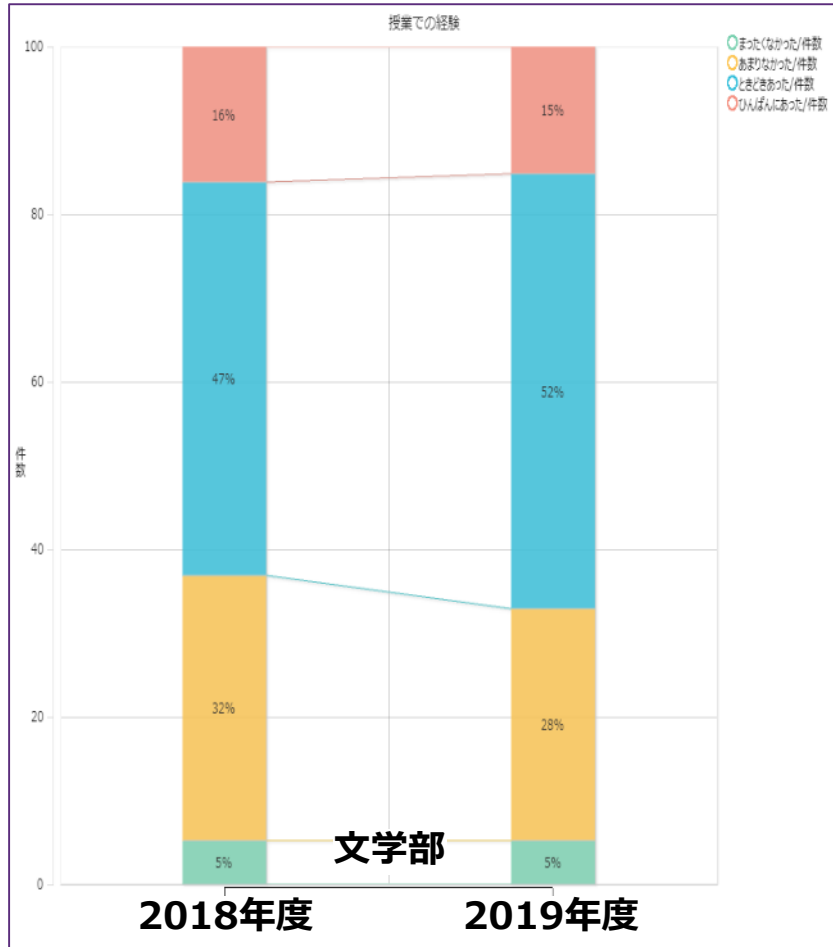


【コメント】

授業内容が、社会や日常と関わりの強い内容の授業を受けている人間生活学部の学生は多いと感じるが、文学部はそういった授業が少ないので教員も説明する機会が無い。また、人間生活学部にはいわゆる社会経験を経た教員の割合も高いことを反映していると思われる。2018年の結果と比べても、両学部ともほぼ同じような結果となっている。

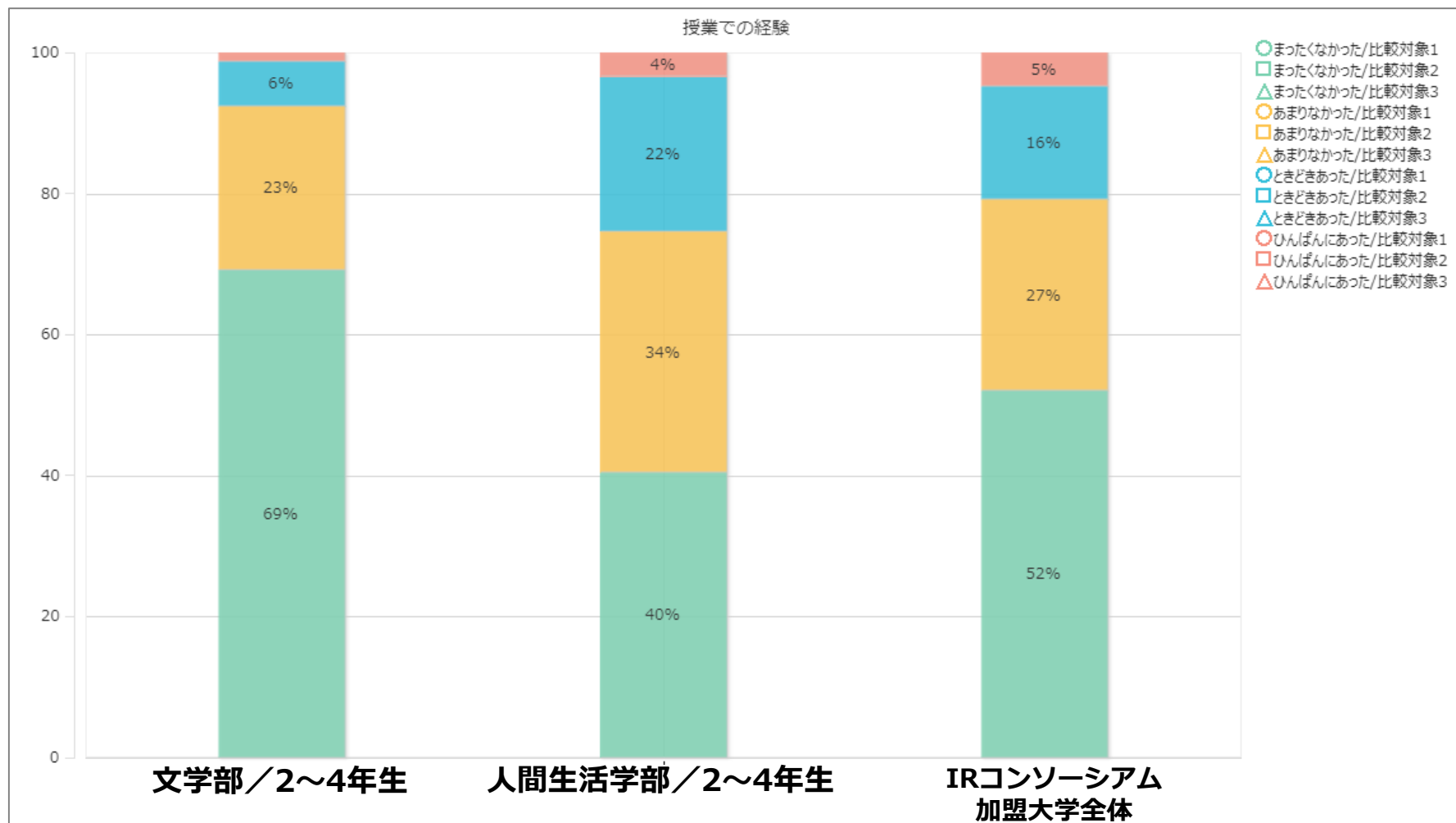
5-3. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する

[Q4-C]



5-4. 授業の一環でボランティア活動をする

[Q4-D]

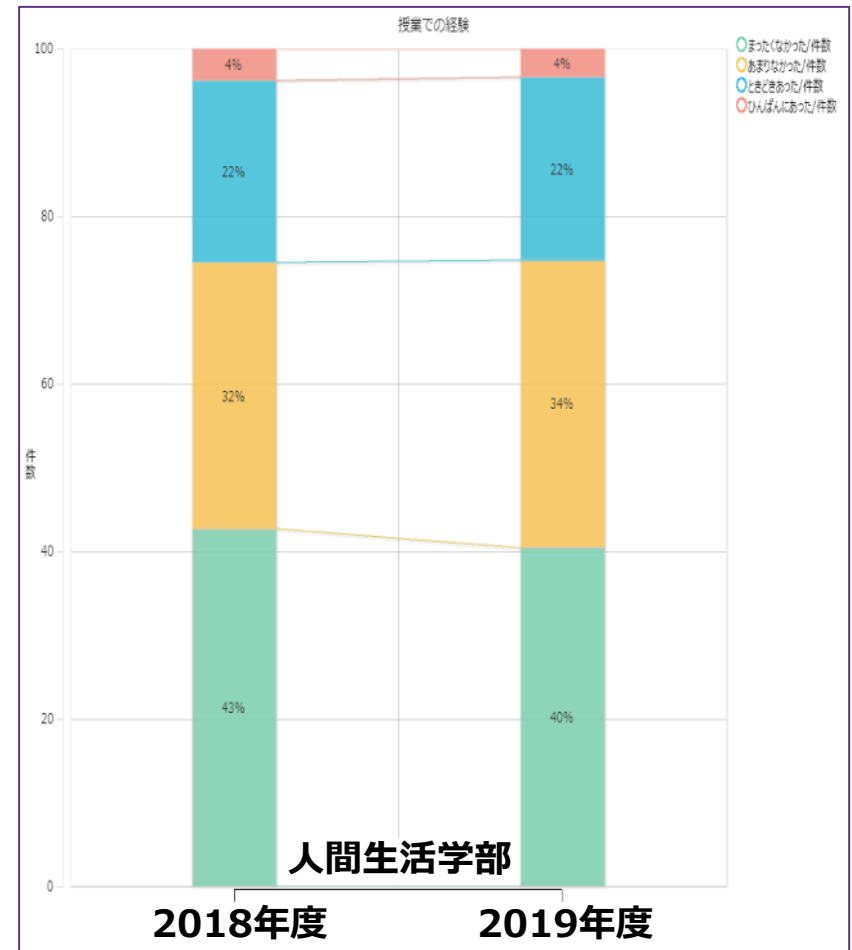
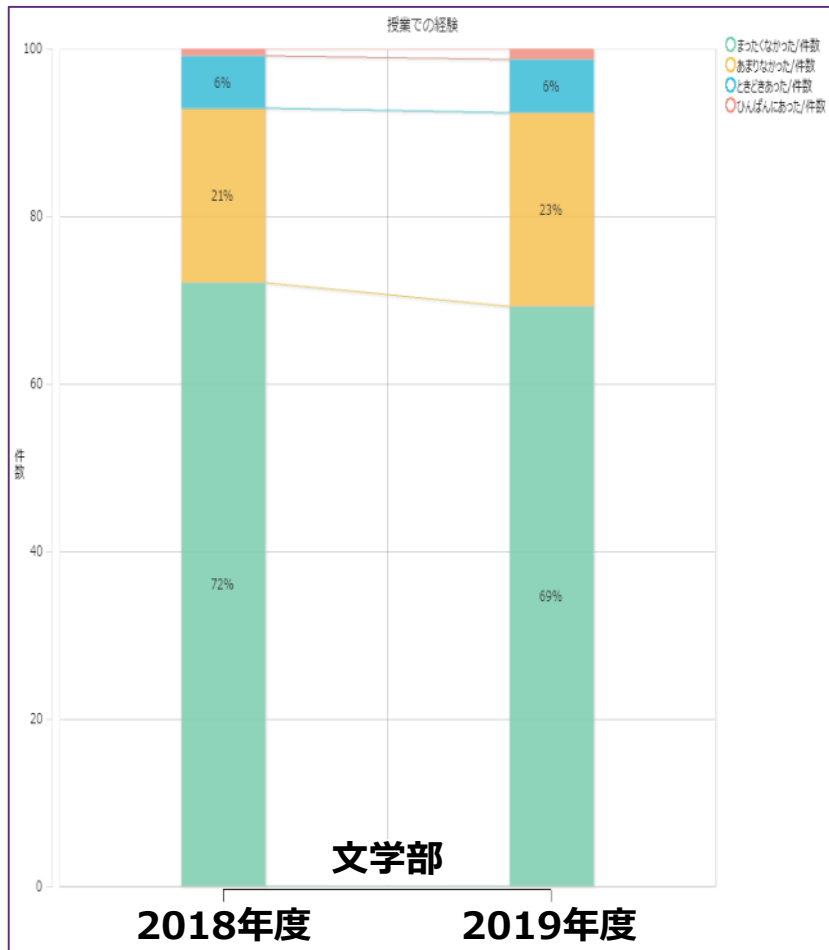


【コメント】

人間生活学部の授業でもボランティア活動についてはそれほど多くはないが、文学部の授業にはほとんど無いことが読み取れる。加盟大学全体としてもほとんど無いのが現状。2018年の結果と比べてもほぼ同様となっている。

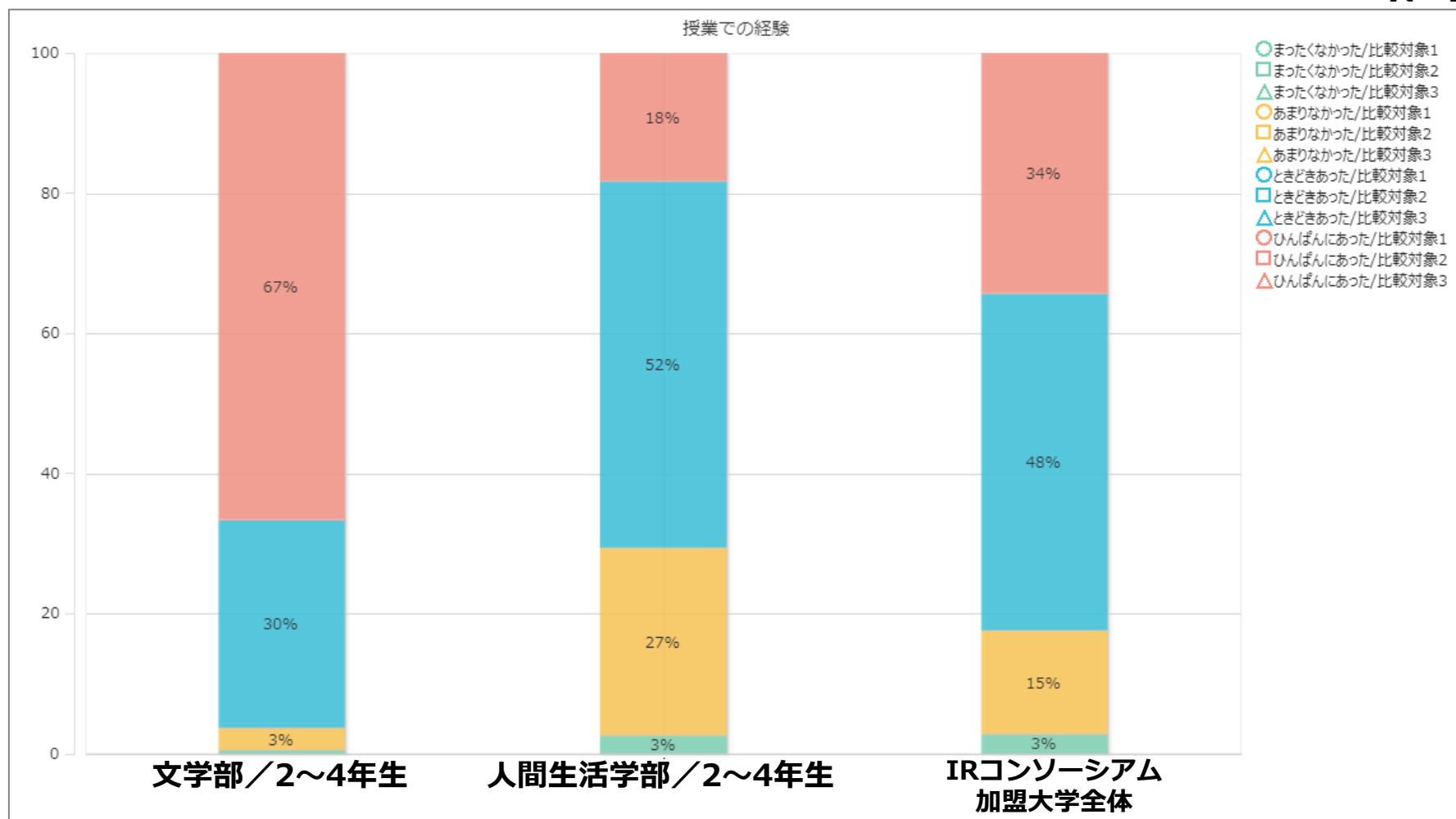
5-4. 授業の一環でボランティア活動をする

[Q4-D]



5-5. 学生自身が文献や資料を調べる

[Q4-E]

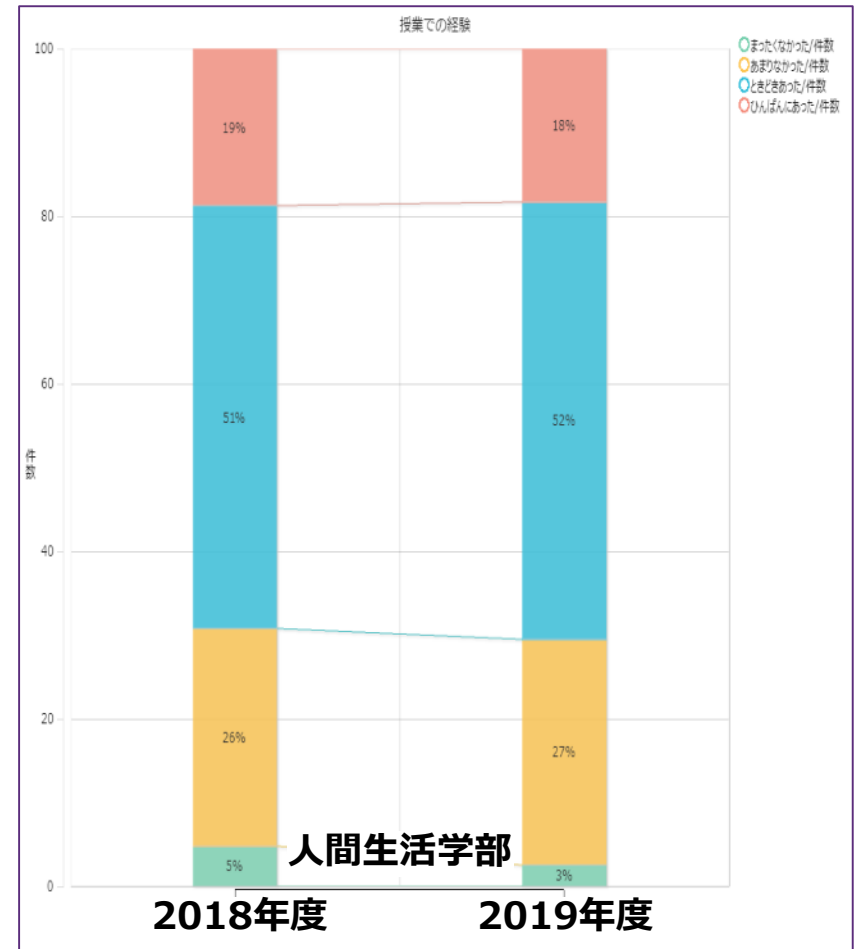
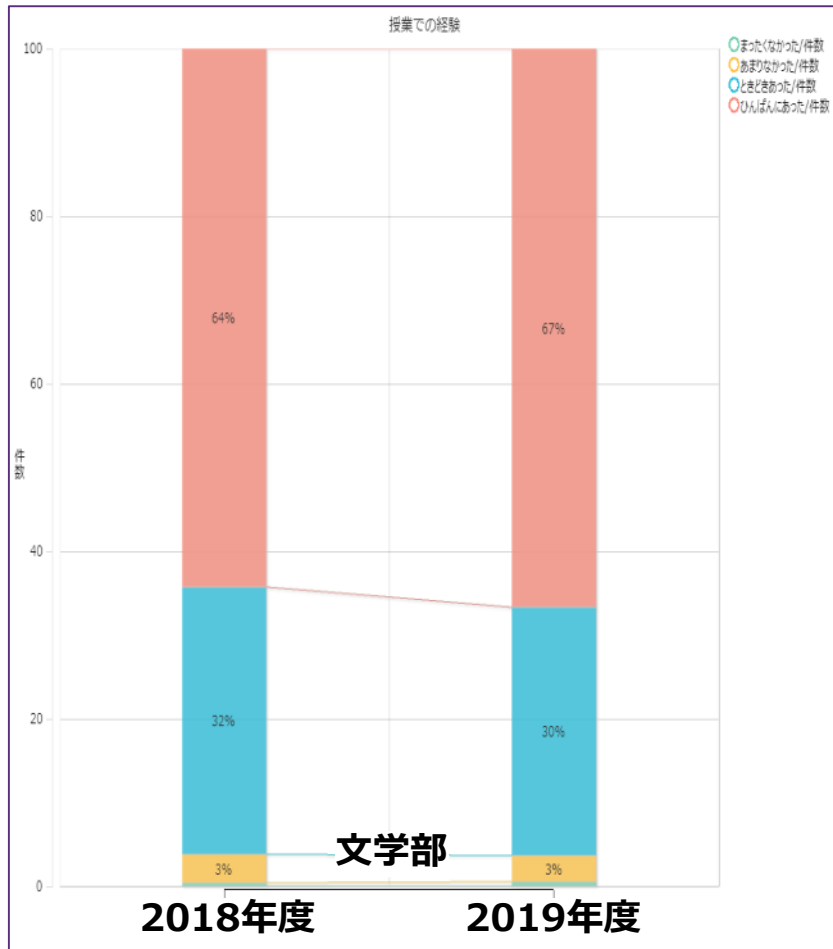


【コメント】

文献や資料を調べる機会は、加盟大学全体に比べても文学部が圧倒的に多く図書館などを利用している様子が見える。一方、人間生活学部では授業で情報が完結してしまうためか、文献、資料を調べる機会は加盟大学平均と比べても少ないようだ。このデータは、「時間の使い方（週）」と強くリンクしており、両学部学生の時間の使い方の違いが浮き彫りとなっている。2018年との比較でも、ほぼ同様の結果となっている。

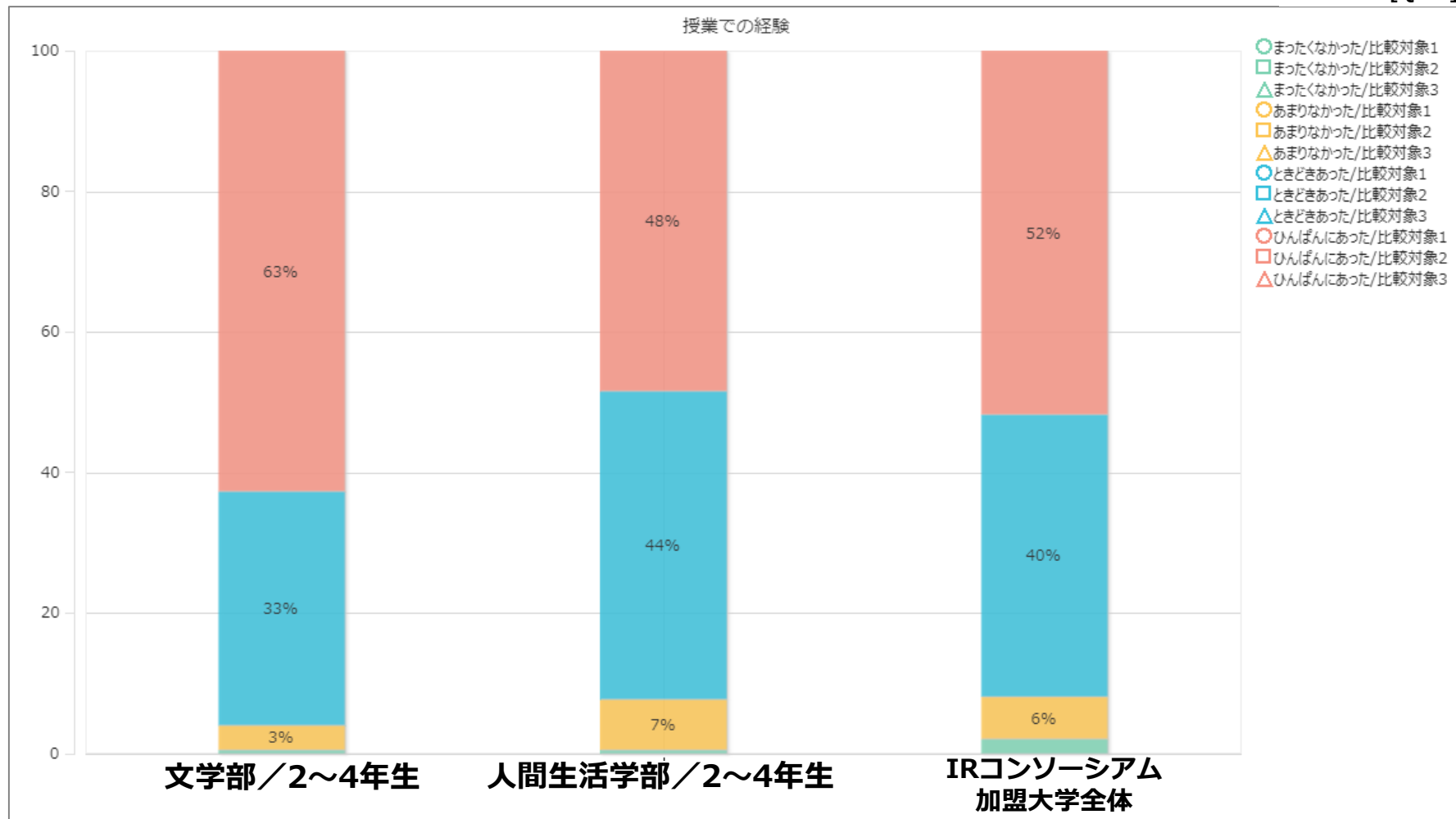
5-5. 学生自身が文献や資料を調べる

[Q4-E]



5-6. 定期的に小テストやレポートが課される

[Q4-F]

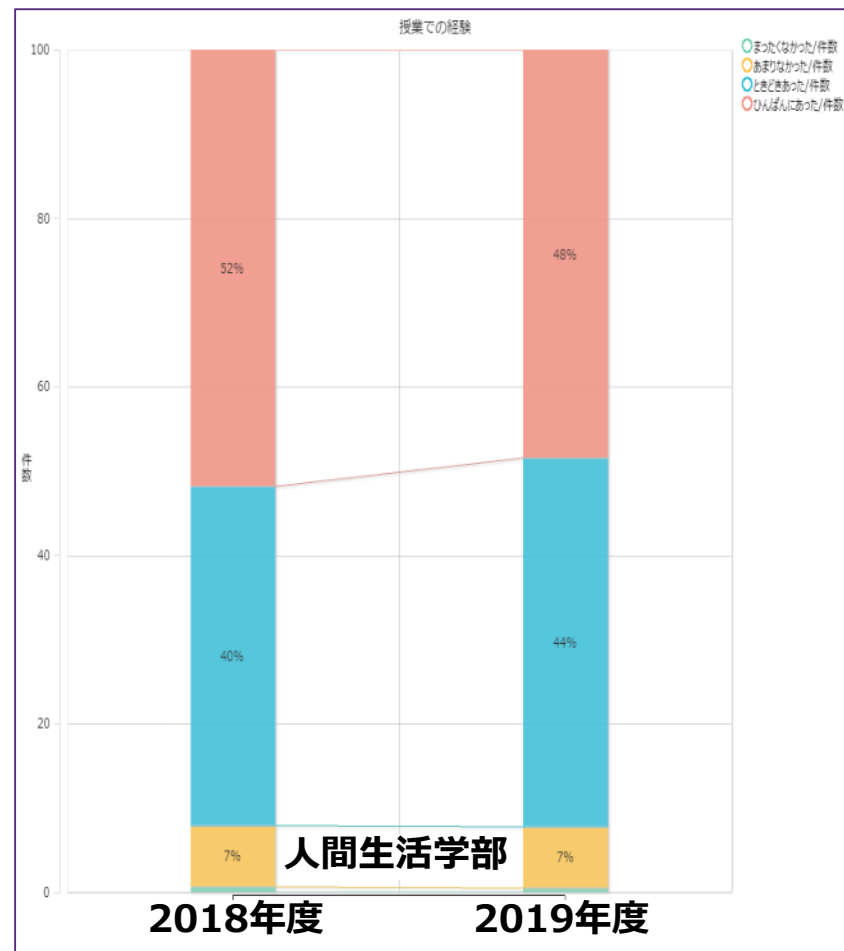
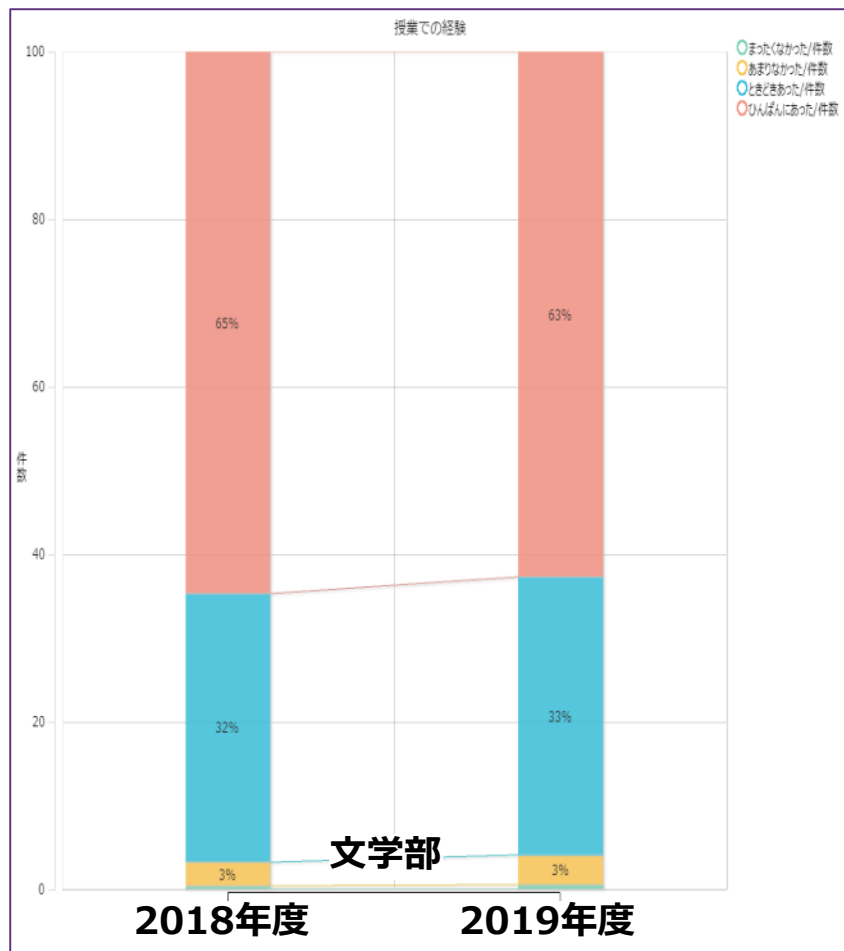


【コメント】

文学部では、加盟大学全体より小テストやレポートがひんぱんに課されているが、人間生活学部は文学部よりも0少なく加盟大学とほぼ同じと考えられる。文学部はどちらかという思考重視、人間生活学部は知識重視のといえるかも知れない。2018年と比べてもほぼ同様の結果となっている。2018年の結果と比べてもほぼ同様の結果であった。

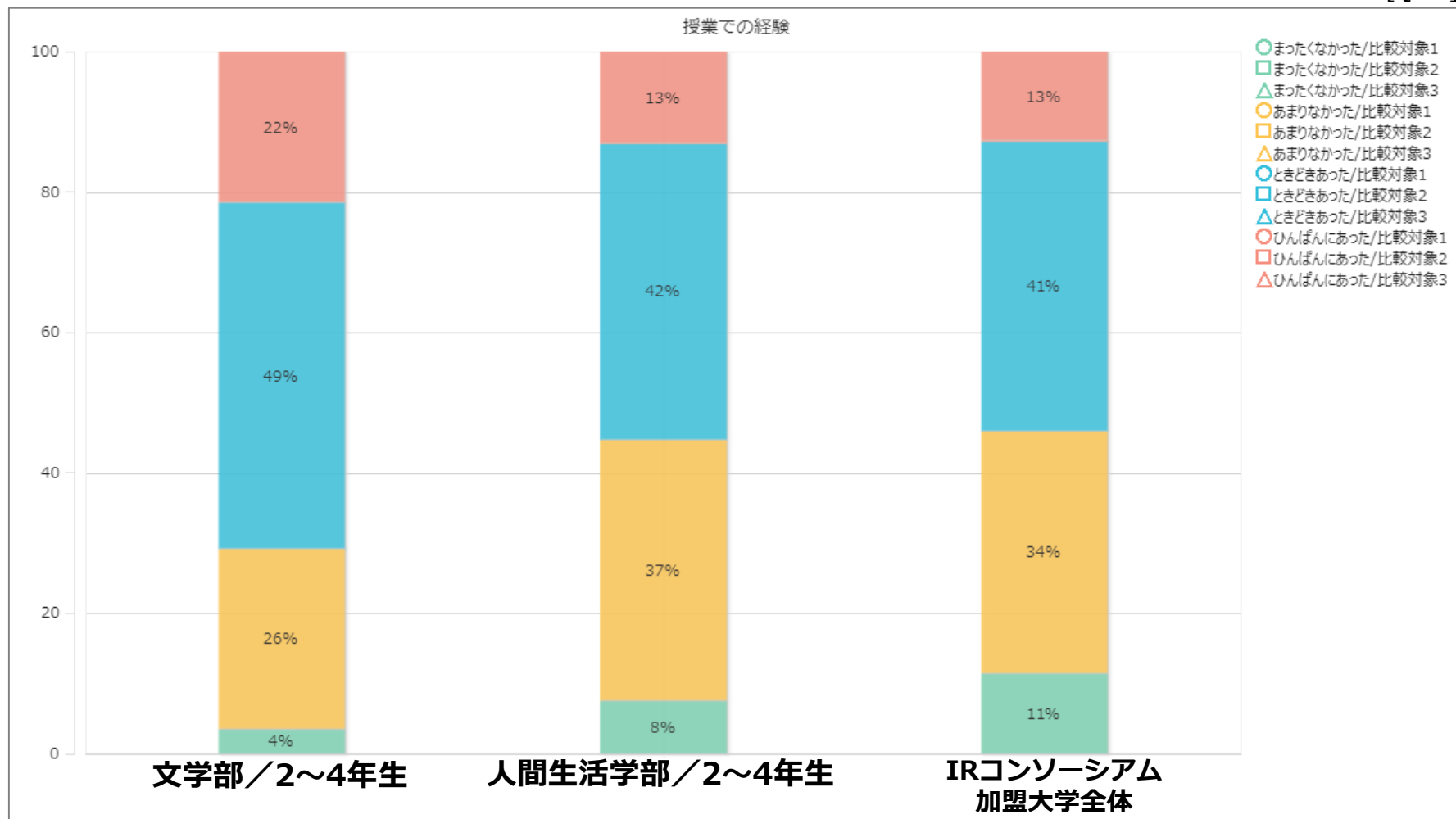
5-6. 定期的に小テストやレポートが課される

[Q4-F]



5-7. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

[Q4-G]

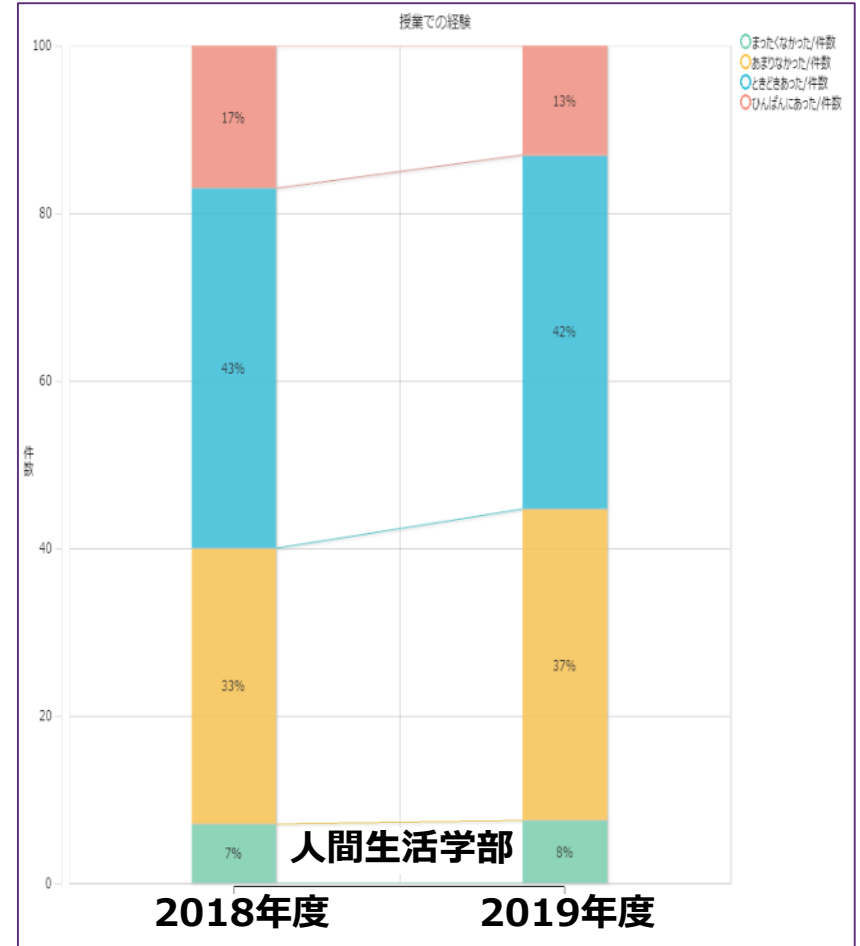
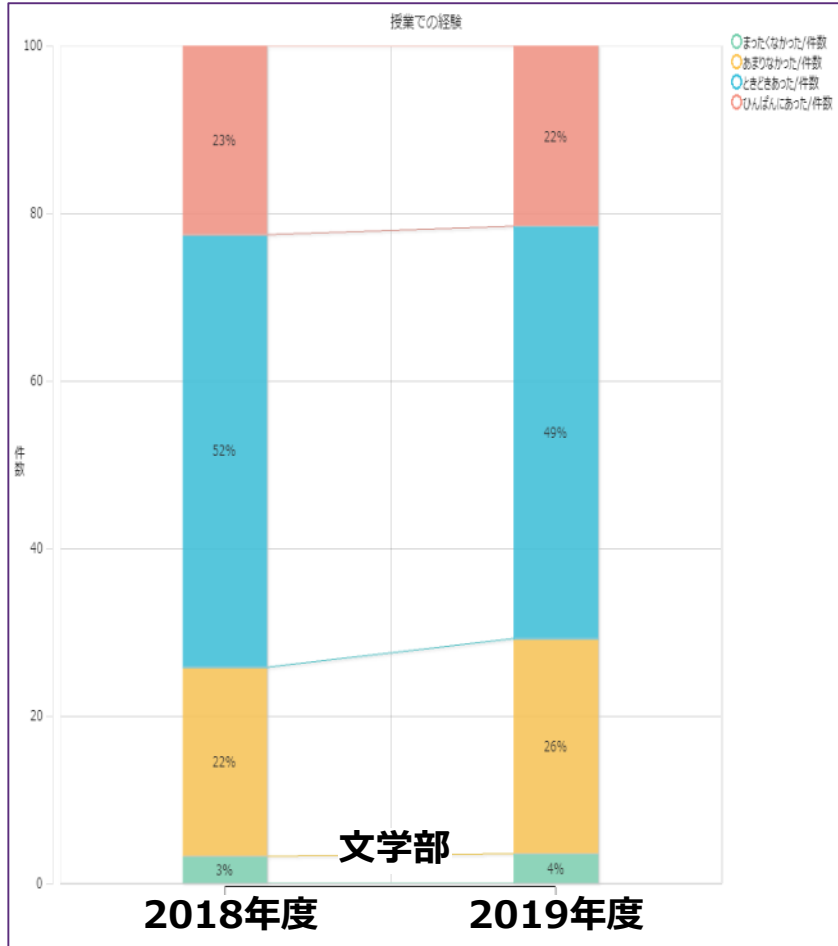


【コメント】

文学部の教員は学生の提出物に添削やコメントを付けて返すが、人間生活学部の先生はやや少なく加盟大学とほぼ同様であった。文学部の方がレポートや小テストが良いということを反映しているかもしれない。2018年と比べると有意差は付かないであろうが、両学部ともやや減少しているかも知れない。

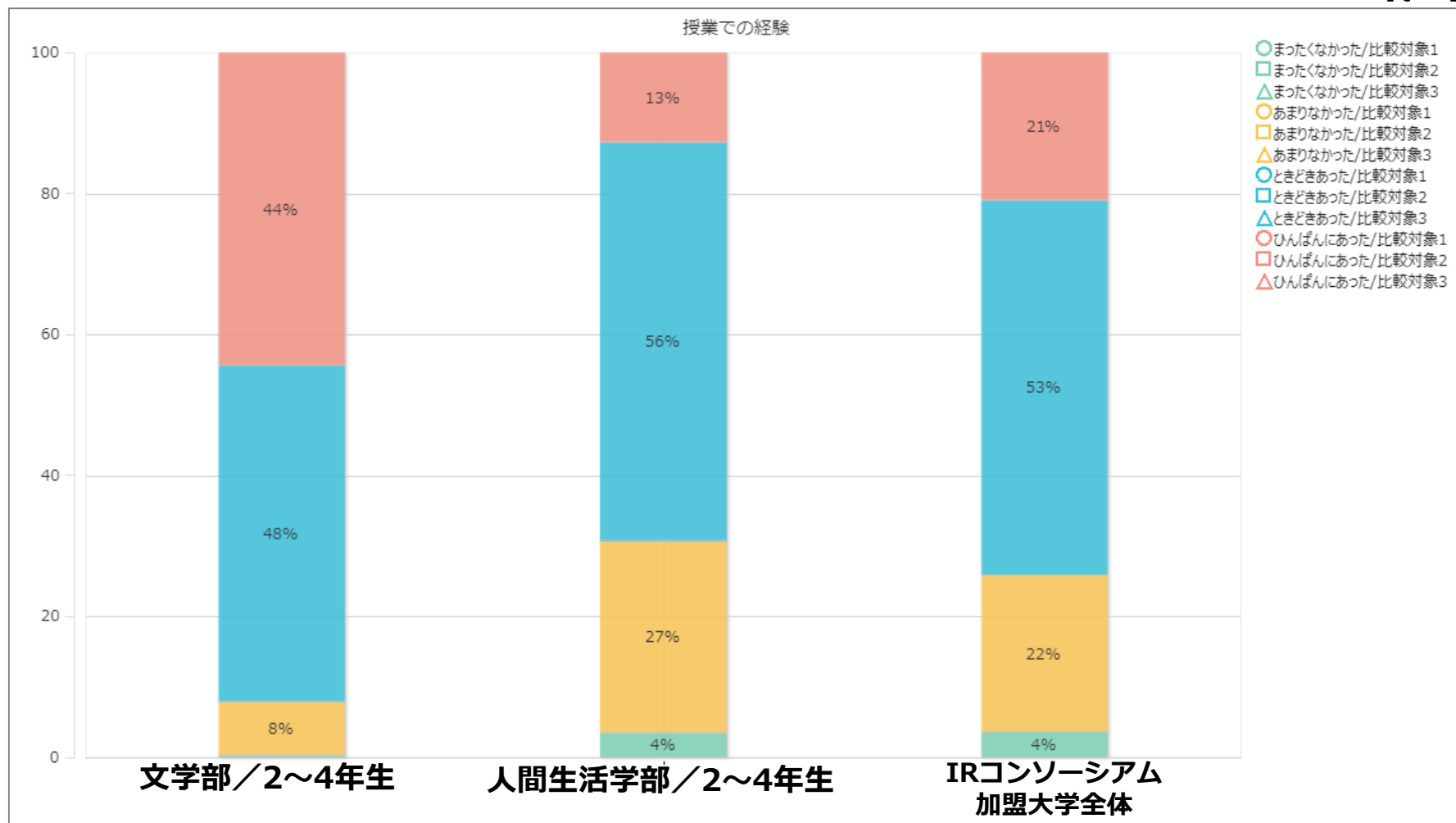
5-7. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

[Q4-G]



5-8. 学生が自分の考えや研究を発表する

[Q4-H]

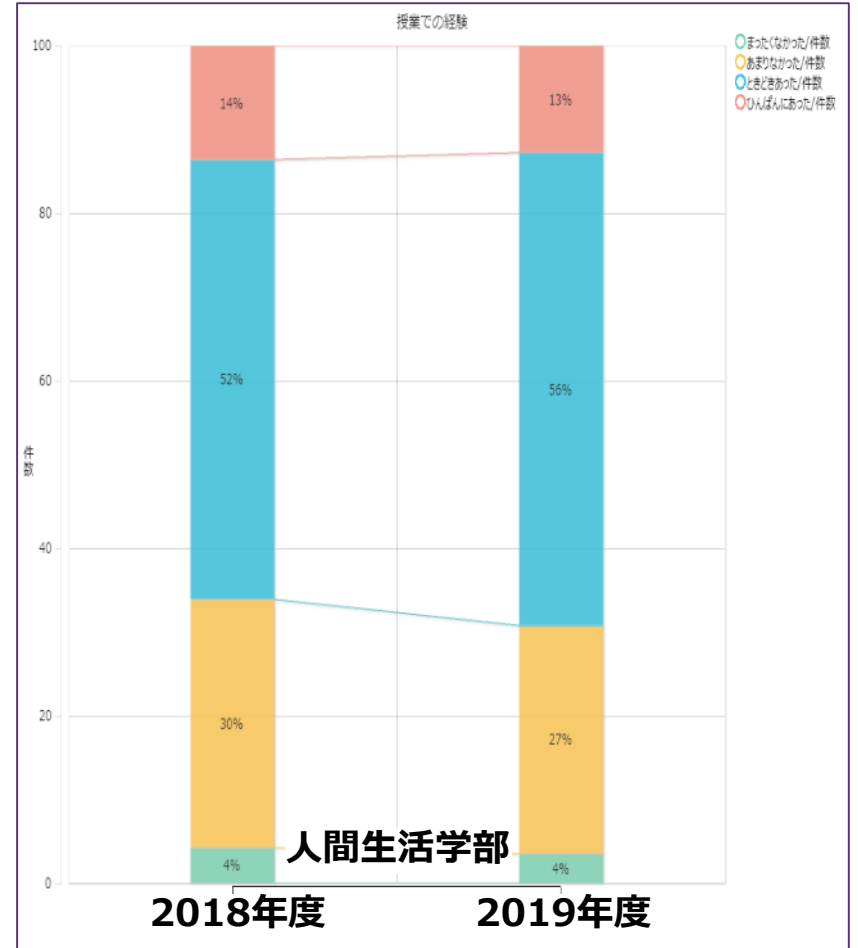
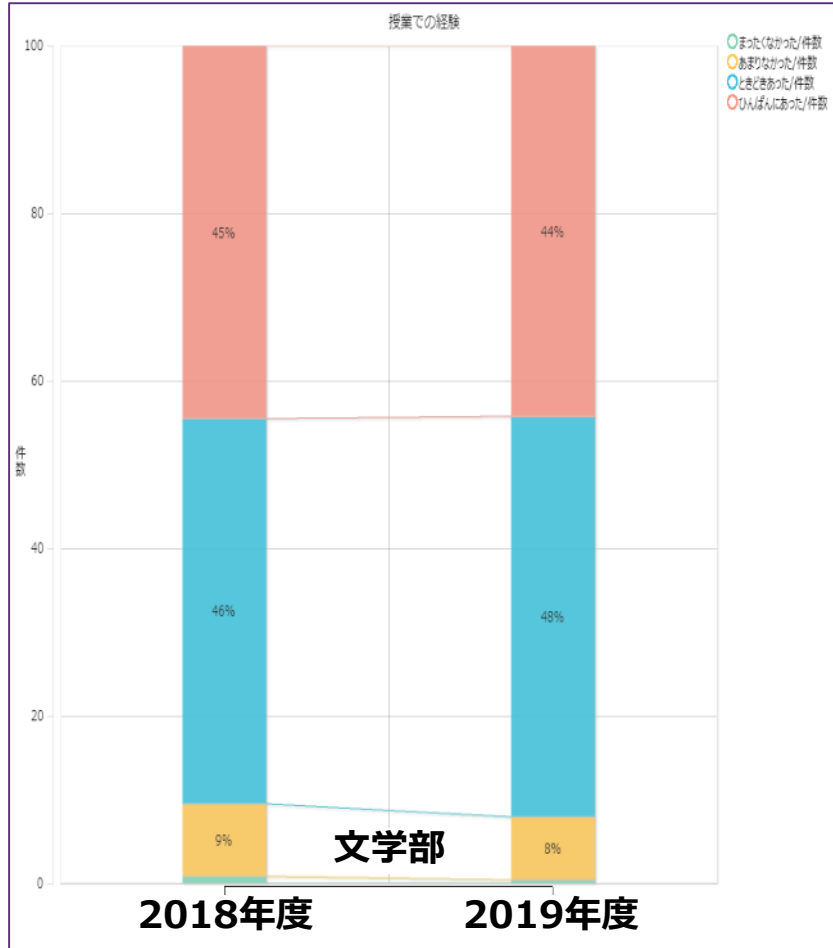


【コメント】

文学部の学生はかなり頻繁に自分の考えや研究を発表する機会が与えられており加盟大学全体よりも高いレベルにあるが、人間生活学部の学生は、加盟大学全体よりやや少ないことを示している。本学の文学部の授業の特徴を顕著に表しているデータである。2018年と比較すると、両学部ともやや増加傾向にはあるようである。

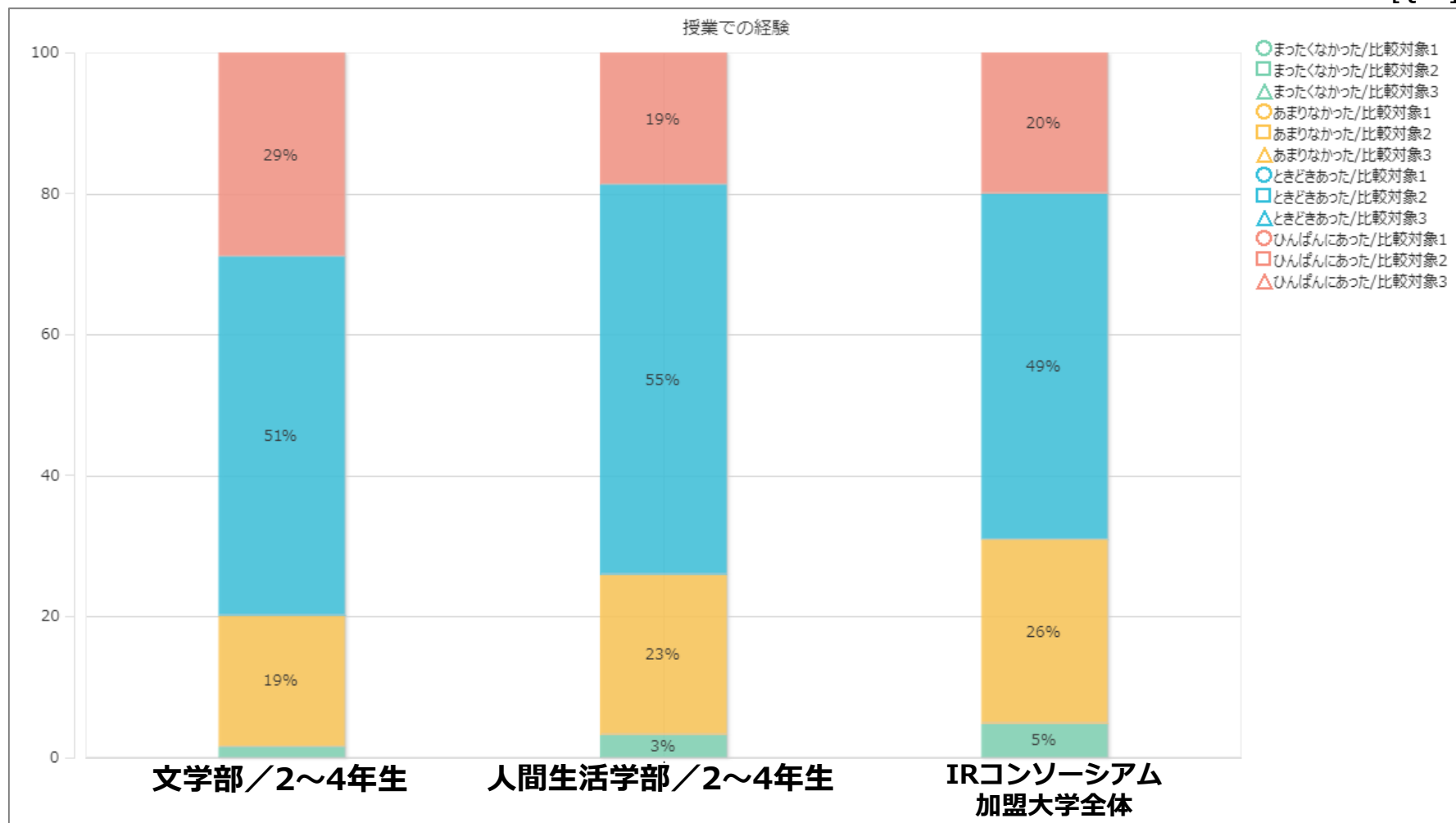
5-8. 学生が自分の考えや研究を発表する

[Q4-H]



5-9. 授業中に学生同士が議論をする

[Q4-I]

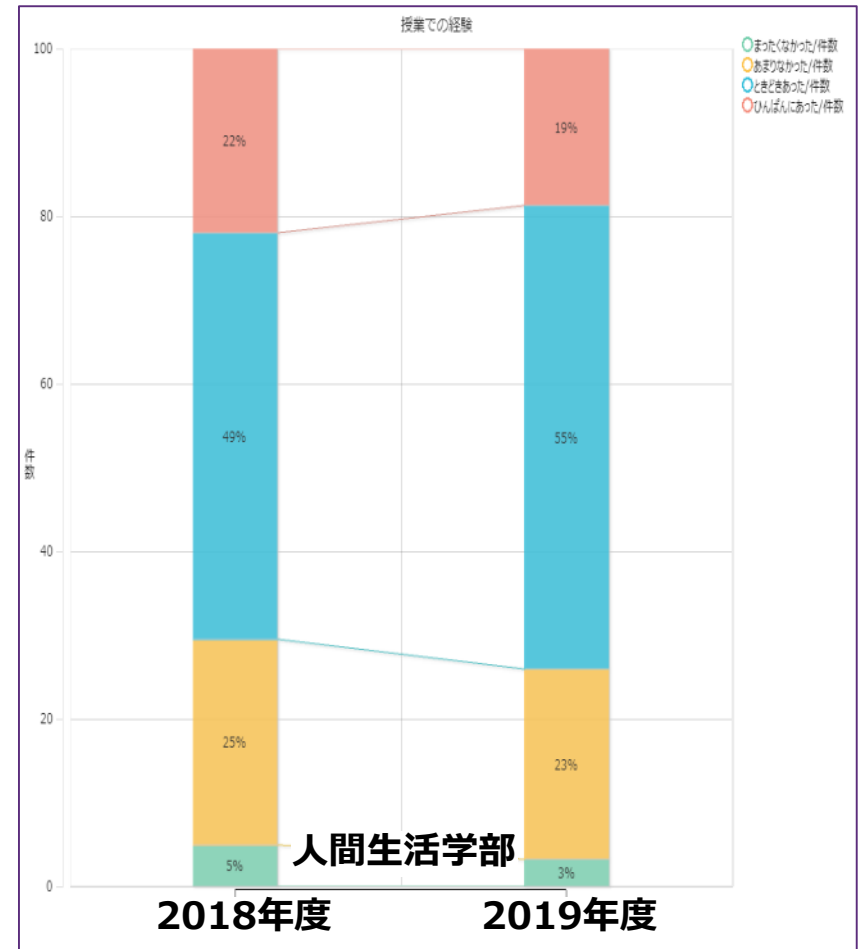
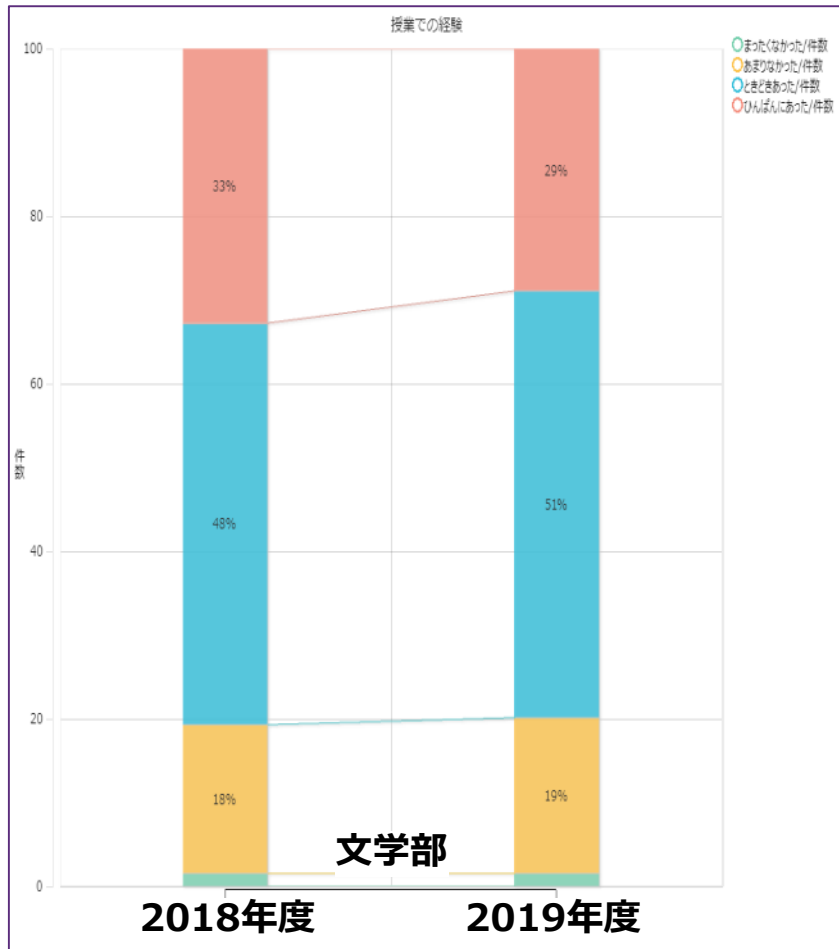


【コメント】

文学部の学生は学生同士が議論をする機会が加盟大学平均より頻繁に行われているようで、2018年とほぼ同様の結果であった。人間生活学部の学生も、文学部ほどではないが2018年よりもやや増加し加盟大学平均以上であることを示している。

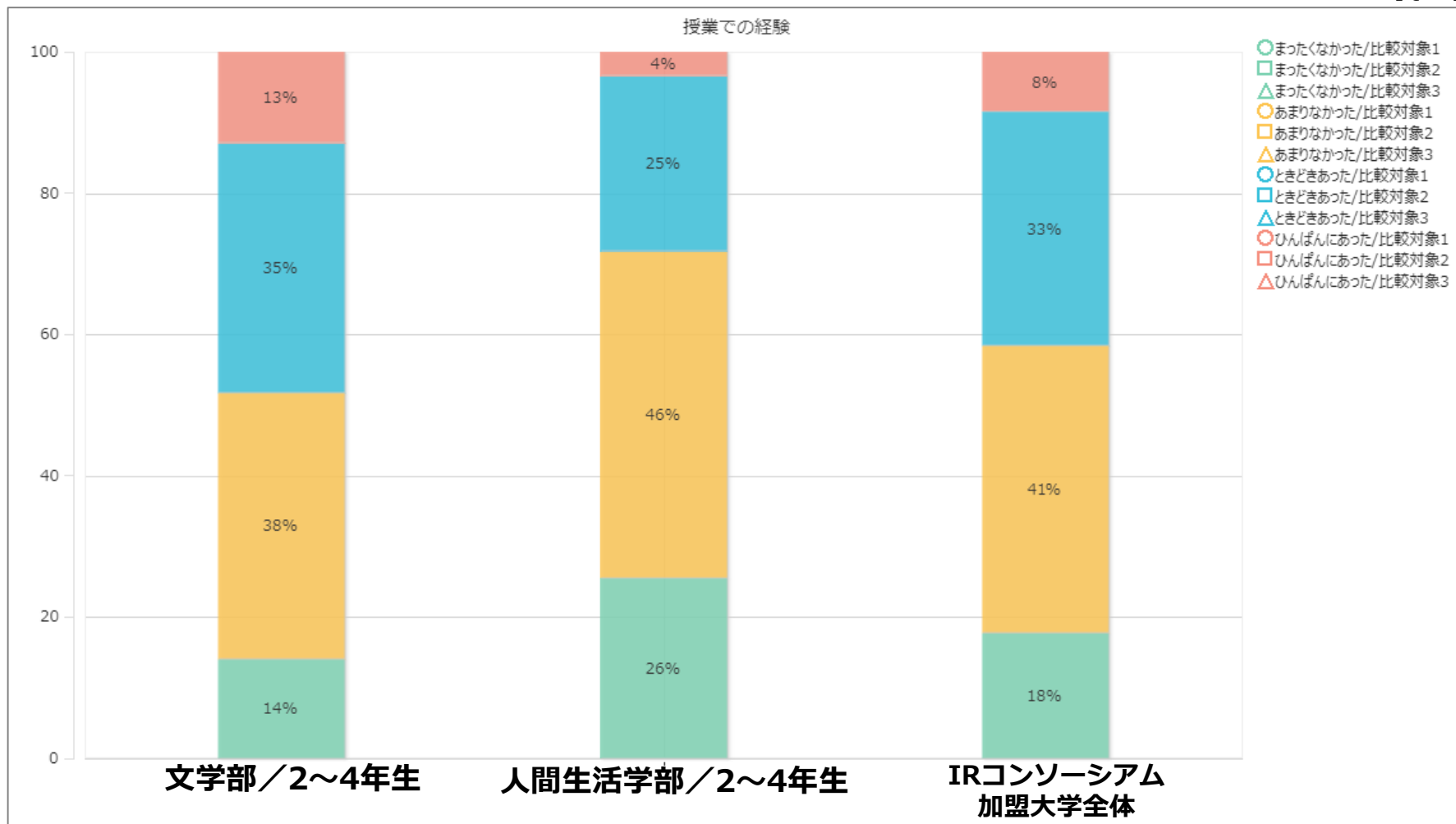
5-9. 授業中に学生同士が議論をする

[Q4-I]



5-10. 授業で検討するテーマを学生が設定する

[Q4-J]

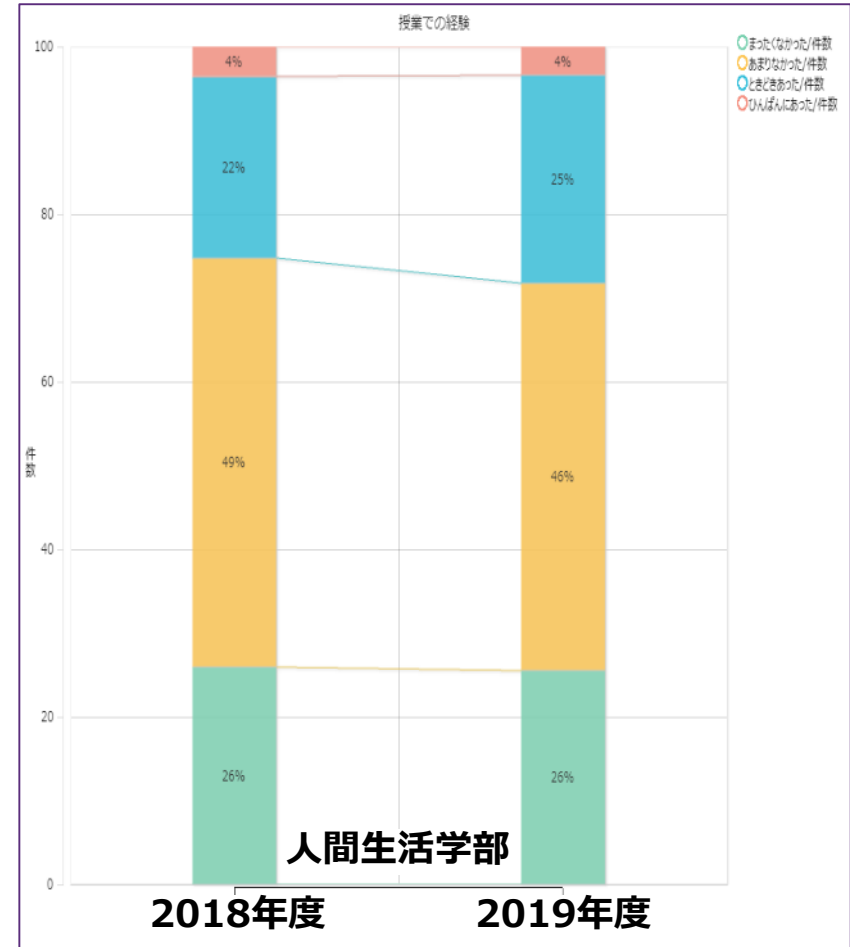
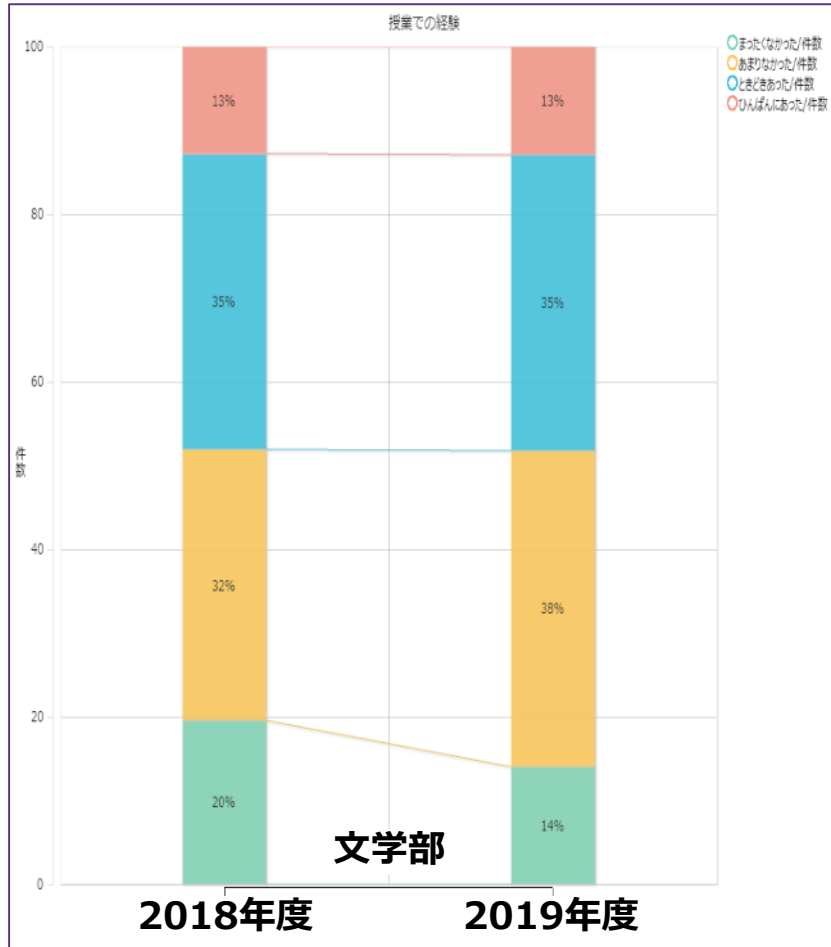


【コメント】

文学部の授業は加盟大学平均に比べてもテーマに柔軟性があるようで、授業で検討するテーマを学生が設定することがあるが、人間生活学部の授業のテーマはほぼ固定されて、加盟大学平均に比べても学生が設定する可能性は低い。2018年との比較では、文学部は変化は見られないが、人間生活学部はやや増加傾向のようである。

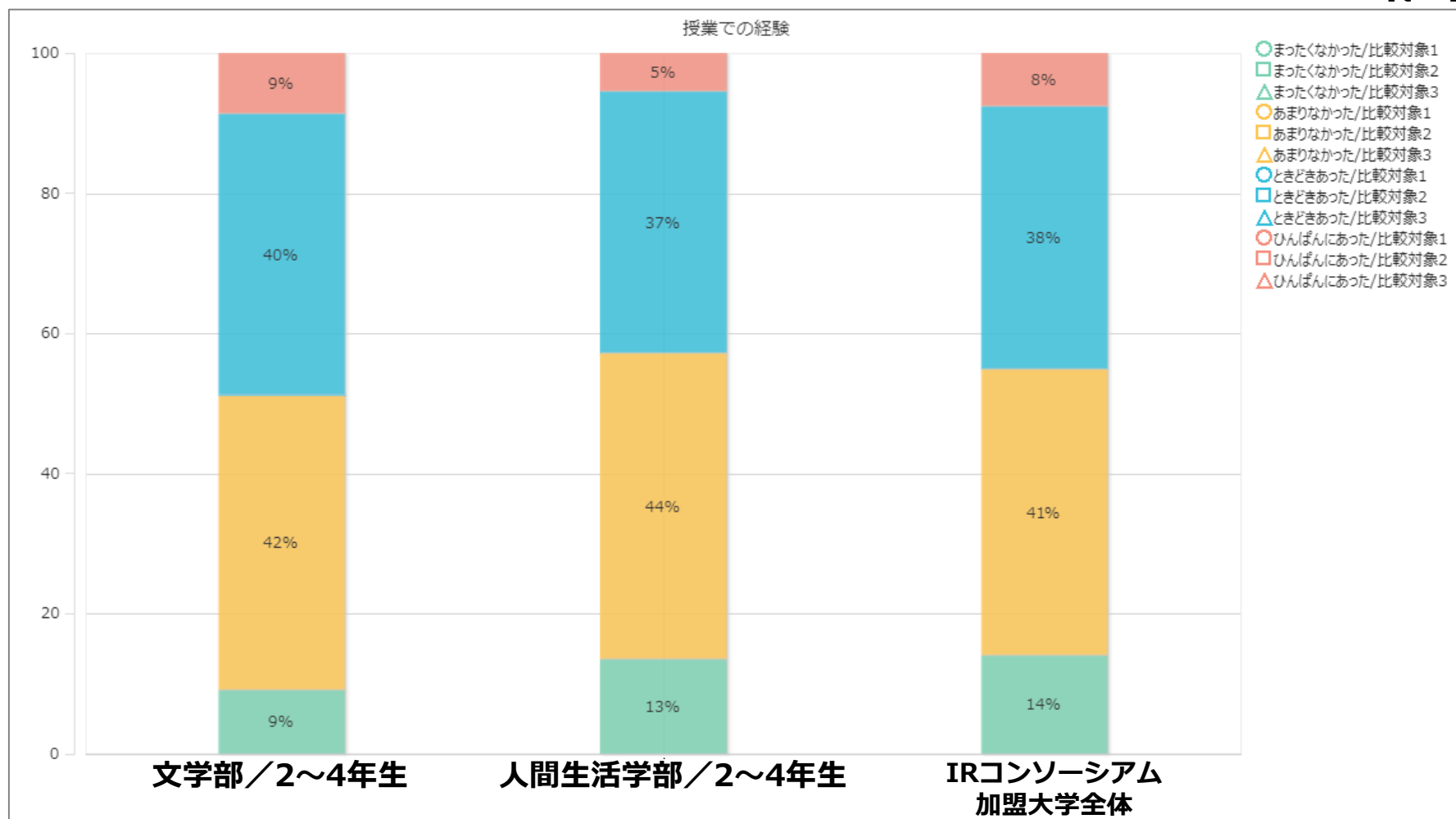
5-10. 授業で検討するテーマを学生が設定する

[Q4-J]



5-11. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

[Q4-K]

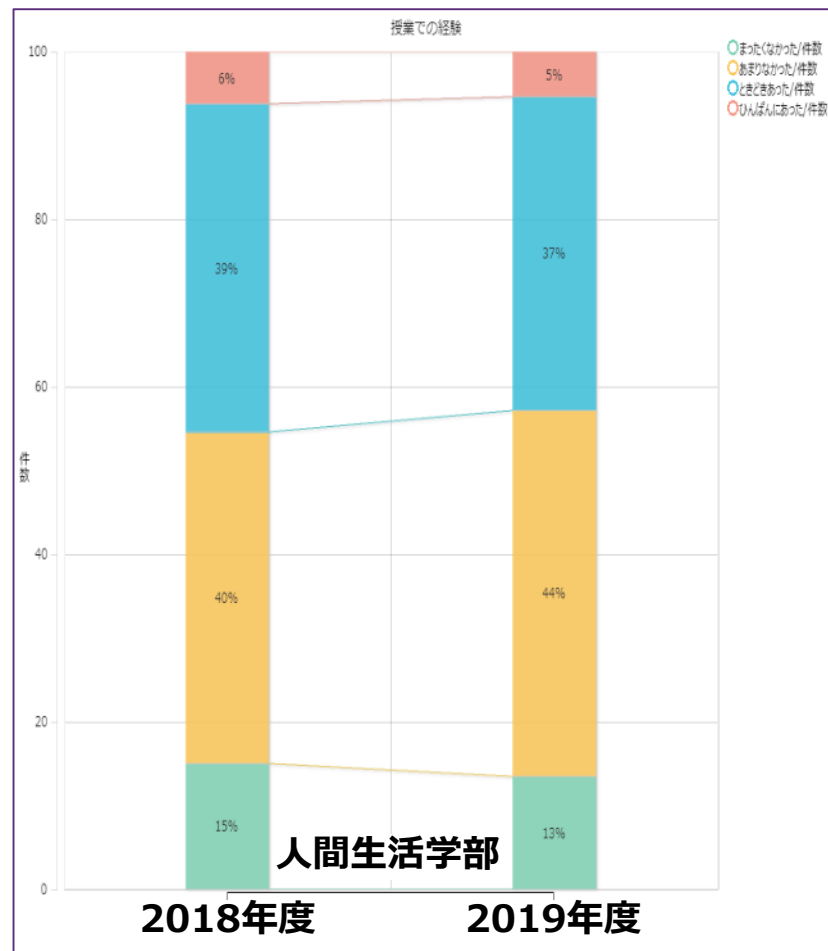
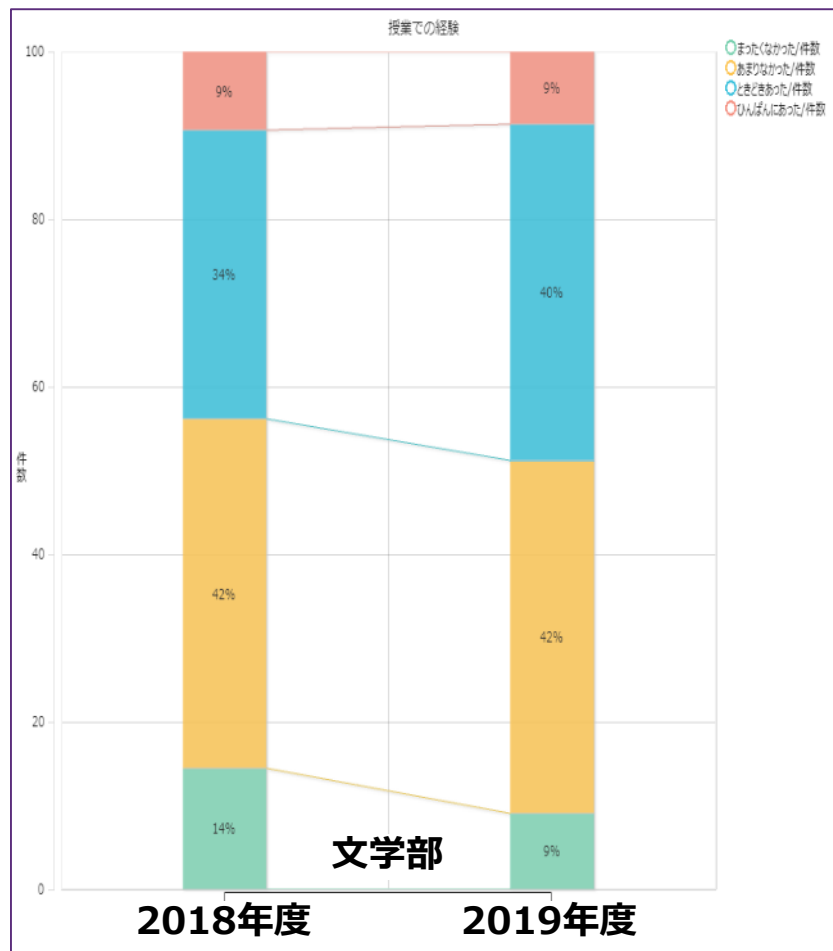


【コメント】

文学部では加盟大学全体に比べ学生の意見がやや多く取り入れられているようだが、人間生活学部ではやや少なめではあるが、本学学部間および加盟大学平均との差も少ない。また、2018年との比較では、文学部はやや増加しているが人間生活学部ではやや減少している結果となった。

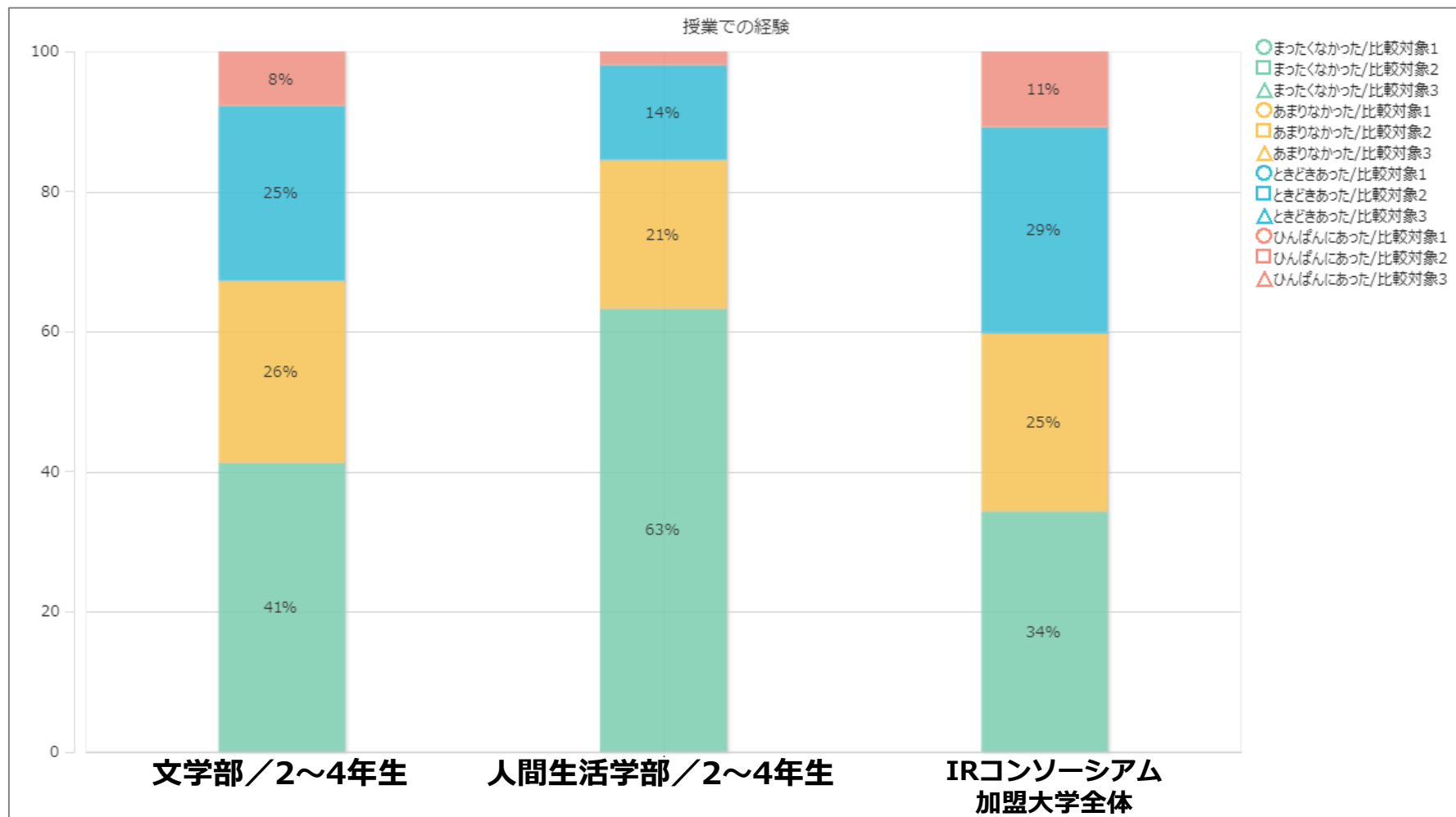
5-11. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

[Q4-K]



5-12. 取りたい授業を履修登録できなかった

[Q4-L]

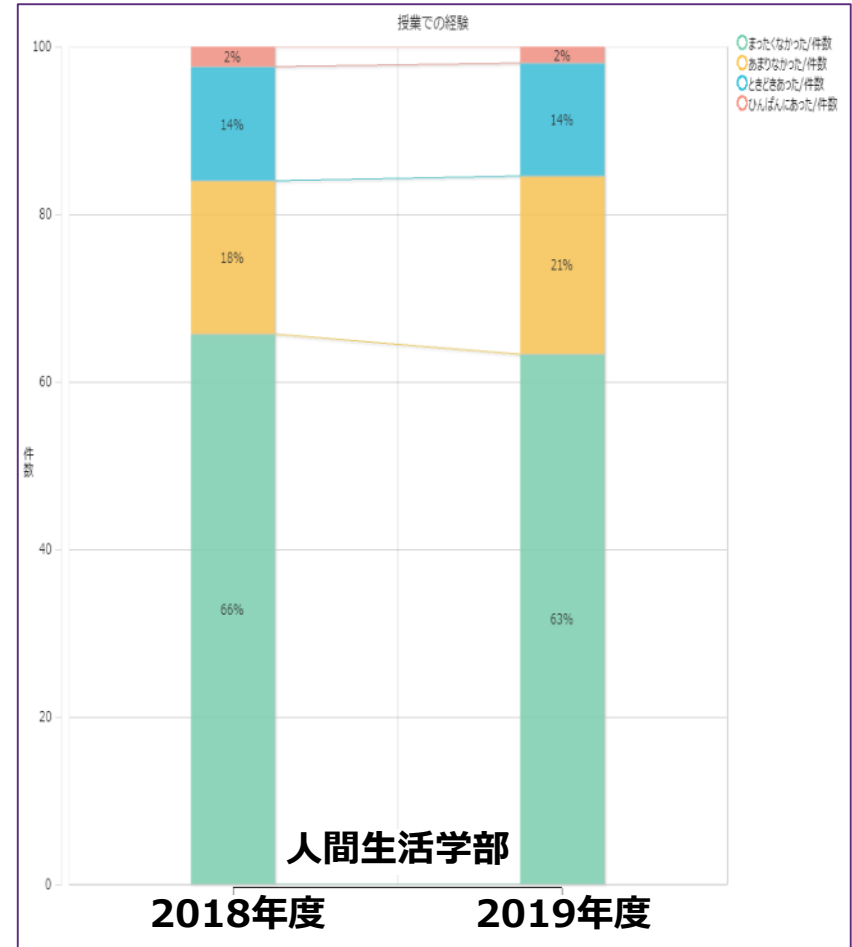
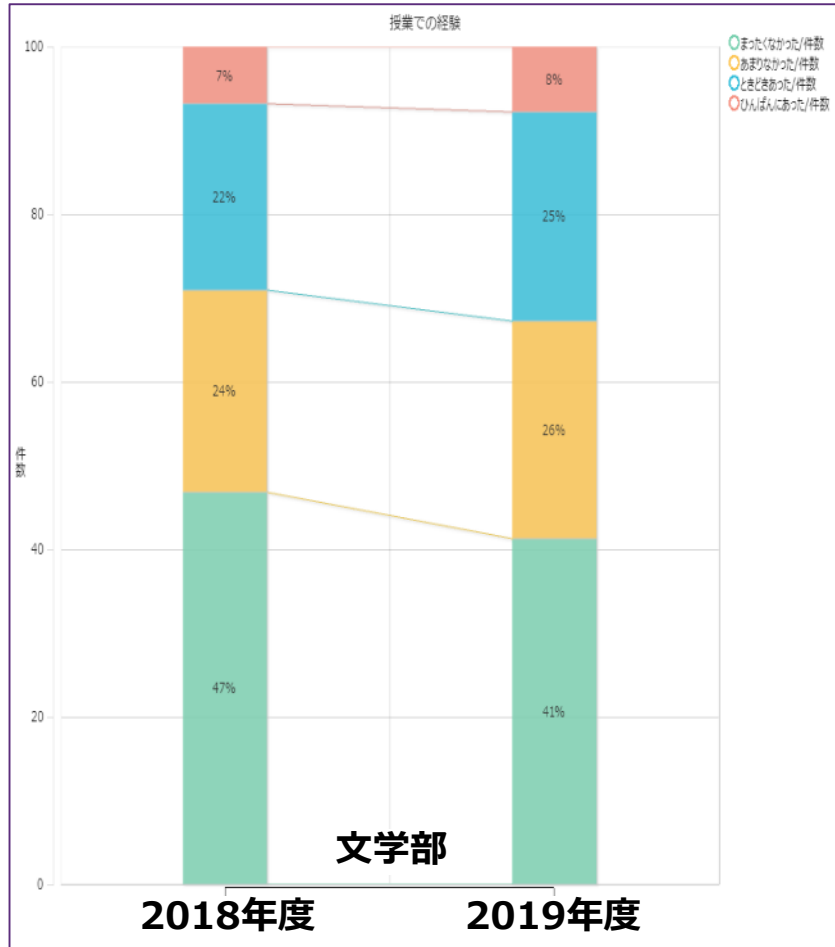


【コメント】

本学の学生は加盟大学全体に比べ取りたい授業を履修登録できており、特に人間生活学部の学生は必修科目が多いためかその傾向が強い。また、2018年との比較では文学部がやや履修登録できなかった学生が増えたようである。

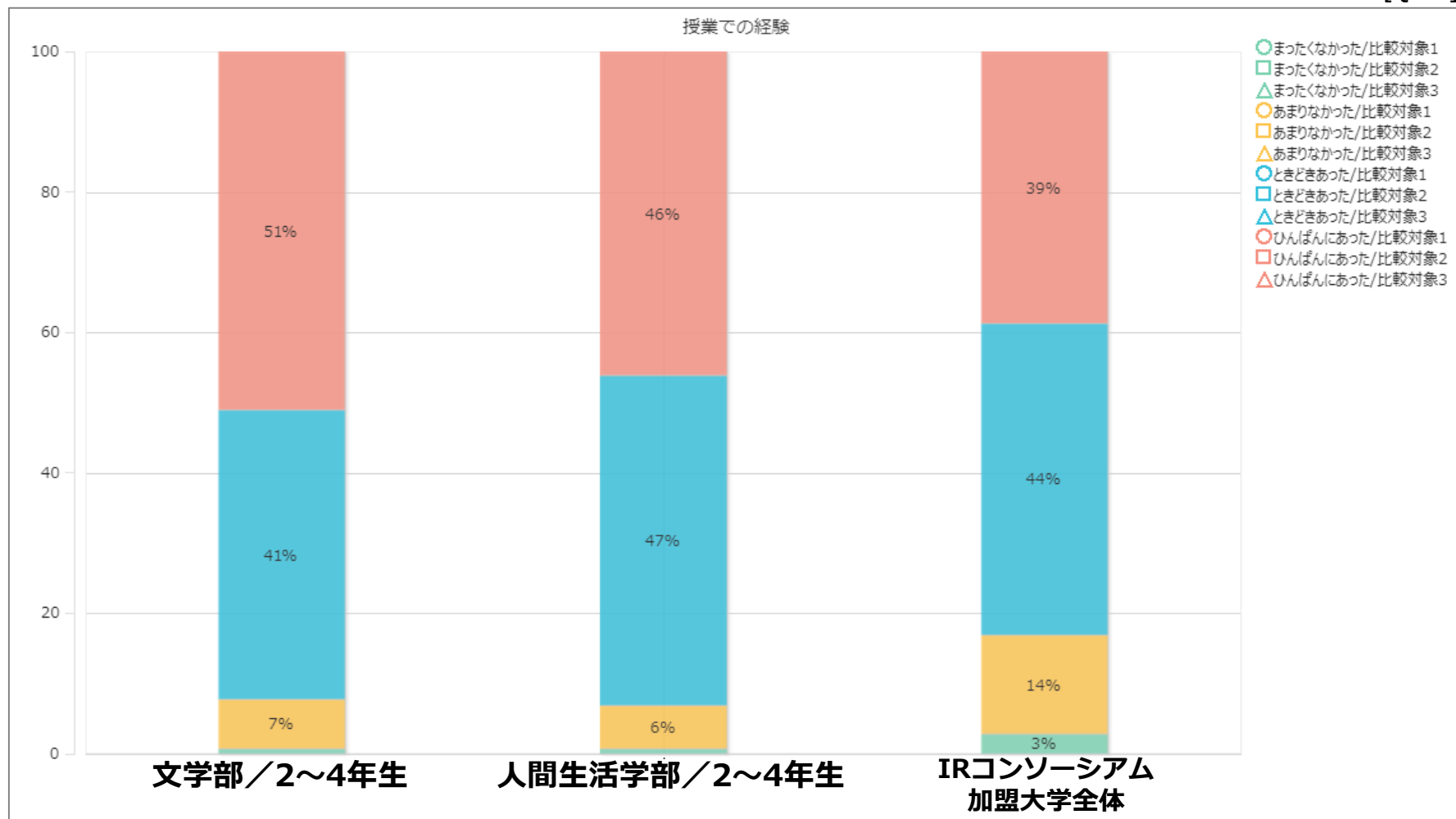
5-12. 取りたい授業を履修登録できなかった

[Q4-L]



5-13. 出席することが重視される

[Q4-M]

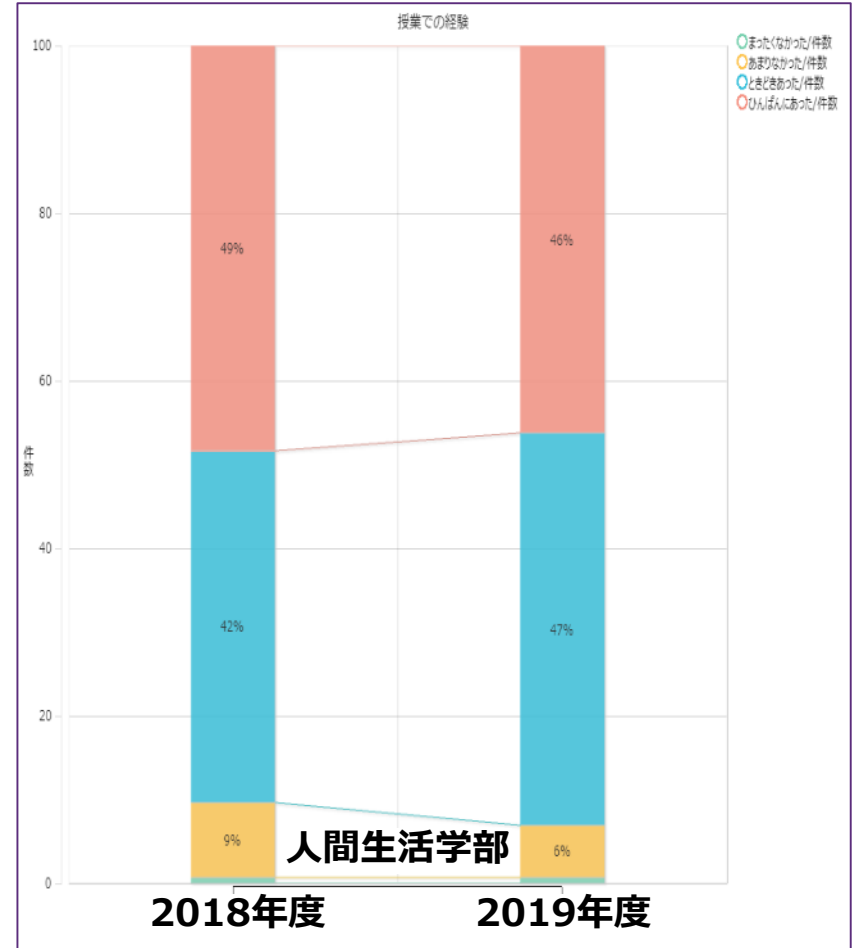
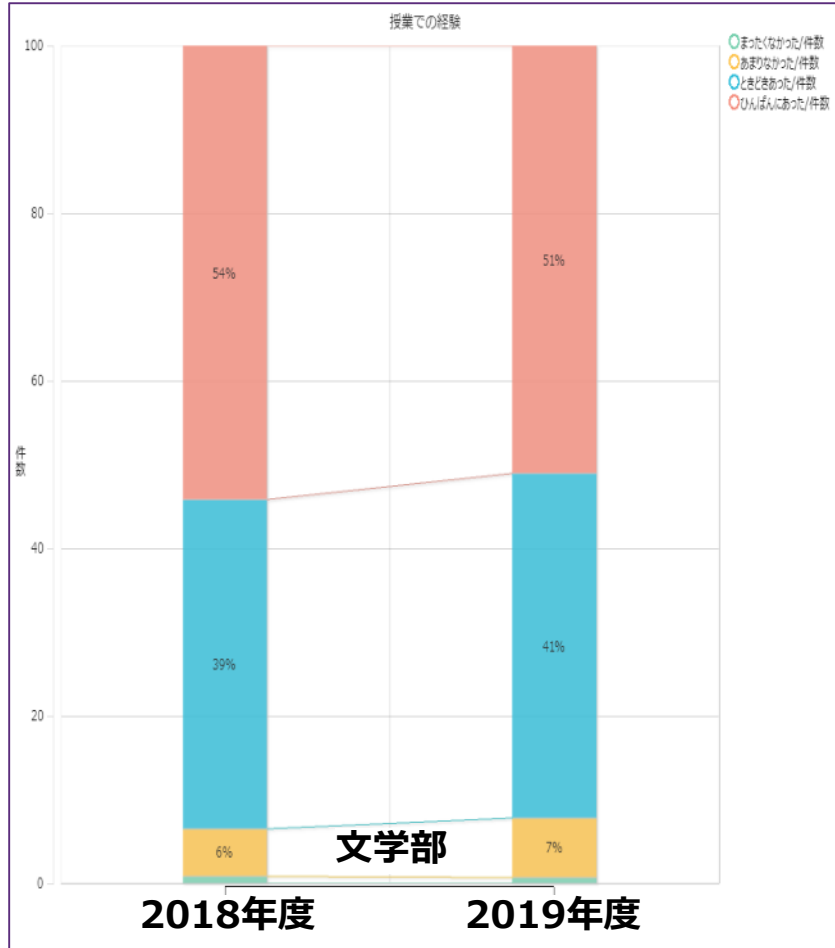


【コメント】

両学部の学生とも加盟大学全体平均に比べ出席することが重視されていると感じており、その傾向は文学部の学生の方が人間生活学部の学生より強い。この傾向は、2018年と比較するとやや減少傾向にある。

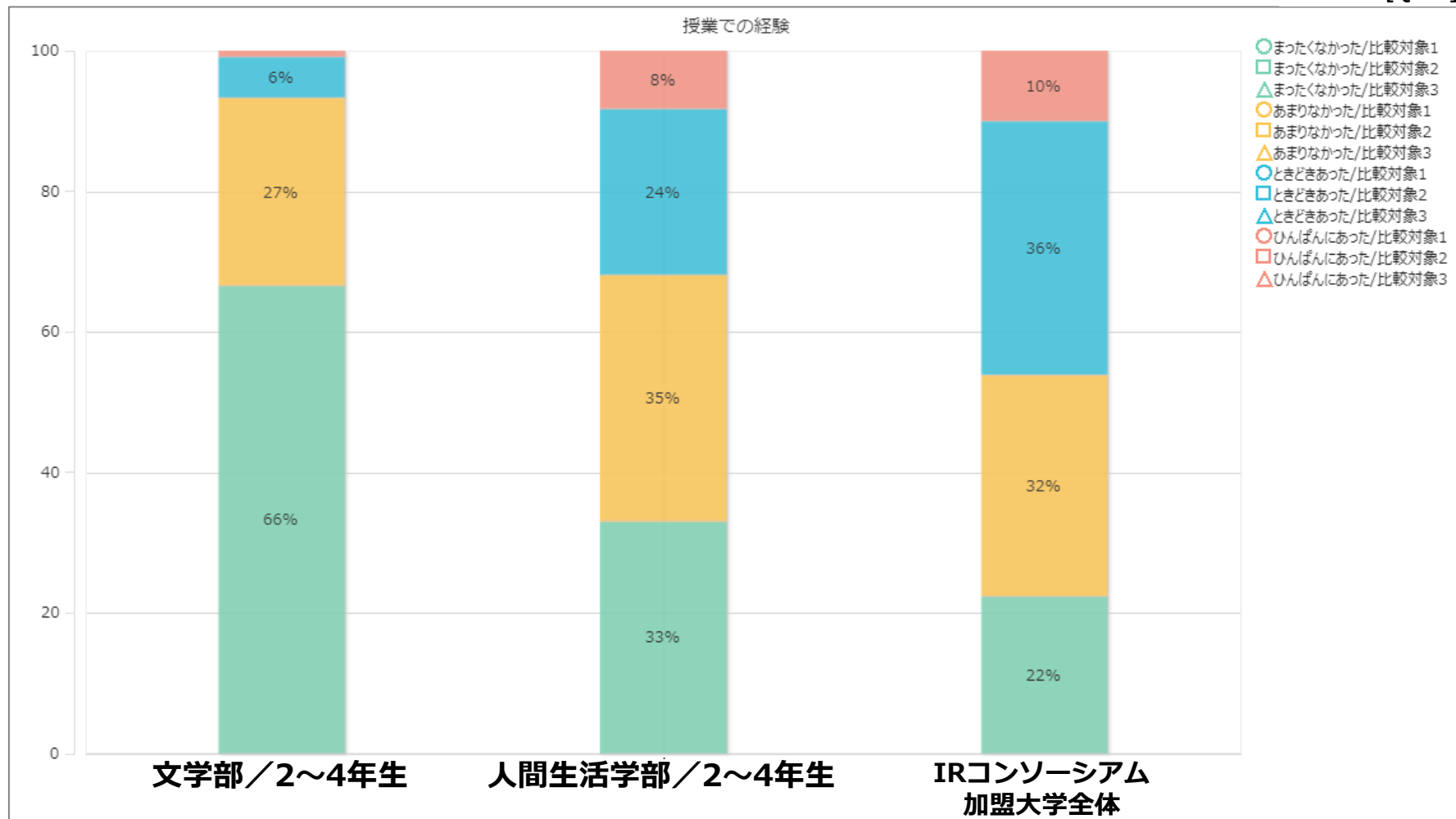
5-13. 出席することが重視される

[Q4-M]



5-14. TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

[Q4-N]

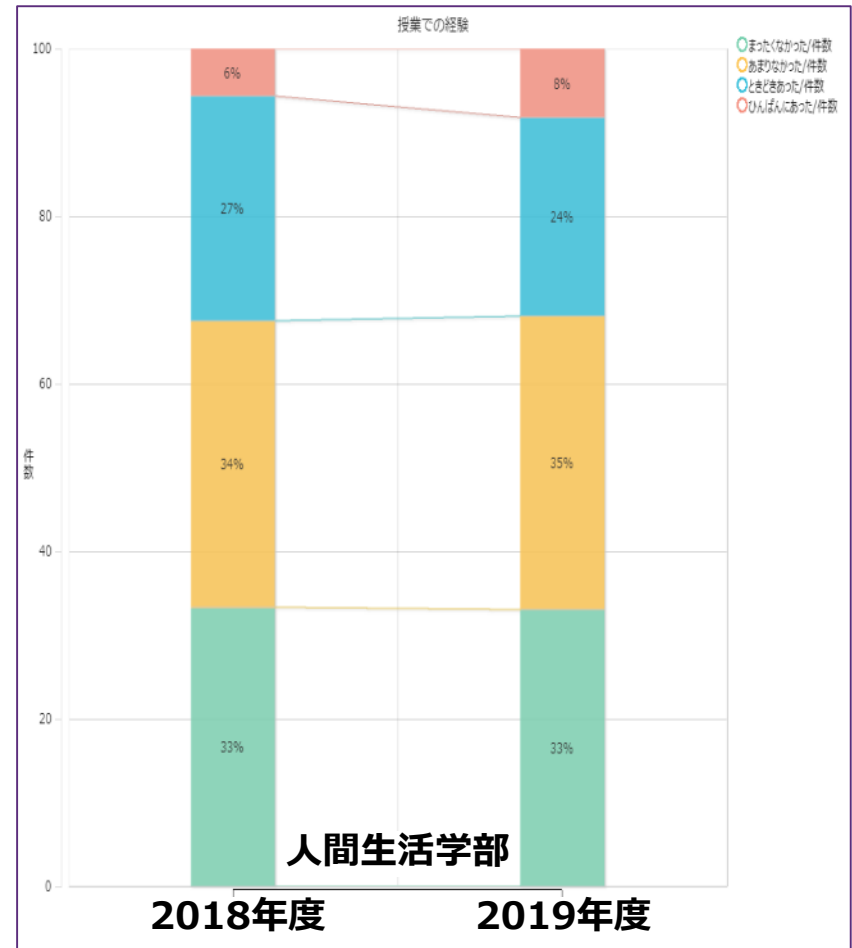
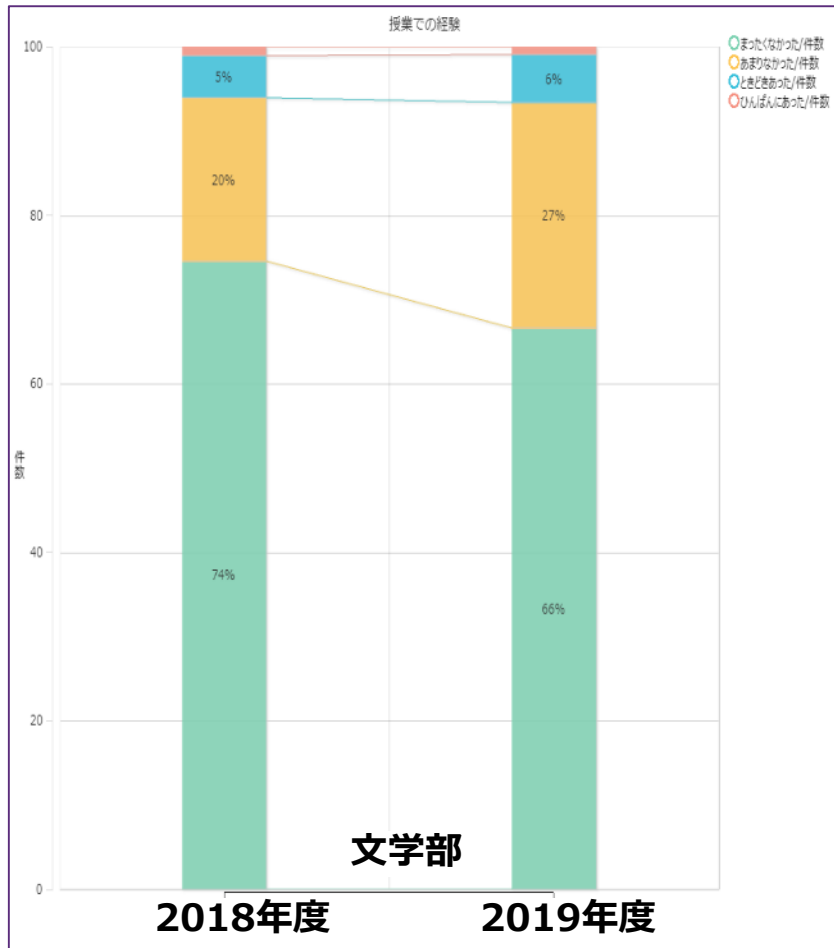


【コメント】

本学のTAやSA等の利用は、加盟大学全体にかなり遅れていることを示している。人間生活学部では、大学院生によるTAを導入しているためか文学部よりも高い。文学部でもFSA制度があるはずなのだが、制度の周知度が低いためか活用されていないのかも知れない。2018年度と比べると両学部ともほぼ同様であった。

5-14. TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

[Q4-N]



文学部は、加盟大学全体や人間生活学部よりも授業の柔軟性が高く、学生の意見を取り入れたり、学生同士でディスカッションしたり、レポートや小テストなど多く、思考を重んじていることが分かる。また、教員もレポートなどにはコメントを付けるなど、学生に丁寧に対応している様子が表れている。

一方、人間生活学部のカリキュラムは、実験、実習、フィールドワークなどが組み込まれており、資格に関する講義も豊富で教員も社会経験のある実務家教員の割合が高いためか、より仕事に役立つ知識スキルを教員から学ぶことができると学生は感じている。実際にボランティア活動として外との関わりも持つことができる。

講義の履修は、加盟大学全体平均に比べて両学部とも希望の講義を履修できている割合が高い。一方、TAやSAによる授業のサポート体制は、人間生活学部は大学院生のTAが評価されているのか加盟大学全体平均と比べてやや低い程度であるが、文学部では顕著に低くなっている。

いずれの項目も2018年度と比べてほとんど変化無く、本学の特徴が現れていると考えられた。

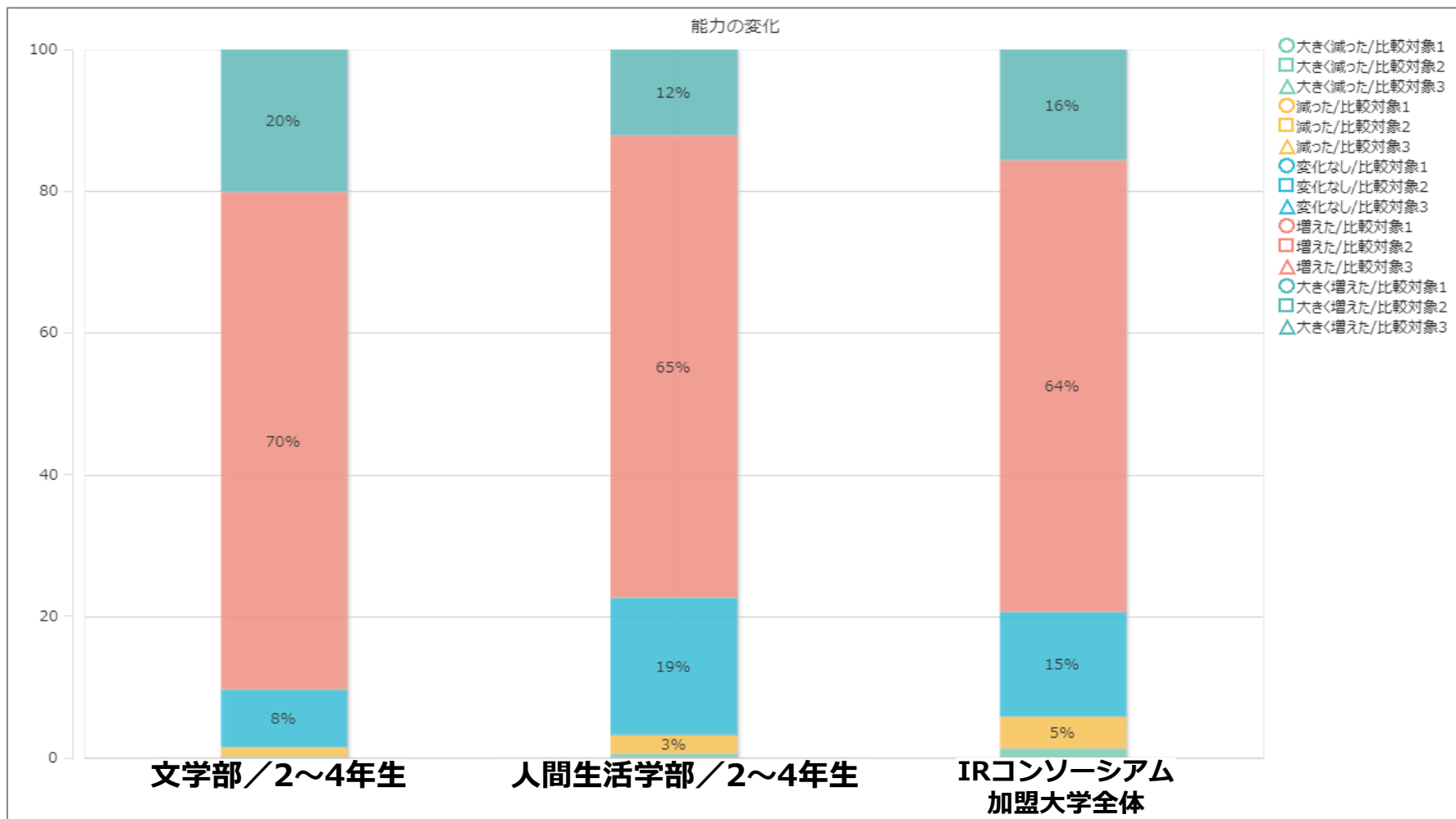
6. 能力の変化

Q. 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

- 6-1. 一般的な教養
- 6-2. 批判的に考える能力
- 6-3. 異文化の人々に関する知識
- 6-4. 他の人と協力して物事を遂行する能力
- 6-5. 異文化の人々と協力する能力
- 6-6. 文章表現の能力
- 6-7. 外国語の運用能力
- 6-8. プレゼンテーションの能力
- 6-9. 数理的な能力
- 6-10. グローバルな問題の理解

6-1. 一般的な教養

[Q7-A]

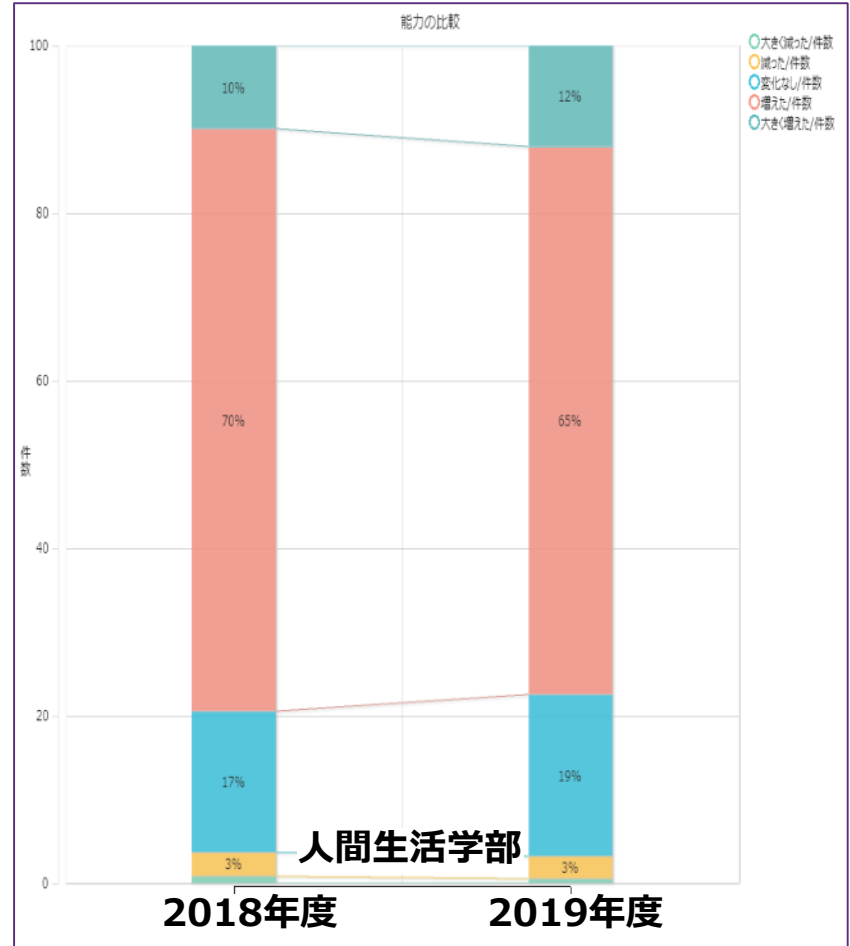
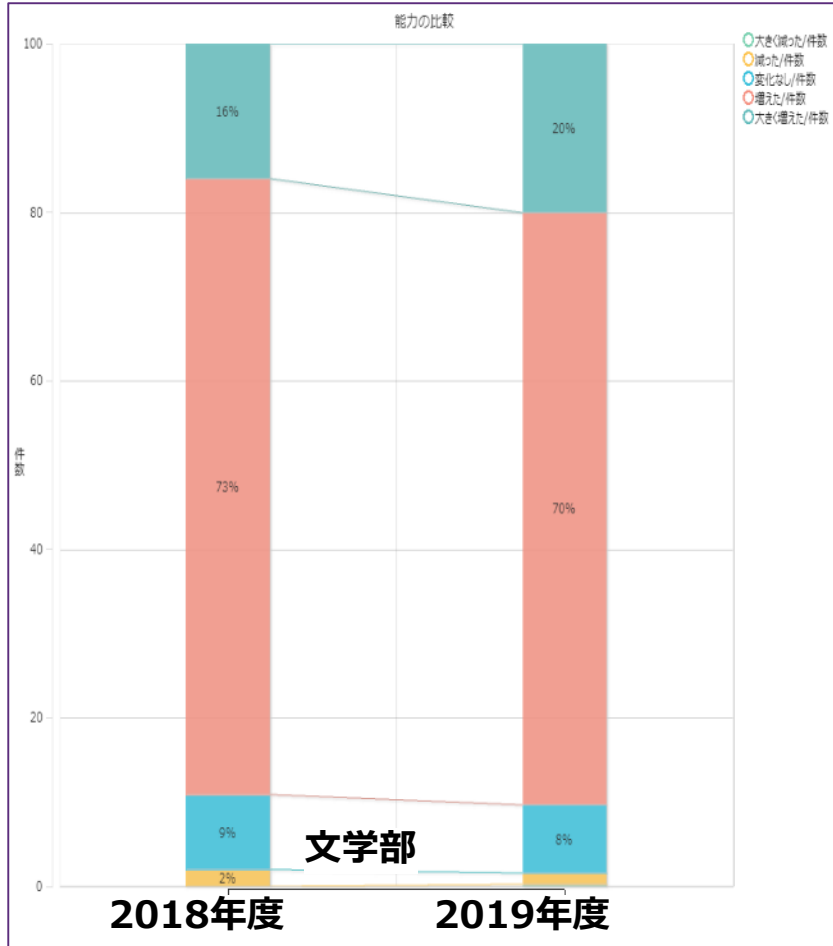


【コメント】

文学部が加盟大学全体よりやや高め、人間生活学部は加盟大学並みのようである。
(有意差：文学部>人間生活学部)

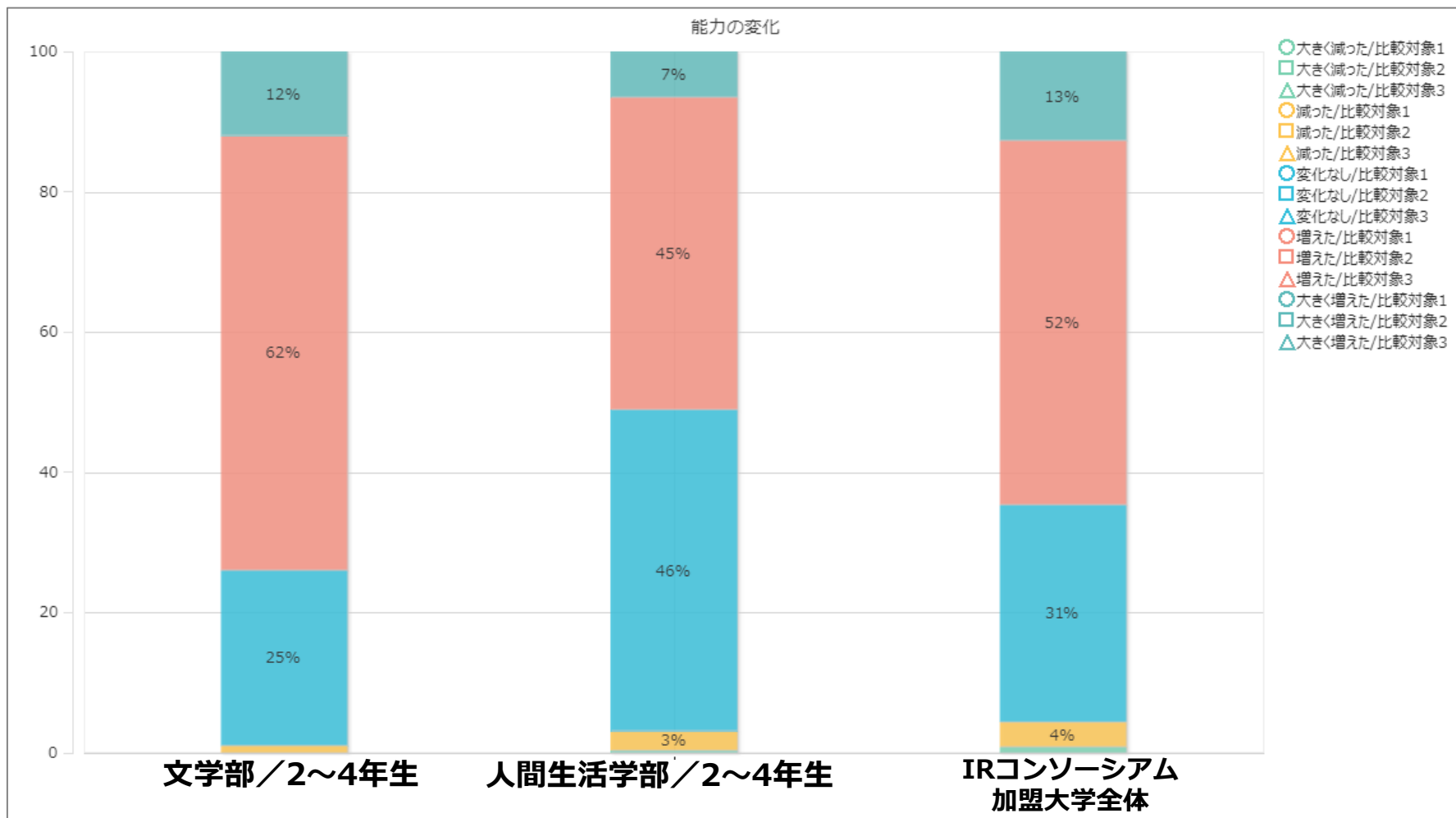
6-1. 一般的な教養

[Q7-A]



6-2. 批判的に考える能力

[Q7-D]

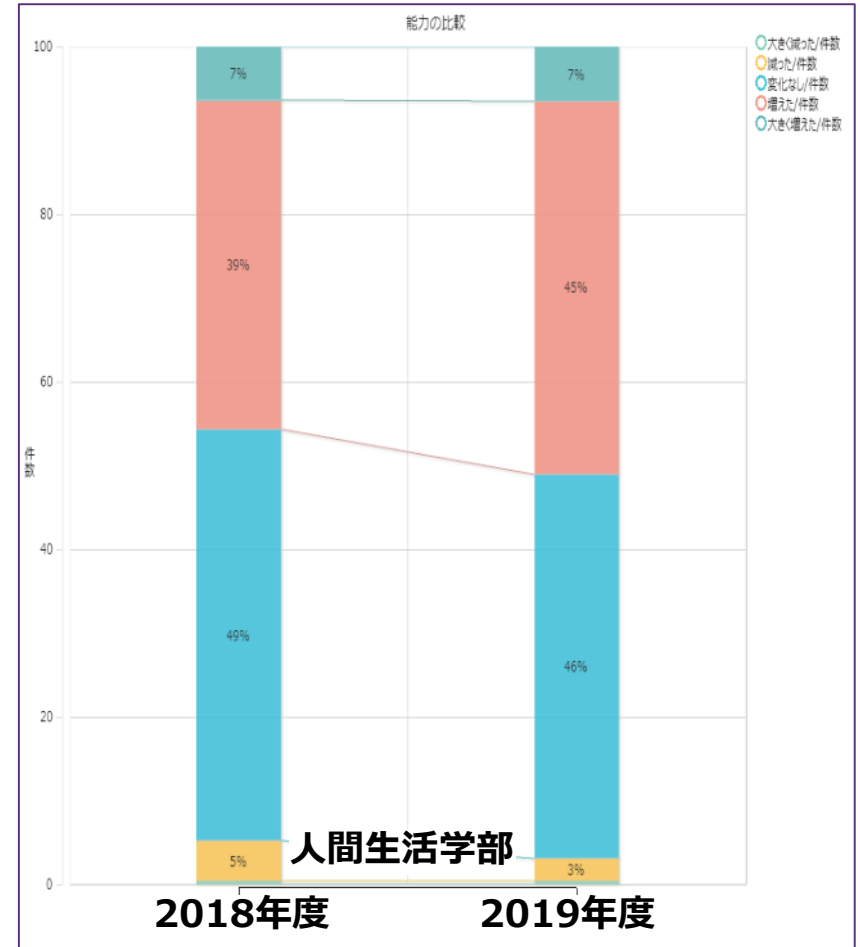
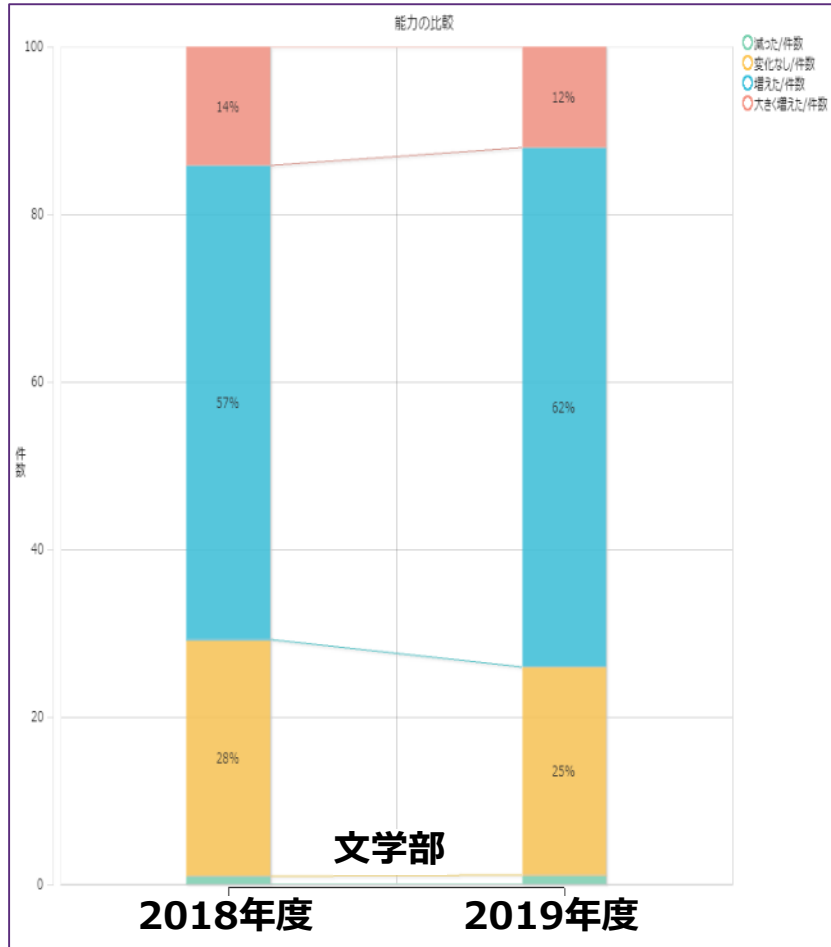


【コメント】

文学部が加盟大学よりやや高め、人間生活学部では加盟大学全体より低めだった。
(有意差：文学部>人間生活学部)

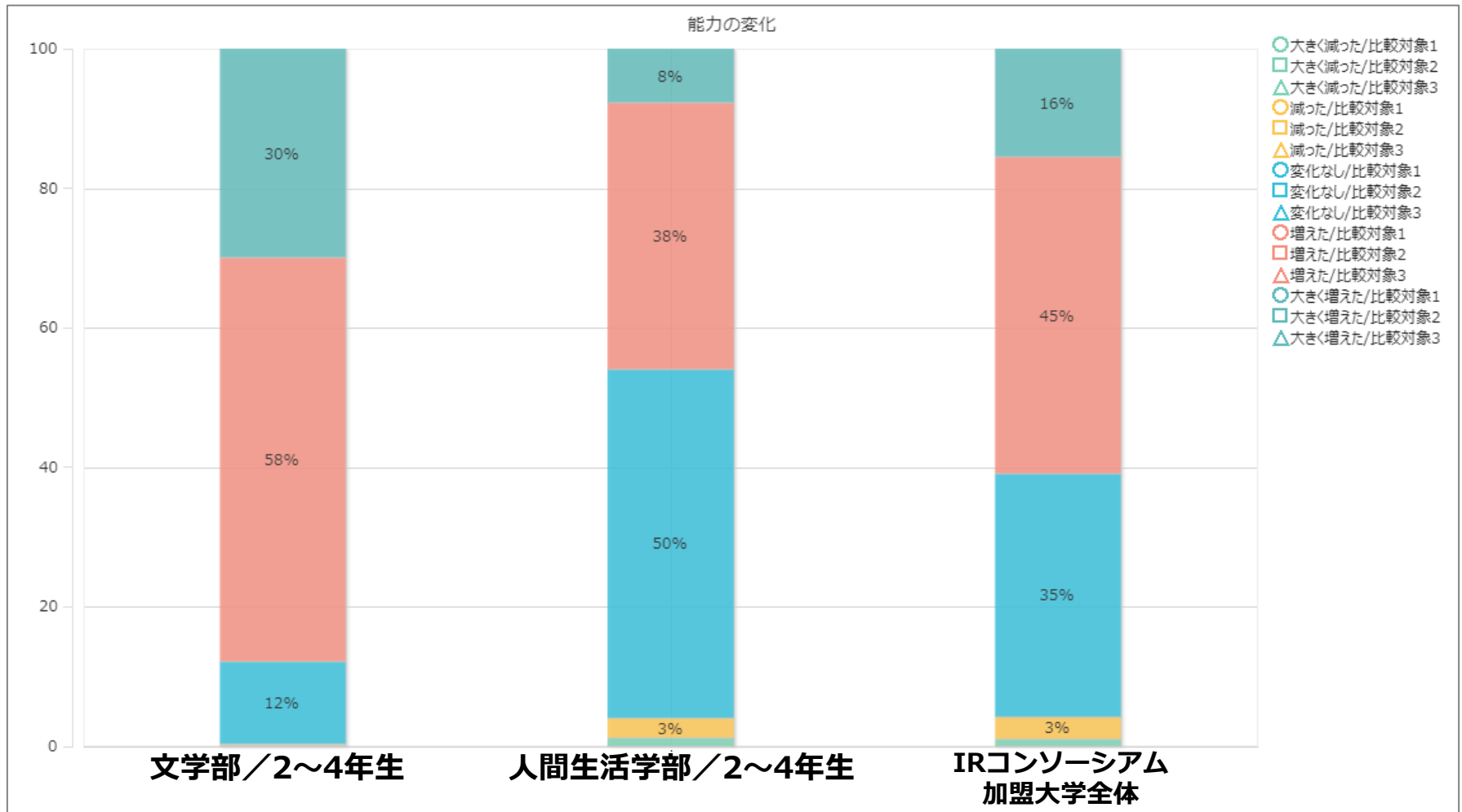
6-2. 批判的に考える能力

[Q7-D]



6-3. 異文化の人々に関する知識

[Q7-E]

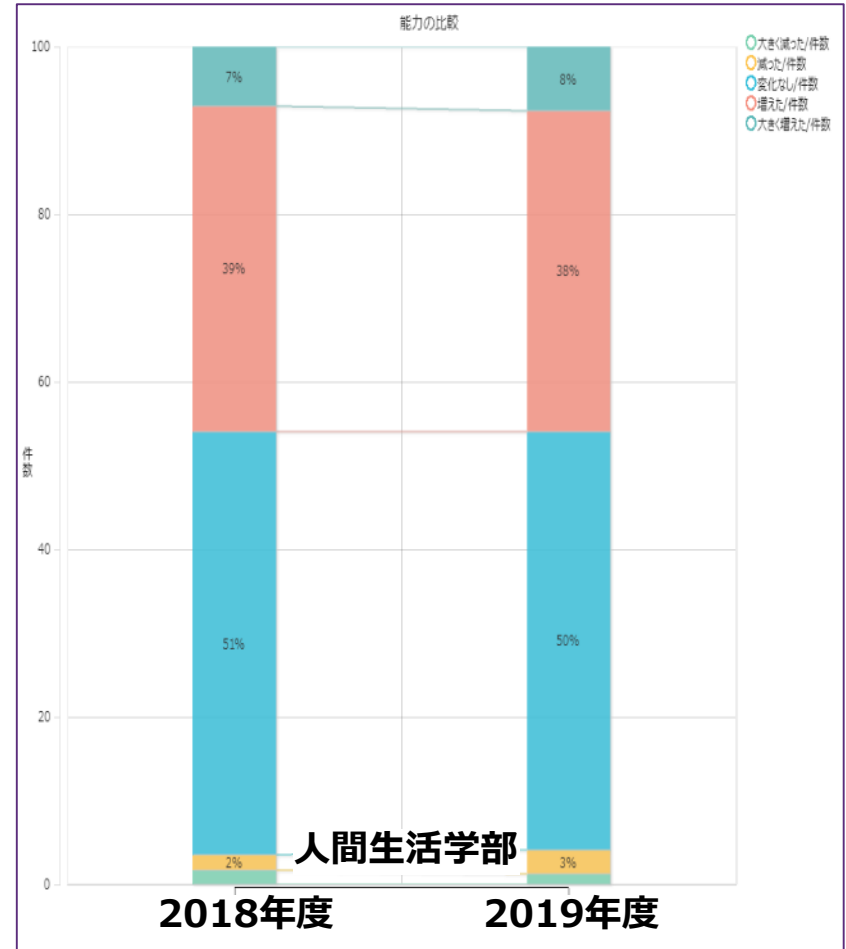
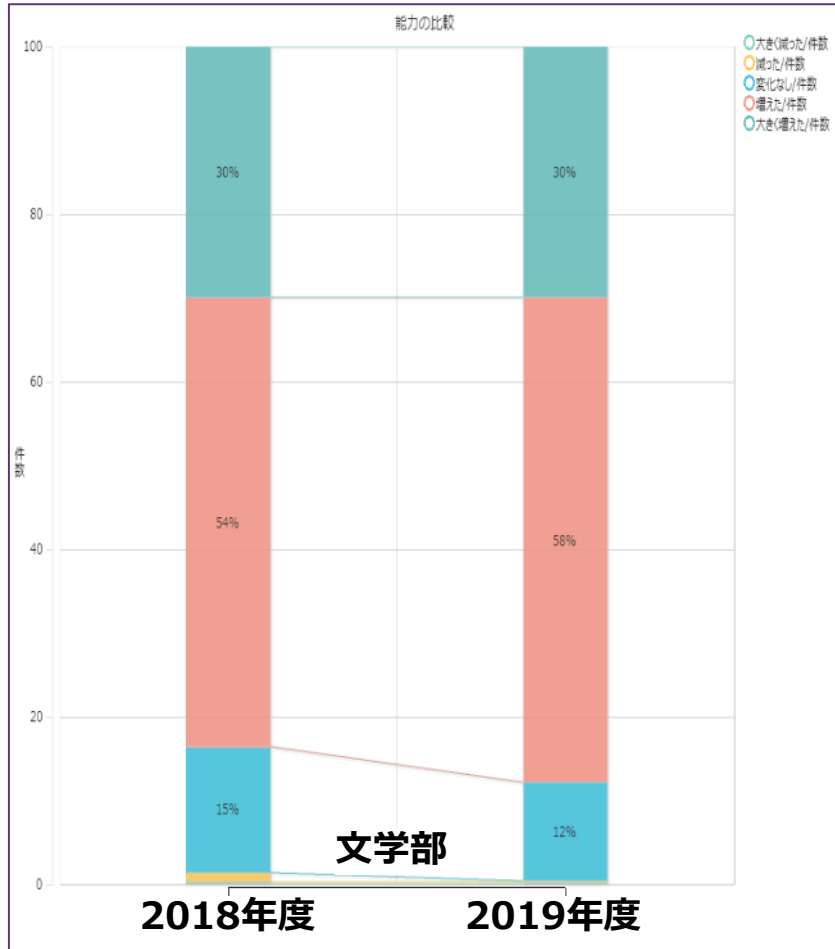


【コメント】

文学部が加盟大学より高めだったが、人間生活学部では加盟大学全体より低めだった。
(有意差：文学部>人間生活学部)

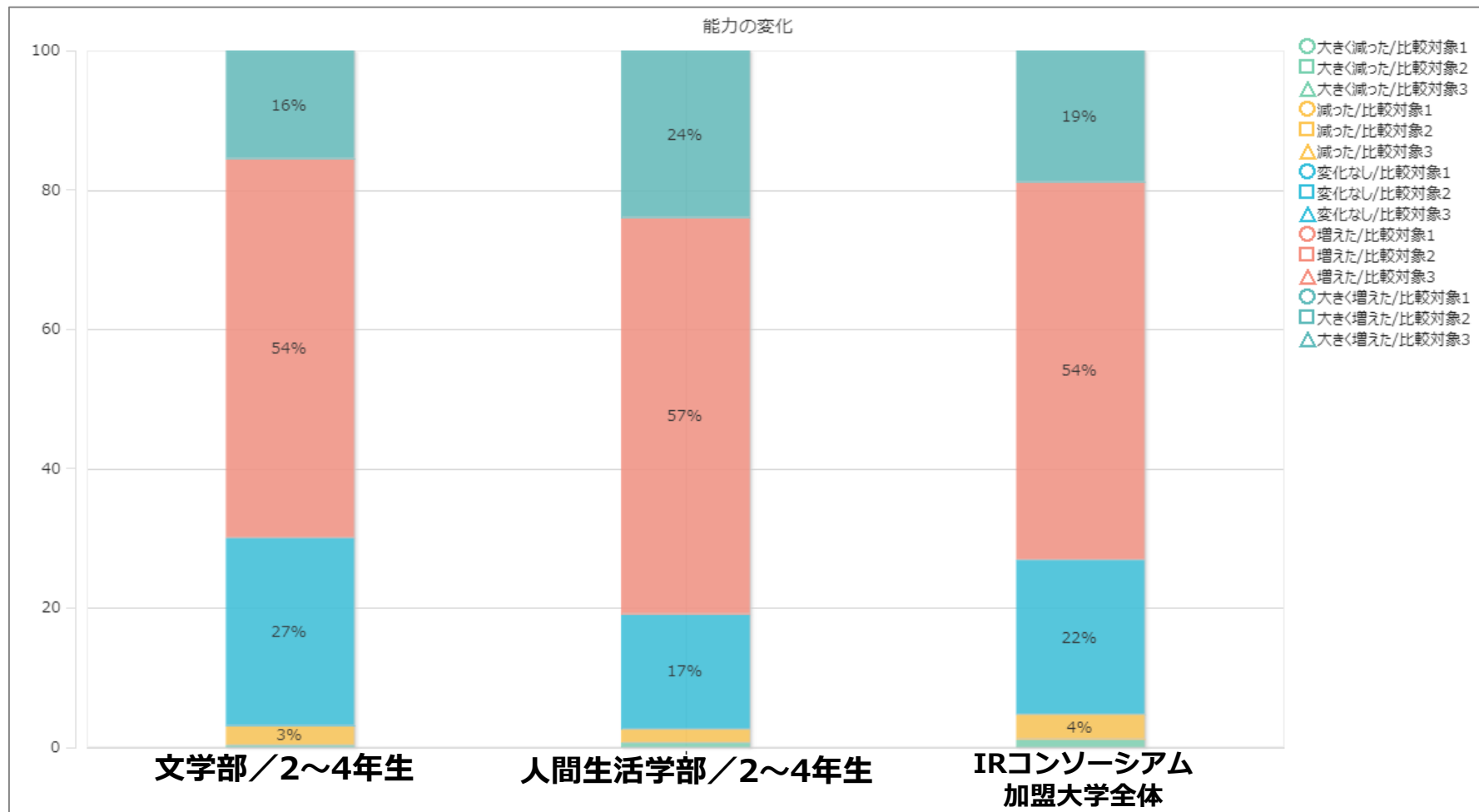
6-3. 異文化の人々に関する知識

[Q7-E]



6-4. 他の人と協力して物事を遂行する能力

[Q7-H]



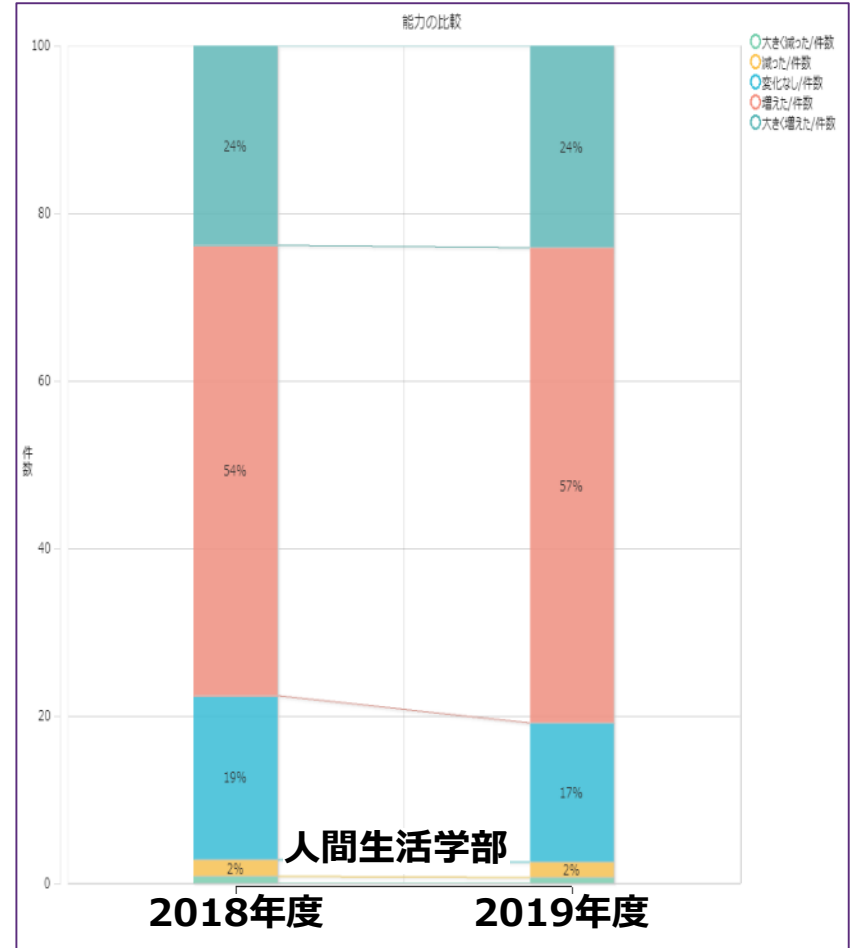
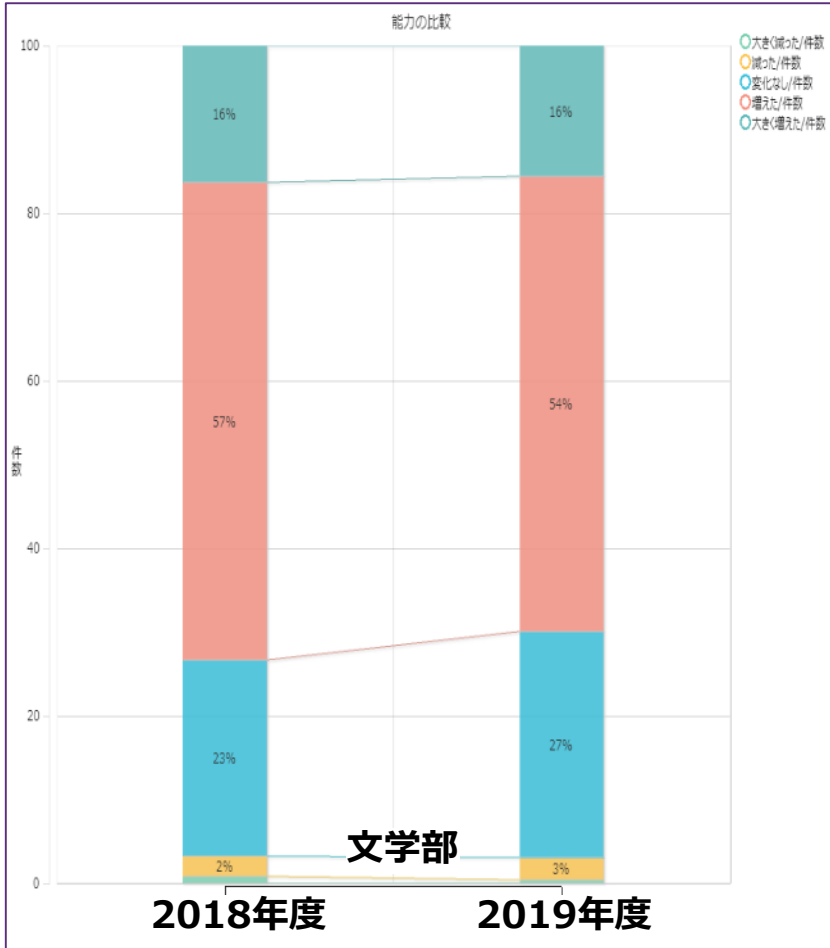
【コメント】

文学部が加盟大学並み、人間生活学部は加盟大学全体よりやや高めだった。学部間では文学部の方が人間生活学部よりも有意に低かった。人間生活学部では実習などが多く行われていることを反映した回答傾向といえる。

(有意差：文学部<人間生活学部)

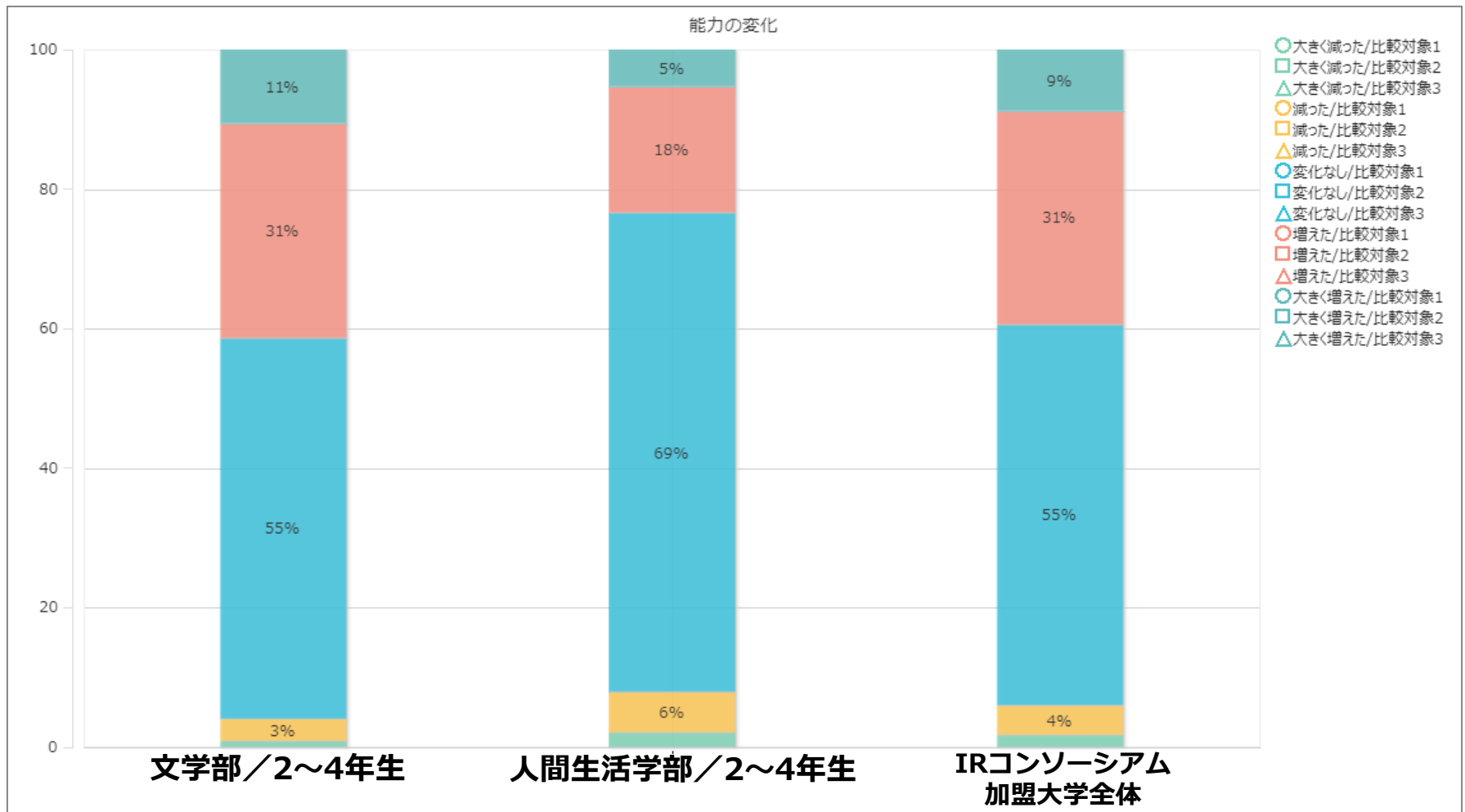
6-4. 他の人と協力して物事を遂行する能力

[Q7-H]



6-5. 異文化の人々と協力する能力

[Q7-I]

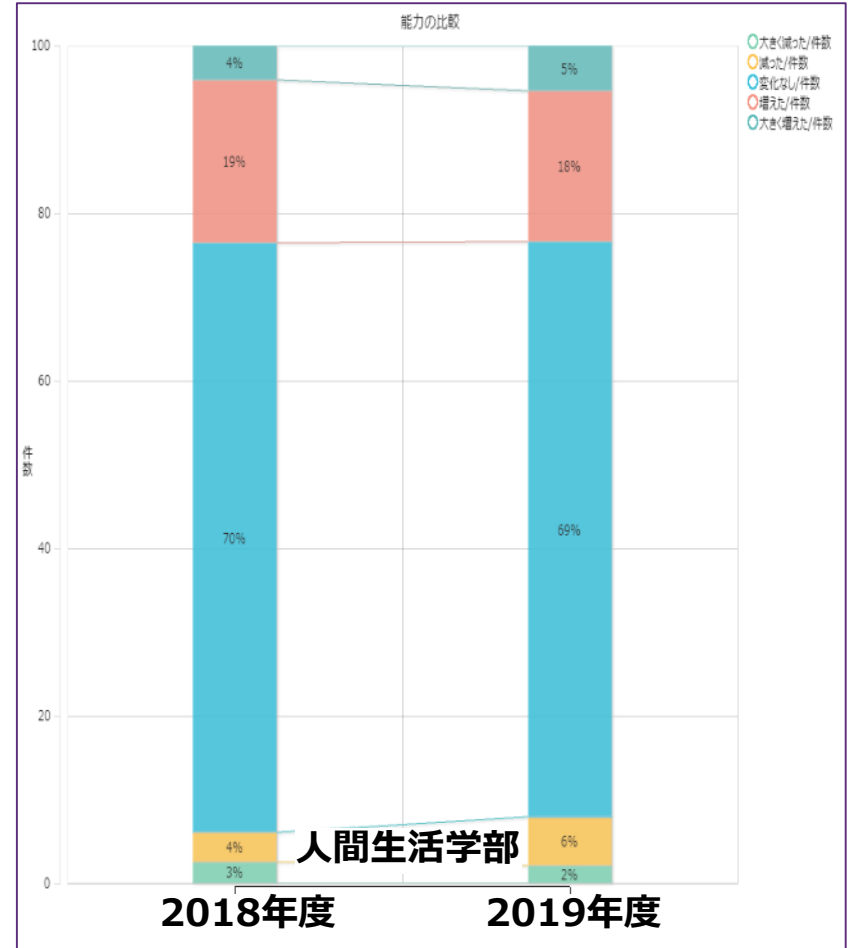
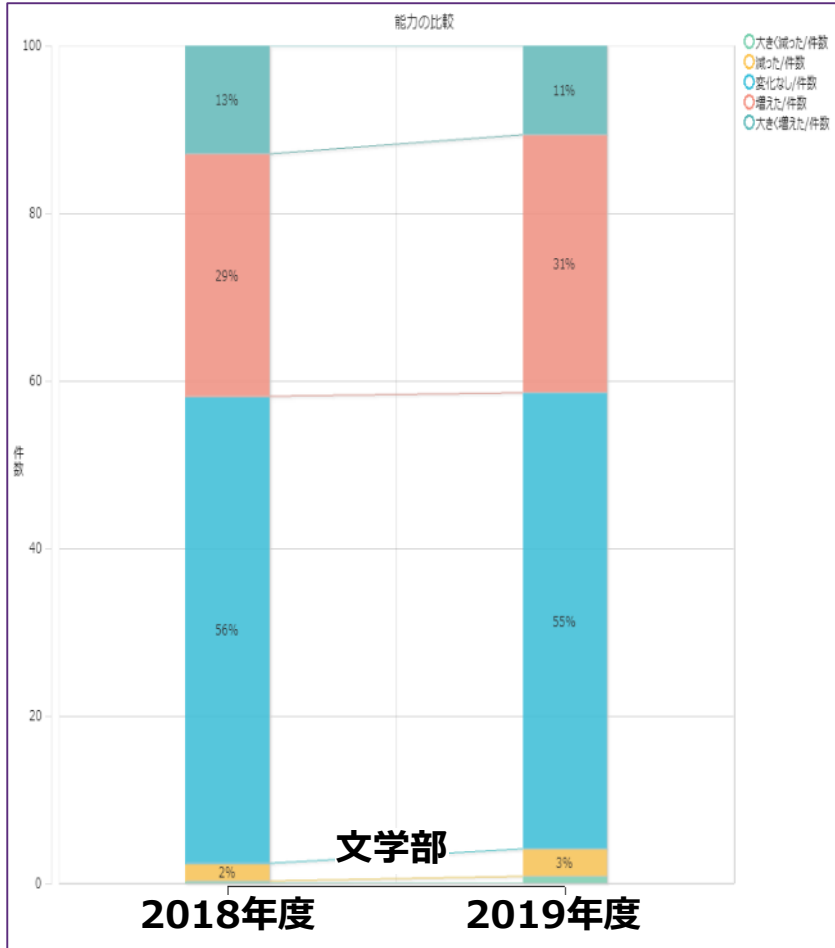


【コメント】

増えたとの回答は、文学部で加盟大学並み、人間生活学部では低めだった。
ただし、変化なしの回答も多かった。異文化の人々に関する知識と比較すると、獲得できたという回答が少ない傾向にある。
(有意差：文学部>人間生活学部)

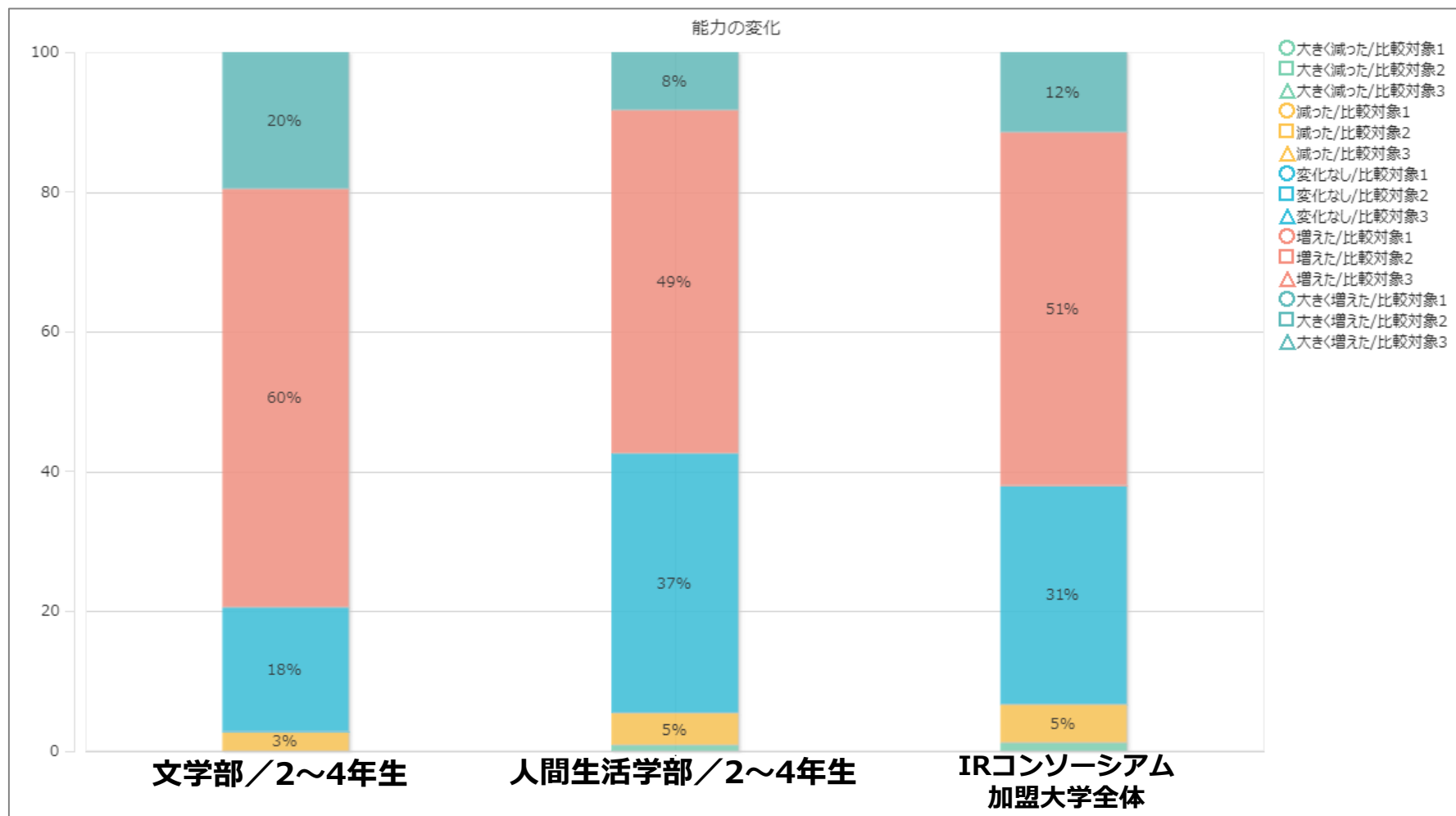
6-5. 異文化の人々と協力する能力

[Q7-I]



6-6. 文章表現の能力

[Q7-L]

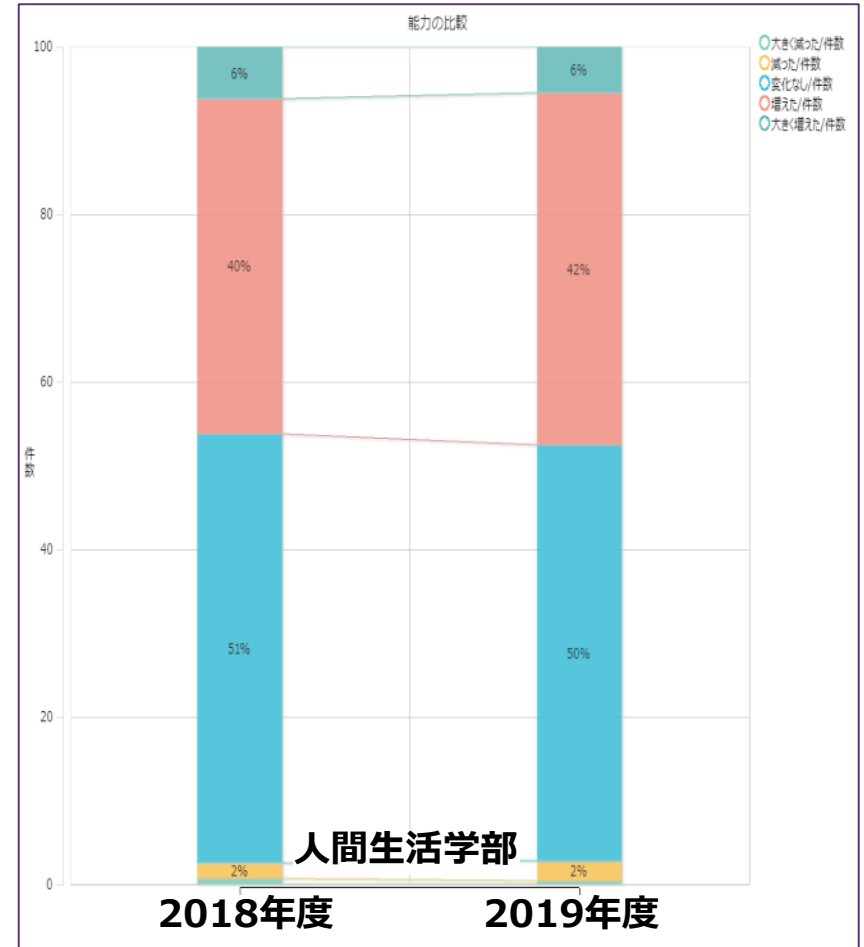
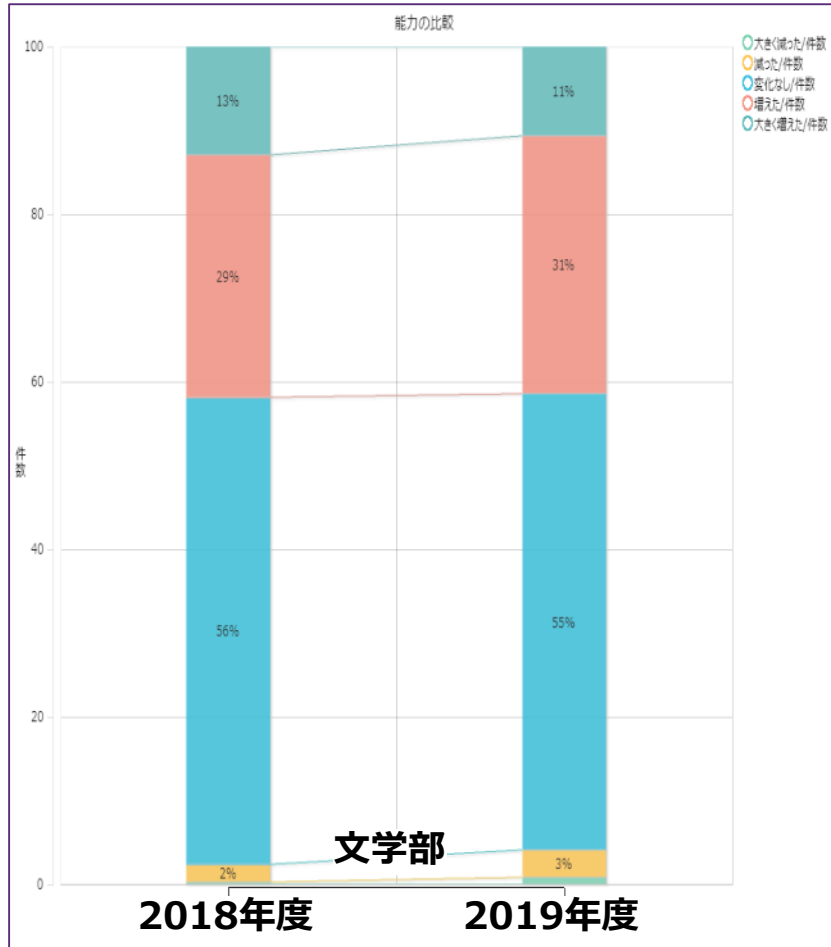


【コメント】

文学部が加盟大学全体より高めだったが、人間生活学部はほぼ加盟大学並みであった。
(有意差：文学部 > 人間生活学部)

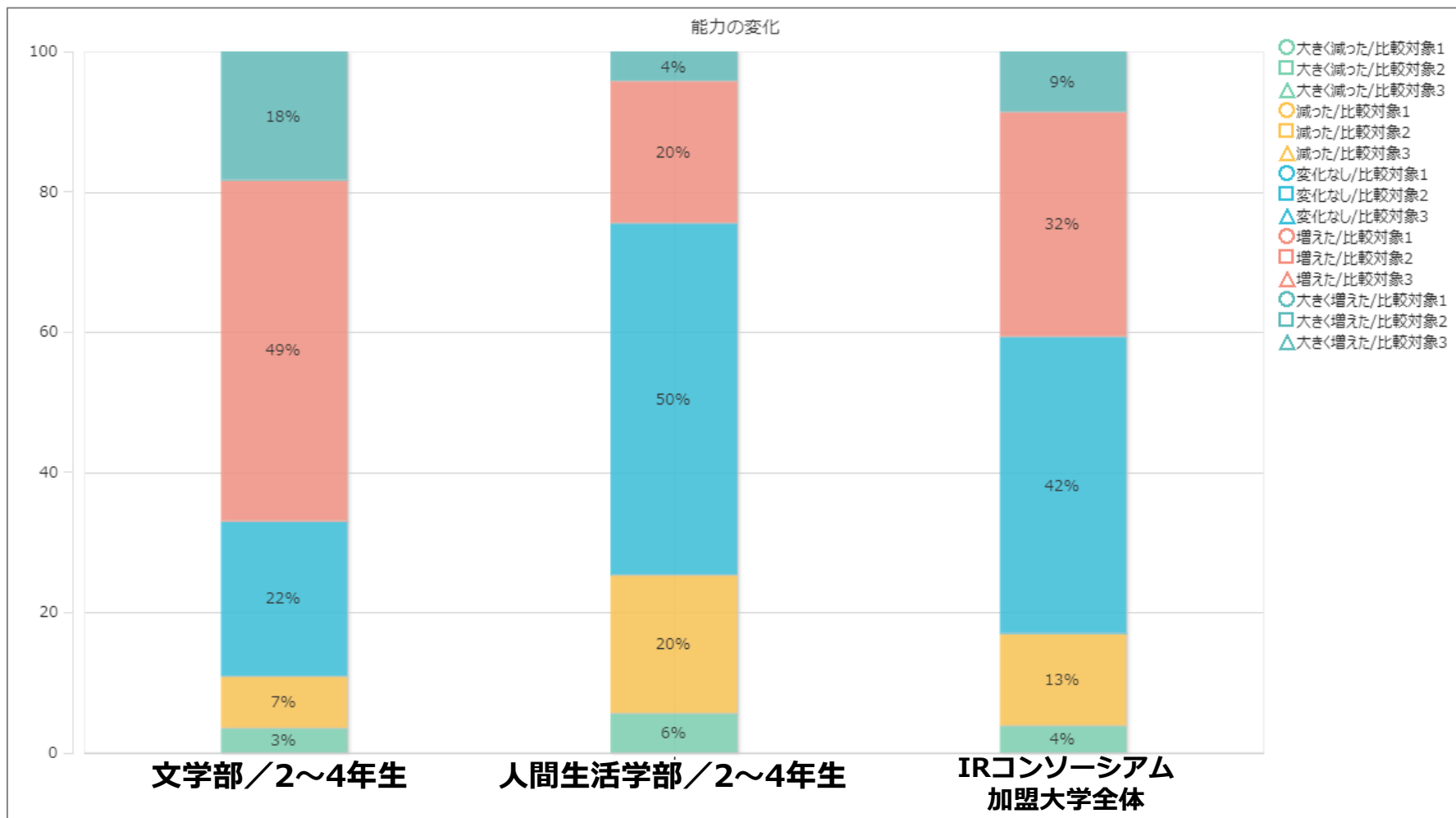
6-6. 文章表現の能力

[Q7-L]



6-7. 外国語の運用能力

[Q7-M]

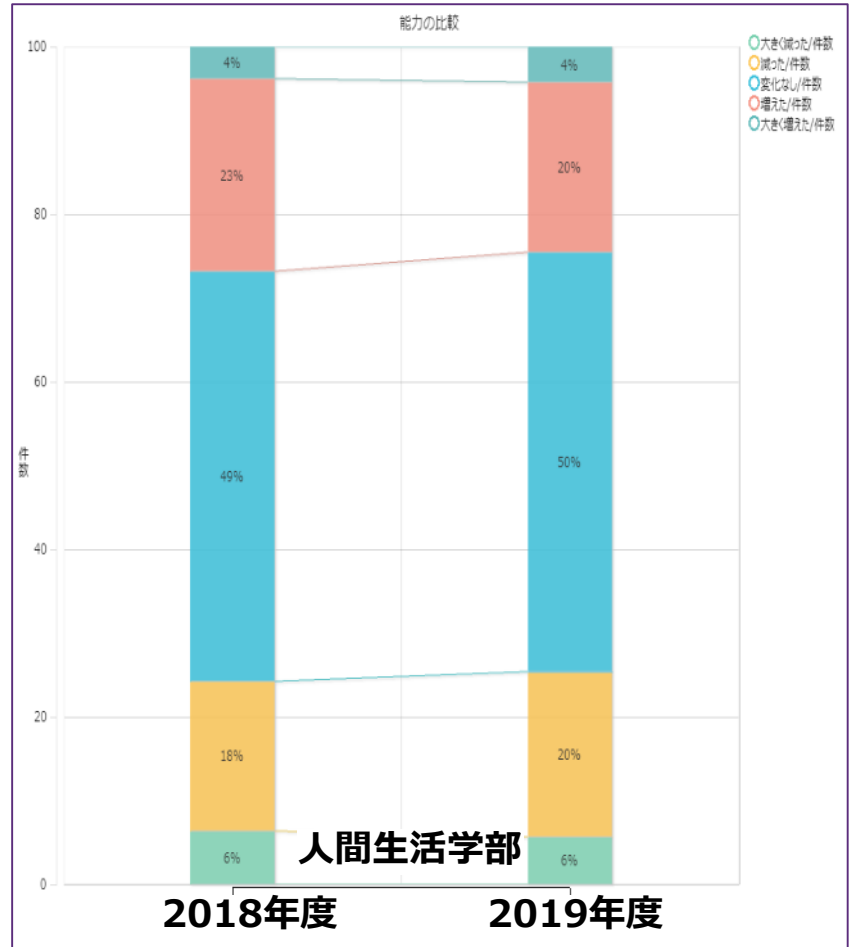
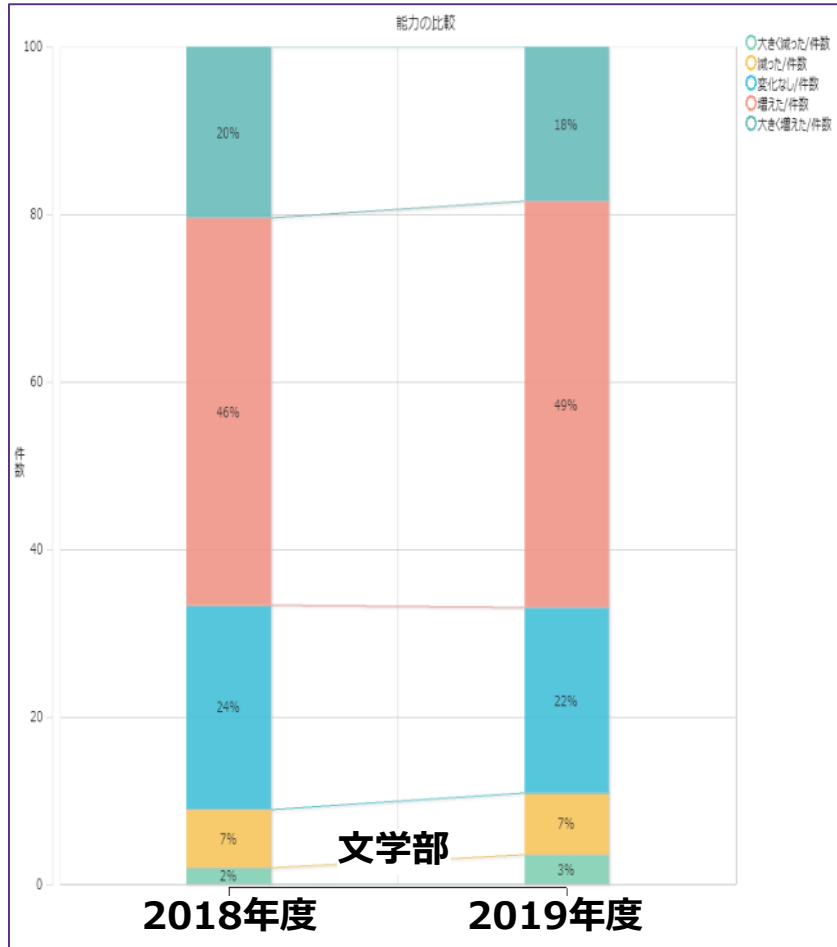


【コメント】

文学部が加盟大学より高めだったが、人間生活学部では加盟大学全体より低めだった。
(有意差：文学部>人間生活学部)

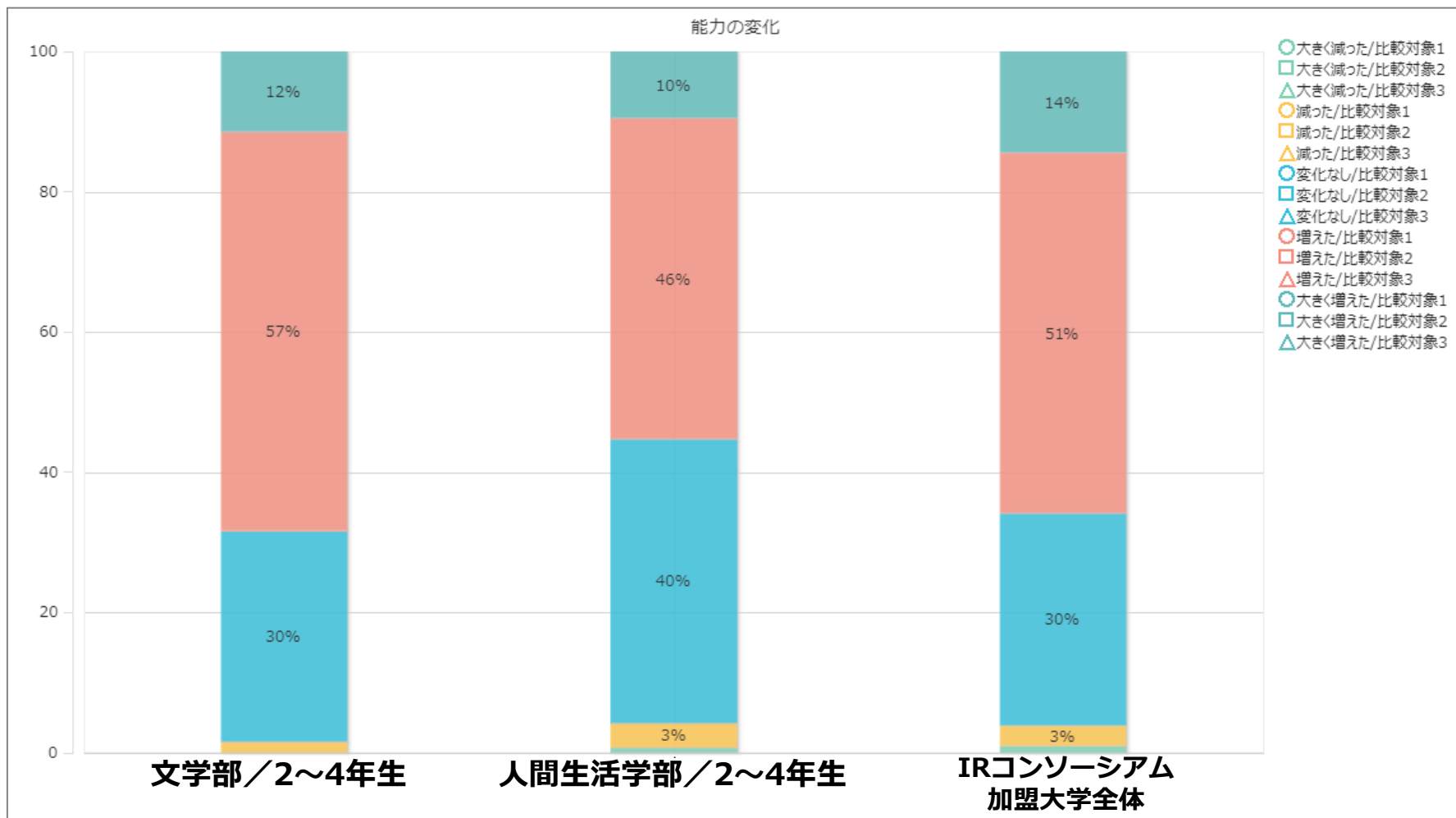
6-7. 外国語の運用能力

[Q7-M]



6-8. プレゼンテーションの能力

[Q7-0]

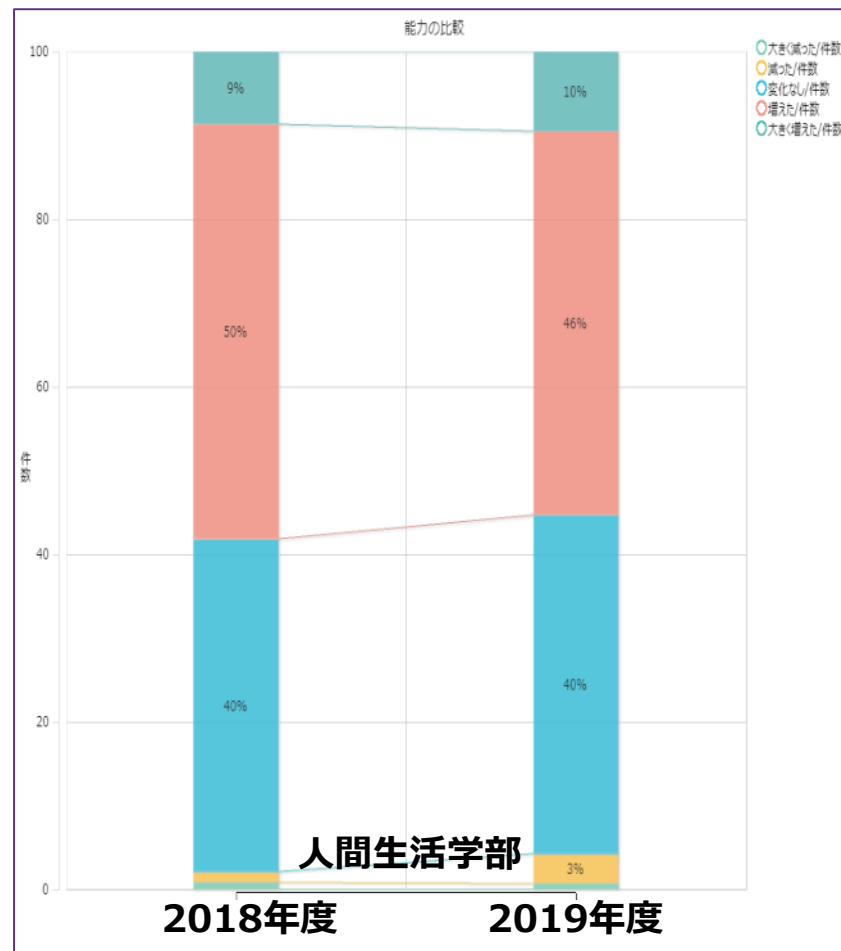
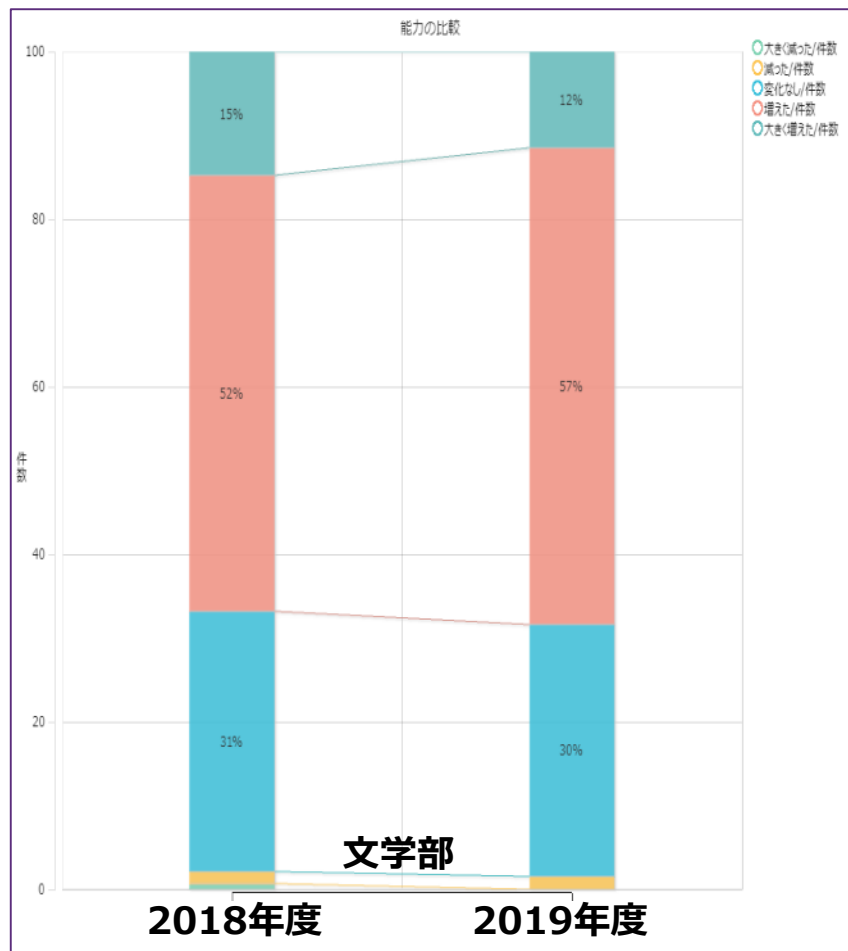


【コメント】

文学部が加盟大学全体よりやや高め、人間生活学部は加盟大学よりも低めだった。学部間の比較では文学部の方が有意に高かった。
(有意差：文学部>人間生活学部)

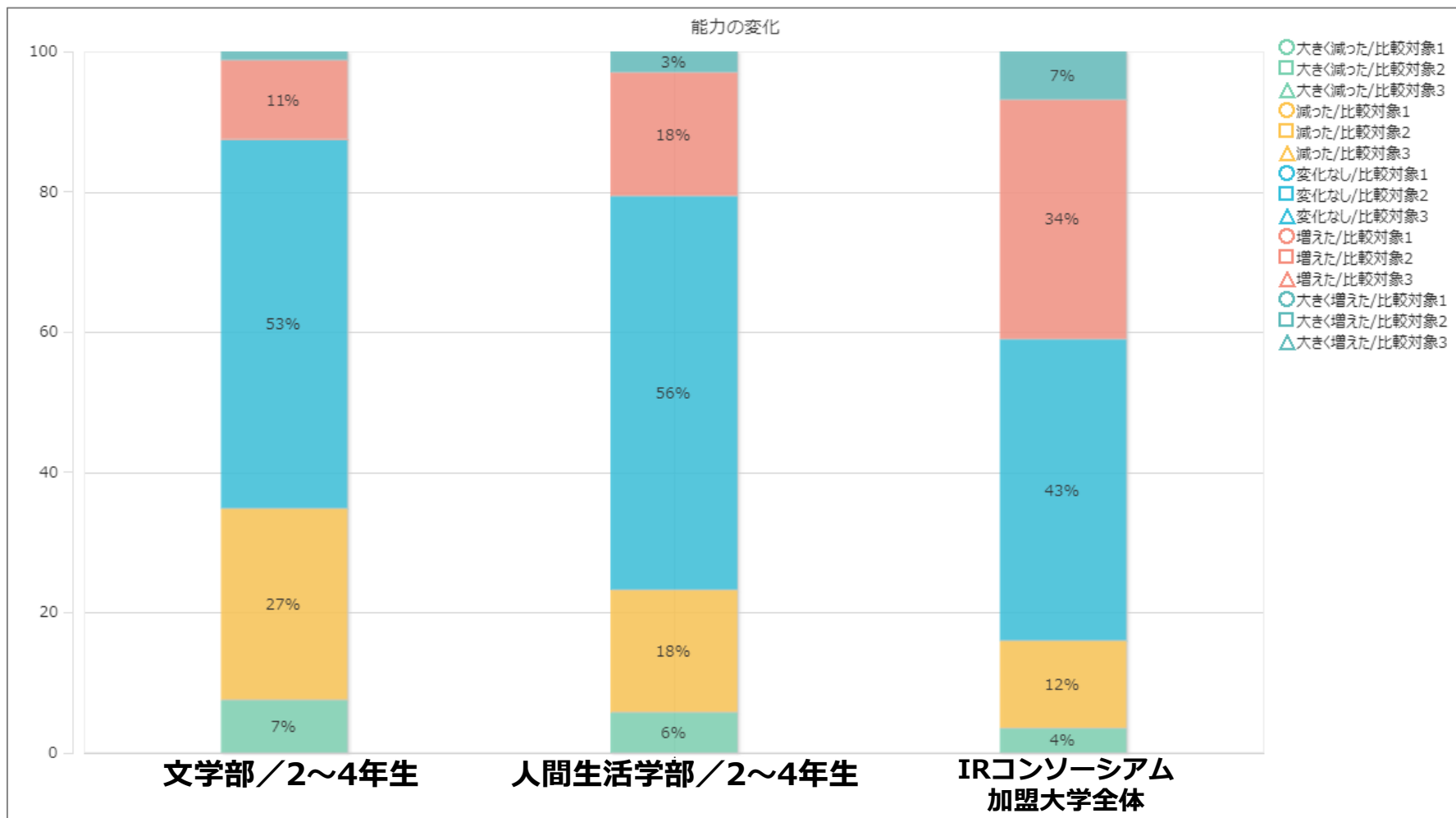
6-8. プレゼンテーションの能力

[Q7-0]



6-9. 数理的な能力

[Q7-P]

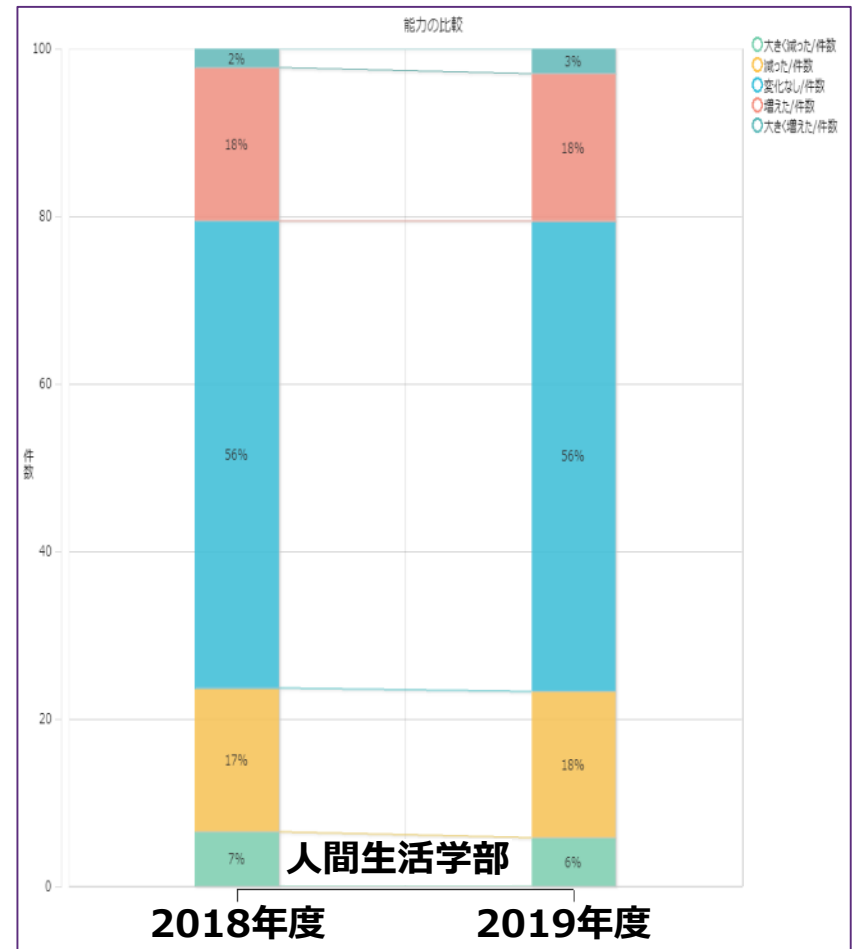
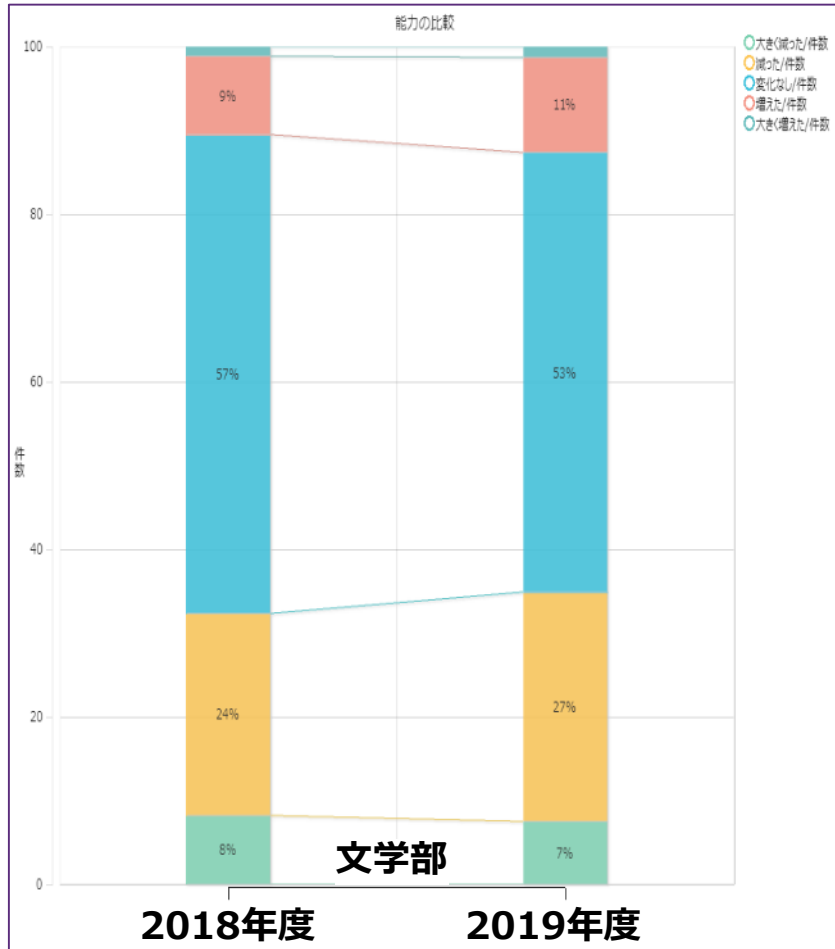


【コメント】

文学部で加盟大学よりも著しく低く、人間生活学部でも加盟大学全体と比べて低い結果となった。
(有意差：文学部<人間生活学部)

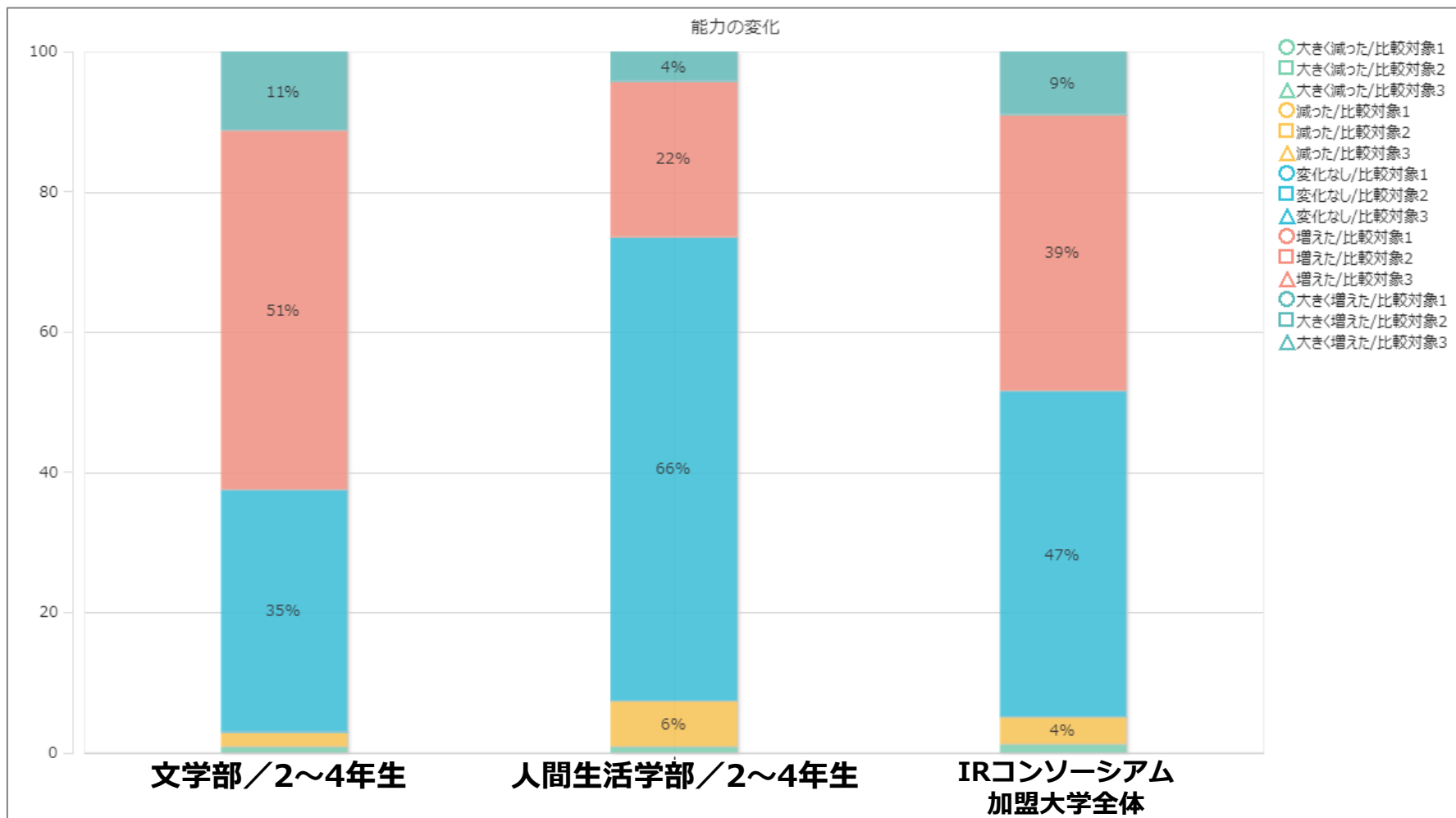
6-9. 数理的な能力

[Q7-P]



6-10. グローバルな問題の理解

[Q7-S]

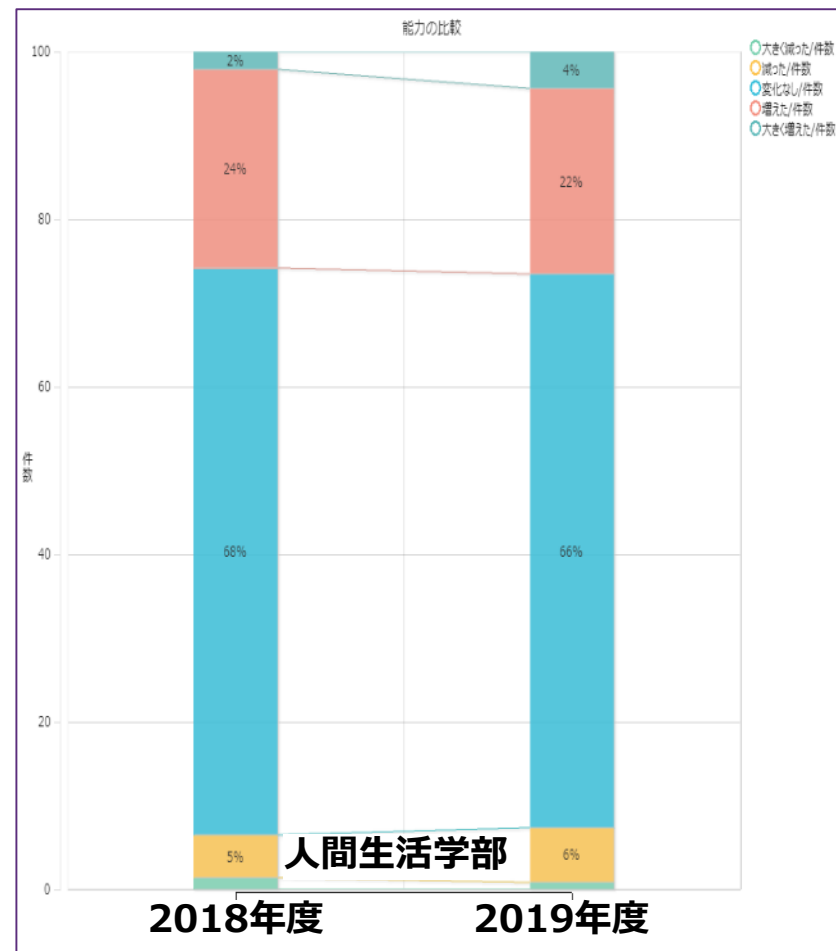
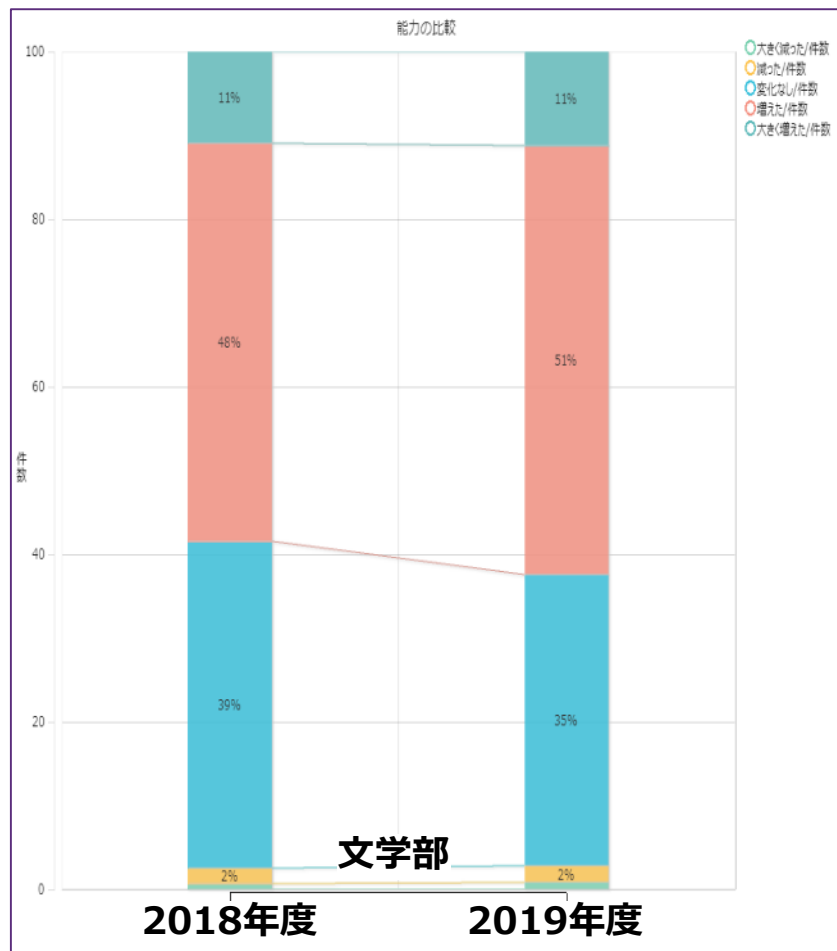


【コメント】

文学部が加盟大学より高めだったが、人間生活学部では加盟大学全体より低めだった。
(有意差：文学部 > 人間生活学部)

6-10. グローバルな問題の理解

[Q7-S]



全般的な傾向として、加盟大学と比較した際に本学が著しく高い（又は低い）項目はそれほど多く見受けられなかった。ただし、一方の学部では能力の増加に関して平均的或いは加盟大学の回答を上回っているが、もう一方の学部では加盟大学の回答を下回るなど、学部間で差がある項目が複数見受けられる。また、数理的能力に関して本学では「増えた」との回答が非常に少なく、「減った」との回答が多かった。特に文学部においては、教育目的に数理的能力の向上を挙げているわけではなく、この回答傾向は憂慮すべきことではないかもしれない。ただし、中央教育審議会が平成30年に出した「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」によると、2040年に必要とされる人材と高等教育の目指すべき姿として、「予測不可能な時代の到来を見据えた場合、読解力や数学的思考力を含む基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を文理横断的に身に付けていくことが重要であり、このような人材が、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していくことが必要である」とした上で、数理・データサイエンスを基盤的なリテラシーと捉え、文理を超えて共通に身に付けていくことが重要であると指摘している。この答申に基づき、文部科学省では大学における数理・データサイエンス教育の全国展開を目指した取組みを既に始めており、文理を問わず全ての学生が一定の数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識を習得するためのカリキュラムやプログラムを新設する大学も増加してきている。本学においても数理・データサイエンス教育やそれらの知識を活用して様々な学問分野を横断的に学修するSTEAM教育を将来的にどのように取り入れていくのか、検討を進めていくことが求められる。

■2018年との比較

1. 学習に関する経験

図書館資料の利用が減少し、web上の情報取得が多くなっている。教職員への学習に関する相談は減少している。

2. 時間の使い方

授業や実験に出る時間、授業時間外に授業課題や準備学習、復習をする時間、授業に関連しない勉強が減少している。

3. 教育への満足度

授業への満足度はやや上がり、多様な考え方を認めある雰囲気はやや上昇。

4. 設備・制度への満足度

図書館、実験室の設備や器具への満足度ははやや上昇しているが、インターネットの使いやすさは文学部で減少。健康/保健サービスはやや上昇している。

5. 授業での経験

授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明していることがやや多くなっているが、教員が提出物に添削やコメントを付けて返却することはやや少なくなっている。授業の進め方に学生の意見が多く取り入れられることが文学部で増え、取りたい授業を履修登録できなかった学生も文学部で増えている。

6. 能力の変化では、

批判的に考える能力が増え、数理的な能力、グローバルな問題の理解が文学部で増えた。